前橋市0891遺跡

（一）三夜沢国定停車場線社会資本総合整備（防災・安全）（交安・重点）事業に
伴　う　埋　蔵　文　化　財　発　掘　調　査　報　告　書

2022

群　馬　県　前　橋　土　木　事　務　所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

前橋市0891遺跡

（一）三夜沢国定停車場線社会資本総合整備（防災・安全）（交安・重点）事業に
伴　う　埋　蔵　文　化　財　発　掘　調　査　報　告　書

2022

群　馬　県　前　橋　土　木　事　務　所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

本書は、(一)三夜沢国定停車場線社会資本総合整備(防災・安全)(交安・重点)事業に伴う発掘調査を実施した前橋市0891遺跡の報告書です。

この事業は歩行者や自転車の安全な通行を確保するために歩道を整備するものです。令和５年度の完成を目指して、目下、建設事業が鋭意進めてられています。

前橋市0891遺跡は、平成29年・令和元年度に公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が発掘調査を実施しました。遺跡の発掘調査で、５世紀末から10世紀にかけての竪穴建物や中世の井戸、江戸時代の遺構が発見されました。特筆される遺構として、23号竪穴建物から５世紀末から６世紀初頭にかけての土器がまとまって出土し、その当時の人々が暮らした様子の一端が明らかになりました。

調査の成果は粕川地区の古墳時代から平安時代にかけての生活や他地域との交流を考える上で、重要な資料となるものと考えています。

発掘調査から報告書の刊行に至るまでは、群馬県前橋土木事務所、群馬県地域創生部、群馬県教育委員会、前橋市教育委員会をはじめ、関係機関および地元関係者の皆様には多大なるご指導とご協力を賜りました。

本報告書の上梓にあたり、関係者の皆様に心から感謝申し上げますとともに、本書が粕川地域における歴史の解明に広く役立てられますことを念じて、序といたします。

令和４年３月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理　事　長　　向　田　忠　正

例　　言

1．本書は、(一)三夜沢国定停車場線社会資本総合整備(防災・安全)（交安・重点)事業に伴い発掘調査された前橋市0891遺跡の埋蔵文化財調査報告書である。

2．遺跡の所在地は下記の通りである。

群馬県前橋市粕川町深津17－４・19－10・19－11・19－12・19-13・20-７・31-６・32-５・33-６・33-７・33-８・43-６・44-15・45-２・45-４・130-３・132-３、群馬県前橋市粕川町女渕1018-3番地

3．事業主体　群馬県前橋土木事務所

4．調査主体　公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

5．発掘調査の期間と体制は次の通りである。

【平成29年度】

履行期間　平成30年２月１日～３月31日

調査期間　平成30年３月１日～３月31日

調査担当　専門員　石川真理子、専門調査役　桜岡正信

【令和元年度】

履行期間　令和元年７月１日～令和２年２月29日

調査期間　令和元年７月１日～８月31日/令和２年１月１日～１月31日

調査担当　主任調査研究員　岩上千鶴、専門調査役　飛田野正佳、上席調査研究員　関　俊明

遺跡掘削工事請負　株式会社飯塚組　　地上測量委託　技研コンサル株式会社　　空中写真撮影　技研コンサル株式会社

6．整理事業の期間と体制は次の通りである。

整理期間　令和３年４月１日～令和４年１月31日

整理担当　専門員(主任)石川真理子

金属製品・有機質遺物保存処理　専門員(主任)板垣泰之、専門調査役　関　邦一

遺物洗浄・注記　シン技術コンサル株式会社

7．本書作成の担当者は以下の通りである。

編集　石川真理子　　デジタル編集　主任調査研究員・資料統括　齊田智彦

本文執筆　石川真理子・中沢　悟

遺構写真撮影　発掘調査担当者

遺物写真撮影　(石器・石製品)専門調査役　岩崎泰一　(縄文土器・土師器・須恵器)石川真理子

(陶磁器)専門調査役　大西雅広　(金属製品)板垣泰之

遺物観察　(石器・石製品)岩崎泰一　(縄文土器)石川真理子

(土師器・須恵器)専門調査役　神谷佳明　(陶磁器)大西雅広　(金属製品)板垣泰之

8．発掘調査諸資料及び出土遺物は群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。

9．発掘調査および報告作成に際して、下記の方々に機関にご協力・ご指導をしていただきました。記して感謝いたします。(敬称略・順不同)群馬県地域創生部、群馬県教育委員会、前橋市教育委員会

凡　　例

1　本書で使用した座標・方位は、すべて国家座標世界測地系(「日本測地系、平面直角座標第Ⅸ系」)を用いた。

2　グリッドは、遺構挿図中に＋記号と数値を併せ座標値を表した。数値は国家座標値X・Y値の下３桁を用いて表記した。

3　遺構の種別及び遺構番号は原則として調査時の番号を用いた。ただし、遺構番号などの振替が必要に遺構に関しては、振替を行い、遺構一覧表に新旧対応が分かるように示した。

4　等高線・遺構断面図等に記した数値は標高(単位：m)を表した。

5　遺構図および断面図の縮尺は原則として以下の通りとし、各挿図にスケールを添えた。広域にわたる遺構は、紙幅の範囲内で遺構の形状を最も把握しやすいと思われる縮尺を採用した。同一の遺物図内に異なる縮率の図が加わる場合は、必要に応じて該当する遺物番号に続き(　)内に縮尺を記した。

遺構図　竪穴建物・竪穴状遺構１：60　カマド１：30　井戸・土坑・ピット１：40・溝１：100、１：80、１：60、１：40

遺物図　土師器・須恵器１：３、１：４　陶磁器１：４　縄文土器破片１：３　石製品１：２　金属製品１：２

6　遺物番号は本文・挿図・表・写真図版の番号と一致する。出土位置の記載がないもの、写真掲載を行っていない遺物もある。

7　遺物写真は遺構図とおおよそ同一縮尺となるようにした。

8　遺構図内に使用したスクリーントーン及びドットは次のことを示している。

焼土　粘土　炭化物　撹乱　灰　硬化面

●　土器

遺物図：黒色　ススス　燻　灰釉

9　遺構の主軸方位・走行を記載する際は、座標北を基準として東に傾いた場合はN-○°-E、西に傾いた場合はN-○°-Wというように表記した。

10　本書で使用した地図は以下の通りである。

国土地理院20万分の１　地勢図「長野」「宇都宮」　２万５千分の１　地形図「大胡」

目　　次

序
例言
凡例
目次
挿図目次
表目次
写真目次

第１章　発掘調査の概要

第１節　調査に至る経緯 ･････････････････････ 1
第２節　調査の過程 ･････････････････････････ 1
第３節　調査・整理の方法 ･･････････････････ 3

第２章　地理的環境と歴史的環境

第１節　地理的環境 ･････････････････････････ 6
第２節　歴史的環境 ･････････････････････････ 7
第３節　基本土層 ･･･････････････････････････ 16

第３章　検出された遺構と遺物

第１節　竪穴建物 ･･･････････････････････････ 27
第２節　竪穴状遺構 ･････････････････････････ 78
第３節　井戸 ･･･････････････････････････････ 80
第４節　溝 ･････････････････････････････････ 90
第５節　土坑 ･･･････････････････････････････ 97
第６節　ピット ･････････････････････････････ 102
第７節　遺構外出土遺物 ････････････････････ 108

第４章　まとめ

第１節　前橋市 0891 遺跡について ･････････････ 110
第２節　古墳時代の土器について ･･･････････････ 110
第３節　深津の寄居について ･･･････････････････ 113
遺物観察表 ･････････････････････････････････ 114

写真図版
報告書抄録
付図　　前橋市0891遺跡　全体図（1：600）

挿図目次

第１図　前橋市0891遺跡の位置・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
第２図　調査区位置図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
第３図　周辺遺跡 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
第４図　基本土層 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
第５図　１区・２区・３区全体図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
第６図　１区Ａ～Ｄ全体図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
第７図　４区全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
第８図　４区旧石器トレンチ全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
第９図　５区・６区・７区・８区全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
第10図　９区全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
第11図　10区１面・２面全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
第12図　11区１面・２面全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
第13図　12区１面・２面全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
第14図　１号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
第15図　２号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
第16図　３号竪穴建物と出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
第17図　４号竪穴建物と出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31
第18図　５号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32
第19図　５号竪穴建物カマド ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
第20図　５号竪穴建物出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34
第21図　６号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35
第22図　６号竪穴建物カマドと出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36
第23図　７号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37
第24図　７号竪穴建物カマドと出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
第25図　８号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39
第26図　９号竪穴建物と出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40
第27図　10号竪穴建物・カマドと出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・41
第28図　11号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・42
第29図　11号竪穴建物カマドと出土遺物（１）・・・・・・・・・・・・・・・・43
第30図　11号竪穴建物出土遺物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・44
第31図　12号竪穴建物・カマドと出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・45
第32図　13号竪穴建物・カマドと出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・46
第33図　14号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47
第34図　14号竪穴建物掘り方・土層断面・・・・・・・・・・・・・・・・・・・48
第35図　14号竪穴建物カマドと出土遺物（１）・・・・・・・・・・・・・・・・49
第36図　14号竪穴建物出土遺物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・50
第37図　15号・16号竪穴建物と15号竪穴建物出土遺物 ・・・・・・・・・・・51
第38図　16号竪穴建物出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・52
第39図　17号竪穴建物と出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・53
第40図　18号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・54
第41図　18号竪穴建物カマドと出土遺物（１）・・・・・・・・・・・・・・・・55
第42図　18号竪穴建物出土遺物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・56
第43図　19号竪穴建物・カマド・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・57
第44図　21号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・58
第45図　21号竪穴建物掘り方・土層断面・・・・・・・・・・・・・・・・・・・59
第46図　21号竪穴建物カマドと出土遺物（１）・・・・・・・・・・・・・・・・60
第47図　21号竪穴建物出土遺物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・61
第48図　22号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・62
第49図　22号竪穴建物カマドと出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・63
第50図　23号竪穴建物・カマド・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・65
第51図　23号竪穴建物出土遺物（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・66
第52図　23号竪穴建物出土遺物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・67
第53図　23号竪穴建物出土遺物（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・68
第54図　23号竪穴建物出土遺物（４）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・69
第55図　24号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・70
第56図　25号・26号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・70
第57図　27号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・71
第58図　27号竪穴建物カマドと出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・72
第59図　28号竪穴建物と出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・73
第60図　29号竪穴建物と出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・74
第61図　30号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・75
第62図　30号竪穴建物掘り方・カマド ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・76
第63図　30号竪穴建物出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・77
第64図　２号竪穴状遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・78
第65図　２号竪穴状遺構出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・79
第66図　３号竪穴状遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・79
第67図　４号竪穴状遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・80
第68図　５号竪穴状遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・80
第69図　１号～３号井戸と２号・３号井戸出土遺物・・・・・・・・・・・・・81
第70図　４号井戸 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・82
第71図　４号井戸出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・83
第72図　５号・６号井戸・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・84
第73図　５号・６号井戸土層断面と６号井戸出土遺物 ・・・・・・・・・・・85
第74図　７号井戸と出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・86
第75図　８号・９号井戸・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・87
第76図　10号・11号井戸と10号井戸出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・88
第77図　12号井戸と出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・89
第78図　１号・６号溝 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・91
第79図　１号・６号溝出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・92
第80図　２号・３号溝と２号溝出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・93
第81図　４号・５号溝 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・94
第82図　７号・９号・10号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・95
第83図　８号・11号溝 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・96
第84図　２号・５号・７号～９号・11号・14号土坑と８号土坑出土遺物
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・98
第85図　16号～ 20号土坑と18号・20号土坑出土遺物 ・・・・・・・・・・・99
第86図　21号～ 27号・31号土坑と31号土坑出土遺物 ・・・・・・・・・・・100
第87図　32号・33号・35号～ 37号土坑と33号土坑出土遺物 ・・・・・・101
第88図　38号・39号・41号・45号・46号土坑 ・・・・・・・・・・・・・・・102
第89図　１号～ 14号ピット ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・104
第90図　15号～ 28号ピット ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・105
第91図　29号～ 42号ピット ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・106
第92図　43号～ 50号ピット ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・107
第93図　遺構外出土遺物（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・108
第94図　遺構外出土遺物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・109
第95図　竪穴建物出土土器（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・111
第96図　竪穴建物出土土器（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・112
第97図　深津の寄居(引用文献２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・113
第98図　深津の寄居付近の図　明治(引用文献75）・・・・・・・・・・・・・113
第99図　深津の寄居付近の図　昭和(引用文献76）・・・・・・・・・・・・・113

表　目　次

第１表　前橋市0891遺跡　調査経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
第２表　周辺遺跡一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
第３表　竪穴建物一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
第４表　井戸一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・83
第５表　溝一覧表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・92
第６表　土坑一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・97
第７表　ピット計測表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・103
第８表　遺物観察表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・114

写真目次

PL. 1　1　1区～11区調査区全景(南から)
　　2　1区4号・5号・6号・7号・10号・11号竪穴建物全景(上から)
PL. 2　1　2区1号竪穴建物検出状況(北から)
　　2　2区1号竪穴建物全景(南から)
　　3　2区1号竪穴建物全景(南から)
　　4　2区1号竪穴建物焼土・炭化物検出状況(南から)
　　5　2区2号竪穴建物全景(北東から)
PL. 3　1　1区3号・4号竪穴建物検出状況(南から)
　　2　1区3号竪穴建物土層断面A-A′(西から)
　　3　1区3号竪穴建物全景(西から)
　　4　1区3号竪穴建物内集石全景(西から)
　　5　1区3号竪穴建物全景(西から)
PL. 4　1　1区4号竪穴建物全景(南から)
　　2　1区4号竪穴建物全景(西から)
　　3　1区4号竪穴建物全景(南から)
　　4　1区4号竪穴建物遺物出土状態(南から)
　　5　1区3号～7号竪穴建物検出状況(南から)
PL. 5　1　1区5号竪穴建物全景(南から)
　　2　1区5号竪穴建物カマド土層断面C-C′(南から)
　　3　1区5号竪穴建物カマド遺物出土状態(西から)
　　4　1区5号竪穴建物カマド掘り方全景(西から)
　　5　1区6号竪穴建物全景(西から)
　　6　1区6号竪穴建物掘り方全景(南から)
　　7　1区6号竪穴建物カマド土層断面E-E′(西から)
　　8　1区6号竪穴建物カマド全景(南西から)
PL. 6　1　1区7号竪穴建物全景(南から)
　　2　1区7号竪穴建物全景(西から)
　　3　1区7号竪穴建物カマド検出状況(西から)
　　4　1区7号竪穴建物カマド検出状況(南から)
　　5　1区7号竪穴建物カマド土層断面D-D′(南から)
PL. 7　1　4区8号竪穴建物検出状況(南から)
　　2　4区8号竪穴建物北半全景(南から)
　　3　1区9号竪穴建物検出状況(南から)
　　4　1区9号竪穴建物掘り方全景(南から)
　　5　1区10号竪穴建物掘り方全景(南西から)
PL. 8　1　1区10号竪穴建物掘り方土層断面A-A′(北東から)
　　2　1区10号竪穴建物カマド土層断面D-D′(南から)
　　3　1区10号竪穴建物カマド掘り方土層断面D-D′(南から)
　　4　1区10号竪穴建物カマド掘り方全景(南西から)
　　5　1区－E　11号竪穴建物北側半分(南から)
PL. 9　1　1区－E　11号竪穴建物北側半分(南から)
　　2　1区－E　11号竪穴建物カマド周辺(南から)
　　3　1区－E　11号竪穴建物遺物出土状態(南から)
　　4　1区－E　11号竪穴建物全景(北から)
　　5　1区－E　11号竪穴建物南半分(南から)
　　6　1区－E　11号竪穴建物カマド全景(西から)
　　7　1区－E　11号竪穴建物カマド土層断面H-H′(西から)
　　8　1区－E　11号竪穴建物カマド掘り方全景(西から)
PL. 10　1　1区－E　12号竪穴建物全景(西から)
　　2　1区－E　12号竪穴建物カマド土層断面D-D′(南から)
　　3　1区－E　12号竪穴建物土層断面A-A′(南から)
　　4　1区－E　13号竪穴建物全景(南から)
　　5　1区－E　13号竪穴建物掘り方全景(南から)
　　6　1区－E　13号竪穴建物カマド掘り方土層断面D-D′(南から)
PL. 11　1　1区－E　14号竪穴建物全景(西から)
　　2　1区－E　14号竪穴建物遺物出土状態(南から)
PL. 12　1　1区－E　14号竪穴建物掘り方土層断面C-C′(西から)
　　2　1区－E　14号竪穴建物カマド焼土検出状況(南東から)
　　3　1区－E　14号竪穴建物カマド全景(南東から)
　　4　1区－E　14号竪穴建物カマド土層断面D-D′(北東から)
　　5　1区－A　15号・16号・17号竪穴建物全景(南から)
PL. 13　1　1区－A　15号・16号竪穴建物土層断面A-A′(西から)
　　2　1区－A　15号竪穴建物全景(北西から)
　　3　1区－A　15号竪穴建物遺物出土状態(西から)
　　4　1区－A　15号竪穴建物遺物出土状態(北東から)
　　5　1区－A　15号竪穴建物遺物出土状態(南から)
PL. 14　1　1区17号竪穴建物土層断面A-A′(南から)
　　2　1区17号竪穴建物全景(南西から)
　　3　1区17号竪穴建物掘り方全景(南西から)
　　4　1区17号竪穴建物遺物出土状態(南から)
　　5　1区17号竪穴建物遺物出土状態(西から)
PL. 15　1　9区18号・19号竪穴建物、3号・4号竪穴状遺構全景(南から)
　　2　9区18号・19号竪穴建物、3号・4号竪穴状遺構全景(東から)
PL. 16　1　9区18号竪穴建物全景(南西から)
　　2　9区18号竪穴建物遺物出土状態(南西から)
PL. 17　1　9区18号竪穴建物土層断面B-B′(南西から)
　　2　9区18号竪穴建物掘り方全景(南西から)
　　3　9区18号竪穴建物遺物出土状態(南西から)
　　4　9区18号竪穴建物遺物出土状態(北西から)
　　5　9区18号竪穴建物カマド土層断面C-C′(南東から)
　　6　9区18号竪穴建物カマド土層断面E-E′(南西から)
　　7　9区18号竪穴建物カマド遺物出土状態(南西から)
　　8　9区18号竪穴建物カマド掘り方土層断面C-C′(南から)
PL. 18　1　9区19号竪穴建物全景(西から)
　　2　9区19号竪穴建物土層断面A-A′(西から)
　　3　9区19号竪穴建物土層断面B-B′(東から)
　　4　9区19号竪穴建物掘り方土層断面A-A′(西から)
　　5　9区19号竪穴建物掘り方全景(西から)
PL. 19　1　9区19号竪穴建物カマド土層断面E-E′(西から)
　　2　9区19号竪穴建物カマド全景(西から)
　　3　9区19号竪穴建物カマド全景(西から)
　　4　9区19号竪穴建物カマド土層断面E-E′(西から)
　　5　1区－E　21号・22号・23号竪穴建物全景(北東から)
PL. 20　1　1区－E　21号竪穴建物全景(西から)
　　2　1区－E　21号竪穴建物土層断面B-B′(西から)
　　3　1区－E　21号竪穴建物遺物出土状態(西から)
　　4　1区－E　21号竪穴建物遺物出土状態(西から)
　　5　1区－E　21号竪穴建物遺物出土状態(西から)
PL. 21　1　1区－E　21号竪穴建物カマド焼土検出状況(西から)
　　2　1区－E　21号竪穴建物カマド土層断面I-I′(西から)
　　3　1区－E　21号竪穴建物カマド全景(西から)
　　4　1区－E　21号竪穴建物カマド土層断面H-H′(北から)
　　5　1区－E　22号竪穴建物全景(南から)
PL. 22　1　1区－E　22号竪穴建物掘り方全景(南西から)
　　2　1区－E　22号竪穴建物遺物出土状態(西から)
　　3　1区－E　22号竪穴建物土層断面A-A′(西から)
　　4　1区－E　22号竪穴建物カマド土層断面F-F′(南から)
　　5　1区－E　22号竪穴建物カマド遺物出土状態(南西から)
　　6　1区－E　22号竪穴建物カマド土層断面F-F′(南から)
　　7　1区－E　22号竪穴建物カマド土層断面E-E′(西から)
　　8　1区－E　22号竪穴建物カマド掘り方全景(南から)
PL. 23　1　1区－E　23号竪穴建物全景(西から)　数字は遺物番号
　　2　1区－E　23号竪穴建物遺物出土状態(西から)
　　3　1区－E　23号竪穴建物遺物出土状態(西から)
　　4　1区－E　23号竪穴建物遺物出土状態(西から)
　　5　1区－E　23号竪穴建物遺物出土状態(西から)
PL. 24　1　1区－E　23号竪穴建物カマド遺物出土状態(西から)
　　2　1区－E　23号竪穴建物カマド遺物出土状態(南から)
PL. 25　1　1区－E　23号竪穴建物カマド遺物出土状態(西から)
　　2　1区－E　23号竪穴建物カマド土層断面F-F′(西から)
　　3　1区－E　23号竪穴建物カマド遺物出土状態(東から)
　　4　1区－E　23号竪穴建物カマド遺物出土状態(北から)

	5	１区－Ｅ　23号竪穴建物カマド土層断面E-E′（北から）
	6	１区－Ｅ　23号竪穴建物カマド全景(西から)
	7	１区－Ｅ　23号竪穴建物カマド土層断面G-G′（西から）
	8	１区－Ｅ　23号竪穴建物カマド土層断面G-G′（西から）
PL. 26	1	１区－Ｄ　24号・25号・26号・27号竪穴建物全景(南から)
	2	１区－Ｄ　24号竪穴建物土層断面A-A′（西から）
	3	１区－Ｄ　24号竪穴建物土層断面A-A′（西から）
	4	１区－Ｄ　25号竪穴建物全景(南から)
	5	１区－Ｄ　25号竪穴建物土層断面A-A′（西から）
PL. 27	1	１区－Ｄ　26号竪穴建物全景(南から)
	2	１区－Ｄ　27号竪穴建物全景(西から)
PL. 28	1	１区－Ｄ　27号竪穴建物掘り方全景(南西から)
	2	１区－Ｄ　27号竪穴建物カマド全景(西から)
	3	１区－Ｄ　27号竪穴建物掘り方全景(南から)
	4	１区－Ｄ　27号竪穴建物カマド土層断面D-D′（南東から）
	5	１区－Ｄ　27号竪穴建物カマド全景(西から)
	6	１区－Ｄ　27号竪穴建物カマド全景(西から)
	7	１区－Ｄ　27号竪穴建物カマド土層断面C-C′（南から）
	8	１区－Ｄ　27号竪穴建物カマド掘り方全景(西から)
PL. 29	1	４区28号・30号竪穴建物全景(南から)
	2	４区28号竪穴建物掘り方全景(南から)
PL. 30	1	４区28号竪穴建物土層断面B-B′（東から）
	2	４区28号竪穴建物土層断面A-A′（北から）
	3	４区28号竪穴建物遺物出土状態(西から)
	4	４区28号竪穴建物北側周溝(南西から)
	5	４区28号竪穴建物全景(南西から)
	6	４区28号竪穴建物掘り方土層断面B-B′（北東から）
	7	４区28号竪穴建物掘り方土層断面A-A′（北西から）
	8	４区28号竪穴建物焼土・炭化物検出状況(南西から)
PL. 31	1	４区28号・29号・30号竪穴建物全景(南から)
	2	４区29号竪穴建物全景(南から)
PL. 32	1	４区30号竪穴建物全景(西から)
	2	４区30号竪穴建物土層断面B-B′（北西から）
	3	４区30号竪穴建物遺物出土状態(南から)
	4	４区30号竪穴建物遺物出土状態(南から)
	5	４区30号竪穴建物掘り方全景(西から)
PL. 33	1	４区30号竪穴建物カマド土層断面H-H′（西から）
	2	４区30号竪穴建物カマド掘り方土層断面H-H′（西から）
	3	４区30号竪穴建物貯蔵穴全景(西から)
	4	４区30号竪穴建物P1全景(南から)
	5	９区２号・３号・４号竪穴状遺構全景(南東から)
PL. 34	1	４区５号竪穴状遺構全景(北から)
	2	９区２号竪穴状遺構全景(南東から)
	3	９区３号竪穴状遺構全景(西から)
	4	９区４号竪穴状遺構全景(西から)
	5	４区５号竪穴状遺構全景(東から)
PL. 35	1	２区１号・２号・３号井戸全景(南から)
	2	２区２号・３号井戸全景(北から)
PL. 36	1	２区１号井戸全景(東から)
	2	２区１号井戸土層断面A-A′（東から）
	3	２区２号・３号井戸全景(南から)
	4	２区２号井戸全景(南から)
	5	２区３号井戸遺物出土状態(北から)
	6	２区３号井戸全景(北から)
	7	１区４号井戸礫出土状態(南東から)
	8	１区４号井戸全景(北東から)
PL. 37	1	６区５号・６号井戸全景(西から)
	2	６区５号井戸土層断面A-A′（南西から）
	3	６区５号井戸全景(南西から)
	4	６区６号井戸土層断面B-B′（西から）
	5	６区６号井戸遺物出土状態(南西から)
PL. 38	1	１区－Ｅ　７号井戸全景(南から)
	2	１区－Ｅ　７号井戸全景(南から)
	3	１区－Ｅ　７号井戸土層断面A-A′（南から）
	4	９区８号井戸全景(南から)
	5	９区８号井戸全景(南西から)
	6	４区９号・10号井戸全景(北から)
	7	４区９号井戸全景(南から)
	8	４区９号井戸土層断面A-A′（南から）
PL. 39	1	４区10号井戸全景(北から)
	2	４区10号井戸土層断面A-A′（南から）
	3	４区11号井戸全景(西から)
	4	４区12号井戸全景(東から)
	5	４区11号・12号井戸、１号・５号・６号溝全景(南から)
PL. 40	1	４区１号・６号溝全景(北から)
	2	５区１号溝全景(北から)
	3	５区１号溝土層断面B-B′（南から）
	4	５区１号溝全景(南から)
PL. 41	1	１区－Ｂ　２号溝全景(西から)
	2	１区－Ｃ　３号溝全景(南西から)
	3	４区４号溝全景(北から)
	4	４区５号溝土層断面A-A′（北から）
	5	４区５号溝全景(南から)
	6	４区６号溝全景(南から)
	7	４区６号溝土層断面G-G′（東から）
PL. 42	1	10区７号・９号・10号溝全景(北から)
	2	10区７号溝全景(北から)
	3	10区９号溝土層断面A-A′（西から）
	4	10区10号溝全景(西から)
	5	10区10号溝土層断面A-A′（西から）
PL. 43	1	11区８号溝全景(北から)
	2	11区11号溝全景(南から)
	3	11区８号溝全景(東から)
	4	11区８号溝土層断面A-A′（東から）
	5	11区11号溝土層断面A-A′（北から）
	6	11区11号溝土層断面A-A′（北から）
PL. 44	1	２区２号土坑全景(東から)
	2	２区２号土坑土層断面A-A′（東から）
	3	１区５号土坑全景(南から)
	4	１区５号土坑土層断面A-A′（南から）
	5	１区９号土坑全景(西から)
	6	１区９号土坑土層断面A-A′（西から）
	7	１区11号土坑全景(西から)
	8	１区11号土坑全景(西から)
PL. 45	1	１区14号土坑全景(南から)
	2	１区14号土坑土層断面A-A′（南から）
	3	１区16号土坑全景(北から)
	4	１区16号土坑土層断面A-A′（北から）
	5	３区17号土坑全景(南から)
	6	１区18号土坑全景(北から)
	7	１区18号土坑遺物出土状態(北から)
	8	９区19号土坑土層断面A-A′（南から）
PL. 46	1	９区20号土坑土層断面A-A′（東から）
	2	９区20号土坑遺物出土状態(北から)
	3	９区21号土坑全景(北から)
	4	９区21号土坑土層断面A-A′（北から）
	5	９区22号土坑全景(西から)
	6	９区24号土坑土層断面A-A′（南東から）
	7	９区24号土坑全景(南西から)
	8	９区25号土坑全景(南西から)
PL. 47	1	９区26号土坑全景(東から)
	2	９区27号土坑土層断面A-A′（南から）
	3	１区－Ｄ　31号土坑全景(西から)
	4	１区－Ｄ　31号土坑土層断面A-A′（東から）
	5	１区－Ｅ　32号土坑全景(西から)
	6	４区33号土坑全景(北から)
	7	４区33号土坑土層断面A-A′（北から）
	8	４区33号土坑遺物出土状態(東から)
PL. 48	1	４区35号土坑全景(南から)
	2	４区35号土坑土層断面A-A′（西から）
	3	４区36号土坑全景(南から)
	4	４区37号土坑全景(南から)

5　４区37号土坑土層断面A-A′（南から）
6　４区38号土坑全景(南から)
7　４区38号土坑土層断面A-A′（南から）
8　４区39号土坑全景(北から)
PL. 49　1　２区１号ピット土層断面A-A′（南東から）
2　２区２号ピット全景(東から)
3　２区２号ピット土層断面A-A′（東から）
4　２区３号ピット全景(北から)
5　７区５号ピット全景(西から)
6　７区６号ピット全景(西から)
7　７区７号・８号ピット全景(東から)
8　７区８号ピット全景(東から)
9　６区10号ピット全景(東から)
10　６区11号ピット全景(東から)
11　６区11号ピット土層断面A-A′（東から）
12　６区12号ピット全景(西から)
13　６区12号ピット土層断面A-A′（南から）
14　１区13号ピット全景(南から)
15　１区13号ピット土層断面A-A′（南から）
PL. 50　1　１区14号ピット全景(南から)
2　１区14号ピット土層断面A-A′（南から）
3　１区15号ピット全景(南から)
4　１区15号ピット土層断面A-A′（南から）
5　１区16号ピット全景(南から)
6　１区16号ピット土層断面A-A′（南から）
7　１区17号ピット全景(南から)
8　１区17号ピット土層断面A-A′（南から）
9　１区18号ピット全景(南から)
10　１区18号ピット土層断面A-A′（南から）
11　９区19号ピット土層断面A-A′（西から）
12　９区20号ピット全景(西から)
13　９区20号ピット土層断面A-A′（南から）
14　９区21号ピット土層断面A-A′（西から）
15　１区22号ピット全景(南から)
PL. 51　1　１区－Ａ　22号ピット土層断面A-A′（東から）
2　１区－Ａ　23号ピット全景(南から)
3　１区－Ａ　23号ピット土層断面A-A′（南から）
4　９区24号ピット全景(南から)
5　４区25号ピット全景(南から)
6　４区26号ピット全景(南から)
7　４区26号ピット土層断面A-A′（南から）
8　４区27号ピット全景(南から)
9　４区27号ピット土層断面A-A′（南から）
10　４区28号ピット全景(南から)
11　４区28号ピット土層断面A-A′（南から）
12　４区29号ピット全景(南から)
13　４区29号ピット土層断面A-A′（南から）
14　４区30号ピット全景(南から)
15　４区30号ピット土層断面A-A′（南から）
PL. 52　1　４区31号ピット全景(南から)
2　４区31号ピット土層断面A-A′（南から）
3　４区32号ピット全景(北から)
4　４区32号ピット土層断面A-A′（北から）
5　10区33号ピット全景(南から)
6　10区33号ピット土層断面A-A′（南から）
7　10区34号ピット全景(南から)
8　10区34号ピット土層断面A-A′（南から）
9　10区35号・36号ピット全景(南から)
10　10区35号・36号ピット土層断面A-A′（南から）
11　10区37号ピット全景(南から)
12　10区37号ピット土層断面A-A′（南から）
13　10区38号ピット全景(南から)
14　10区38号ピット土層断面A-A′（南から）
15　10区39号ピット全景(南から)
PL. 53　1　10区39号ピット土層断面A-A′（南から）
2　10区40号ピット全景(南から)
3　10区40号ピット土層断面A-A′（南から）
4　11区41号ピット全景(西から)
5　11区41号ピット土層断面A-A′（西から）
6　11区42号ピット全景(西から)
7　11区42号ピット土層断面A-A′（西から）
8　11区44号ピット全景(北から)
9　11区45号ピット全景(東から)
10　11区45号ピット全景(東から)
11　11区46号ピット全景(東から)
12　11区47号ピット土層断面A-A′（西から）
13　11区48号ピット土層断面A-A′（東から）
14　11区49号ピット土層断面A-A′（西から）
15　11区50号ピット全景(南から)
PL. 54 ～ PL. 65　遺物写真

第１章　発掘調査の概要

第１節　調査に至る経緯

１　埋蔵文化財調査に至る経緯

前橋市0891遺跡は、(一)三夜沢国定停車場線社会資本総合整備(防災・安全)（交安・重点)事業に伴う埋蔵文化財の調査が実施された。本書はその埋蔵文化財発掘調査報告書である。

群馬県教育委員会文化財保護課（以下､文化財保護課）は、前橋土木事務所に対して、当該事業地が周知の埋蔵文化財包蔵地であることから、試掘確認調査の必要がある旨を回答した。

文化財保護課による試掘確認調査は、平成29年８月に実施した。重機を用いて事業地内の４か所をトレンチ状に掘削した。平面及び土層断面から遺構があることが確認され、本調査が必要と判断された。

この試掘確認調査の結果を基に、文化財保護課から事業を実施するにあたり、埋蔵文化財調査が必要である旨を前橋土木事務所あてに通知し、また、前橋市教育委員会に対しても試掘確認調査の結果を報告した。

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団により平成30年３月、令和元年７月・８月、令和２年１月に本調査を実施した。

第２節　調査の過程

１　平成29年度調査

平成29年度調査は平成30年３月１日から31日までの１か月間である。１区～３区、５区～７区を調査した。宅地や農地への進入路等を確保する必要があり、狭小な調査区もあった。竪穴建物14棟、井戸７基、溝１条、土坑11基、ピット18基を調査した。１区は、ほぼ調査区全体にわたり遺構が検出された。

確認調査によって想定された遺構数を上回る遺構が検出され、協議の結果、次年度以降の調査で調査することになった。竪穴建物は３棟(８号・11号・14号竪穴建物)については､次年度以降の調査で継続することになった。

２　令和元年度調査

令和元年度の調査は令和元年７月１日から８月31日までの２か月、令和２年１月の計３か月調査した。平成29年度調査からの継続調査であることから、区名称や遺構番号は連続するように付した。

（７・８月調査）

平成29年度調査の継続である１区、調査区中央部の４区、８区、調査区北端の９区を調査した。竪穴建物18棟(継続調査も含む)、竪穴状遺構４棟、井戸５基、溝５条、土坑20基、ピット14基を調査した。８区では近世以降と思われる耕作痕が発見された。近現代の撹乱が部分的に及んでおり、畦畔の検出が不明瞭な箇所もあった。竪穴建物等の遺構は検出されていない。平成29年度の継続調査の竪穴建物を含むが、１区・４区・９区に竪穴建物等の遺構が集中していた。

（令和２年１月調査）

低地部である10区から12区の調査をした。12区は他の調査区と同様の調査を行ったが、遺構の検出には至らなかった。10区・11区で溝５条、土坑１基、ピット18基、水田を調査した。

As-BないしAs-Kkを混土する遺構面を第１面とし、粘性のある黒色土上面を第２面として調査を行った。

第１面では水田、溝１条、ピット８基を調査した。10区のピットは水田に相当する面を掘り込んで確認された。11区で検出した水田は、畦畔の検出が不明瞭な箇所もあるが、７面の耕作区画が検出された。第２面では溝４条、ピット10基を調査した。７号・９号溝は平面形状などから中世と考えられる。

第１表　前橋市0891遺跡　調査経過

		平成29年度調査			令和元年度調査								
		2018年３月			2019年７月			2019年８月			2020年１月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
１区	表土掘削	■	■		■								
	遺構調査	■	■	■	■		■						
	全景写真		■		■		■						
	空撮		■		■								
	トレンチ調査			■	■								
２区	表土掘削	■											
	遺構調査	■											
	全景写真	■											
	空撮		■		■								
３区	表土掘削		■										
	遺構調査		■										
	全景写真		■										
	空撮		■										
	トレンチ調査		■										
４区	表土掘削				■	■							
	遺構調査				■	■	■						
	全景写真							■					
	空撮		■										
	トレンチ調査								■	■			
５区	表土掘削	■											
	遺構調査	■											
	全景写真	■											
	空撮		■										
６区	表土掘削	■											
	遺構調査	■											
	全景写真		■										
	空撮		■										
７区	表土掘削	■											
	遺構調査	■											
	全景写真	■											
	空撮		■										
８区（１・２面）	表土掘削				■								
	遺構調査				■								
	全景写真				■								
	トレンチ調査				■								
９区	表土掘削				■								
	遺構調査				■	■							
	全景写真					■							
10区（１・２面）	表土掘削										■		
	遺構調査										■	■	
	全景写真										■		■
	トレンチ調査											■	
11区（１・２面）	表土掘削										■		
	遺構調査											■	
	全景写真											■	
12区（１・２面）	表土掘削											■	
	遺構調査											■	
	全景写真											■	

第３節　調査・整理の方法

１　調査区の設定

調査区の設定は宅地や畑地への進入路等で分断されていたことから、北から順に１区、２区…12区となるように設定した。令和元年度の調査でも踏襲し、設定した。１区より北側の調査区は、北端の調査区を９区とし、そこから１区までの間の調査区を１区－Ａ～Ｅとした。

グリッドの設定は調査区内では行わず、世界測地系による平面直角座標系Ⅸ系（平成14年国土交通省告示第９号）に基づき、東経139度50分０秒、北緯36度０分０秒を原点とし、１ｍ四方の区画を１単位として設定した。本報告書の呼称は、座標数値の下３桁で標記している。

２　発掘調査の方法

各調査区の調査では、調査範囲について安全対策を講じた上で、調査を開始した。確認調査データを基に遺物包含層・遺構確認面を確認したうえで、重機による表土掘削を行った。狭小な調査区は重機の作業場所が十分に確保できなかったため、人力で掘削を行った。その後、ジョレン等を用いて精査し、遺構確認を行った。

確認した遺構は、土層観察のために一方向又は十字・二方向の土層観察ベルトを残し、掘り下げを行った。竪穴建物は基本的には、床面及び掘り方面の調査を実施しカマドについても使用面、掘り方面の調査を実施した。各遺構の調査終了後は、重機及び手作業による調査区の埋め戻しを行い、全ての調査が終了となった。

遺構写真は調査担当者が、デジタルカメラによる撮影とブローニー版モノクロフィルム撮影を併用し行った。また、平成29年度調査では遺跡全景をラジコンヘリによる空中写真撮影を委託実施した。令和元年度調査では、高所作業車による撮影をした。

遺構平面測量に関しては、地上測量を委託して行った。

３　整理作業の経過と方法

整理作業実施にあっては、文化財保護課の調整を受け、群馬県前橋土木事務所と公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団との間で、整理作業の委託契約が交わされ、同年４月１日より当事業団で整理作業を開始した。

遺物整理は土器、石器、金属器類に分類し、それぞれ接合作業を行い、遺構毎に掲載遺物を選び出した。掲載遺物については必要に応じて復元作業をしたのち、写真撮影と図化作業を行った。遺物写真は、デジタルカメラを用いて撮影し、画像補正を行って印刷原稿データとした。

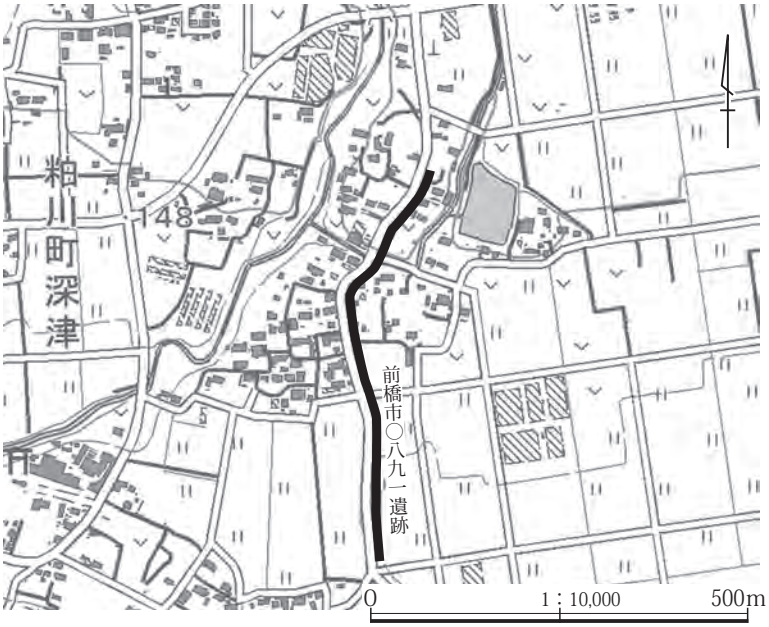
遺物実測は長焦点実測用写真や三次元測定機を併用し素図を作成した。トレース図を作成後、スキャニングし、デジタルデータ化した。

調査で出土した金属製品は当事業団で保存処理作業を行い、錆等で形状が不明な金属器については、Ｘ線写真により形状を確認したのちに実測図を作成した。土器・石器と同様に作業を行い、デジタルデータ化した。

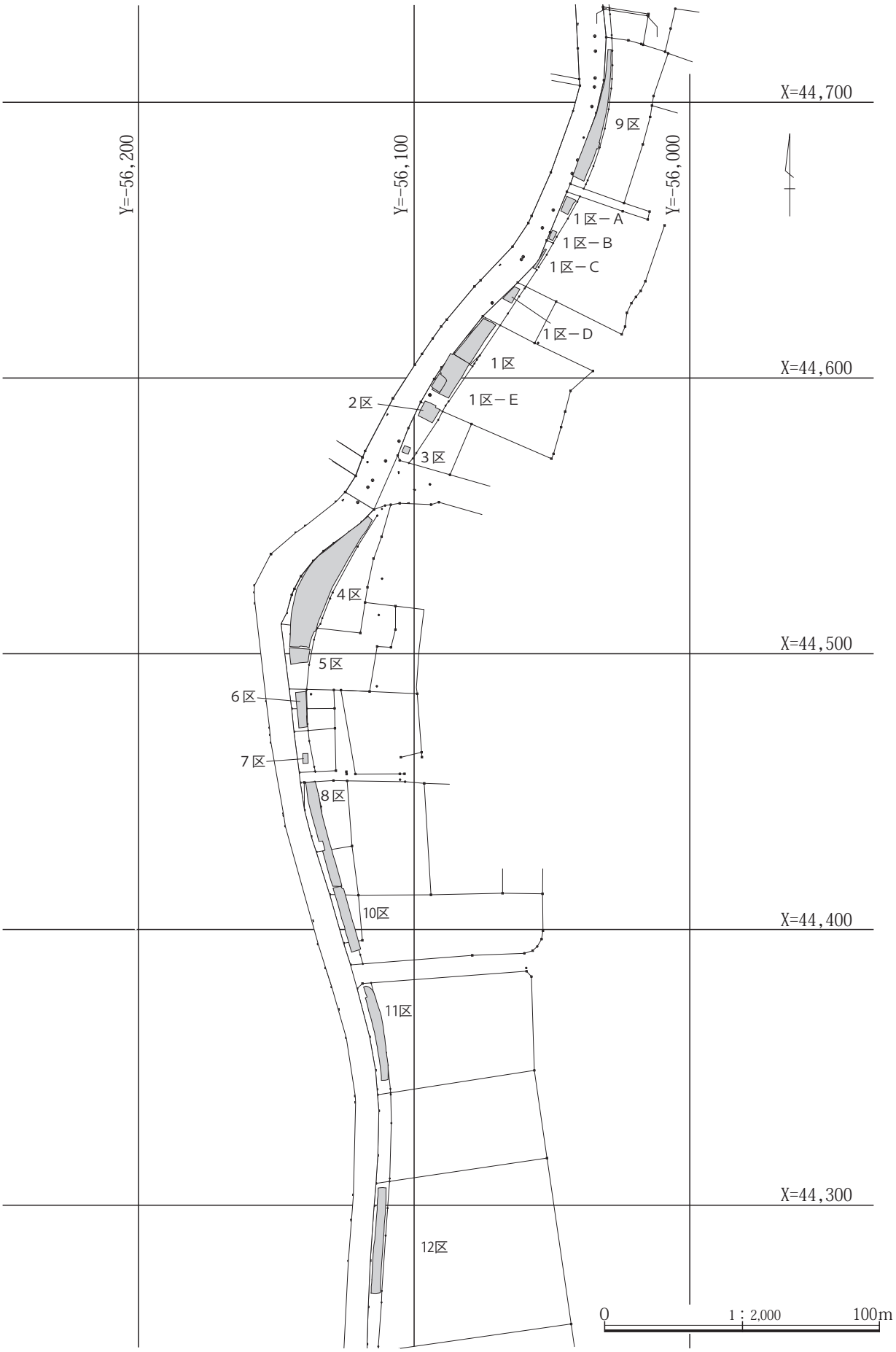
遺構写真は発掘調査で撮影・記録したデータから、報告書掲載写真を選び出したのち、画像補正し印刷原稿データとした。

これらの遺構・遺物に関するデータ及び本文文字原稿を編集し、令和４年３月に発掘調査報告書『前橋市0891遺跡』を刊行した。

６区作業状況（北から）



第１図　前橋市0891遺跡の位置（国土地理院20万分の１地勢図「長野」「宇都宮」、２万5000分の１地形図「大胡」拡大使用）


X=44,700
X=44,600
X=44,500
X=44,400
X=44,300
Y=−56,200
Y=−56,100
Y=−56,000
9区
1区－A
1区－B
1区－C
1区－D
1区
1区－E
2区
3区
4区
5区
6区
7区
8区
10区
11区
12区
0
1：2,000
100m

第２図　調査区位置図

第２章　地理的環境と歴史的環境

第１節　地理的環境

前橋市0891遺跡は、前橋市粕川町大字深津に所在する。本遺跡がある粕川町は赤城山南麓のほぼ中央部にあたる。東は桐生市新里町、南は伊勢崎市と接している。赤城山山頂の火口湖である小沼を源流とする粕川が町の中央を南流する。

赤城山は約50万年から活動を始めた複合成層火山である。現在、山頂部はいくつかの峰の複合体のようにみえるが、元々は富士山のような円錐火山であった。約20万年前に大規模な山体崩壊が発生した。約4.2万年前まで大規模な軽石噴火し、中央火口丘群を形成した。約2.5万年前の小沼の噴火以降、目立った火山活動は確認されておらず、現在までに火山麓扇状地が形成された。山麓は山体を流下する河川による開析作用によって、開析谷が形成されている。赤城白川・荒砥川・神沢川・粕川等の河川沿いは、土砂が堆積し、扇状地を形成している。

本遺跡がある粕川町は、前橋市東部地域赤城火山斜面にあり、平均勾配が２°程の緩い斜面で、一般の火山裾野と同様に火山砕屑物(火砕岩類)で形成される。放射谷は比較的浅いものが多く、その谷底部はかなり高いところまで水田化されており、その尾根にあたる部分には古くから集落が発達している。斜面の末端は比高10m前後に直線的な山麓崖をなしている。

粕川左岸地域と右岸地域の一部では、標高200m前後から起伏の少ない台地地形への変化がみられる。分厚い砂壌土の堆積が確認され、この傾向は荒砥川まで続いている。また、粕川と荒砥川に挟まれた地域で、２本の河川により形成された扇状地であり、粕川・荒砥川扇状地と呼ばれる。この扇状地は、地図上で等高線が平行して同心円状に走るという特徴を持つ。粕川町の大部分が該当する。この扇状地の形成時期は、粕川村教育委員会による発掘調査の結果から縄文時代中期後半から後期初頭が想定される。

深津地区は、桂川や東神沢川等の河川や扇状地内に残る赤城山麓の残丘地からの湧水等により一部が開析され、良好な水田地帯となっている。この水田の多くは、粕川を沿うように放射状に広がる扇状地形の微高地上に造られている。赤城山から流れたローム２次堆積面上にあたり、砂壌土性の土地である。赤城山南斜面は地下水位が低く、粕川のほかに、桂川や石田川等の小河川が流れているが、水量が乏しく、伏流する傾向がみられる。群馬用水の開通までは、渇水時で水利慣行としての通し水や番水等が行われ、水利争いも度々生じていた。明治10年の郡村誌には、深津地区でも「旱魃ノ患アリ」と水利の状況が記されている。溜池の築造とともに開かれた地域である。小河川の補助的水源として数多くの溜池が分布している。県内でも榛名山東麓と並んで特に多い地域である。平安時代末期以降の安定化あるいは開発の進行にとって大事な役割を果たしてきたと考えられる。現在、40か所の溜池が存在する。本遺跡の東側には泉川支流を水源とする新沼がある。文久２年(1862)年に猪熊理平治たちが竣工したといわれ、字本郷東田の22町あまりを灌漑している。

調査地付近の標高は約140 ～ 160mである。本遺跡は粕川と桂川に挟まれた場所にあり、扇状地と同扇状地により残丘された独立丘陵等が入り混じる複雑な地形である。遺跡の東側は、昭和53年から行われた県営圃場整備事業により整備された田畑が広がる。西側には粕川の支流である桂川が南流している。桂川に向かって緩やかな傾斜がみられる。粕川より東側には大間々扇状地が広がる。南約２㎞に多田山丘陵、南西約1.5㎞に大室古墳群があり、近接する場所でも古墳や古墳群が確認されている場所である。

第２節　歴史的環境

粕川村では昭和54年から圃場整備事業に伴い、遺跡分布調査や大規模な緊急発掘調査が行われた。北部の中之沢地区、室沢地区、月田地区と南部の深津地区、一日市地区に遺跡が集中していることが明らかになった。縄文時代は中之沢地区・室沢地区・月田地区の町北部に集中しているが、弥生時代は南部に集中する。奈良・平安時代になると、粕川町全域に満遍なく分布している。

旧石器時代

赤城山南麓は、岩宿遺跡(みどり市)や武井遺跡(桐生市新里町)、下触牛伏遺跡(伊勢崎市)等学史的にも顕著な遺跡が数多く知られている。

粕川町で主な遺跡として、前橋市0532遺跡(栗原東遺跡)が挙げられる。細石刃やナイフ形石器が出土した。本遺跡の南に位置する多田山丘陵では、丘陵全域から石器群が確認されている。

縄文時代

赤城山の裾野に発達した山麓台地上に遺跡の分布が広がる。赤城山南部山麓では集落や陥し穴が数多く発見されている。前期の遺跡は標高約500 ～ 400mの馬の背状の丘陵性地形に多く立地している。前期に遺跡数が急増する傾向がみられる。前期の遺跡では、室田地区に所在する前橋市0533遺跡(大林遺跡)や前橋市0573遺跡(大平遺跡)が挙げられる。両遺跡ともに前期の竪穴建物が検出され、市指定史跡に登録されている。

中期以降になると、前橋市0668遺跡(後原遺跡)(21)、前橋市0646遺跡(新宿遺跡)等が挙げられ、比較的標高が低い平坦な台地上に立地するようになる。

弥生時代

赤城山南麓地域では、標高約100 ～ 180mの丘陵性台地又は扇状地を含む低台地上に遺跡が多く造られるようになる。遺跡分布範囲は桐生市新里町・前橋市粕川町・伊勢崎市赤堀町・前橋市荒砥地区に特に遺跡が集中する。

本遺跡から北西に約700m位置する前橋市0676・0668遺跡(西原遺跡)(14・21)は、赤井戸式期の環濠集落である。竪穴建物や環濠の一部から赤井戸式期終末期の様相を示す良好な遺物が出土している。環濠内で約20棟が検出されている。前橋市0692遺跡(堤頭遺跡)(40)は、縄文時代前期・弥生時代後期から奈良・平安時代にかけての複合集落である。弥生時代の竪穴建物12棟検出されている。

古墳時代

弥生時代末から古墳時代前期の遺跡は粕川町南部の地域に集中するようである。古墳時代中期後半から集落は扇状地面上に造られるようになり、後期になると大規模集落が出現する。前橋市0652遺跡(前田遺跡)(10)、前橋市0685遺跡(渋沢遺跡)(30)、前橋市0712遺跡(五反田遺跡)(63)が挙げられる。その中でも前橋市0712遺跡では、100棟を超える大集落を形成していた。

生産遺構では、前橋市0668遺跡(三ヶ尻西遺跡)(21)と前橋市0668・0548・0680(松原田遺跡)(21・23・24)が挙げられる。前橋市0668遺跡では箱形炉や鍛冶工房、前橋市0668・0548・0680遺跡では、箱形炉と砂鉄溜土坑が検出された。製鉄や鍛錬等の鉄生産に関する作業をしていた可能性が考えられる。

また、前橋市0668遺跡(三ヶ尻西遺跡)(21)からは古墳時代前期の水田が確認され、赤城山南麓地域で最も古い水田である。

粕川地区でも数多くの古墳がある膳地区の前橋市0646・0649遺跡(白藤古墳群)は、５世紀後半から７世紀代に造られた古墳群である。数多くの円墳･方形周溝墓･小石槨で構成されており、赤城山南麓地域の初期群集墳の典型と考えられる。深津地区では前橋市0697・0897遺跡(近戸古墳群)(27・28)・前橋市0708・0887遺跡(三騎堂古墳群)(64・65)が挙げられる。前橋市0697・0897遺跡と前橋市0708・0887遺跡は、本遺跡から１㎞圏内にある古墳群である。いずれの古墳群も円墳がまとまって造られていた。

６世紀の古墳は、本遺跡から西に約1.5㎞に位置する前橋市0548遺跡(西原古墳群)(23)、前橋市0584遺跡(月田古墳群)が挙げられる。いずれも小型の前方後円墳を中心に大小の円墳で構成される群集墳である。月田古墳群の中には、県指定史跡の壇塚古墳群と鏡手塚古墳が含まれる。首長層が埋葬されたものと推定される鏡手塚古

墳や地蔵塚古墳、二子塚古墳と直径50mの大型円墳である『上毛古墳総覧』粕川村22号古墳の築造を契機に、月田古墳群が形成されていったと考えられている。遺物も多数出土しており、赤城山南麓の終末期群集墳の典型例のひとつと位置付けられる。

本遺跡の南西約２㎞に前橋市0240遺跡（大室古墳群）(59)がある。史跡整備された国指定史跡前二子古墳・中二子古墳・後二子古墳・小二子古墳で構成されている。前二子古墳は、大室古墳群の中核をなす前方後円墳であり、明治11年に行われた発掘調査では、数多くの副葬品が出土した。中二子古墳は全長111mを測り、最大の古墳である。現在は、盾持人埴輪と円筒埴輪が密接して置かれ、当時の様子が復元されている。

また、南に約1.2㎞には多田山丘陵の北端の小丘上に造られた赤堀茶臼山古墳がある。伊勢崎市指定史跡である。昭和４年に行われた発掘調査では、数多くの副葬品の他に、家形埴輪や円筒埴輪等が出土した。出土した埴輪の特徴から５世紀中頃に築造されたと考えられる。

奈良・平安時代

隣接する新里村（現桐生市新里町）の分布調査により赤城南麓における集落遺跡の在り方についての指摘があった（新里村教育委員会1984）。遺物が広範囲に分布しているのは、西面田・深津地区の標高200m以下の沖積地に面した台地上である。

集落以外の遺跡では宇通遺跡がある。平安時代後期の群馬県における代表的な山岳寺院であり、仏堂とみられる礎石建物等が検出された。中国製の陶磁器や金銅製女神小座像や経軸の飾り金具等の信仰道具が出土した。

この時期における行政単位に郡・郷・里があり、深津には「深渠郷」があったようである。10世紀前半ごろの郡郷名が記された和名類聚抄に記載されている郷推定地であるが、はっきりはしていない。大字名である深津の由来と言われている。

中世

中世の石造物が比較的多い地域である。五輪塔・板碑・宝塔等の信仰遺物が、粕川地区全域に多宝塔の一種である「赤城塔」や凝灰岩製の石仏が多く分布している。深津三ヶ尻にある赤城塔は、形態的な特徴から鎌倉時代後期から室町時代初頭のものと推定される。

前橋市0700遺跡（深津坂田城跡）（50）は本遺跡に隣接する遺跡である。市指定史跡に指定され、中世の地方豪族である深巣氏の居館と伝えられる。堀の内と呼ばれる方で160mの二重堀に囲まれた一郭が本丸と推定される。現在は、北東隅に一部堀が残っているのみである。

前橋市0661遺跡（女渕城跡）は、中世末期の城である。市指定史跡に指定され、本丸を中心として堀や低い土居が残存する。現在、女渕城址公園として整備されている。水を湛えた堀は後世に用水路に改修されたと考えられる。

前橋市0649遺跡（膳城跡）（９）はその周辺一帯が県指定史跡に指定されている。「武田勝頼による素肌攻め」で落城し、廃城となった。発掘調査では丸馬出を構成すると考えられる三日月堀が検出された。15世紀後半から16世紀のかわらけ・内耳鍋が出土した。現在でも土塁・曲輪・堀等が保存されている。

この他に室沢地区に所在する前橋市0511遺跡（室沢砦跡）や中地区に所在する前橋市0893遺跡（中村城跡）等がある。

近世

本遺跡内から近世の土坑が検出されている。勢多郡深津村である。寛政３年に書かれた「村明細帳控」（文久２年に書き改められた）（「粕川村誌」1972所収）に概要が記載されている。石高964石余、反別146町３反余。人・家・馬は、家161棟・人631人・馬40頭と記載されている。

引用参考文献

粕川村1972『粕川村誌』
粕川村教育委員会1985『粕川村の遺跡－遺跡詳細部分布調査報告書－』
粕川村1994『粕川村百年史』
（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団1996『荒砥上ノ坊遺跡Ⅱ』
新里村教育委員会1984『新里の遺跡表』
前橋市教育委員会文化財保護課2013『前橋市遺跡分布地図－市内遺跡詳細分布調査報告書－』
前橋市1971『前橋市史　第一巻』
前橋市教育委員会2013『安通・洞№２遺跡』

第３図　周辺遺跡

第２表　周辺遺跡一覧表

遺跡No.	名称(遺跡)		時代											報告書等	備考
			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	近代	不明	その他		
1	前橋市0891遺跡	深津寄居				○	○	○	○	○				２・30	本遺跡
2	前橋市0522遺跡			○			○	○						30	分布調査
3	前橋市0523遺跡			○			○	○						30	分布調査
4	前橋市0628遺跡	女渕-02					○	○						30	
5	前橋市0631遺跡	新屋-02					○	○						30	
		新屋-03					○	○						30	
6	前橋市0629遺跡	女渕-05		○			○	○						30	
		女渕-06					○	○						30	
		女渕-27					○	○						30	
7	前橋市0633遺跡	女渕-28〔粕川53号墳〕				○								1	
		女渕-29〔粕川52号墳〕				○									
8	前橋市0626遺跡	稲里-14		○			○	○						30	
9	前橋市0649遺跡	膳城　南曲輪外堀							○	○					
		膳城　北郭							○	○					
		膳城　馬出し堀							○	○					
		膳城　南曲輪外堀							○				○		
		白藤古墳群							○					38	
		膳-01						○	○						
		膳城跡							○					２	
10	前橋市0652遺跡	田面-01				○	○	○							
		田面-02・前田			○	○	○	○						31	
		田面-03			○										
		田面-04					○	○							
		前田		○		○									
						○	○	○							
11	前橋市0651遺跡					○								18	
12	前橋市0535遺跡	白山神社路地								○				30	
		白山神社路地								○				30	
13	前橋市0673遺跡	新屋-09・西宿					○	○						30	
		西宿					○	○						30	
14	前橋市0676遺跡	新屋-12・西原桜塚			○										
		西原・桜塚遺跡群		○										32	
15	前橋市0674遺跡	大塚				○								32	
16	前橋市0675遺跡	新屋-11・稲荷田					○	○							
		稲荷田							○						
		稲荷田		○		○	○	○						32	
17	前橋市0667遺跡	女渕-23					○	○						30	
		女渕-24			○									30	
		女渕-25					○	○						30	
18	前橋市0665遺跡	女渕-21・大塚吹上				○	○	○						30	
		深津庚塚		○				○						30	
		切通						○						30	
		庚塚		○				○						30	
				○					○					30	試掘調査
19	前橋市0684遺跡	女渕-30〔粕川54号墳〕				○								1	
		深津-43「粕川55号墳〕				○									
		深津-44〔粕川56号墳〕				○									
		深津-45〔粕川58号墳〕				○									
		深津-46〔粕川65号墳〕				○									
		深津-47　聖天古墳〔粕川59号墳〕				○									
		深津-48・丸塚古墳				○									
		深津-49〔粕川57号墳〕				○									
		深津-50　稲荷山〔粕川60号墳〕				○									
		近戸古墳				○								35	
		女渕-21・大塚・吹上				○									

遺跡No.	名称(遺跡)		時代 旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	近代	不明	その他	報告書等	備考
20	前橋市0663遺跡	女渕-14・木ノ下				○								30	
		木下				○		○	○					30	
						○	○	○						30	
21	前橋市0668遺跡	女渕-26		○											
		込皆戸-03			○		○	○							
		長岡・深津-02・松原田		○		○	○		○					37	
		深津-07・深津地区遺跡群		○	○	○	○	○						34・35	
		深津-57・三ヶ尻西				○	○	○							
		西原			○	○								32	
		長岡遺跡		○		○		○						74	
		三ケ尻西遺跡				○								32	
		後原遺跡		○		○								32	
		三反田遺跡				○		○						32	
		東原遺跡				○								32	
		タタラ沢Ｂ遺跡											○	32	
		後原遺跡		○		○								32	
		東田遺跡		○		○								32	
		深津-03・長岡遺跡		○		○	○			○				74	
22	前橋市0679遺跡	込皆戸-10		○										30	
		込皆戸-11					○	○						30	
		タタラ沢						○						30	
								○						30	試掘調査
23	前橋市0548遺跡	西原古墳群				○								32・33	
		長岡				○								37	
		長岡・深津-02・松原田				○								37	
		深津-07・深津地区遺跡群				○								34・35	
		東原(長谷川養鶏場部分)				○									
24	前橋市0680遺跡	深津-01・松原田				○								34	
		松原田										○		34・35	
25	前橋市0682遺跡	深津-04				○	○	○						30	
26	前橋市0683遺跡	深津-05				○	○	○						30	
27	前橋市0697遺跡	深津-06・深津地区遺跡群		○	○	○	○	○	○					34	
		深津地区遺跡群・近戸古墳群			○	○								35	
		友成					○	○	○				○		
28	前橋市0897遺跡	深津遺跡群・近戸古墳群				○								35	
		近戸３号墳〔粕川66号墳〕				○								35	
		近戸４号墳〔粕川65号墳〕				○								35	
29	前橋市0664遺跡	下池皆戸				○	○	○					○	32	
30	前橋市0685遺跡	女渕-09				○								30	
		女渕-10				○	○	○						30	
		女渕-11				○								30	
		女渕-12				○								30	
		女渕-13				○								30	
		女渕-16				○								30	
		女渕-17				○								30	
		女渕-18				○								30	
		女渕-19				○	○	○						30	
		女渕-20				○	○	○						30	
		渋沢				○	○	○						30	
31	前橋市0686遺跡	前皆戸-01		○		○	○	○						30	
		前皆戸-02		○										30	
32	前橋市0688遺跡	自音寺					○	○						32	
33	前橋市0809遺跡	膳-02		○		○	○	○						30	
34	前橋市0693遺跡	膳-09　大尺古墳〔粕川78号墳〕				○								1	
		膳-10〔粕川79号墳〕				○									
35	前橋市0694遺跡	田面-14〔粕川51号墳〕				○								1	
		田面-15〔粕川70号墳〕				○									
		田面-16〔粕川69号墳〕				○									

遺跡No.	名称(遺跡)		時代											報告書等	備考
			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	近代	不明	その他		
36	前橋市0889遺跡	田面館							○					4	
37	前橋市0689遺跡	田面-06				○	○	○				○		30	
38	前橋市0690遺跡	田面-07		○		○	○	○						30	
39	前橋市0691遺跡	田面-08					○	○						30	
40	前橋市0692遺跡	一日市-05			○										
		堤頭		○	○	○	○	○						36	
		一日市城			○	○		○						32	
		粕川町一日宿後				○			○	○				39	
						○			○		○				
41	前橋市0890遺跡	一日市城											○	4	
42	前橋市0912遺跡	関後百々目木				○								32	
43	前橋市0713遺跡	一日市-02					○	○						30	
		一日市-03				○								30	
		一日市-04		○	○		○	○						30	
44	前橋市0695遺跡	込皆戸-13				○								30	
		女渕大峯Ｂ						○						30	試掘調査
		込皆戸大峯				○								30	試掘調査
		込皆戸-16		○										30	
45	前橋市0826遺跡	中島				○								８・９	
46	前橋市0701遺跡	深津-13				○								30	
		深津-14				○								30	
47	前橋市0229遺跡	七ツ石古墳群				○									
		深津-51〔粕川62号墳〕				○								1	
		西大室古墳群〔荒砥62号墳〕				○								16	
		西大室古墳群・七ツ石				○								16	
48	前橋市0698遺跡	深津-08・三ヶ尻				○	○	○							
		三ヶ尻				○	○	○						34	
49	前橋市0699遺跡	深津-10			○										
		西迎		○	○	○	○							34・37	
50	前橋市0700遺跡	深津-12							○						
		坂田城							○						
		深津館							○					7	
									○						試掘調査
51	前橋市0716遺跡	西大室遺跡群　北山			○	○	○	○	○					16	
		西大室遺跡群　七ツ石			○	○								16	
52	前橋市0228遺跡	大室元城							○					2	
		西大室遺跡群　元城跡							○					16	
53	前橋市0585遺跡	三ヶ尻古墳				○								34	
54	前橋市0703遺跡	深津-16					○	○							
55	前橋市0704遺跡	深津-17					○	○						30	
56	前橋市0705遺跡	深津-18				○	○	○							
		深津-19				○	○	○						34・35	
		深津-20				○	○	○							
		深津-25					○	○							
		深津遺跡群・打越前						○							
													○		試掘調査
57	前橋市0711遺跡	深津-53〔粕川61号墳〕				○								1	
		深津-54〔粕川62号墳〕				○								1	
		深津-55・丸山〔粕川63号墳〕				○								1	
58	前橋市0707遺跡	深津-26				○	○	○						30	
		深津-28			○		○	○						30	

遺跡No.	名称(遺跡)		時代 旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	近代	不明	その他	報告書等	備考
59	前橋市0240遺跡	後二子古墳〔荒砥55号墳〕				○								15・73	
		後二子並小二子古墳				○								3	
		中二子古墳　M－９〔荒砥229号古墳〕				○								27	
		小二子古墳　M-11〔荒砥56号古墳〕				○								28	
		西大室遺跡群Ⅱ　上縄引〔荒砥59号墳〕				○								30	
		前二子古墳〔荒砥51号墳〕				○								21	
		小二子古墳				○								27	
		小二子古墳				○									
		中二子古墳　M－９〔荒砥229号墳〕				○								27	
		内堀遺跡群Ⅹ　Ｍ４号墳				○								18	
		内堀遺跡群Ⅲ　下縄引Ⅱ				○								19	
		内堀遺跡群Ⅱ　Ｍ１号墳〔荒砥57号墳〕				○								29	
		内堀遺跡群Ⅴ　内堀				○								20	
		内堀遺跡群　Ｍ３号墳				○								18	
60	前橋市0230遺跡	内堀遺跡群Ⅹ　下縄引Ⅱ				○								18	
		内堀遺跡群XII　下縄引Ⅱ		○		○								19	
		内堀遺跡群Ⅲ　内堀		○		○								20	
		内堀遺跡群Ⅴ　内堀				○								25	
		内堀遺跡群XI　内堀				○								23	
				○										28	内堀遺跡群内試掘調査
		西大室遺跡群Ⅱ　上縄引〔荒砥59号墳〕		○	○	○	○	○	○	○	○				
				○											試掘調査
61	前橋市0822遺跡	内堀遺跡群VII　下綱引Ⅱ							○					25	
		内堀遺跡群VI　下綱引Ⅱ							○					24	
62	前橋市0706遺跡	深津-22					○	○						32	
		深津-23				○	○	○						32	
		深津-24					○	○						32	
63	前橋市0712遺跡	深津地区遺跡群・五反田		○	○	○	○	○							
		西大室遺跡群・下綱引 久保皆戸・三騎堂 Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅ区		○	○	○	○	○						28	
64	前橋市0708遺跡	深津-27		○			○	○						30	
		深津-30					○	○						30	
		深津-31		○										30	
		深津-32					○	○						30	
		深津-33					○	○						30	
		深津-35					○	○						30	
		深津-36					○	○						30	
		深津-37		○			○	○						30	
		深津-38				○								30	
		深津-39					○	○						30	
		深津-40・三騎堂古墳群			○	○	○	○						35	
		深津-34・前原		○	○		○	○						35	
		深津遺跡群・三騎堂古墳群				○									
		深津遺跡群・前原			○										
65	前橋市0887遺跡	深津-40・三騎堂古墳群				○								35	
		深津遺跡群・三騎堂古墳群				○									
66	前橋市0715遺跡	深津-56〔粕川67号墳〕				○								1	
67	前橋市0714遺跡	稲荷山		○	○	○	○	○						32	
68	前橋市0265遺跡	大室城							○					２・22	
		大室城遺跡							○						

遺跡No.	名称(遺跡)		時代 旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	近代	不明	その他	報告書等	備考
69	前橋市0268遺跡	地田栗Ⅰ				○									
		地田栗Ⅱ				○									
		地田栗Ⅲ				○								24	
70	前橋市0598遺跡	内堀遺跡群　梅木北		○	○	○								17	
71	前橋市0273遺跡	今井三騎堂	○	○		○	○	○	○	○				12・13	
		今井見切塚	○	○		○	○	○	○	○				12・13	
		深津-41		○											
		深津-42					○	○							
72	前橋市0274遺跡	荒砥245号墳				○									
		下猿楽古墳群〔荒砥250号墳〕				○								1	
73	小林03遺跡					○								72	
74	小林04遺跡					○								72	
75	小林01遺跡					○								72	
76	小林05遺跡					○								72	
77	小林02遺跡					○								72	
78	薬師跡遺跡							○	○	○				30・48	
79	関前遺跡					○	○	○						30・48	
80	中居遺跡			○			○	○						30・48	
81	沖田遺跡			○	○									48	
82	西諏訪神社丘・西諏訪神社丘古墳群			○		○								48・55	
83	天幕城跡			○		○		○						48・49・69・70	
84	吉沢峯古墳群			○		○			○					48・53・69	
85	南下道遺跡			○		○	○	○						30・48	
86	大宝院前遺跡					○	○	○						48・67	
87	轟山古墳群・轟山遺跡			○		○								６・48	
88	今井北原遺跡			○		○	○	○						41・42・44・45・48・50・56	
89	磯前原遺跡			○	○	○	○	○						48・59	
90	茶臼山古墳群					○								６・48・49・60・61・62・69	
91	毒島城跡					○			○					48・49・69	
92	今井三騎堂遺跡			○		○	○	○						５・10・11・12・13・48	
93	諏訪山遺跡			○										48	
94	多田山東遺跡					○	○	○						48・51・65・66	
95	今井西原遺跡			○		○	○	○						48・63	
96	おばんぶち古墳群・おばんぶち遺跡			○	○	○	○	○						48・64・71	
97	中堀西遺跡					○	○	○						30・48	
98	中堀東遺跡													30・48	
99	社南遺跡			○		○								46・47・48・58	
100	経塚遺跡				○	○			○	○				48	
101	御伊勢坂遺跡・宝珠寺裏遺跡			○		○	○	○						48・59・62・65・71	
102	見切塚古墳群・見切塚遺跡			○		○								６・11・12・13・14・48・58・69	
103	田向遺跡			○		○	○	○						48・68	
104	柳田遺跡			○	○	○	○	○						40・48・52	
105	田向遺跡			○	○	○	○	○						43・48・57	
106	今井神社遺跡					○								30・48	
107	城古墳群					○		○						48	
108	赤堀城跡								○					48・49・69・71	
109	田宿遺跡				○	○	○	○						48・67	
110	田向古墳群					○								６・48	
111	赤坂北遺跡			○		○	○	○						30・48	
112	今井学校遺跡			○	○	○	○	○						41・48・54・57・58・62・64・71	

引用文献

1　群馬県1938『上毛古墳綜覧』
2　山崎一1971『群馬県古城塁址の研究　上巻』
3　群馬県教育委員会1973『群馬県遺跡地図』
4　山崎一1979『群馬県古城塁址の研究』補遺篇　上巻
5　群馬県史編纂委員会1981『群馬県史』資料編２
原始古代３　弥生・土師
6　群馬県史編纂委員会1981『群馬県史』資料編３　原始古代３　古墳
7　群馬県教育委員会1989『群馬県の中世城館跡』
8　群馬県教育委員会1988『阿弥陀井戸道上・伊勢山・大道・山王・明神山』
9　群馬県教育委員会2003『中屋敷Ⅰ遺跡・明神山・伊勢山遺跡・中島遺跡・西裏遺跡』
10　(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2004『今井三騎堂遺跡
－旧石器編－』
11　(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2004『多田山古墳群
－古墳時代編－』
12　(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2005『今井三騎堂・今井見切塚遺跡－歴史時代編－』
13　(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2005『今井三騎堂・今井見切塚遺跡－縄文時代編－』
14　(財)群馬県埋蔵文化財文化財調査事業団2007『今井見切塚遺跡
－旧石器石時代編－』
15　前橋市1971『前橋市史　第一巻』
16　前橋市教育委員会1982『富田遺跡群・西大室遺跡群』
17　前橋市教育委員会1988『内堀遺跡群』
18　前橋市埋蔵文化財発掘調査団1998『内堀遺跡群Ⅹ』
19　前橋市埋蔵文化財発掘調査団1990『内堀遺跡群Ⅲ』
20　前橋市埋蔵文化財発掘調査団1993『内堀遺跡群Ⅴ』
21　前橋市教育委員会1993『前二子古墳』
22　前橋市教育委員会1993『文化財調査報告書』第23集
23　前橋市教育委員会1993『市内遺跡発掘調査報告書』
24　前橋市埋蔵文化財発掘調査団1994『地田栗Ⅲ遺跡』
25　前橋市埋蔵文化財発掘調査団1994『内堀遺跡群Ⅵ』
26　前橋市教育委員会1995『中二子古墳』
27　前橋市教育委員会1997『小二子古墳』
28　前橋市教育委員会2015『西大室遺跡群』
29　前橋市教育委員会2015『西大室遺跡群Ⅱ』
30　前橋市教育委員会文化財保護課2013『前橋市遺跡分布地図
－市内遺跡詳細分布調査報告書－』
31　粕川村教育委員会1982『前田Ｆ１－昭和55年度県営圃場整備事業に伴う発掘調査報告（１）－』
32　粕川村教育委員会1985『粕川村の遺跡
－遺跡詳細部分布調査報告書－』
33　粕川村教育委員会1985『西原古墳群』
34　粕川村教育委員会1985『深津地区遺跡群』
35　粕川村教育委員会1986『深津地区遺跡群』
36　粕川村教育委員会1988『堤頭遺跡』
37　粕川村教育委員会1990『西迎遺跡』
38　粕川村教育委員会2015『白藤古墳群』
39　粕川村教育委員会2009『粕川町一日市宿後遺跡』
40　伊勢崎市教育委員会2005『五目牛新田遺跡・五目牛南組Ⅱ遺跡・五目牛清水Ⅱ遺跡・柳田Ⅱ遺跡』
41　伊勢崎市教育委員会2006『平成17年度市内遺跡確認調査報告書』
42　伊勢崎市教育委員会2006『今井北原遺跡Ⅶ』
43　伊勢崎市教育委員会2006『平成17年度伊勢崎市文化財保護年報』
44　伊勢崎市教育委員会2008『今井北原遺跡Ⅷ』
45　伊勢崎市教育委員会2008『平成19年度伊勢崎市文化財保護年報』
46　伊勢崎市教育委員会2009『社南遺跡』
47　伊勢崎市教育委員会2009『平成20年度伊勢崎市文化財保護年報』
48　伊勢崎市教育委員会2012『伊勢崎市遺跡分布地図－市内遺跡詳細分布調査報告書』
49　赤堀村1978『赤堀村誌』
50　赤堀村教育委員会1981『今井北原古墳及び住居跡発掘調査概報』
51　赤堀村教育委員会1982『多田山東遺跡発掘調査概報』
52　赤堀村教育委員会1982『今井柳田遺跡発掘調査概報』
53　赤堀村教育委員会1986『吉沢峯古墳発掘調査概報』
54　赤堀町教育委員会1989『昭和63年度町内遺跡調査概報』
55　赤堀村教育委員会1975『西野諏訪神社丘古墳群発掘調査概報』
56　赤堀町教育委員会1989『一般県道三夜沢国定停車場線路改良第一種工事施工地内埋蔵文化財発掘調査事業に伴う北原遺跡第Ⅱ地点の発掘調査概報』
57　赤堀町教育委員会1990『平成元年度町内遺跡発掘調査概報』
58　赤堀町教育委員会1991『平成２年度町内埋蔵文化財発掘調査概報』
59　赤堀町教育委員会1992『平成３年度町内遺跡発掘調査概報』
60　赤堀町教育委員会1996『平成７年度町内遺跡発掘調査概報』
61　赤堀町教育委員会1997『平成８年度町内発掘調査概報』
62　赤堀町教育委員会1998『平成９年度町内発掘調査概報』
63　赤堀町教育委員会1999『平成10年度埋蔵文化財発掘調査概報』
64　赤堀町教育委員会2000『平成11年度町内埋蔵文化財発掘調査概報』
65　赤堀町教育委員会2000『平成11年度町内遺跡発掘調査概報』
66　赤堀町教育委員会2001『平成12年度町内遺跡発掘調査概報』
67　赤堀町教育委員会2002『平成13年度町内遺跡発掘調査概報』
68　赤堀町教育委員会2003『平成14年度町内埋蔵文化財発掘調査概報』
69　赤堀町2004『赤堀町誌』
70　赤堀町教育委員会2004『天幕城遺跡』
71　赤堀町教育委員会2004『平成15年度町内遺跡発掘調査概報』
72　新里村教育委員会1984『新里村の遺跡』
73　前橋市教育委員会1992『後二子古墳・小二子古墳』
74　粕川村教育委員会1994『長岡遺跡』
75　壬申地引絵図　「上野国勢多郡深津村」明治六年四月　群馬県立文書館所蔵　本郷周辺を中心に加除筆して作成
76　群馬県勢多郡粕川村全図1/3000 作成年代未記載
同様な図が群馬県勢多郡城南村木瀬地区全図 1/3000がある。そこには昭和35年拾月調整と記載されていた。この頃県下ほぼ全域で作製されたものと思われる。公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団で県内多くの市町村の図を複写して保管している。

第３節　基本土層

本遺跡の基本土層は第４図に示した通りである。調査時に記録したものである。

遺跡の地形全体は、赤城山から関東平野に向かって緩やかに傾斜する。西側に桂川が南流している。桂川に流れ込む水路があり、東から西にも傾斜している。

遺跡全体が南北に細長いこともあり、各調査区で土層の堆積状況が異なる。１区から３区と９区が北、４区から８区が中央、10区から12区が南である。各調査区の土層は対応ができるよう、土層番号を統一した。

１層（１－１・１－２）は客土を含む表土である。１－１層は小礫、ロームを含み、均質でしまりのない層である。１－２層は、炭化物を微量、黄色土粒を含む均質でしまりのない層である。宅地や田、畑の耕作土である。10区から12区かけては、県営圃場整備事業の対象地となっていたと推定され、その際の客土等も含まれると考えられる。

２層（２－１・２－２）は灰黄褐色土であるが、２－１層は上層に鉄分凝集が見られ、２－２は全体に鉄分凝集が見られる。近現代と考えられる水田耕作土・水田耕盤土と考えられる。10区・11区・12区のみで確認された。

３層（３－１・３－２・３－３）は１区から３区、５区にのみ確認された土層である。３－１層は粗粒砂と黄色土粒を均一に含み、鉄分凝集が見られるしまりのない暗褐色土である。３－２層は黄褐色砂質土を主体とする層である。３－３層は３－２層土中の粒子を上層に含む灰白色土である。近世の堆積と考えられる。

４層（４－１・４－２）は１区から３区で確認された土層である。他の調査区では確認されていない。灰色砂層と暗褐色土の２層に大きく分けられる。４－１層は灰色砂層である。７層に細分することができる、均質でしまりのない層で、褐色砂層と互層をなす層序も確認された。４－２層は灰褐色土塊が混じる暗褐色土である。上層は粘性がないが、下層は粘性のある層である。中世の洪水層であると考えられる。

５層はAs-Bないし、As-Cが混入する黒褐色土である。この層に対応する層は各調査区で確認されている。軽石が混入することから古代に相当すると考えられる各調査区に堆積しているようである。

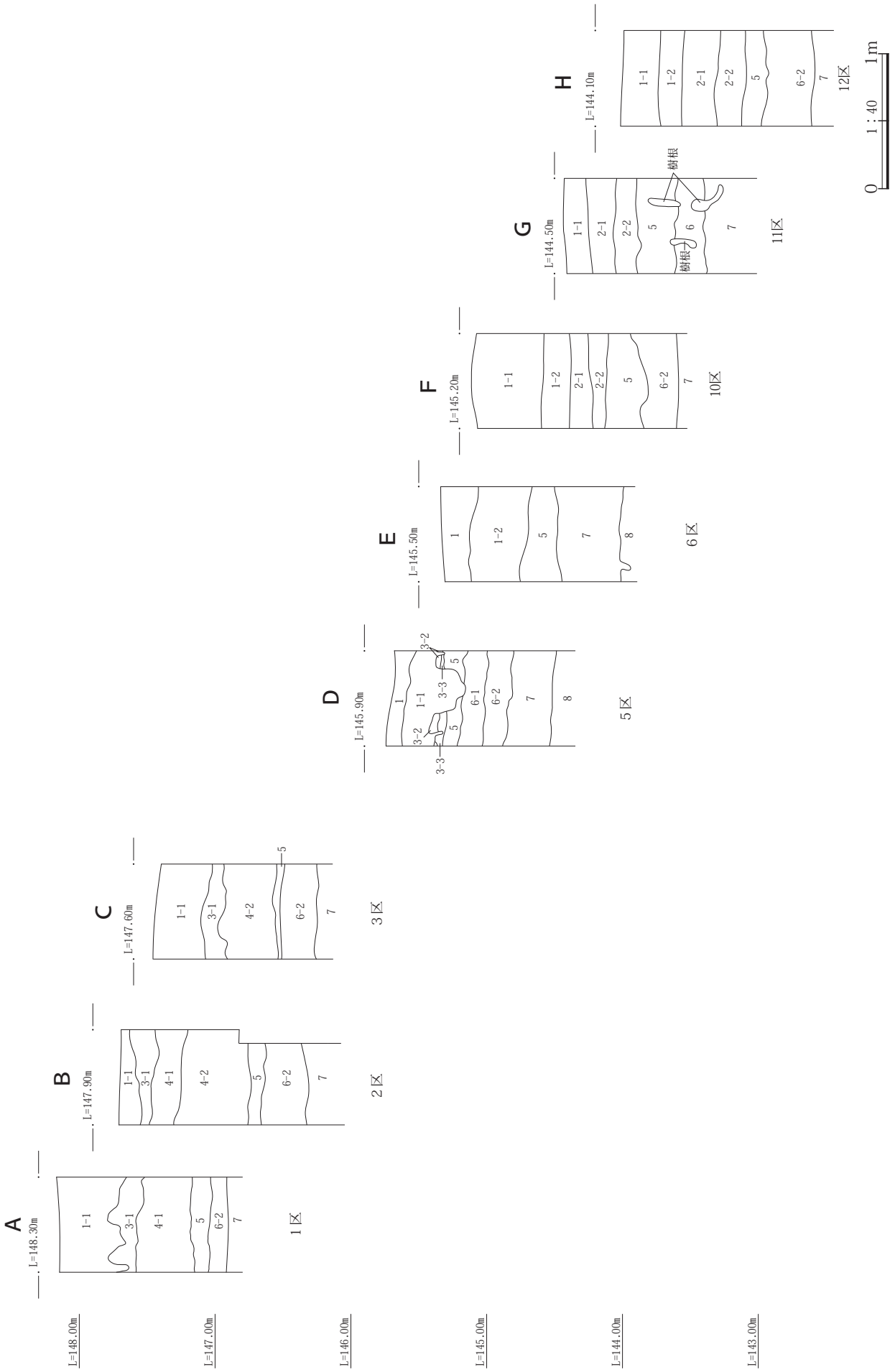
６層（６－１・６－２）は大きく２層に分けられる。６－１層は灰白色シルト質土が帯状に互層をなす黒褐色土である。緻密な層で、硬くしまりの強い層である。６－２層は６－１層よりもしまり・粘性が少ない層である。古代から縄文晩期と考えられる。

７層は灰褐色土混入する黄色粒（As-YPか）を主体とする黄褐色土である。上部ローム層の上位に相当すると考えられ、縄文時代の包含層と考えられる。

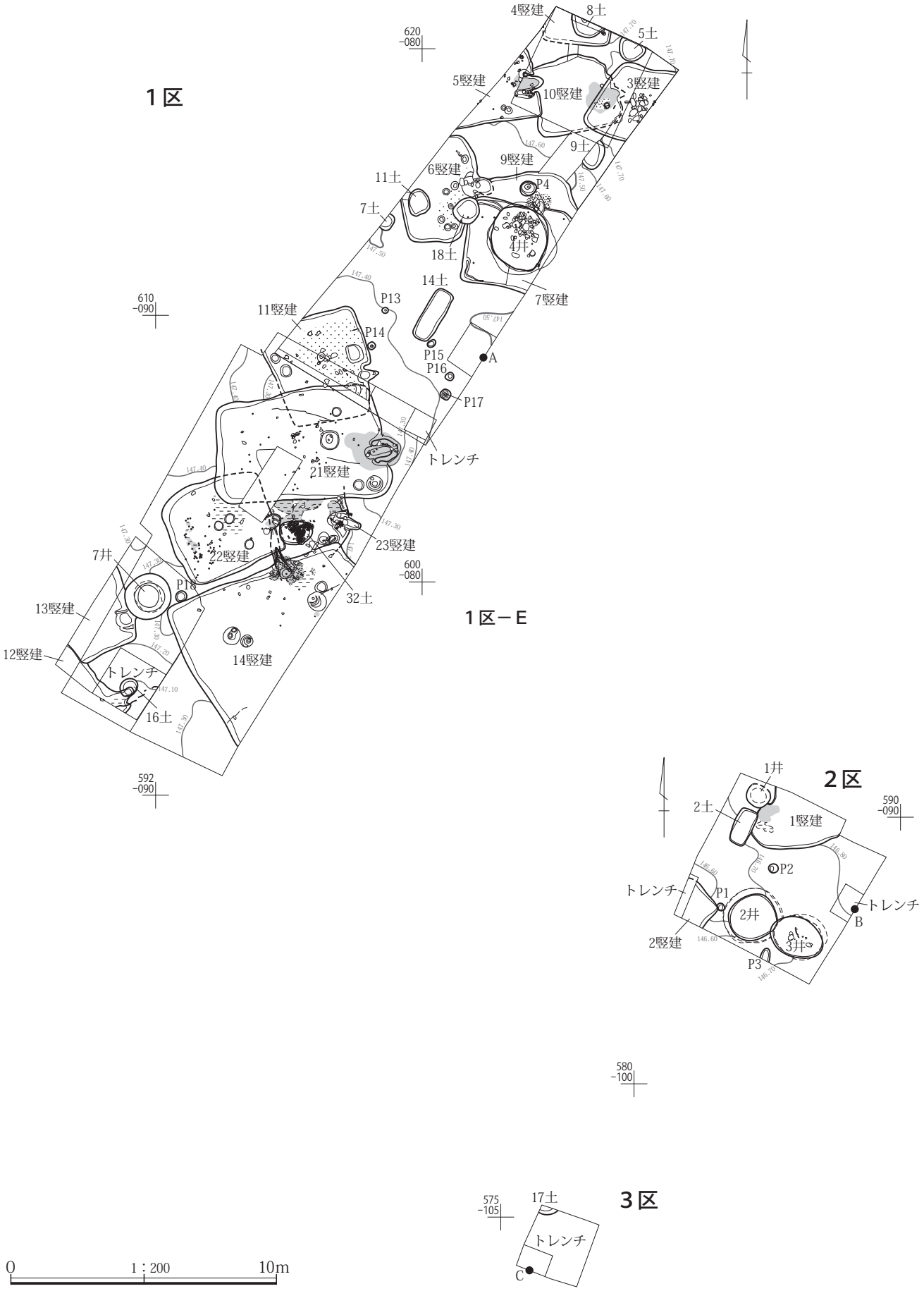
８層は粘性の強いシルト質のにぶい橙色土である。縄文時代の包含層と考えられる。

基本土層

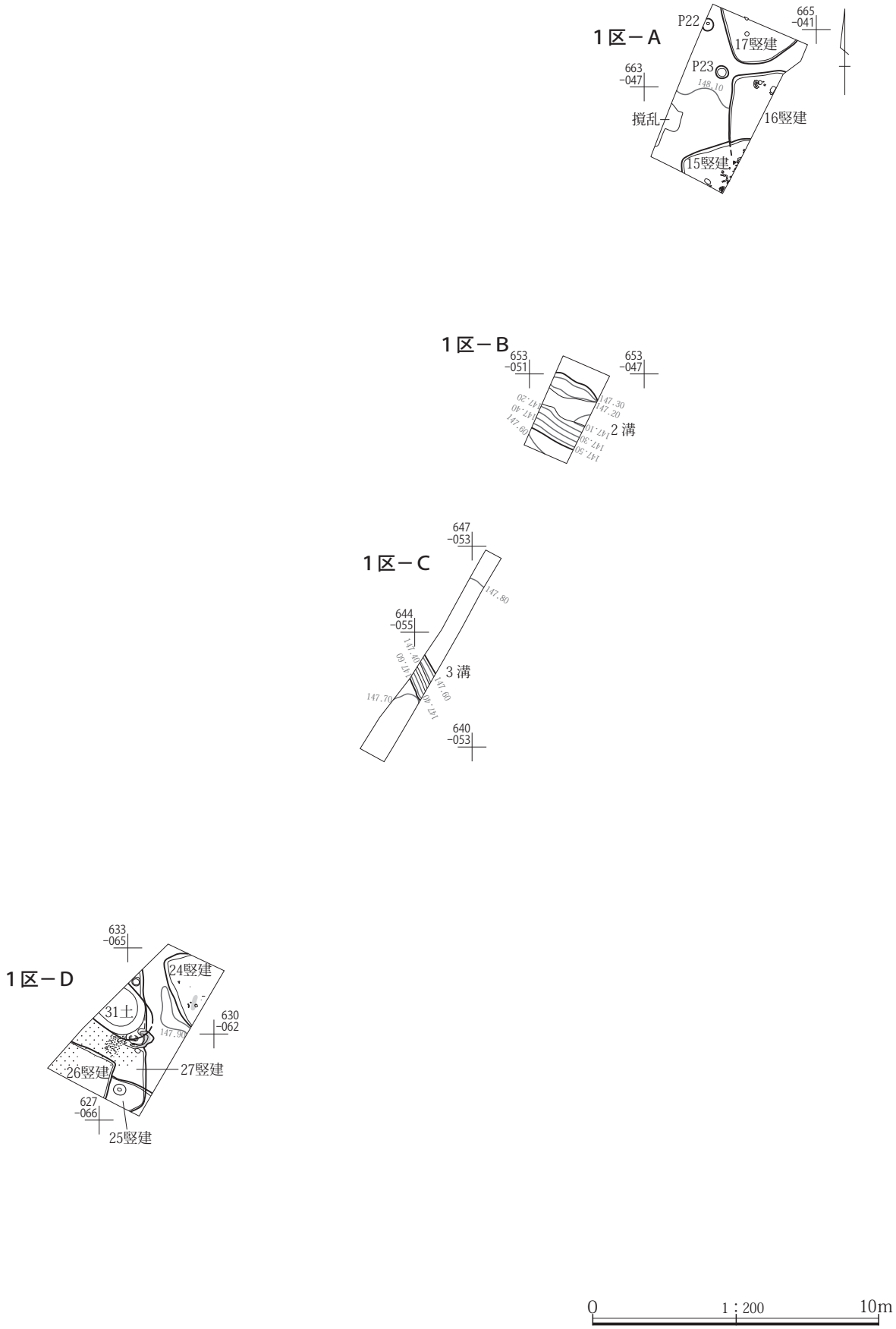
１－１　暗褐色土　小礫、ローム含む。均質でしまりのない層。（表土）
１－２　暗褐色土　炭化物微量。黄色土粒（ロームか）含む。
　均質でしまりのない層。（表土）
２－１　灰黄褐色土　シルト質。上層に鉄分凝集あり。（近現代水田面か）
２－２　灰黄褐色土　シルト質。全体に斑状の鉄分凝集。（近現代水田
　耕盤土）
３－１　暗褐色土　粗粒砂と黄色土粒を均一に含む。鉄分凝集あり。
　しまりなし。
３－２　黄褐色土　黄褐色砂質土を主体とする層。
３－３　灰白色土　上層に黄褐色砂質土粒含む。
４－１　灰色砂層　均質でしまりのない層。褐色砂層と互層をなす層序
　も含む。７層に細分できる。
４－２　暗褐色土　灰褐色土塊混入。
５　黒褐色土　As-Bないし、As-C混入。
６－１　黒褐色土　灰白色シルト質土が帯状に互層をなす。緻密な層で、
　硬くしまりの強い層。
６－２　黒褐色土　灰白色シルト質土が帯状に互層をなす。緻密な層。
　６－１層よりもしまり・粘性がややない層。
７　黄褐色土　灰褐色土混入する黄色粒（As-YPか）を主体。
８　にぶい橙色土　シルト質。粘性の強い。


A
L=148.30m
1-1
3-1
4-1
5
6-2
7
1区
B
L=147.90m
1-1
3-1
4-1
4-2
5
6-2
7
2区
C
L=147.60m
1-1
3-1
4-2
5
6-2
7
3区
D
L=145.90m
1
1-1
3-2
3-3
5
6-1
6-2
7
8
5区
E
L=145.50m
1
1-2
5
7
8
6区
F
L=145.20m
1-1
1-2
2-1
2-2
5
6-2
7
10区
G
L=144.50m
1-1
2-1
2-2
5
6
7
樹根
11区
H
L=144.10m
1-1
1-2
2-1
2-2
5
6-2
7
12区
0
1:40
1m
L=148.00m
L=147.00m
L=146.00m
L=145.00m
L=144.00m
L=143.00m

第４図　基本土層



第５図　１区・２区・３区全体図

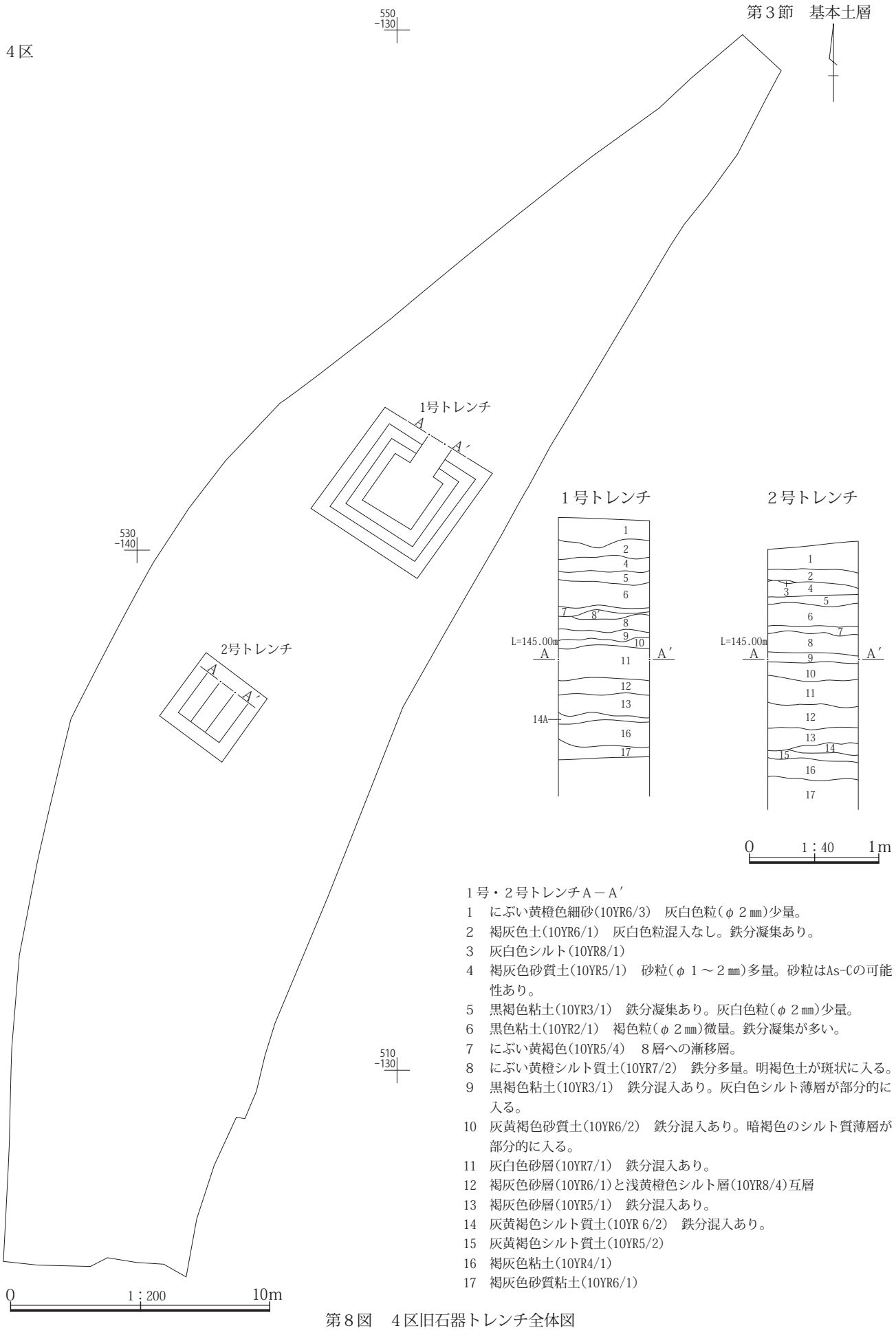

１区－Ａ
P22
665
-041
17竪建
P23
663
-047
148.10
撹乱
16竪建
15竪建
１区－Ｂ
653
-051
653
-047
147.30
147.20
147.20
147.40
147.60
147.10
147.30
147.50
２溝
１区－Ｃ
647
-053
147.80
644
-055
147.40
147.60
３溝
147.70
147.60
147.40
640
-053
１区－Ｄ
633
-065
24竪建
31土
630
-062
147.90
26竪建
27竪建
627
-066
25竪建
0
1：200
10m

第６図　１区Ａ～Ｄ全体図

４区

550
-130
530
-140
510
-130
撹乱
トレンチ
4溝
5竪穴状
35土
P25
29竪建
P26
41土
36土
9井
37土
39土
10井
P27
38土
28竪建
30竪建
33土
5溝
11井
P32
P31
P29
12井
P28
6溝
P30
8竪建
1溝
0
1：200
10m

第７図　４区全体図

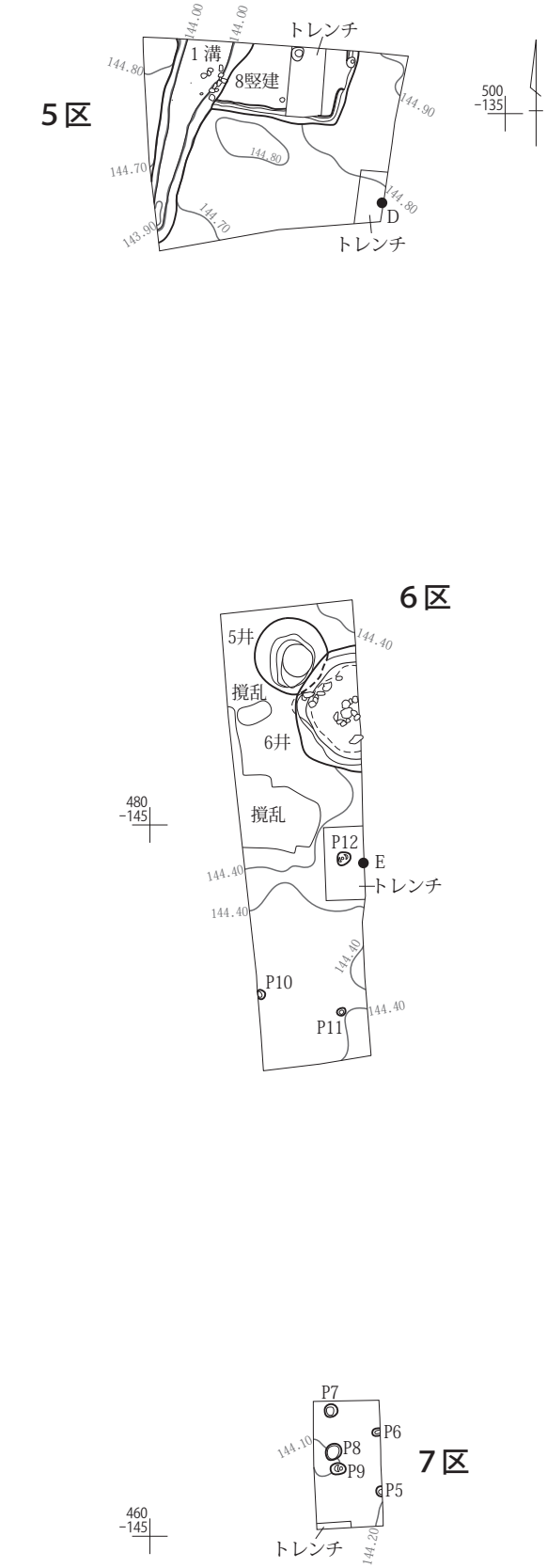


１号・２号トレンチＡ－Ａ′

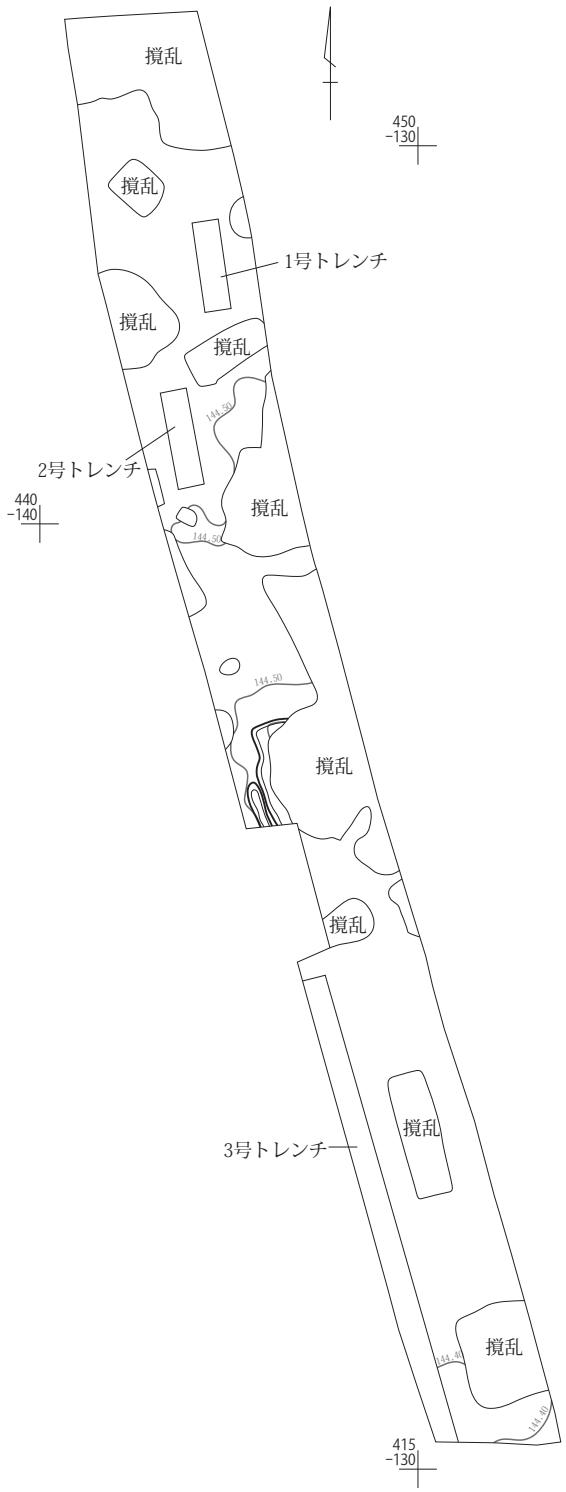
1　にぶい黄橙色細砂(10YR6/3)　灰白色粒(φ２㎜)少量。
2　褐灰色土(10YR6/1)　灰白色粒混入なし。鉄分凝集あり。
3　灰白色シルト(10YR8/1)
4　褐灰色砂質土(10YR5/1)　砂粒(φ１～２㎜)多量。砂粒はAs-Cの可能性あり。
5　黒褐色粘土(10YR3/1)　鉄分凝集あり。灰白色粒(φ２㎜)少量。
6　黒色粘土(10YR2/1)　褐色粒(φ２㎜)微量。鉄分凝集が多い。
7　にぶい黄褐色(10YR5/4)　８層への漸移層。
8　にぶい黄橙シルト質土(10YR7/2)　鉄分多量。明褐色土が斑状に入る。
9　黒褐色粘土(10YR3/1)　鉄分混入あり。灰白色シルト薄層が部分的に入る。
10　灰黄褐色砂質土(10YR6/2)　鉄分混入あり。暗褐色のシルト質薄層が部分的に入る。
11　灰白色砂層(10YR7/1)　鉄分混入あり。
12　褐灰色砂層(10YR6/1)と浅黄橙色シルト層(10YR8/4)互層
13　褐灰色砂層(10YR5/1)　鉄分混入あり。
14　灰黄褐色シルト質土(10YR 6/2)　鉄分混入あり。
15　灰黄褐色シルト質土(10YR5/2)
16　褐灰色粘土(10YR4/1)
17　褐灰色砂質粘土(10YR6/1)

第８図　４区旧石器トレンチ全体図

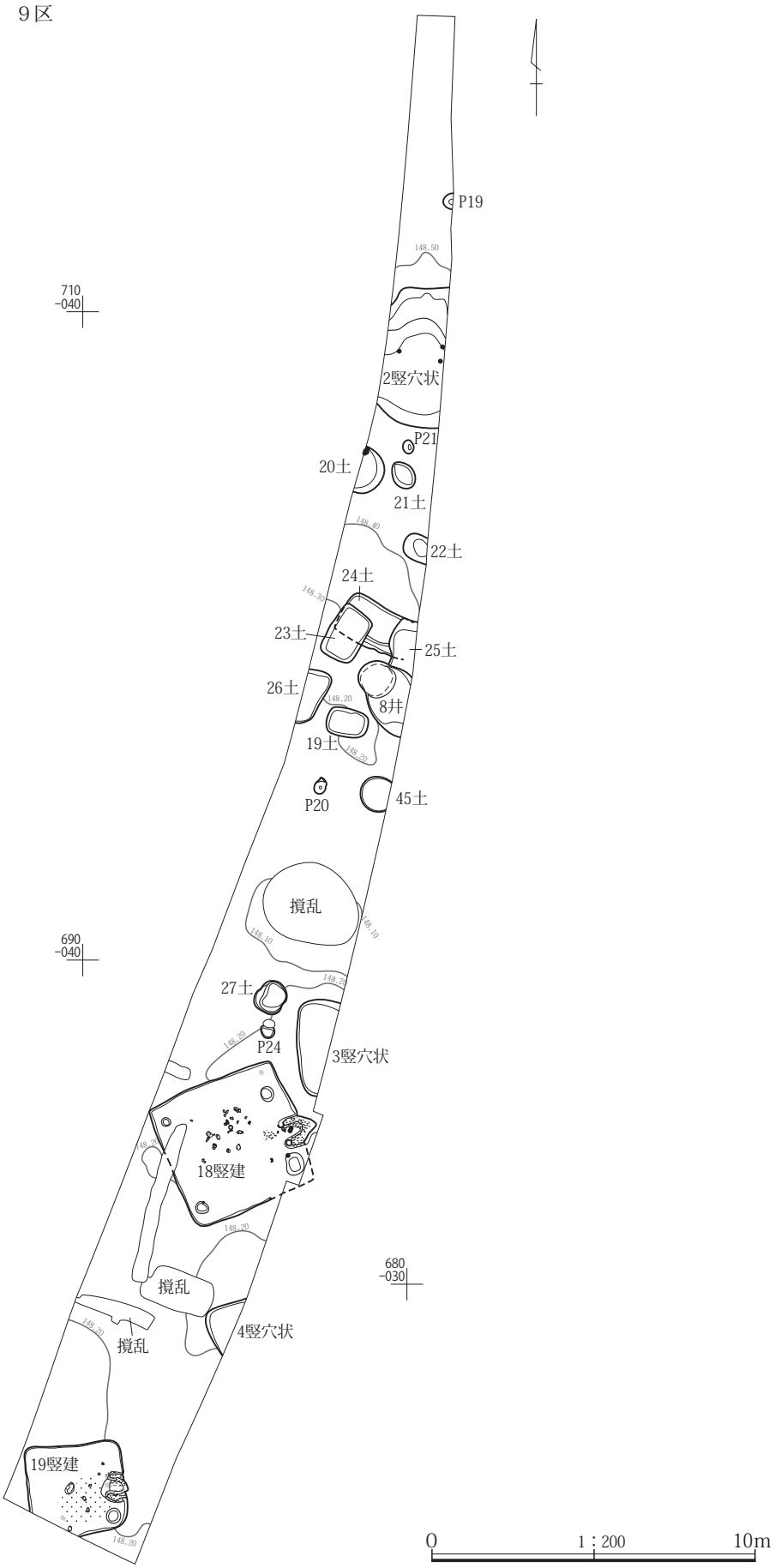
５・６・７区



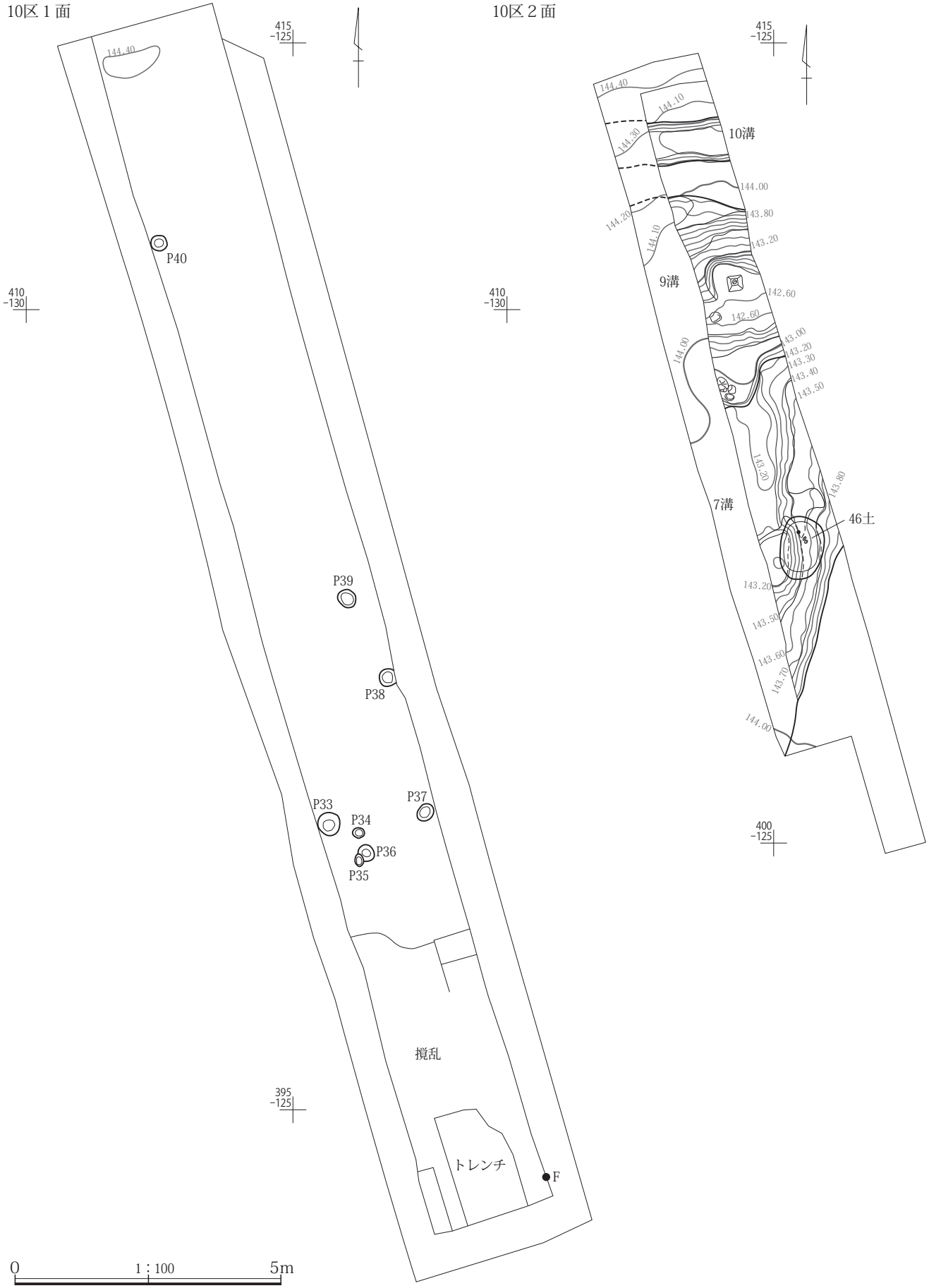
８区



第９図　５区・６区・７区・８区全体図

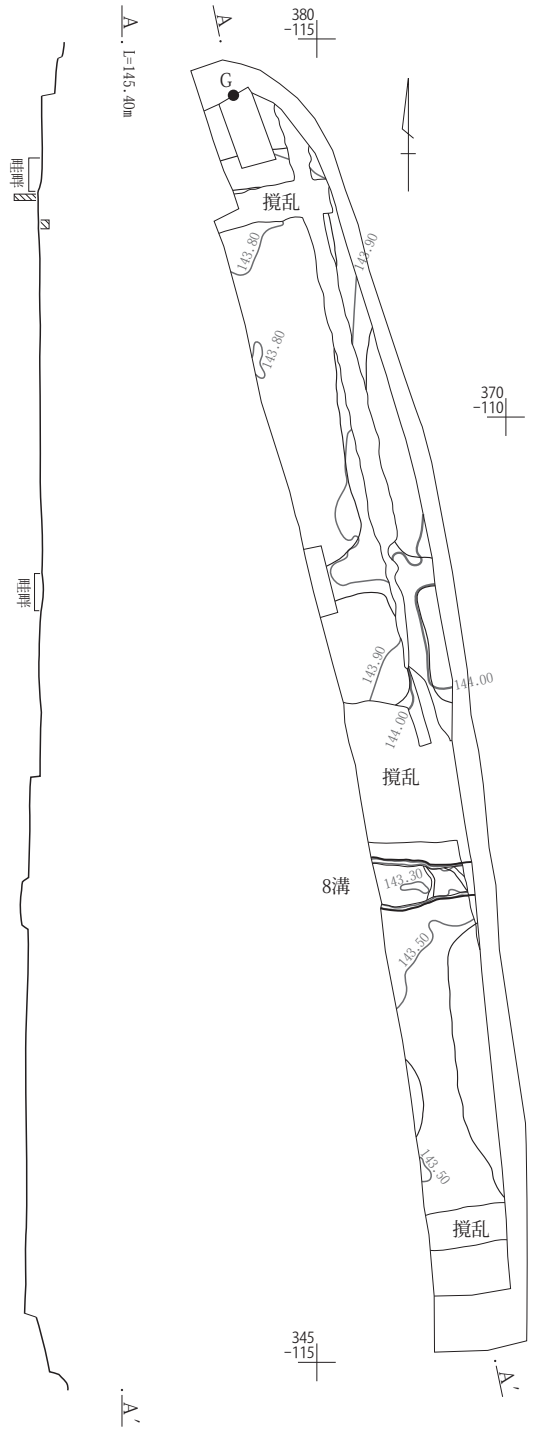

９区
P19
710
-040
2竪穴状
P21
20土
21土
22土
24土
23土
25土
26土
8井
19土
P20
45土
撹乱
690
-040
27土
P24
3竪穴状
18竪建
680
-030
撹乱
4竪穴状
撹乱
19竪建
0
1：200
10m

第10図　９区全体図

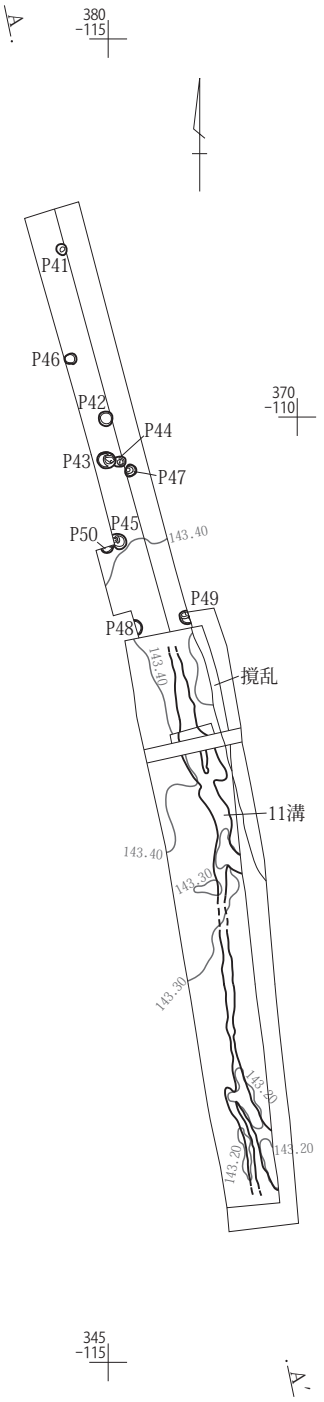


第11図　10区１面・２面全体図

11区１面



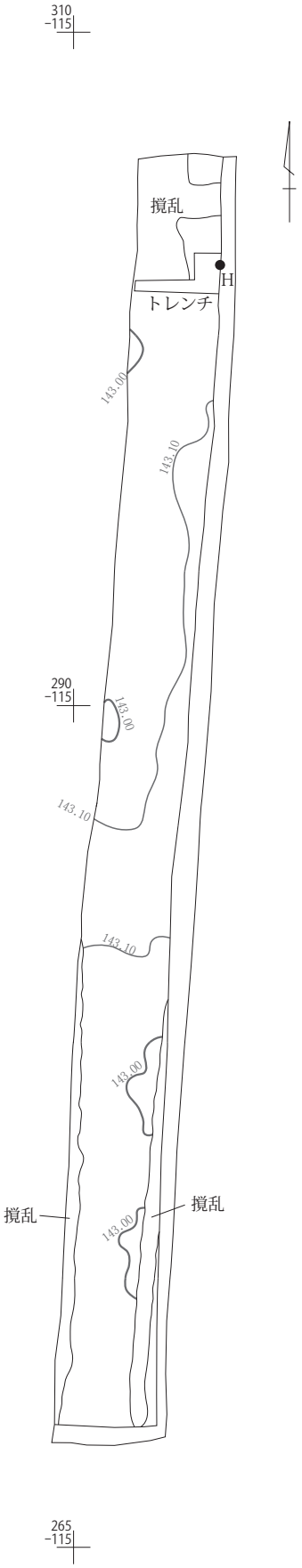
11区２面



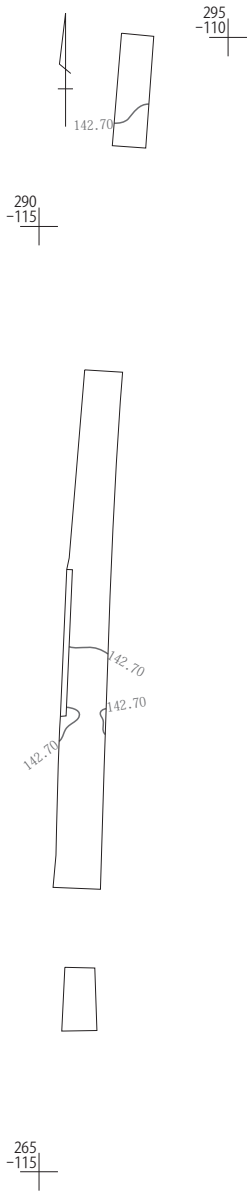
0　1：200　10m

第12図　11区１面・２面全体図

12区１面



12区２面



第13図　12区１面・２面全体図

第３章　検出された遺構と遺物

第１節　竪穴建物

調査区内から30棟の竪穴建物が検出された。そのうちの20号竪穴建物を欠番とした。１区21棟、２区２棟、４区３棟、４区・５区１棟、９区２棟の合計29棟を報告する。竪穴建物の一覧については、第３表の通りである。

出土遺物から竪穴建物の時期を推定し本文中に記載した。時期が推定できないものは不明とした。

出土遺物から時期はおおむね５世紀後半から９世紀前半である。29棟の竪穴建物のうち、全形が判明したのは４棟である。残りの25棟は調査区外に竪穴建物が広がるため、一部のみの調査となった。

第３表　竪穴建物一覧表

調査区	竪穴建物番号	位置	規模					重複	（カマド）規模		
			長軸方位	長軸（m）	短軸（m）	深さ（m）	面積（㎡）	旧→新	方位	長軸	短軸
2	1	X＝44,588～44,591 Y＝-56,092～56,095	N-45°-W	(2.80)	(2.28)	(0.05～0.13)	(4.98)	１号竪穴建物→１号井戸、２号土坑	—	—	—
2	2	X＝44,585～44,587 Y＝-56,096～56,098	N-50°-W	(1.53)	(1.42)	(0.09～0.16)	(1.52)	２号竪穴建物→１号ピット	—	—	—
1	3	X＝44,616～44,619 Y＝-56,070～56,073	N-38°-E	(3.20)	(2.00)	(0.14～0.20)	(5.00)	10号竪穴建物→３号竪穴建物	—	—	—
1	4	X＝44,620～44,621 Y＝-56,072～56,075	N-86°-W	(2.55)	(1.30)	(0.05)	(2.07)	８号土坑→４号竪穴建物	—	—	—
1	5	X＝44,616～44,620 Y＝-56,075～56,078	N-80°-E	(3.28)	(2.58)	(0.10～0.22)	(3.82)	10号竪穴建物→５号竪穴建物	N-80°-E	1.14	1.10
1	6	X＝44,612～44,616 Y＝-56,077～56,080	N-88°-E	(4.00)	(2.88)	(0.05～0.20)	(7.21)	６号竪穴建物→７号・９号竪穴建物、11号・18号土坑	N-107°-E	1.52	0.92
1	7	X＝44,610～44,614 Y＝-56,074～56,078	N-18°-E	(3.65)	(3.20)	(0.10～0.30)	(9.44)	６号・９号竪穴建物→７号竪穴建物→４号井戸、18号土坑	N-14°-E	(0.54)	(0.40)
4 5	8	X＝44,499～44,503 Y＝-56,138～56,143	N-14°-E	(4.23)	(3.55)	(0.22～0.28)	(10.92)	８号竪穴建物→１号溝	—	—	—
1	9	X＝44,613～44,615 Y＝-56,074～56,078	N-80°-E	(3.95)	(1.43)	(0.15～0.21)	(3.33)	６号竪穴建物→９号竪穴建物→７号竪穴建物、18号土坑、４号ピット	—	—	—
1	10	X＝44,616～44,619 Y＝-56,072～56,075	N-77°-E	3.23	2.88	0.07～0.25	(6.98)	３号・５号竪穴建物→10号竪穴建物	N-72°-E	0.40	0.43
1 1-E	11	X＝44,605～44,610 Y＝-56,081～56,085	N-74°-E	4.95	(3.95)	(0.16～0.27)	(15.88)	11号竪穴建物→21号竪穴建物	N-83°-E	0.82	0.80
1	12	X＝44,595～44,597 Y＝-56,090～56,093	N-47°-W	(3.32)	(0.83)	(0.35～0.32)	(1.68)	16号土坑、13号竪穴建物→12号竪穴建物	N-46°-E	(0.95)	(0.85)
1	13	X＝44,596～44,600 Y＝-56,090～56,093	N-68°-E	(2.58)	(2.75)	(0.24～0.42)	(3.76)	13号竪穴建物→７号井戸、12号竪穴建物	N-67°-E	(0.70)	1.00
1-E	14	X＝44,593～44,601 Y＝-56,082～56,089	N-22°-W	7.25	(5.78)	(0.35～0.42)	(22.83)	14号竪穴建物→22号・23号竪穴建物	N-73°-E	1.22	0.98
1-A	15	X＝44,659～44,661 Y＝-56,043～56,045	N-72°-E	(2.50)	(1.65)	(0.27～0.33)	(2.20)	16号竪穴建物→15号竪穴建物	—	—	—
1-A	16	X＝44,660～44,663 Y＝-56,042～56,044	N-0°-EW	(2.25)	(1.75)	(0.26～0.21) (0.0～0.22)	(3.01)	16号竪穴建物→15号竪穴建物	—	—	—
1-A	17	X＝44,663～44,665 Y＝-56,041～56,044	N-20°-W	(2.00)	(1.80)	(0.10～0.12)	(2.47)		—	—	—
9	18	X＝44,681～44,686 Y＝-56,033～56,037	N-80°-E	4.18	4.08	0.04～0.10	15.78		N-75°-E	1.12	0.98
9	19	X＝44,672～44,675 Y＝-56,038～56,041	N-83°-E	3.00	2.80	0.09～0.16	(7.15)		N-101°-E	0.65	0.90
	20	欠番									
1-E	21	X＝44,602～44,607 Y＝-56,080～56,087	N-77°-E	6.67	4.23	0.17～0.47	21.94	21号竪穴建物→11号・22号・23号竪穴建物	N-80°-E	1.37	1.00
1-E	22	X＝44,599～44,603 Y＝-56,085～56,089	N-66°-E	3.95	3.65	0.29～0.46	(11.55)	14号・23号竪穴建物、32号土坑→22号竪穴建物→21号竪穴建物	N-62°-E	0.63	0.52
1-E	23	X＝44,601～44,603 Y＝-56,082～56,085	N-83°-E	(2.80)	(1.98)	(0.25～0.29)	(5.11)	23号竪穴建物→14号・21号・22号竪穴建物→32号土坑	N-106°-E	1.28	1.25
1-D	24	X＝44,630～44,632 Y＝-56,081～56,063	N-20°-W	(2.45)	(2.00)	(0.21～0.29)	(2.56)		—	—	—
1-D	25	X＝44,627～44,628 Y＝-56,064～56,065	N-62°-W	(1.55)	(0.90)	(0.15～0.18) (0.21～0.29)	(1.17)	27号竪穴建物→25号竪穴建物→26号竪穴建物	—	—	—
1-D	26	X＝44,627～44,629 Y＝-56,065～56,067	N-62°-W	(2.30)	(1.30)	(0.21～0.24) (1.16～0.19)	(2.30)	25号・27号竪穴建物→26号竪穴建物	—	—	—
1-D	27	X＝44,627～44,632 Y＝-56,064～56,067	N-90°-E	(4.80)	(3.44)	(0.18～0.24)	(8.46)	27号竪穴建物→25号・26号竪穴建物、31号土坑	N-95°-E	0.96	0.77
4	28	X＝44,529～44,534 Y＝-56,125～56,128	N-10°-W	(4.87)	(3.44)	(0.21～0.42)	(11.55)		—	—	—
4	29	X＝44,536～44,541 Y＝-56,119～56,123	N-16°-W	3.85	3.50	(0.16～0.21)	(6.61)		—	—	—
4	30	X＝44,525～44,530 Y＝-56,128～56,133	N-80°-E	5.03	4.80	(0.06～0.34)	21.27	30号竪穴建物→33号土坑	N-98°-E	0.77	(0.73)

カマドの調査ができたのは15棟である。北壁あるいは、東壁に構築されている例が多かった。

１号竪穴建物（第14図、PL.　２）

位置　２区

X＝44,588 ～ 44,591　Y＝－56,092 ～ 56,095

重複　１号井戸、２号土坑

形状　不明

規模　長軸(2.80)m　短軸(2.28)m

深さ(0.05 ～ 0.13)m

方位　N－45°－W

面積　(4.98) ㎡

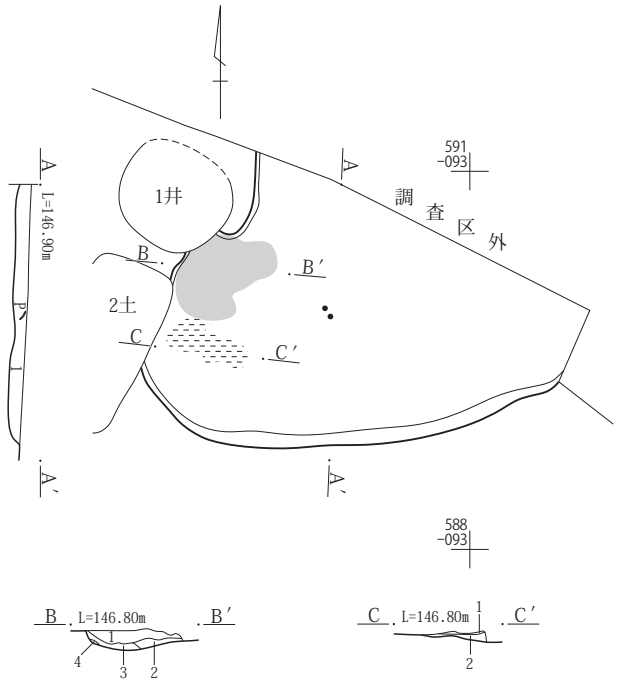
カマド　未確認

柱穴　未確認

床面　灰白色土少量、黒色粘土斑を含み、鉄分凝集がみられる暗褐色土で作られていた。

出土遺物　土師器片

所見　１号井戸、２号土坑に切られる。竪穴建物の大半は調査区外である。掘り込みも浅かった。灰白色土粒を少量、炭化物粒を微量に含み、鉄分凝集がみられる暗褐色土で埋没していた。南西隅付近には焼土粒、炭化物がまとまって検出したが、カマドとは認定できなかった。



１号竪穴建物　Ａ－Ａ′
1　暗褐色土　灰白色土少量。黒色粘土斑に含む。鉄分凝集あり。

１号竪穴建物　Ｂ－Ｂ′
1　暗褐色土　焼土塊多量。灰白色土粒中量。炭化物粒微量。
2　暗褐色土　鉄分、灰白色砂微量。
3　黒褐色土　灰白色粘土、炭化物粒、焼土粒、鉄分微量。
4　暗褐色土

１号竪穴建物　Ｃ－Ｃ′
1　炭化物層　焼土粒、灰白色土粒微量。
2　暗褐色土

0　1：60　2m

第14図　１号竪穴建物

２号竪穴建物（第15図、PL.　２）

位置　２区

X＝44,585 ～ 44,587　Y＝－56,096 ～ 56,098

重複　１号ピット

形状　不明

規模　長軸(1.53)m　短軸(1.42)m

深さ(0.09 ～ 0.16)m

方位　N－50°－W

面積　(1.52) ㎡

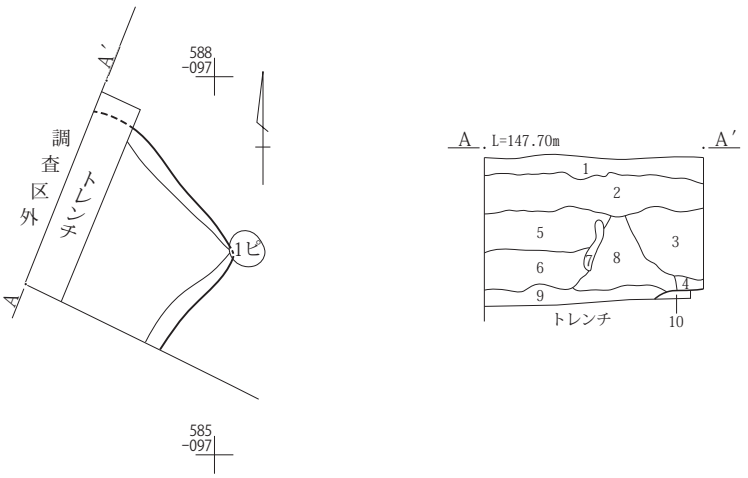
カマド　未確認

柱穴　未確認

床面　灰白色土粒少量、炭化物微量含む暗褐色土で作られていた。

出土遺物　なし

所見　２区南西コーナー部分で確認され、竪穴建物の一部分を調査した。南東コーナー部分で１号ピットに切られる。黒褐色土粒、炭化物粒微量、黄灰色土を含む暗褐色土で埋没していた。出土遺物も乏しく、時期は不明である。



２号竪穴建物　Ａ－Ａ′
1　表土
2　暗褐色土　白色粒、炭化物粒微量。礫(φ～５㎜程)含む。
3　浅黄色砂礫にぶい黄色土粒、炭化物粒微量。別遺構の可能性あり。
4　黄灰白色土　鉄分中量。白色砂ブロック少量。白色粒子微量。
5　暗褐色土　白色粒、炭化物粒、黒褐色土粒微量。礫(φ～１㎝程)を含む。下層は砂礫が多い。
6　暗褐色土　灰白色土粒少量。炭化物微量。５層より砂礫多量。
7　根攪乱
8　暗褐色土　礫(φ～１㎝)中量。灰白色土粒少量。炭化物微量。
9　暗褐色～黄灰色土　しまりあり。黒褐色土粒、炭化物粒微量。粗粒砂を含む。(覆土)
10　粗粒砂層

0　1：60　2m

第15図　２号竪穴建物

３号竪穴建物(第16図、PL. ３・５・54)

位置　１区
X＝44,616～44,619　Y＝－56,070～56,073

重複　10号竪穴建物(７世紀前半)→３号竪穴建物(９世紀後半)

形状　不明

規模　長軸(3.20)ｍ　短軸(2.00)ｍ
深さ(0.14～0.20)ｍ

方位　Ｎ－38°－Ｅ

面積　(5.00) ㎡

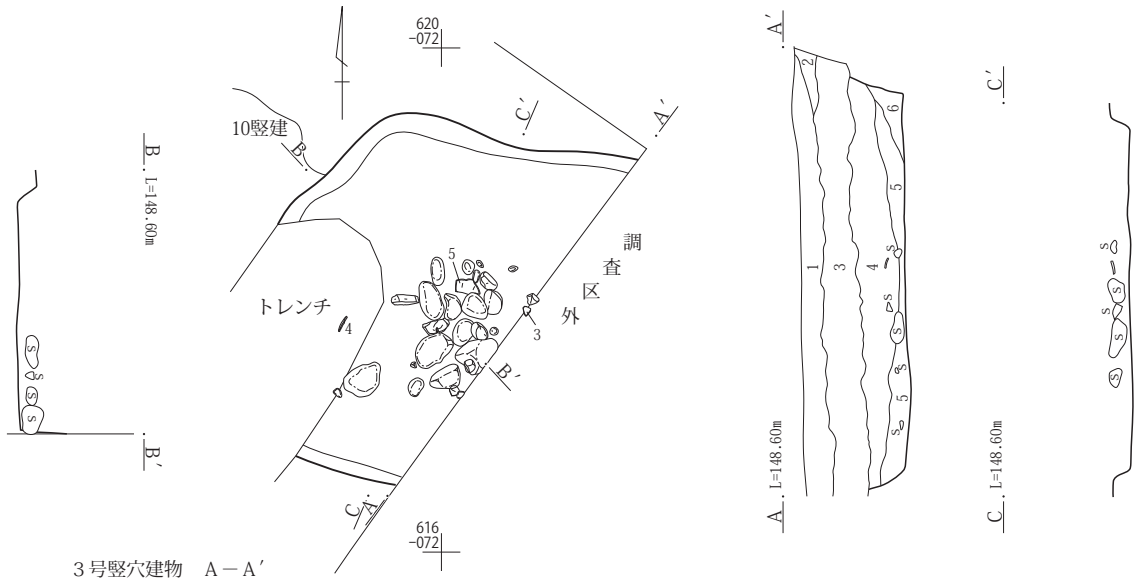
カマド　未確認

柱穴　未確認

床面　黄褐色土を多量に含む暗褐色土で作られていた。

出土遺物　土師器杯１個・須恵器杯１個・須恵器甕破片３個出土。須恵器甕は内面に青海波紋、外面並行敲目で、平安時代ではなく古墳時代の須恵器甕破片と思われる。

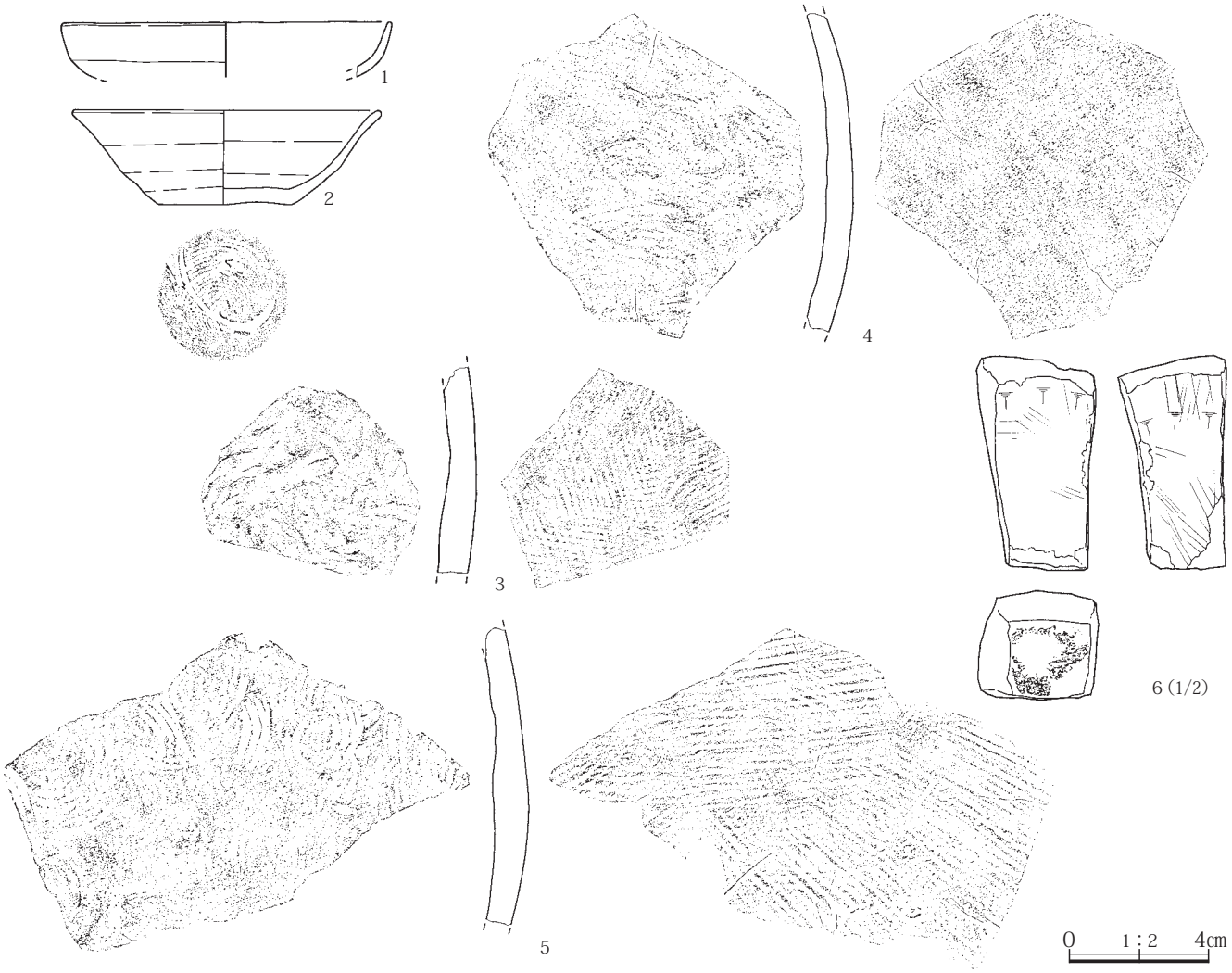
所見　竪穴建物の半分程度が調査区外である。出土遺物から10号竪穴建物より新しい。黄褐色土が多量含む暗褐色土で埋没していた。竪穴建物の中央部に須恵器甕(第16図５)を含む集石を検出した。礫の大きさは径10～35㎝である。竪穴建物が使用されなくなった後に廃棄されたものと考えられる。新しい時代の出土遺物から９世紀第４四半期と考えられる。



３号竪穴建物　Ａ－Ａ′

1　表土
2　暗褐色土　表土で下面に鉄分が凝集した層。
3　暗褐色土　小礫を微量に含むしまりの弱い層。
4　暗褐色土　３層の土に類似するが、黄褐色シルト質土粒を含む。（覆土）
5　暗褐色土　３層の土と黄褐色シルト質土粒、ブロック（小）の混土。（覆土）
6　暗褐色土　黄褐色土多量。（覆土）

0　1：60　2m



第16図　３号竪穴建物と出土遺物

４号竪穴建物(第17図、PL. １・３・４・54)

位置　１区

X＝44,620～44,621　Y＝－56,072～56,075

重複　８号土坑

形状　不明

規模　長軸(2.55)m　短軸(1.30)m

深さ(0.05)m

方位　N－86°－W

面積　(2.07) ㎡

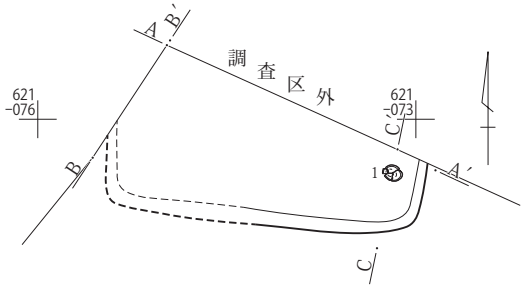
カマド　平安時代のカマドは東壁に構築していることが多いが、その部分は調査区外となっており不明。

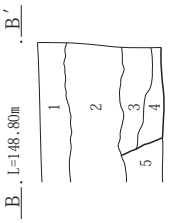
柱穴　未確認、おそらく無いと思われる。

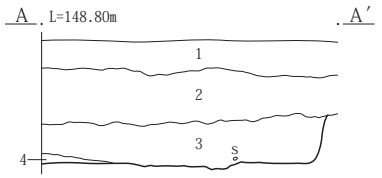
出土遺物　土師器杯･高杯。掲載した出土遺物は、床面、掘り方からの出土である。１は出土例の少ない底部および体部下半を手持ちヘラ削りした土師器杯である。２は高杯の脚部付近である。

所見　１区の最も北端に位置する。竪穴建物中央から北側が調査区外である。南側に近接して３号・５号・10号竪穴建物が密集して作られている。

竪穴建物の覆土は白色粒子、黄色粒、灰白色土粒を含む暗褐色土で埋没していた。出土遺物から９世紀末から10世紀第１四半期と考えられる。







４号竪穴建物　A－A′・B－B′

1　暗褐色土　均一な表土。

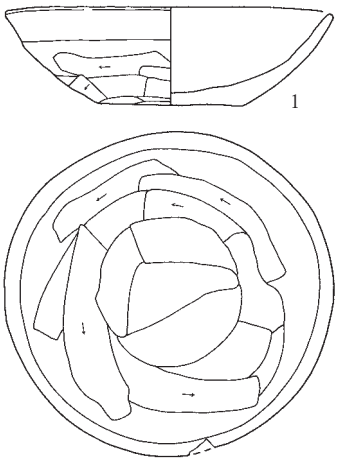
2　暗褐色土　小礫を微量に含む表土。

3　暗褐色土　白色粒と黄色粒を少量含む均質な層。

4　暗褐色土　灰白色シルト質土粒を含む。

5　暗褐色土　(地山層)

0　1：60　2m



0　1：3　10cm

第17図　４号竪穴建物と出土遺物

５号竪穴建物(第18～20図、PL.　１・４・５・54)

位置　１区

X＝44,616 ～ 44,620　Y＝－56,075 ～ 56,078

重複　なし　**形状**　長方形と思われる

規模　長軸(3.28)ｍ　短軸(2.58)ｍ

深さ(0.10 ～ 0.22)ｍ

方位　Ｎ－80°－Ｅ

面積　(3.82) ㎡

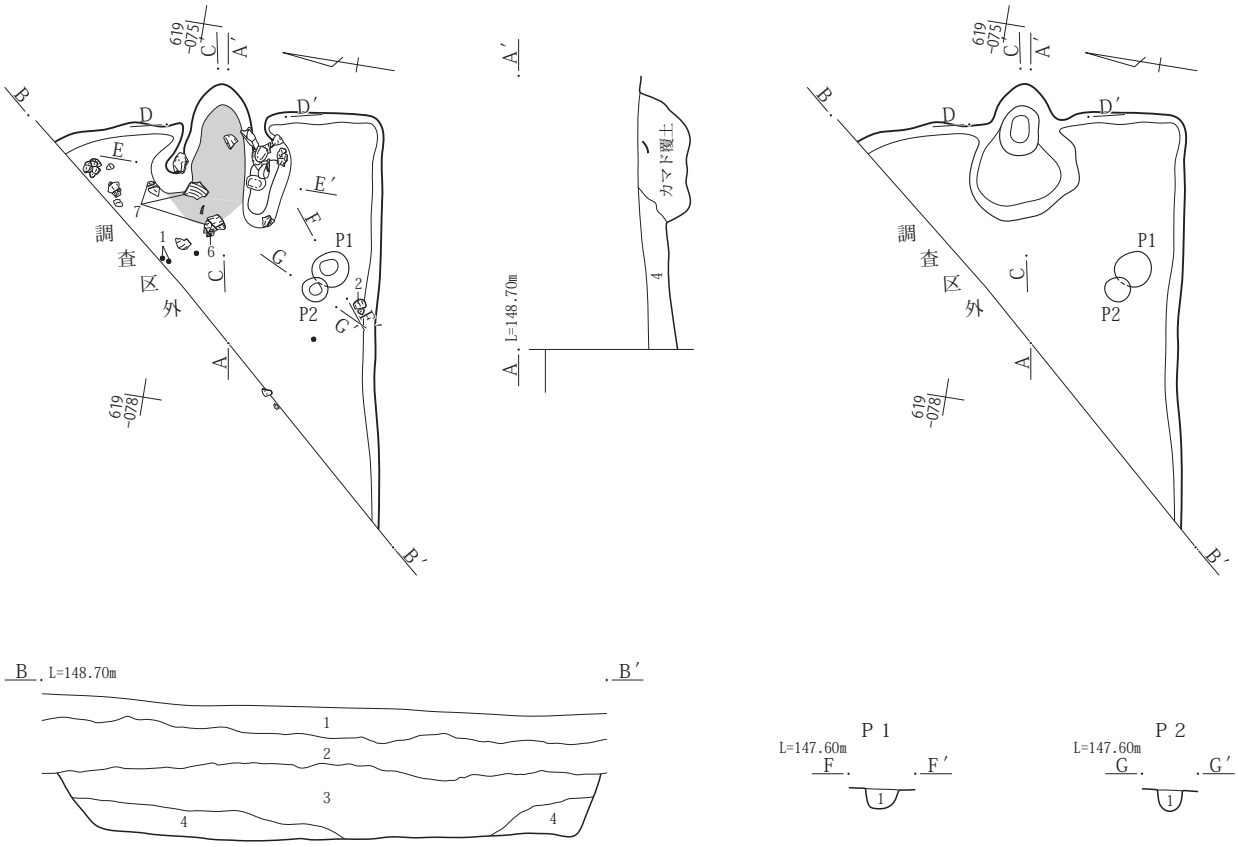
カマド　東壁に構築されていた。燃焼部内側の袖部は焼けて焼土化していた。燃焼部右側に小さな石が５個据え付けられた状態で出土した。粘土で築いたカマドの芯材に石が使用されていたものと思われる。

柱穴　Ｐ１・Ｐ２の２基を検出したが、柱穴ではないと思われる。深さは約15㎝で、焼土粒、炭化物粒を含む暗褐色土で埋没していた。

床面　灰黄色土を含み、鉄分凝集がみられる暗褐色土で、カマド周辺には硬化面が広がる。

出土遺物　カマド周辺から多くの遺物が出土している。土師器杯・土師器甕・底面糸切後周辺回転ヘラ削りの須恵器杯・外面叩目の須恵器甕がある。

所見　竪穴建物の１/２ほど残存する。出土遺物から８世紀末から９世紀第１期四半期と考えられる。

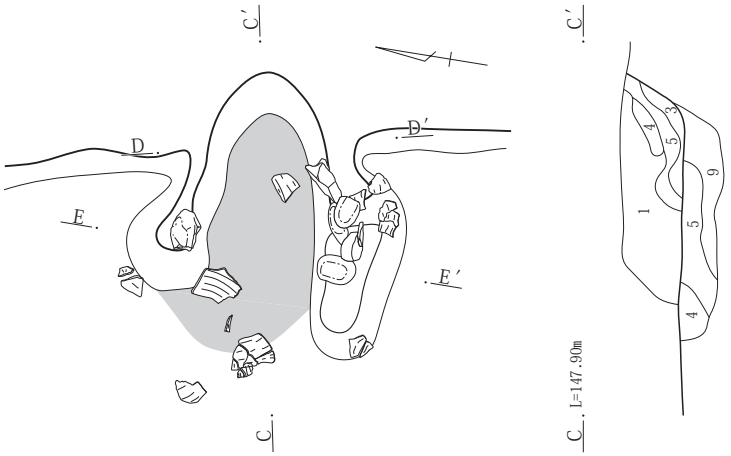


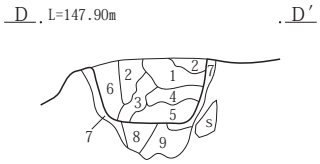
５号竪穴建物　Ａ－Ａ′・Ｂ－Ｂ′
1　暗褐色土　しまりの弱い暗褐色土。
2　暗褐色土　１層に似ているが、１層よりか固く締まっている。
3　暗褐色土　２層に近い暗褐色土、２層より土層が密。
4　暗褐色土　灰白色粒を全体に少量含む。

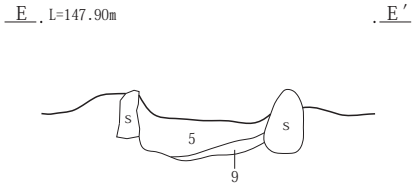
Ｐ１・Ｐ２　Ｆ－Ｆ′・Ｇ－Ｇ′
1　暗褐色土　焼土粒、炭化物粒微量。

0　1：60　2m

第18図　５号竪穴建物

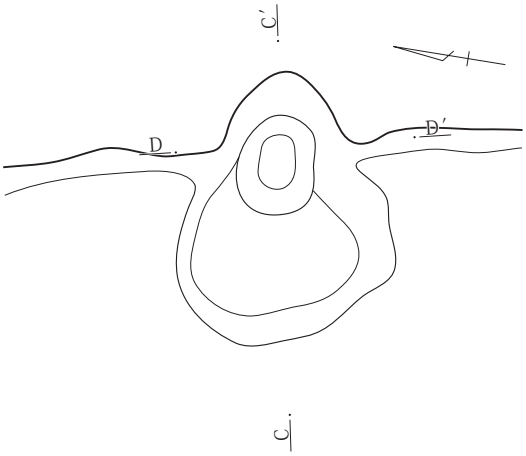






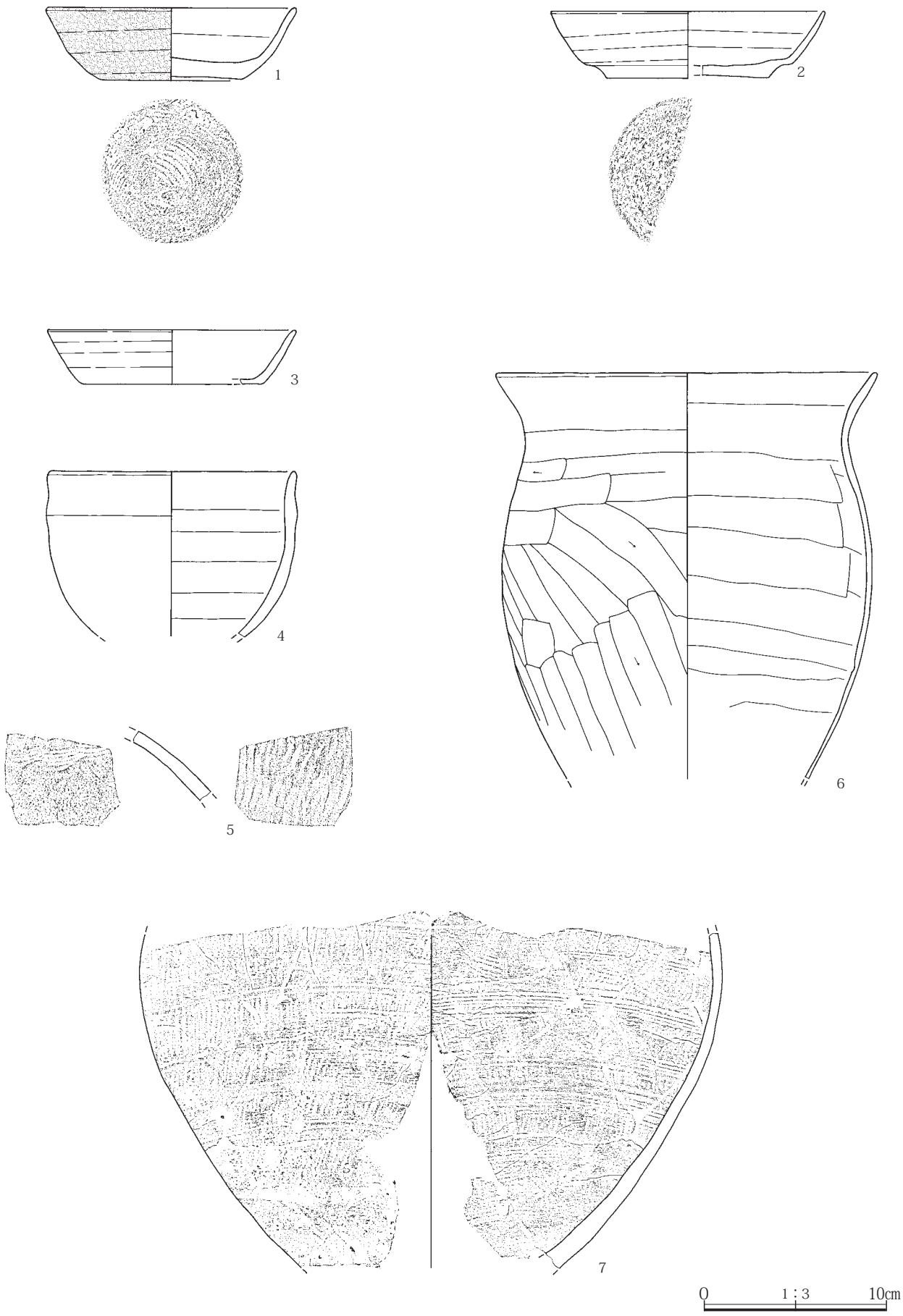
５号竪穴建物カマド　Ｃ－Ｃ′・Ｄ－Ｄ′

1　赤褐色土　焼土でブロック状を呈する。
2　灰色灰層　灰主体。灰白色シルト質土ブロックを含む。
3　暗褐色土　灰褐色シルト質土主体。焼土粒(大)と細粒多量。
4　灰色灰層　焼土粒少量。
5　赤褐色焼土　焼土ブロックと暗褐色土粒の混土。
6　灰褐色土　焼土大粒と灰褐色シルト質土ブロック多量。
7　暗褐色土　２層の土に類似するが、灰褐色シルト質土多量。
8　暗褐色土　暗褐色土主体。焼土粒少量。
9　暗褐色土　灰白色粒(大)と暗褐色土の混土。焼土粒を含まない。



0　1：30　1m

第19図　５号竪穴建物カマド



第20図　５号竪穴建物出土遺物

６号竪穴建物（第21・22図、PL.　１・４・５）

位置　１区

X＝44,612 ～ 44,616　Y＝－56,077 ～ 56,080

重複　建物の覆土から床下部分まで７号・９号竪穴建物、11号土坑と18号土坑に掘り込まれている。７号竪穴建物、18号土坑は６号竪穴建物カマド右側に掘られており、土師器コの字口縁甕が出土している。６号竪穴建物の遺物と思われる。11号土坑は、６号竪穴建物より新しい。

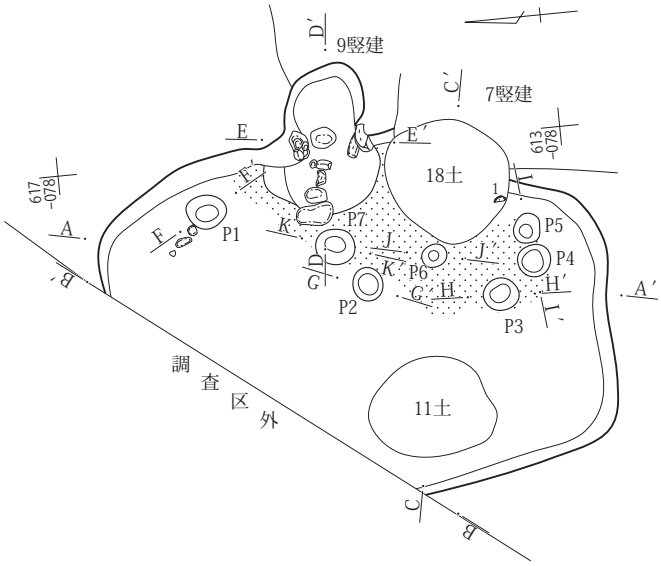
形状　東西方向に長い長方形。

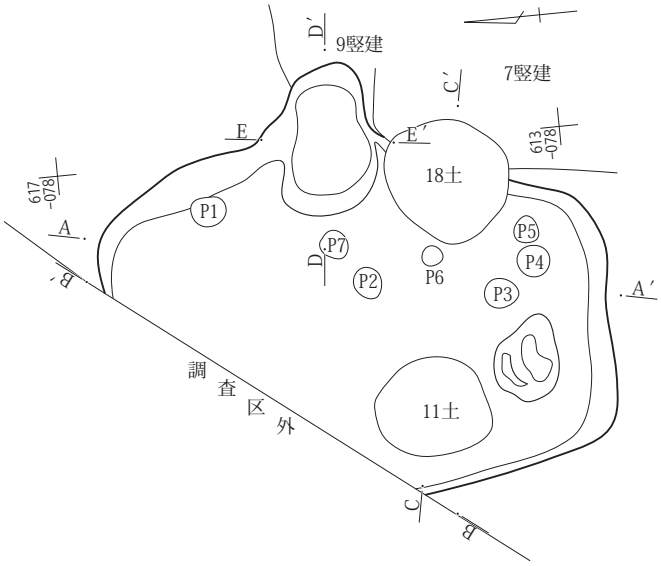
規模　長軸(4.00)ｍ　短軸(2.88)ｍ

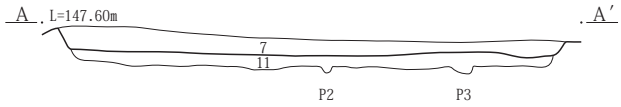
深さ(0.05 ～ 0.20)ｍ

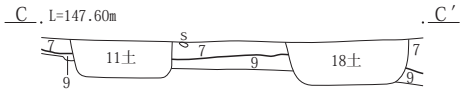
方位　Ｎ－88°－Ｅ　　**面積**　(7.21) ㎡

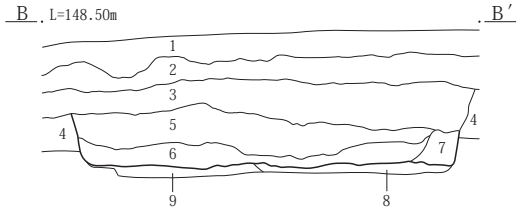
カマド　東壁中央付近に構築されていた。袖部分が壁面付近につくられ、燃焼部から煙道部の大部分は壁面を掘り込んで作られていた。焚口部分に袖石がほぼ据えられた状態で残っていた。天井石の下部分から焚口手前床面

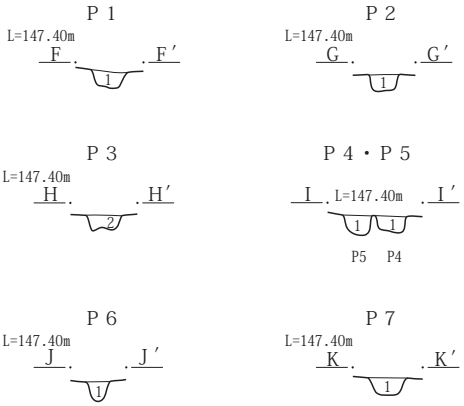












６号竪穴建物　Ａ－Ａ′～Ｃ－Ｃ′

1　表土
2　暗褐色土
3　暗褐色土　礫含む。
4　暗褐色土　砂礫混入。
5　暗褐色土　白色軽石少量。焼土粒、炭化物わずかに含む。鉄分凝集あり。６号竪穴建物覆土。
6　暗褐色土　浅黄色砂少量。白色軽石、灰白色粘土微量。炭化物混入。（覆土）
7　暗褐色土　砂礫多量。（覆土）
8　暗褐色土　浅黄色土混入。　明黄褐色土ブロック含む。鉄分凝集あり。（掘り方）
9　暗褐色土と浅黄色土の混土　黒褐色土ブロック混入。鉄分凝集あり。（掘り方）

Ｐ１～Ｐ７　Ｆ－Ｆ′～Ｋ－Ｋ′

1　暗褐色砂質土　焼土粒、黒褐色土粒微量。
2　暗褐色砂質土　炭化物粒、黒褐色土粒微量。

0　1：60　2m

第21図　６号竪穴建物

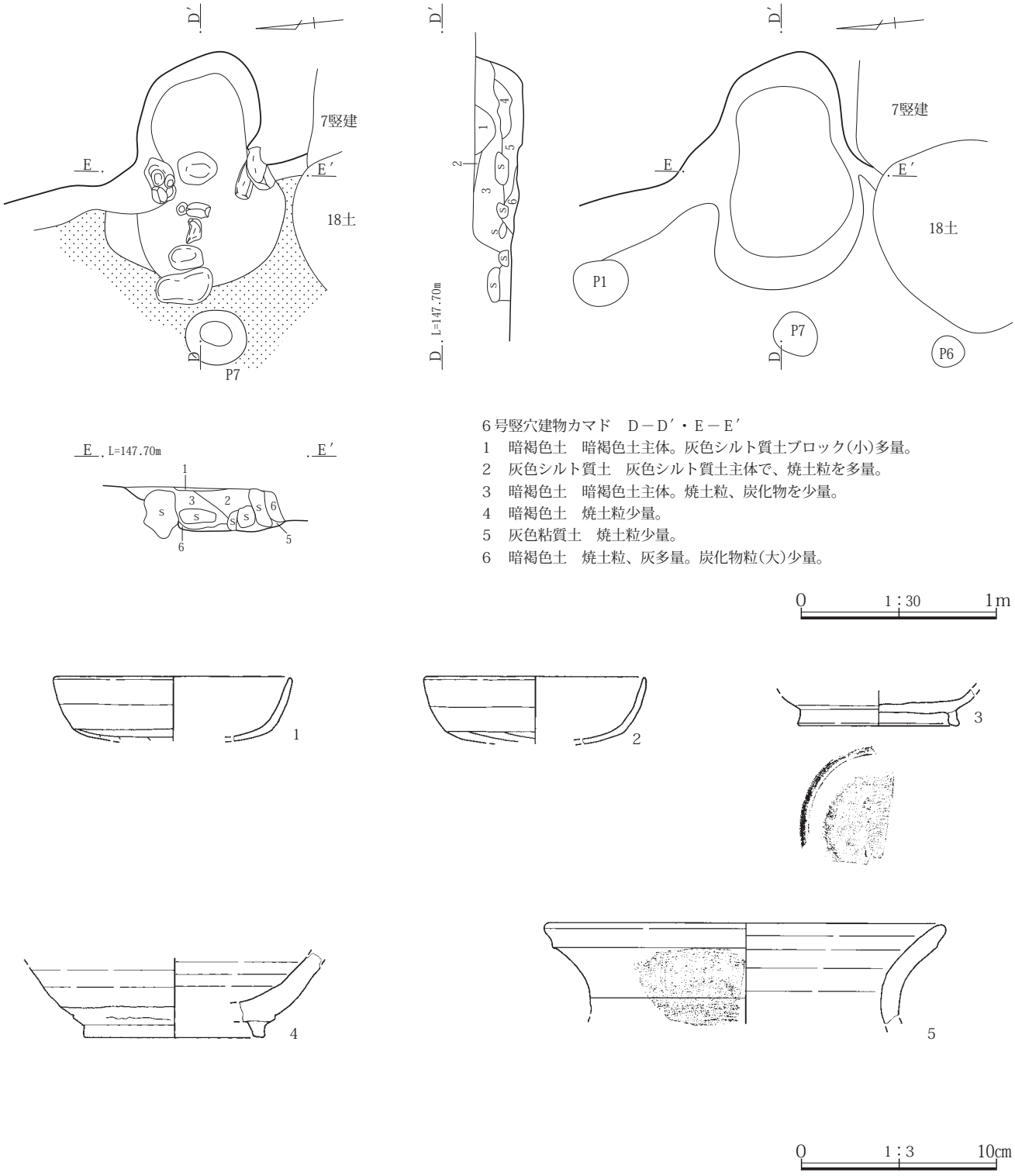
にかけて、多くの石が散在するように出土した。このようにカマド手前に、カマドを作った石や粘質土と焼土粒が散在する調査例は多い。カマドが使用されなくなった段階で、カマドを廃棄した結果と思われる。

柱穴　小穴であるＰ１～Ｐ７の７基を検出した。小さな建物であり、柱穴はなかったものと思われる。

床面　カマド手前床面に多くの焼土粒が残っていた。

出土遺物　土師器杯・須恵器杯・須恵器壺・須恵器甕が出土している。

所見　出土遺物から８世紀第４四半期から９世紀前半と考えられる。



第22図　６号竪穴建物カマドと出土遺物

７号竪穴建物(第23・24図、PL.　１・４・６・54)

位置　１区

X＝44,610～44,614　Y＝－56,074～56,078

重複　９号竪穴建物(９世紀前半)→６号竪穴建物(９世紀後半)→４号井戸・18号土坑

形状　方形

規模　長軸(3.65)m　短軸(3.20)m

深さ(0.10～0.30)m

方位　N－18°－E　　**面積**　(9.44) ㎡

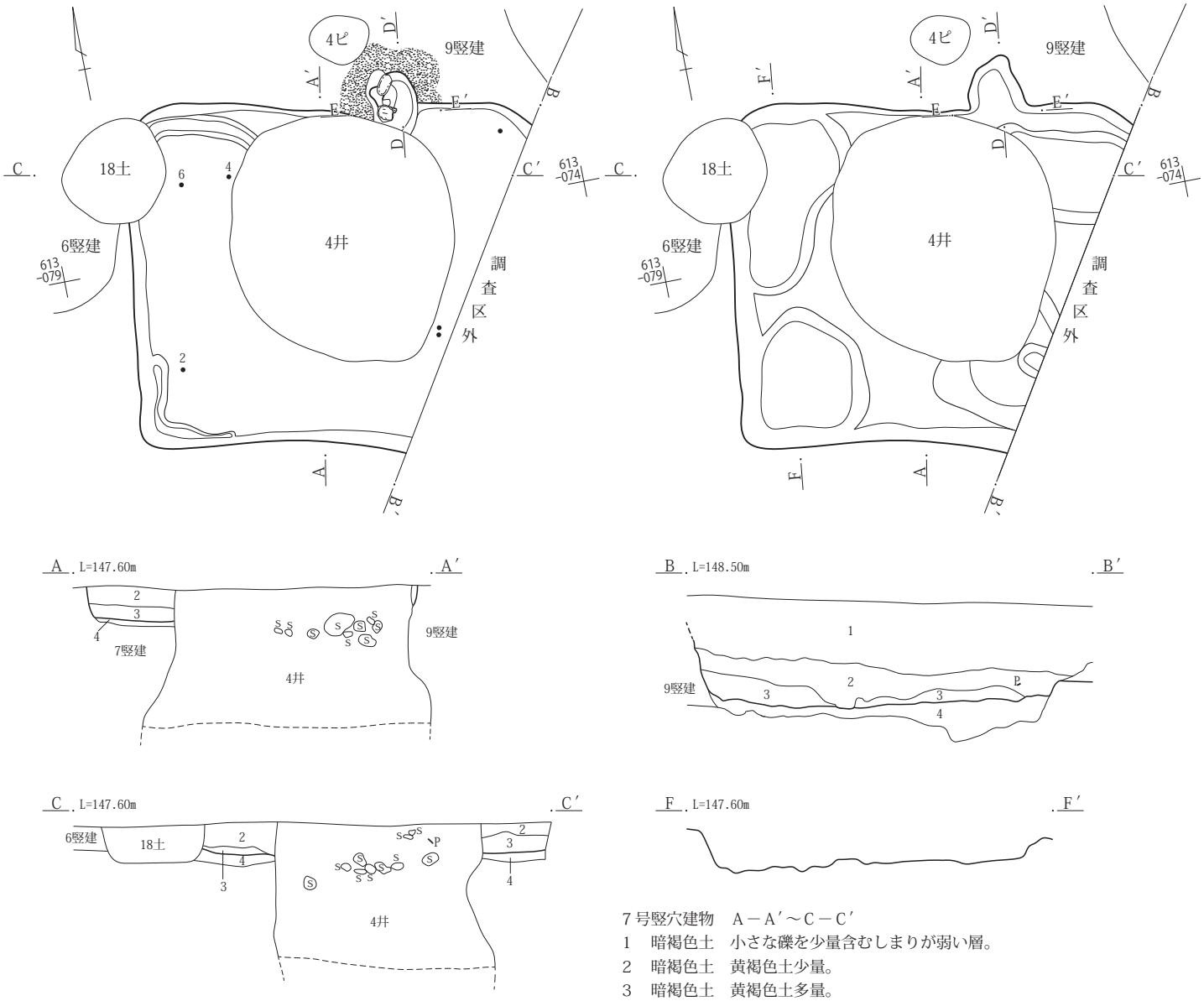
カマド　北壁東寄りに構築されていた。４号井戸により焚口付近が壊れされていた。燃焼部から上の部分はほとんど残っていなかった。燃焼部を囲むように馬蹄形に持ち込まれた灰白色の粘土が残っていた。

柱穴　確認できなかった。

床面　黄褐色土塊を含む暗褐色土で作られていた。

出土遺物　土師器杯・土師器甕・須恵器杯蓋・須恵器杯・須恵器皿が出土している。

所見　４号井戸に竪穴建物の大部分を切られる。出土遺物から９世紀中頃と考えられる。



７号竪穴建物　A－A′～C－C′

1　暗褐色土　小さな礫を少量含むしまりが弱い層。

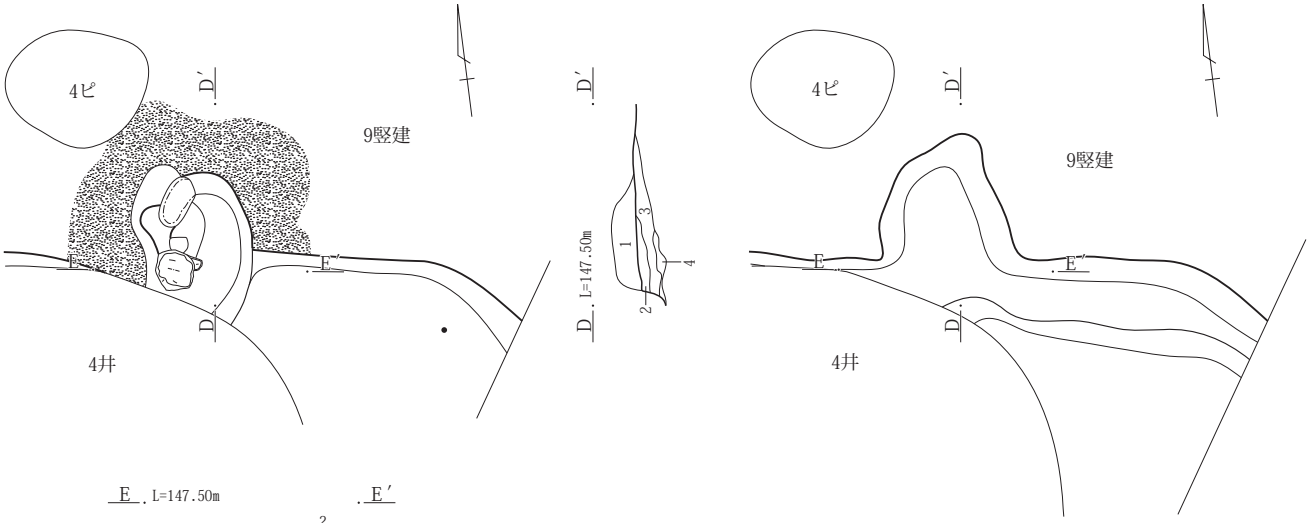
2　暗褐色土　黄褐色土少量。

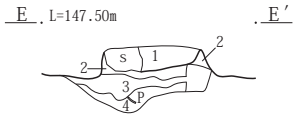
3　暗褐色土　黄褐色土多量。

4　暗褐色土　黄褐色土塊を含む。

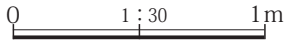
0　1：60　2m

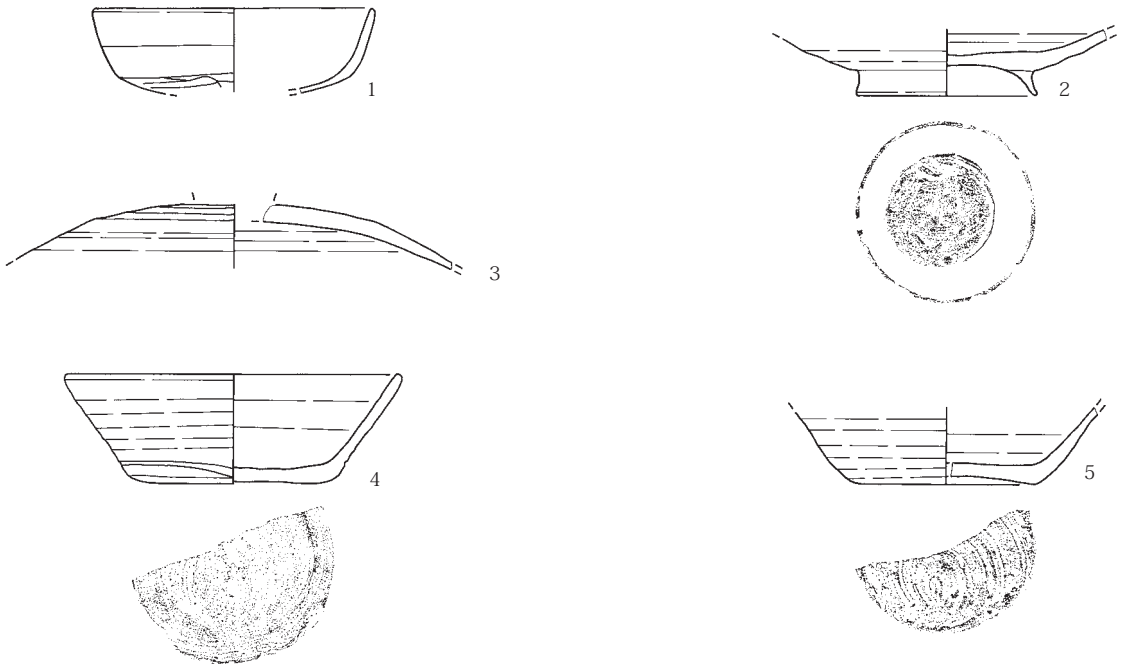
第23図　７号竪穴建物

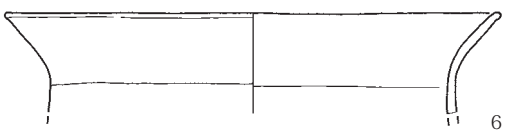


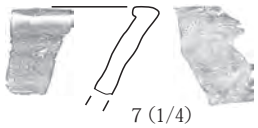


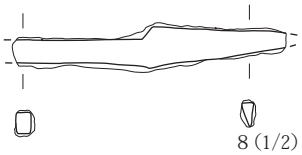
７号竪穴建物カマド　Ｄ－Ｄ′・Ｅ－Ｅ′
1　暗褐色土　少量の焼土粒と炭と黄褐色土粒を含む。
2　赤褐色土　多くの焼土粒を含む。
3　暗褐色土　焼土粒少量。
4　暗褐色土　焼土粒ほとんど含まないやや軟質の層。

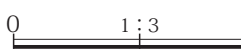












第24図　７号竪穴建物カマドと出土遺物

８号竪穴建物(第25図、PL. ７)

位置　４・５区

X＝44,499 ～ 44,503　Y＝－56,138 ～ 56,143

重複　１号溝

形状　長方形

規模　長軸(4.23)m　短軸(3.55)m

深さ(0.22 ～ 0.28)m

方位　N－14°－E

面積　(10.92) ㎡

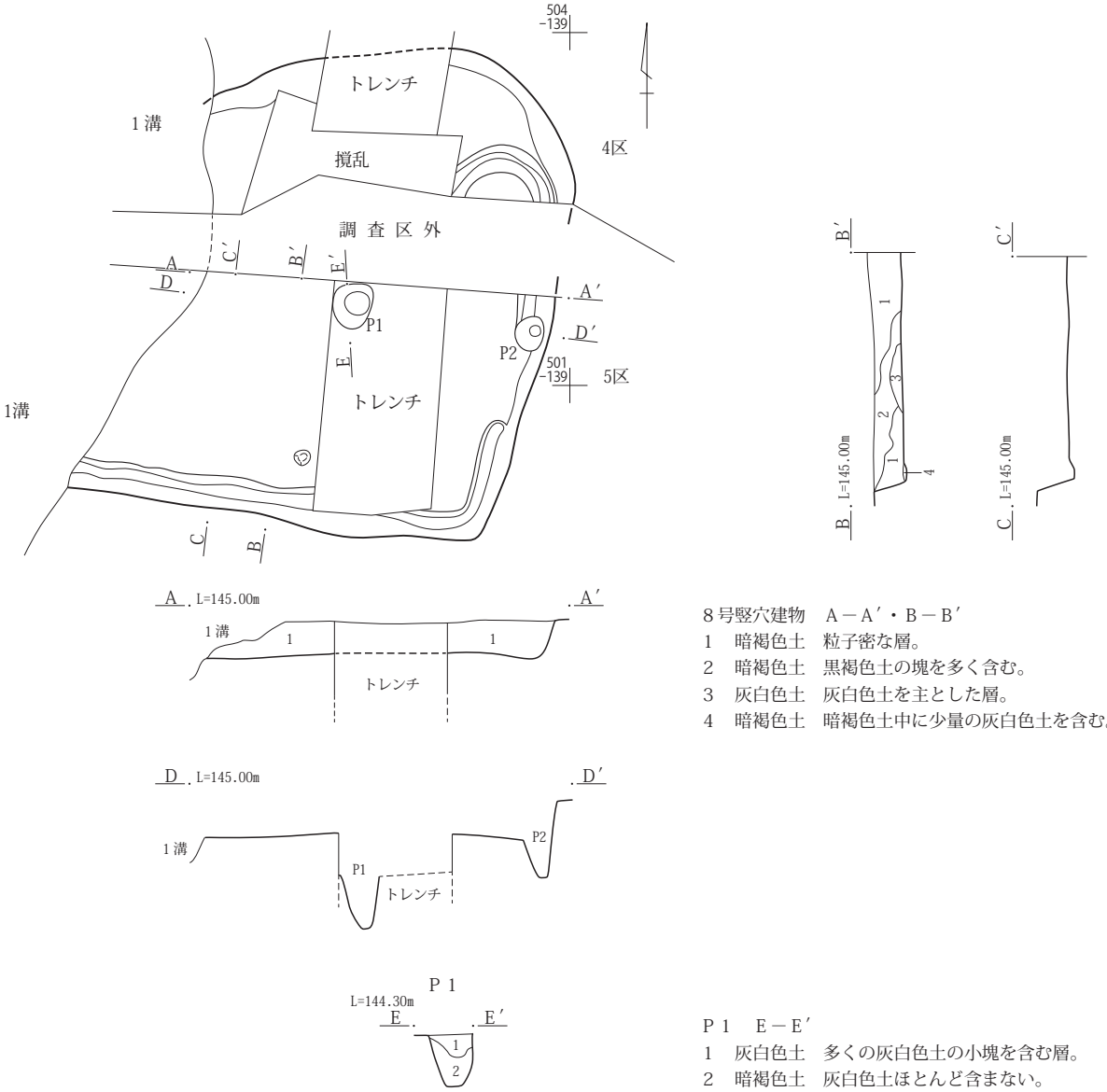
カマド　北壁か東壁付近に構築していたと思われるが、その部分は発掘できなかったので不明。

柱穴　小穴のＰ１・Ｐ２を検出した。深さの平均は約37.5㎝である。

床面　灰白色土を含む暗褐色土で作られていた。

出土遺物　なし

所見　平成29年度と令和元年度に調査を行った。４区・５区にまたがっている。１号溝や撹乱、トレンチにより壊されており、床面は１/２程度が残存するのみである。残存する南と東の壁には幅12 ～ 15㎝、深さ0.1 ～ 0.5㎝のごく浅い周溝状の溝が掘られていた。出土遺物も乏しく、時期は不明であるが、他の竪穴建物と同じ頃と思われる。



８号竪穴建物　Ａ－Ａ′・Ｂ－Ｂ′
1　暗褐色土　粒子密な層。
2　暗褐色土　黒褐色土の塊を多く含む。
3　灰白色土　灰白色土を主とした層。
4　暗褐色土　暗褐色土中に少量の灰白色土を含む。

Ｐ１　Ｅ－Ｅ′
1　灰白色土　多くの灰白色土の小塊を含む層。
2　暗褐色土　灰白色土ほとんど含まない。

0　1：60　2m

第25図　８号竪穴建物

９号竪穴建物(第26図、PL. ７)

位置　１区

X＝44,613～44,615　Y＝－56,074～56,078

重複　６号竪穴建物(８世紀後半)→７号竪穴建物(９世紀後半)、４号井戸、４号ピット

規模　長軸(3.95)m　短軸(1.43)m

深さ(0.15～0.21)m

方位　N－80°－E　　**面積**　(3.33) ㎡

カマド　未確認

柱穴　Ｐ１を床下で検出した。深さは約10㎝である。

床面　小礫と黄褐色土を含む暗褐色土で作られていた。

出土遺物　土師器甕・須恵器杯

所見　６号・７号竪穴建物、４号井戸に大部分を壊される。出土遺物から９世紀前半と考えられる。

10号竪穴建物(第27図、PL. １・７・８・55)

位置　１区

X＝44,616～44,619　Y＝－56,072～56,075

重複　３号・５号竪穴建物

形状　隅丸正方形

規模　長軸3.23m　短軸2.88m　深さ　0.07～0.25m

方位　N－77°－E　　**面積**　(6.98) ㎡

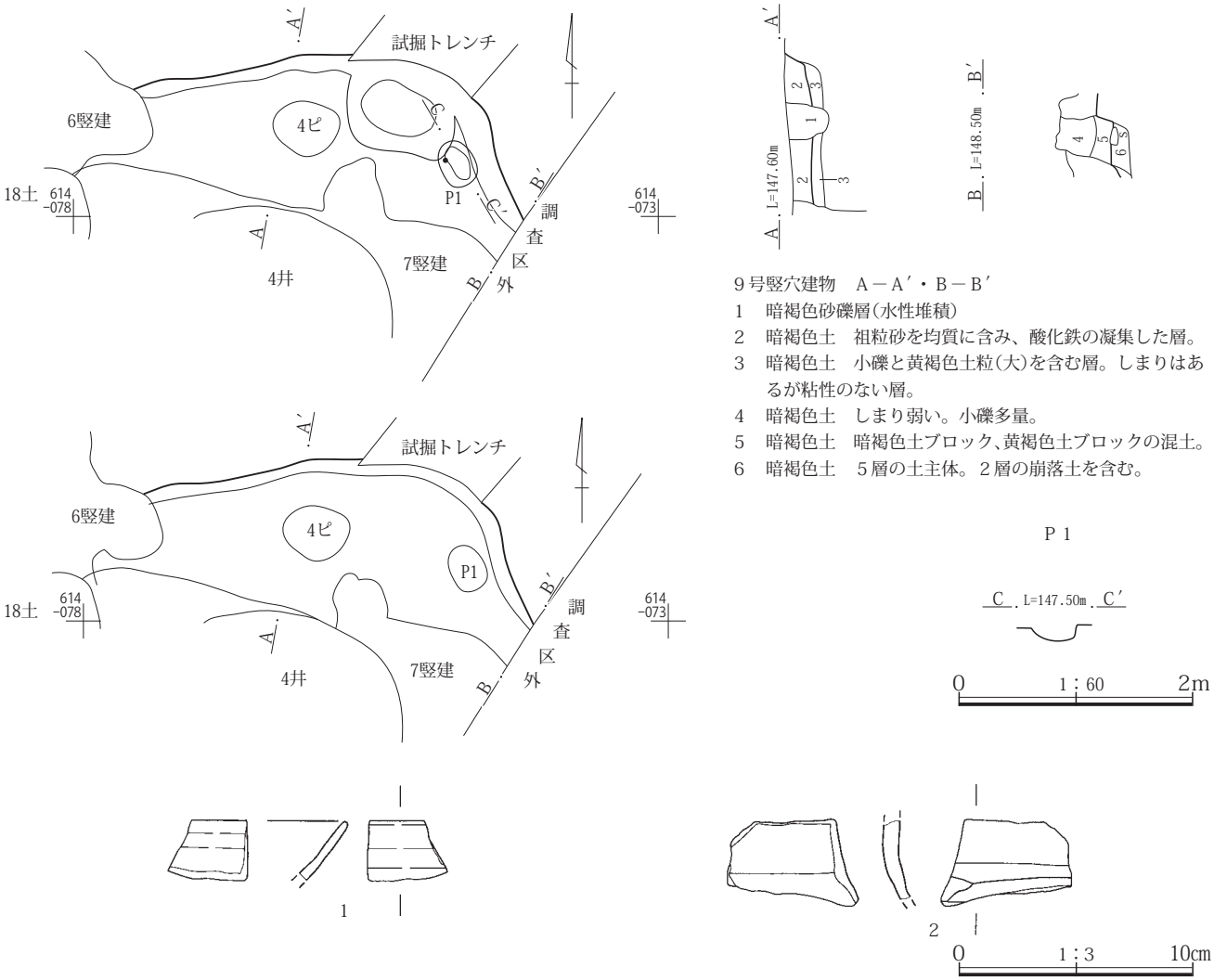
カマド　東壁中央に構築されていた。カマド付近から土師器杯(第27図２)、土師器甕(同図３)が出土した。

柱穴　なし

床面　灰白色土塊を多く含む暗褐色土で作られていた。

出土遺物　土師器杯・土師器甕

所見　３号竪穴建物の掘り方調査時にカマドの一部分を検出した。遺構確認作業後に10号竪穴建物の調査を実施した。暗褐色土、灰褐色土、灰白色土の混土で埋没していた。出土遺物から７世紀前半と考えられる。



９号竪穴建物　A－A′・B－B′

1　暗褐色砂礫層(水性堆積)

2　暗褐色土　祖粒砂を均質に含み、酸化鉄の凝集した層。

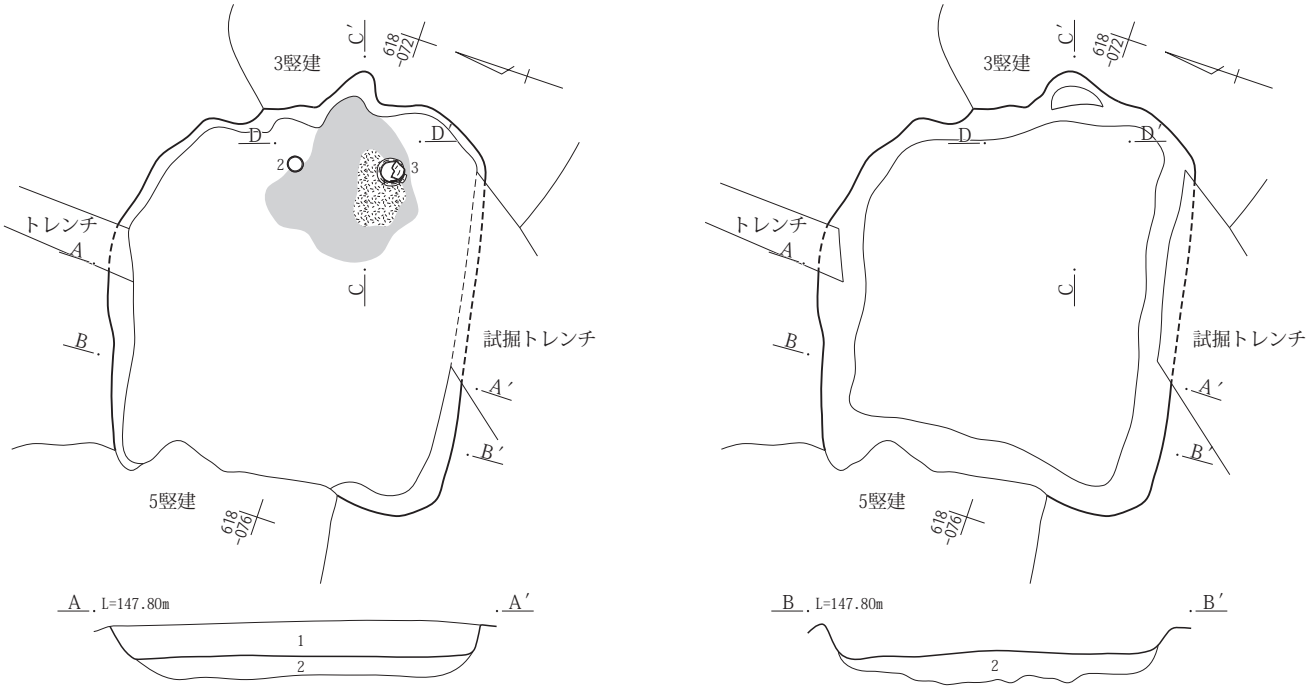
3　暗褐色土　小礫と黄褐色土粒(大)を含む層。しまりはあるが粘性のない層。

4　暗褐色土　しまり弱い。小礫多量。

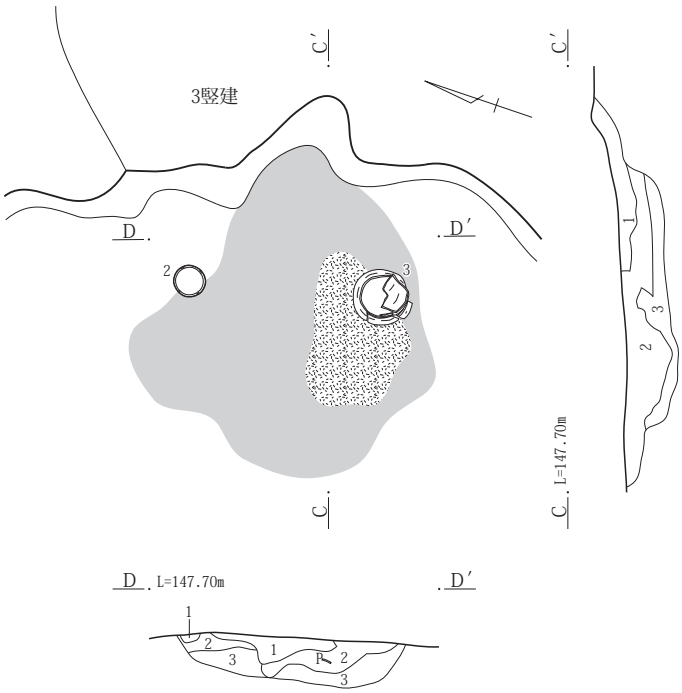
5　暗褐色土　暗褐色土ブロック、黄褐色土ブロックの混土。

6　暗褐色土　５層の土主体。２層の崩落土を含む。

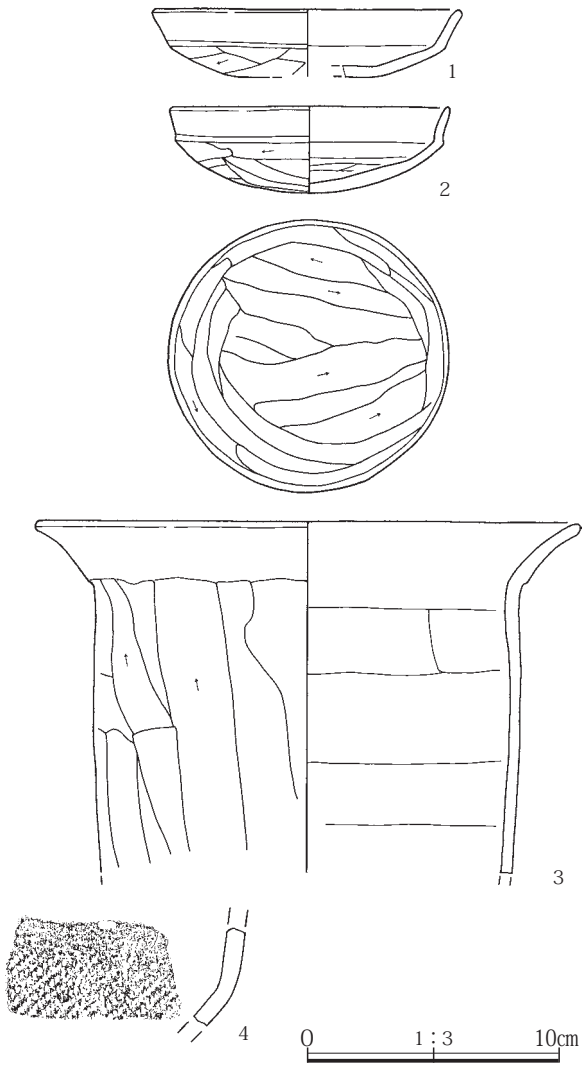
第26図　９号竪穴建物と出土遺物



10号竪穴建物　Ａ－Ａ′・Ｂ－Ｂ′
1　暗褐色土　しまりが強い。暗褐色土、灰褐色シルト質土、灰白色シルトブロック(小)の混土。
2　暗褐色土　灰白色シルトブロック多く含む。



10号竪穴建物カマド　Ｃ－Ｃ′・Ｄ－Ｄ′
1　暗褐色土　多くの焼土粒流を含む。
2　暗褐色土　少量の焼土粒と土器片を含む。
3　暗褐色土　地山の層。



第27図　10号竪穴建物・カマドと出土遺物

11号竪穴建物(第28～30図、PL. １・８・９・55)

位置　１区・１区－E

X＝44,605～44,610　Y＝－56,081～56,085

重複　21号竪穴建物　　**形状**　隅丸長方形

規模　長軸4.95m　短軸(3.95)m

深さ(0.16～0.27)m

方位　N－74°－E　　**面積**　(15.88) ㎡

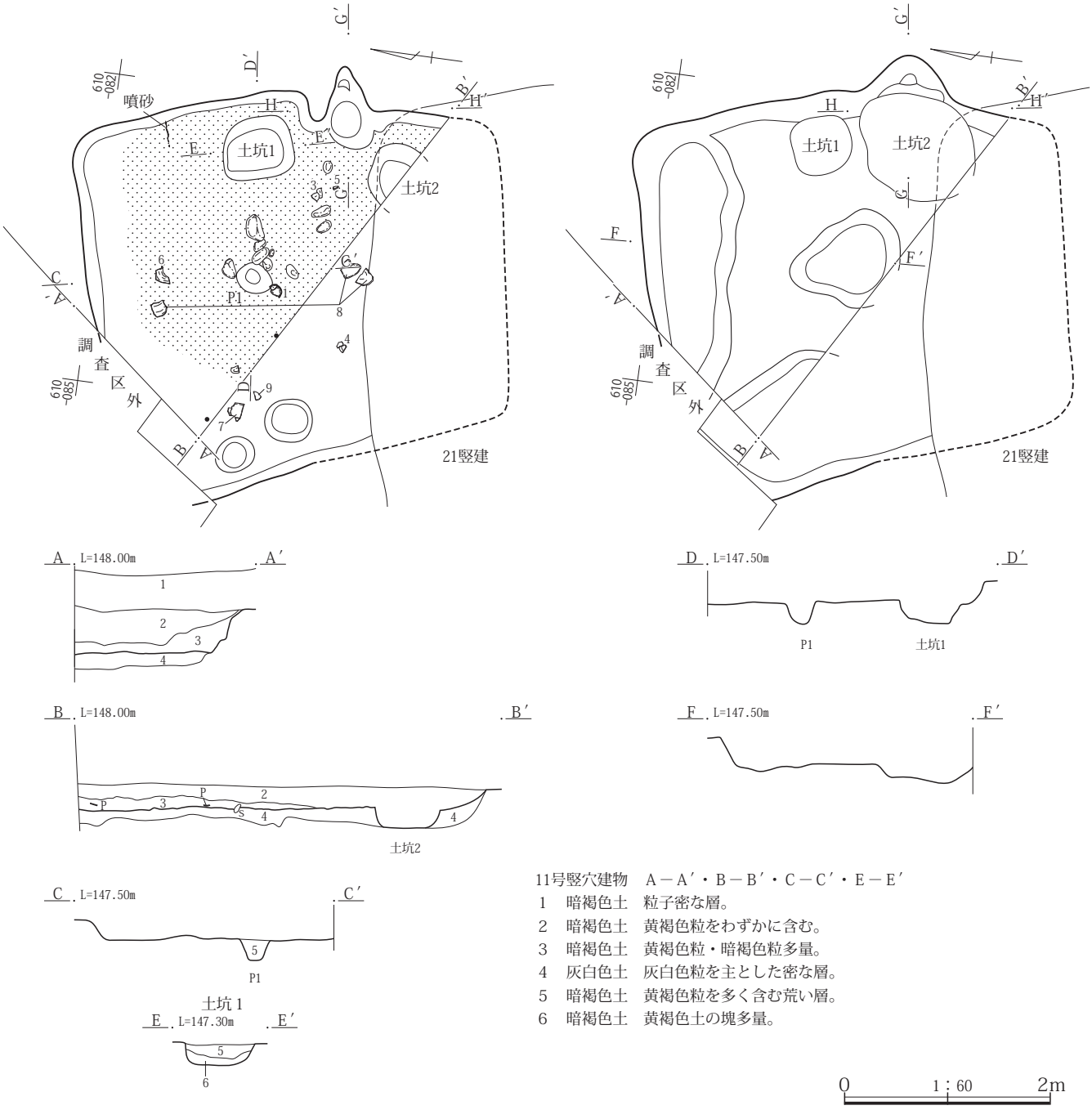
カマド　東壁南寄りに構築していた。灰白色の粘土を用いてカマドは作られていた。

柱穴　掘られていなかった。

床面　暗褐色土塊を含む灰白色土で作られていた。

出土遺物　土師器杯・土師器小型甕・土師器壺・須恵器甕が竪穴建物の中央部に遺物が集中して出土した。

所見　平成29年度(１区)と令和元年度(１区－E)の２か年調査した。平成29年度は北西部を調査し、南東部を令和元年度に調査した。土坑１は竪穴建物を切る遺構であるが、土坑２は床面で検出された床下土坑である。出土遺物から６世紀後半と考えられる。

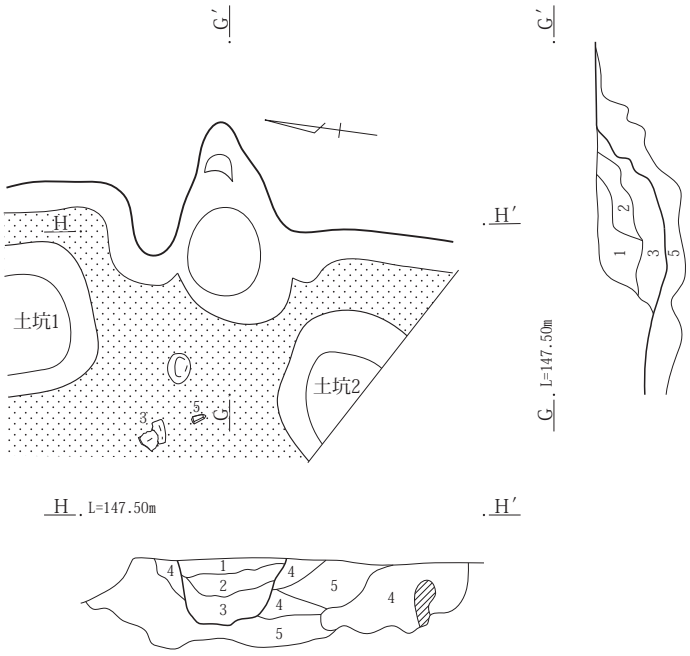


11号竪穴建物　A－A′・B－B′・C－C′・E－E′

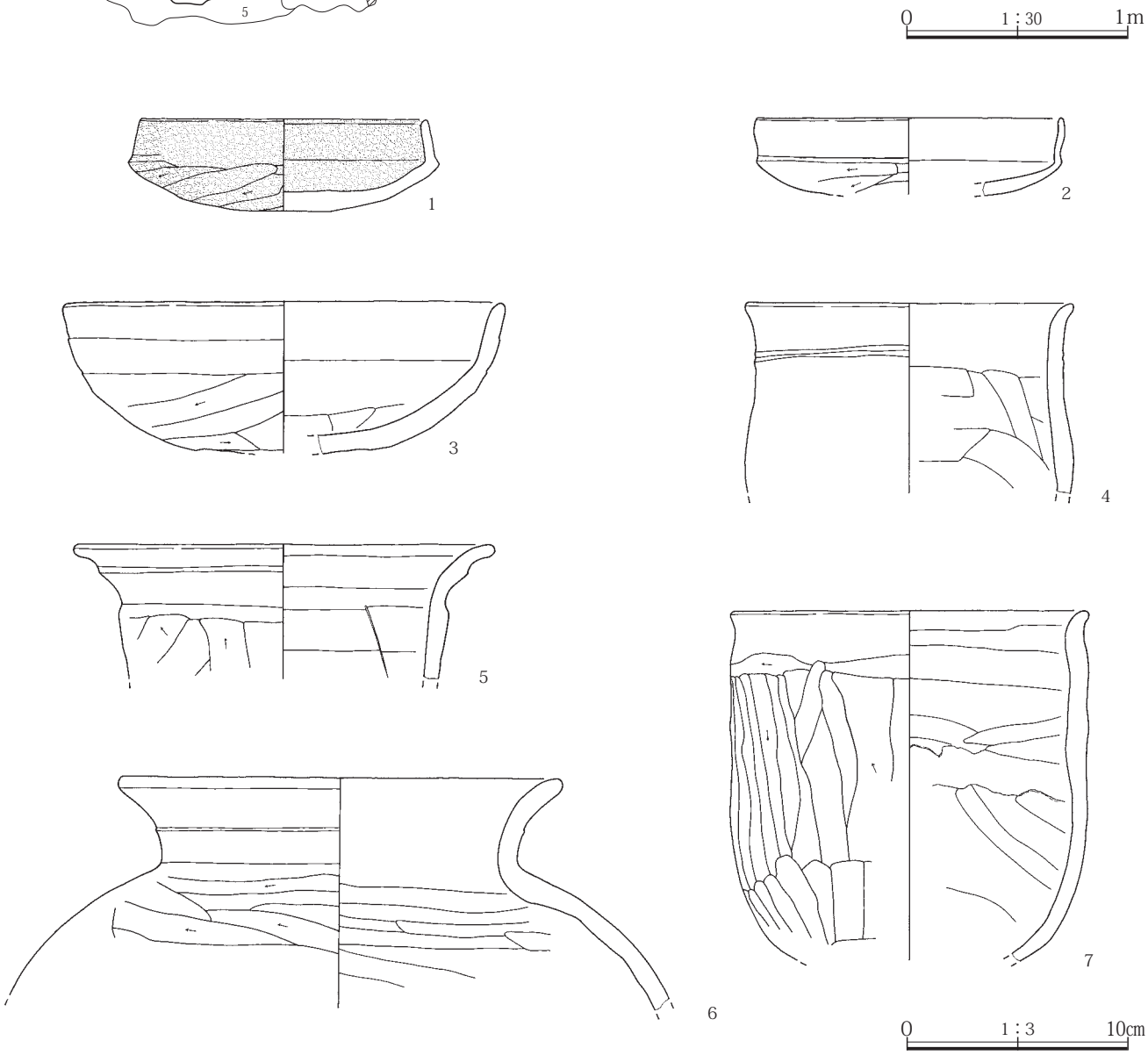
1　暗褐色土　粒子密な層。
2　暗褐色土　黄褐色粒をわずかに含む。
3　暗褐色土　黄褐色粒・暗褐色粒多量。
4　灰白色土　灰白色粒を主とした密な層。
5　暗褐色土　黄褐色粒を多く含む荒い層。
6　暗褐色土　黄褐色土の塊多量。

0　1：60　2m

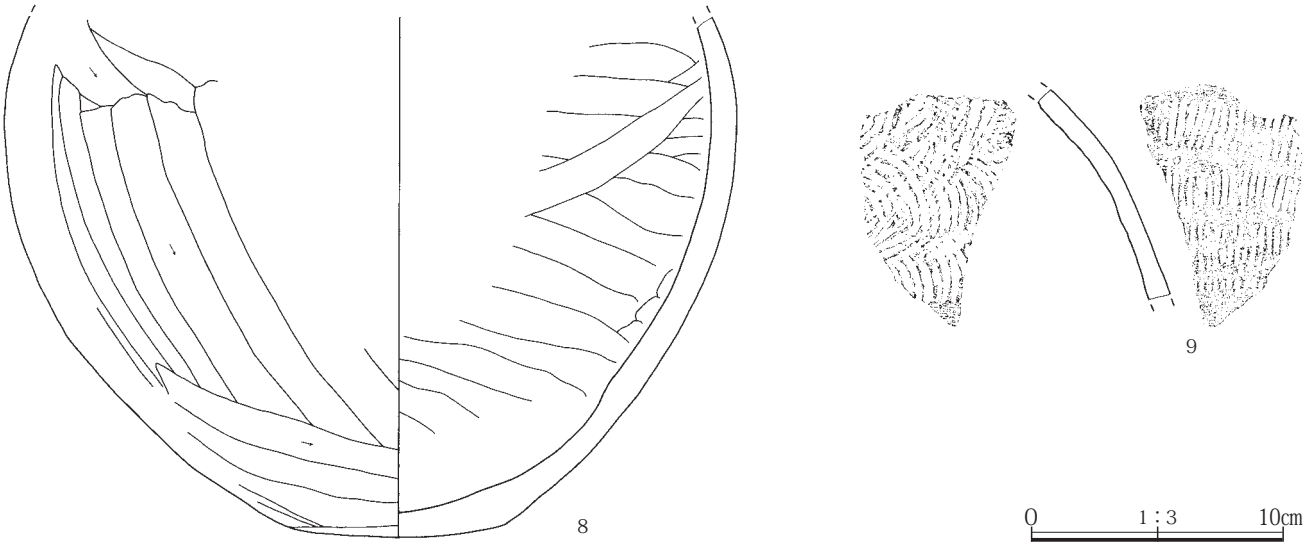
第28図　11号竪穴建物



11号竪穴建物カマド　Ｈ－Ｈ′　Ｇ－Ｇ′
１　暗褐色土　粒子密な層。
２　暗褐色土　焼土粒少量。
３　暗褐色土　焼土粒と黄褐色土多量。
４　灰白色土　灰白色土を大きな塊として含む。
５　暗褐色土　白色粒少量。（地山に近い層）



第29図　11号竪穴建物カマドと出土遺物（１）



第30図　11号竪穴建物出土遺物（２）

12号竪穴建物（第31図、PL. 10）

位置　１区

X＝44,595 ～ 44,597　Y＝－56,090 ～ 56,093

重複　13号竪穴建物（８世紀前半）→12号竪穴建物（９世紀前半）、16号土坑

形状　不明

規模　長軸(3.32)m　短軸(0.83)m

深さ(0.35 ～ 0.32)m

方位　N－47°－W　　**面積**　(1.68) ㎡

カマド　東壁に構築されていた。灰白色土粘質土で作られており、袖部分が良好に残っていた。カマド内から赤褐色の焼土が出土している。

柱穴　未確認

床面　灰白色土、黒色粘土塊、暗褐色土を含む暗褐色土で作られていた。

出土遺物　土師器甕口縁部

所見　建物は灰褐色粘質土、黒色粘質土を含む暗褐色土で埋没していた。弘仁９年(818)年の大地震に伴うと考えられる北東―南西方向に走る噴砂を床面と調査区壁面で確認した。出土遺物から９世紀頃と考えられる。

13号竪穴建物（第32図、PL. 10）

位置　１区

X＝44,596 ～ 44,600　Y＝－56,090 ～ 56,093

重複　13号竪穴建物（８世紀後半）→12号竪穴建物（９世紀）、７号井戸

形状　不明

規模　長軸(2.58)m　短軸(2.75)m

深さ(0.24 ～ 0.42)m

方位　N－68°－E

面積　(3.76) ㎡

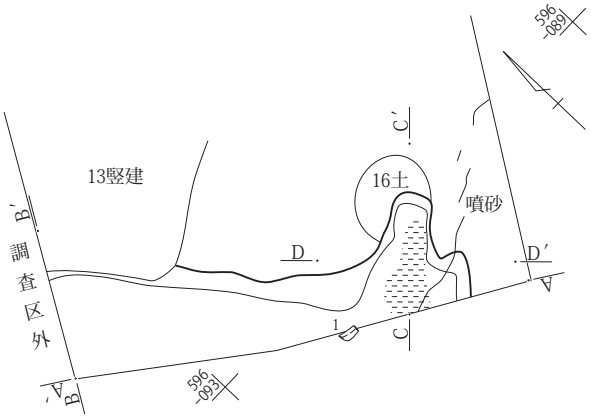
カマド　東壁南寄りに灰白シルト質土を持ち込んで構築していた。カマドの燃焼部や両袖部分の大部分は床面上に作られており、煙道部の一部が壁面を掘り込んでた。カマド内から少量の焼土粒と炭が出土した。７号井戸に煙道部付近を切り込まれて壊されている。

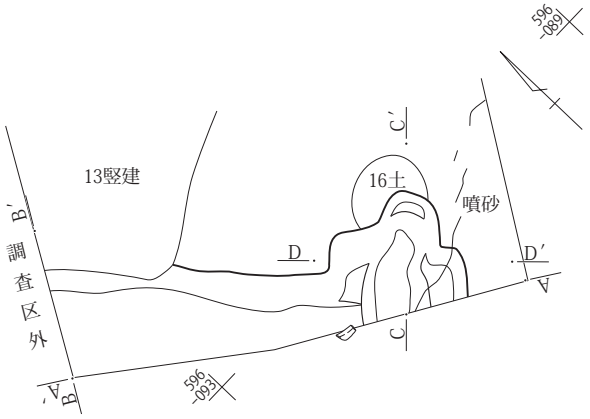
柱穴　未確認

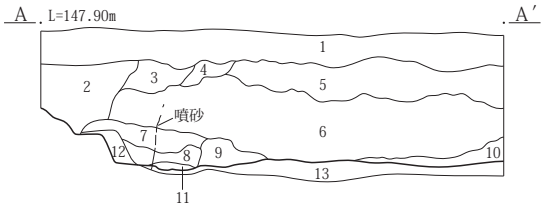
床面　暗褐色土を含む灰白色土で作られていた。

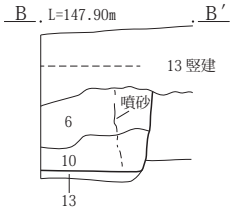
出土遺物　土師器杯

所見　カマドは、東壁の南側に作られている。カマド周辺を発掘することができたが、出土遺物がほとんどなかった。唯一の出土遺物である丸底の土師器杯の年代観から８世紀前半としたが、特定できない。





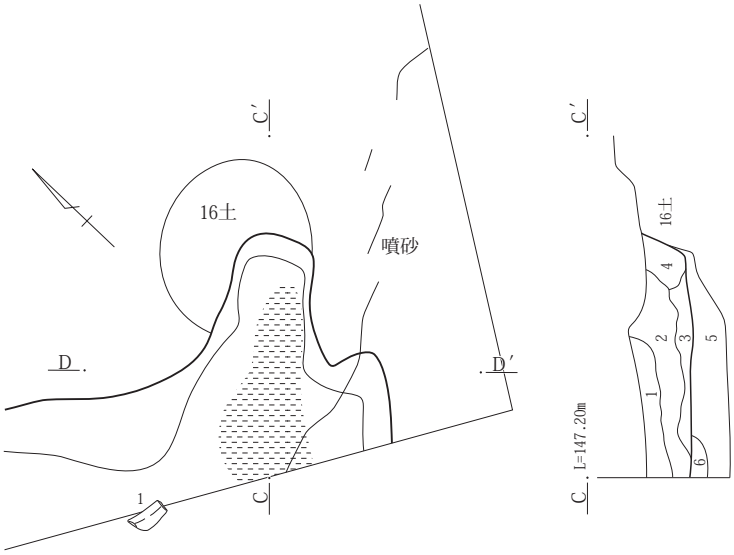




12号竪穴建物　Ａ－Ａ′・Ｂ－Ｂ′

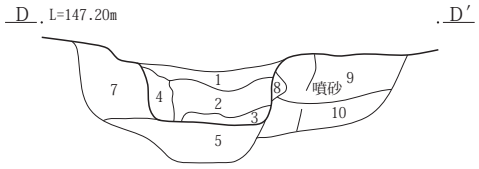
1　暗褐色土　小礫を含むしまりのない層。（表土）
2　暗褐色土　１層の土より色調が明るい層で、しまりはあるが粘性は弱い。
3　暗褐色土　２層の土が主体。黒色粘質土、灰褐色粘質土ブロックを多く、炭化物粒（大）を少量含む。
4　暗褐色土　黒色粘質土、灰褐色粘質土ブロックと暗褐色土の混土で、硬くしまった層。
5　暗褐色土　２層の土に類似するが、色調がやや明るい。
6　暗褐色土　３層の土に類似するが、灰褐色粘質土ブロックの含有が少ない。
7　暗褐色土　灰白色シルト、黒色粘質土ブロックと暗褐色粘質土の混土。（貼床）
8　暗褐色土　灰褐色粘質土と暗褐色土の混土。
9　暗褐色土　８層の土主体。焼土粒・小ブロック多量。
10　黒色灰層
11　赤褐色焼土層
12　灰褐色土　灰褐色粘質土主体。灰白色シルト粒（大）をわずかに含む。（カマド袖か。）
13　暗褐色土

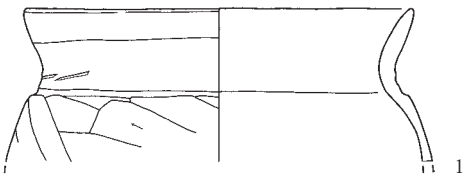
0　1：60　2m



12号竪穴建物カマド　Ｃ－Ｃ′・Ｄ－Ｄ′

1　暗褐色土　粘性のある暗褐色土。焼土粒をわずかに含む。
2　暗褐色土　１層よりも色調の明るい暗褐色土主体で、焼土粒（大）と細粒を多量に含む。
3　暗褐色土　黒褐色土ブロックと焼土ブロック、粒子、灰の混土。
4　暗褐色土　暗褐色土主体で、焼土粒（大）を含み、粘性としまりが強い。
6　赤褐色焼土　燃焼部。（掘り方）
7　暗褐色土　暗褐色土主体。灰白色シルト質土ブロック（小）と黒色粘質土ブロック（小）の混土。灰白色粘質土粒（大）を含む。（掘り方）
8　黄褐色土　灰色粘質土主体。黄褐色シルト質土大粒、暗褐色土粒を多く含みしまりのある層。（掘り方）
9　暗褐色土　住居覆土に類似する層で、焼土粒（大）少量。（掘り方）
10　灰色粘質土　地山の層で掘り過ぎ。（掘り方）

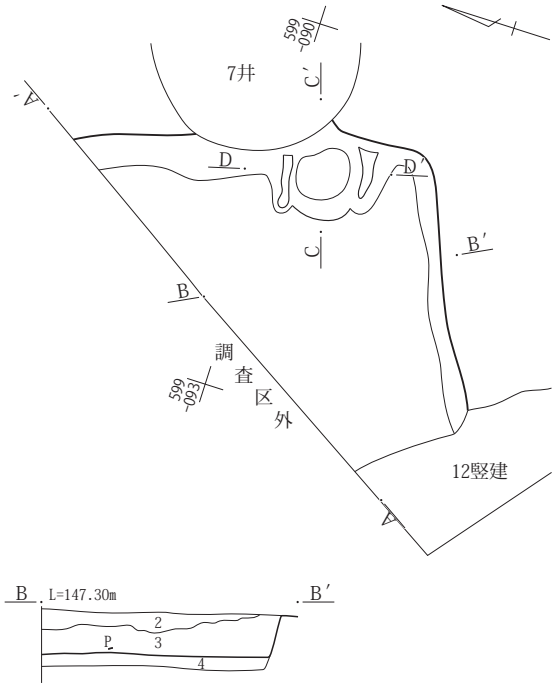


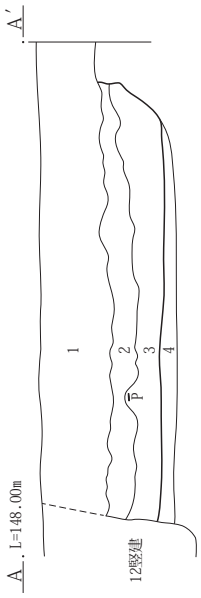


0　1：30　1m

0　1：3　10cm

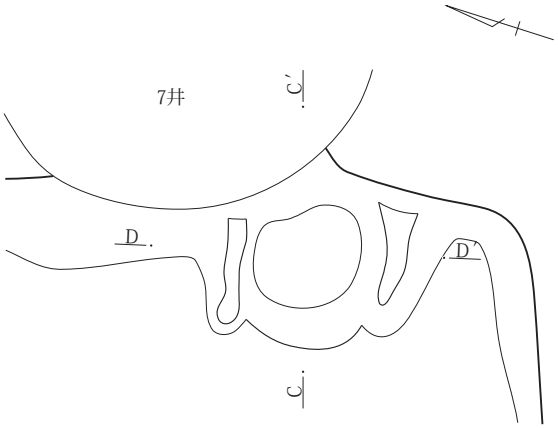
第31図　12号竪穴建物・カマドと出土遺物

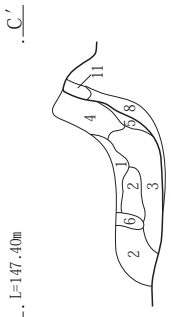


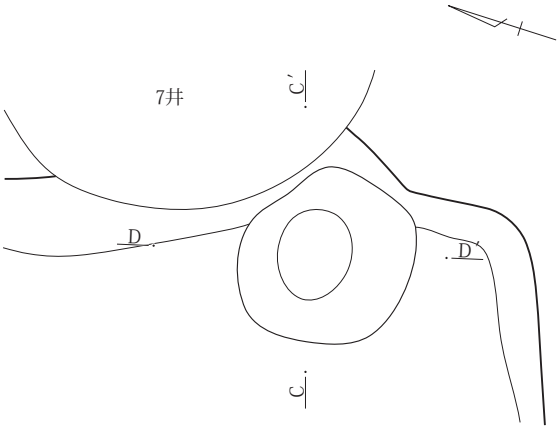


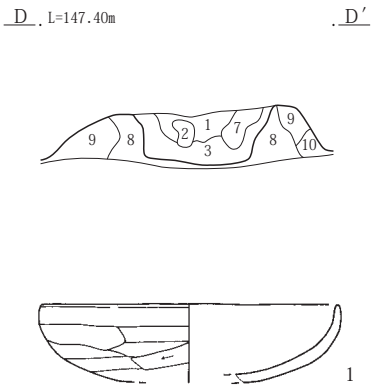
13号竪穴建物　Ａ－Ａ′・Ｂ－Ｂ′
1　暗褐色土　粒子密な層。
2　暗褐色土　黄褐色粒をわずかに含む。
3　暗褐色土　黄褐色粒と暗褐色粒多量。
4　灰白色土　灰白色粒を主とした密な層。

0　1：60　2m









13号竪穴建物カマド　Ｃ－Ｃ′・Ｄ－Ｄ′
1　暗褐色土　暗褐色土と灰白色シルト粒の混土で、わずかに焼土粒を含む。
2　灰白色シルト質土　地山の灰白色シルト質土主体の層。（袖の崩落）
3　暗褐色土　暗褐色土と褐色土の混土で焼土粒と一部に灰を含む。
4　暗褐色土　均質な暗褐色土。わずかに焼土粒を含む。
5　灰白色シルト質土　袖か。
6　灰褐色土　灰白色シルト質土粒と暗褐色土の混土。
7　灰褐色土　地山の灰白色シルト質土ブロック（小）と粒子主体。暗褐色土粒を多量。
8　暗褐色土　しまりの弱い暗褐色土主体。灰白色シルト質土粒黄褐色砂質土粒を含む。（掘り方）
9　暗褐色土　７層と８層の中間的な様相の層。
10　灰白色土　粘性のある灰白色土主体。灰白色シルト質土小ブロックを含む。
11　灰白色シルト質土ブロック

0　1：3　10cm

0　1：30　1m

第32図　13号竪穴建物・カマドと出土遺物

14号竪穴建物(第33～36図、PL. 11・12・56)

位置　１区・１区－E

X＝44,593～44,601　Y＝－56,082～56,089

重複　22号・23号竪穴建物　　**形状**　不明

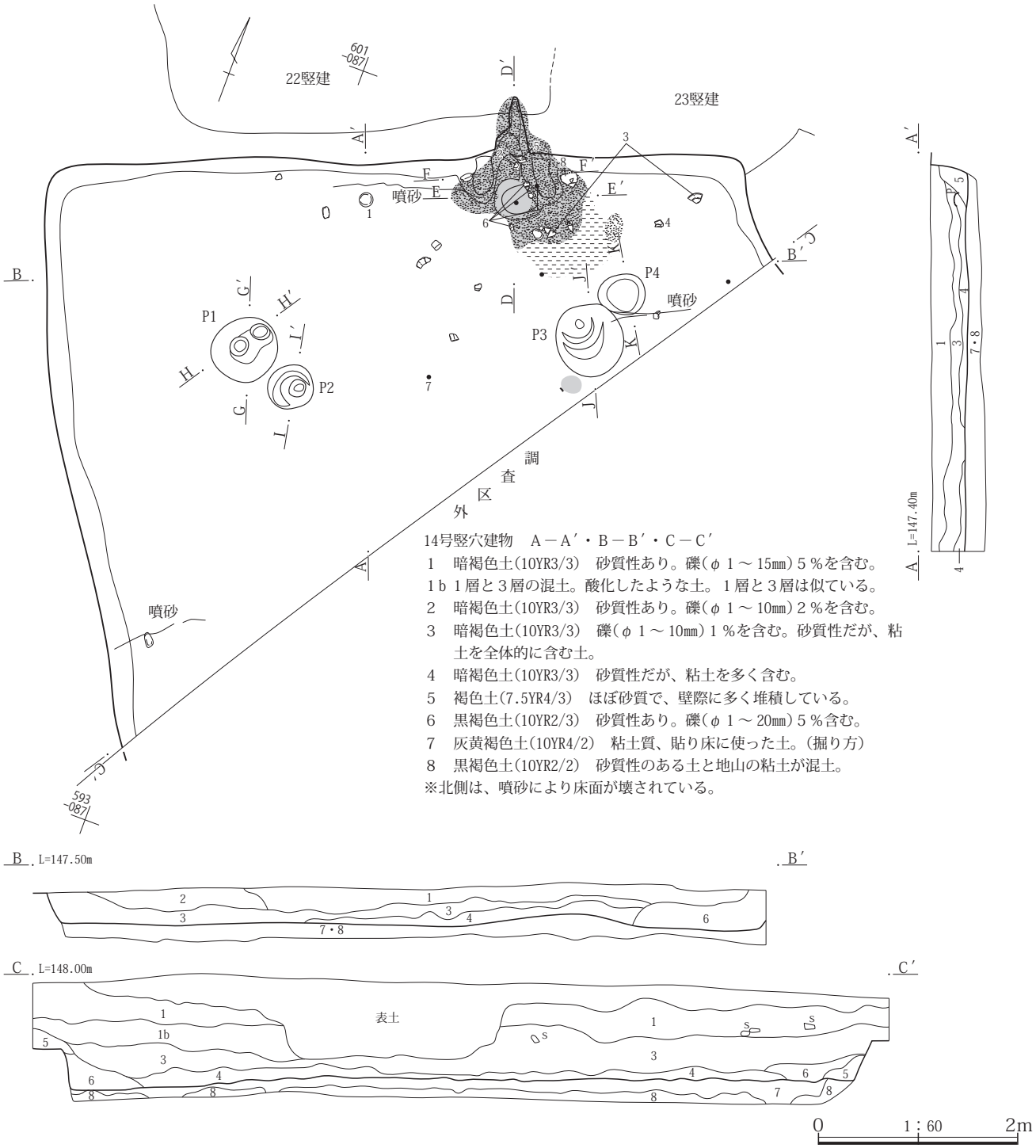
規模　長軸7.25m　短軸(5.78)m

深さ(0.35～0.42)m

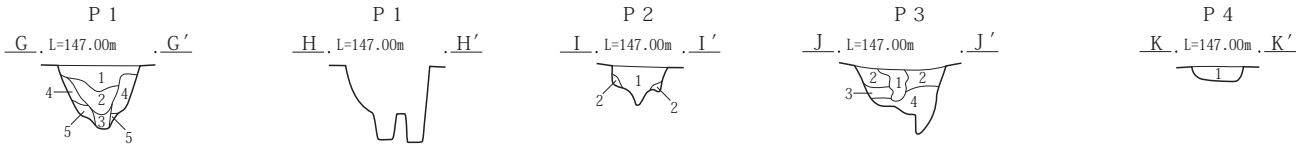
方位　N－22°－W　　**面積**　(22.83) ㎡

カマド　北壁の東寄りに構築されていた。粘土質の灰白色土が、壁面から床面に流れ込むような状態で厚く堆積しており、粘土質の灰白色土でカマドが作られていたことが明瞭である。カマド内に多くの焼土粒が残っていた。

柱穴　Ｐ１～Ｐ４の４基を検出した。深さの平均は約35cmである。４基の柱穴が確認されたのは、この竪穴建物と、４区30号竪穴建物だけである。



第33図　14号竪穴建物



Ｐ１　Ｇ－Ｇ′
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　やや粘性あり。にぶい黄褐色の粘土ブロックを斑状に10％、黒褐土５％、焼土ブロック１％含む。
2　暗褐色土(10YR3/3)　やや粘りあり。にぶい黄褐色の粘土ブロック５％､黒褐色ブロック２％含む。
3　暗褐色土(10YR3/3)　柱痕か。
4　暗褐色土(10YR3/3)　黒褐色土ブロックを斑状に10％を含む。
5　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロック20％を含む。

Ｐ２　Ｉ－Ｉ′
1　Ｐ３の１層と同じ。
2　Ｐ３の４層と同じ。

Ｐ３　Ｊ－Ｊ′
1　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロック５％、黒褐ブロック５％を含む。
2　暗褐色土(10YR3/3)　黒褐色ブロック斑状に10％を含む。砂質性の土。
3　黒褐色土(10YR3/1)　粘性あり。
4　暗褐色土(10YR3/3)　粘性あり。黒褐色土10％、ローム土10％を含む。

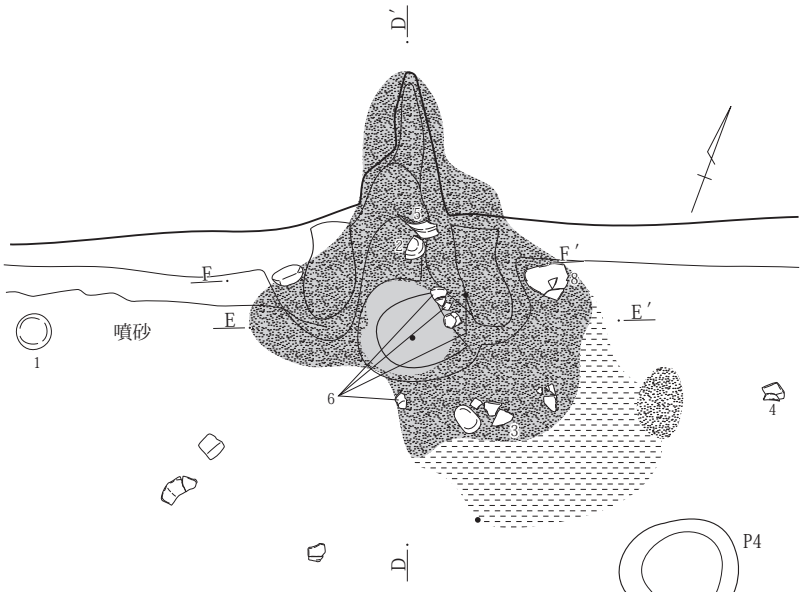
Ｐ４　Ｋ－Ｋ′
1　黒褐色土(10YR2/3)　砂質性の土。

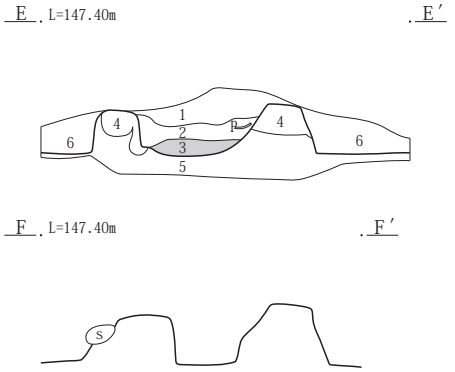
第34図　14号竪穴建物掘り方・土層断面

床面　灰褐色土と黒褐色土の混土で作られていた。

出土遺物　土師器杯と高杯の杯部と思われる破片・胴部器肉の薄い土師器甕・底部回転ヘラ削り後、底部周辺回転ヘラ調整の杯等出土している。

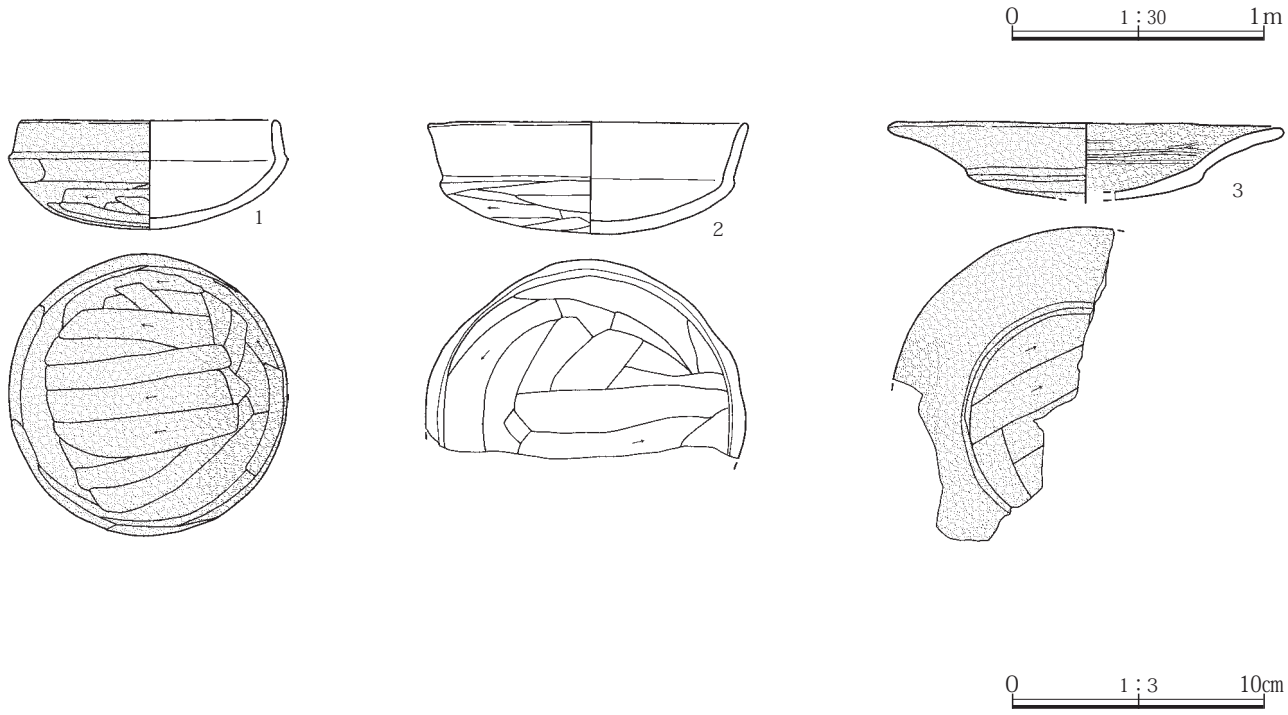
所見　礫を含む黒褐色土～褐色土で埋没していた。基本は砂質性の土であるが、床面直上では粘土を含む土が堆積していた。竪穴建物の北半には12号竪穴建物と同様に北東から南西方向に走る噴砂を床面で確認した。また、掘り方で工具痕を確認した。長軸の長さは７ｍを越えており、本遺跡の中では大型の竪穴建物である。出土遺物から７世紀中頃と考えられる。



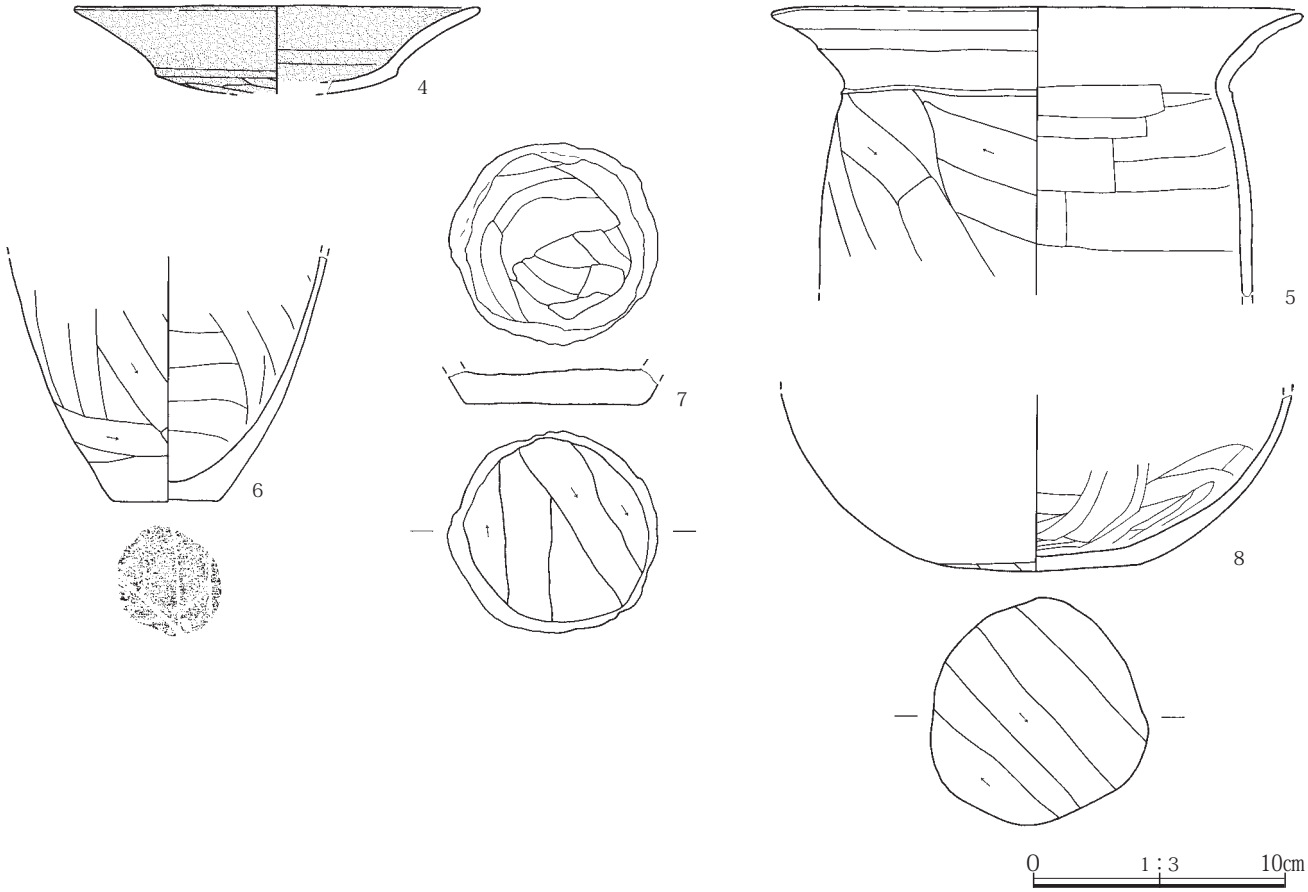


14号竪穴建物カマド　Ｄ－Ｄ′・Ｅ－Ｅ′

1　褐灰色土　焼土粒と炭化物少量。
2　褐灰色土　焼土粒塊を含む。
3　赤橙色土　焼土粒を主とした層。
4　褐灰色土　焼土粒少量。
5　暗褐色土　地山の層である。
6　褐灰色土　焼土粒と炭化物を少量含む１層に近い層。
7　褐灰色　焼土粒少量。



第35図　14号竪穴建物カマドと出土遺物（１）



第36図　14号竪穴建物出土遺物（２）

15号竪穴建物（第37図、PL. 12・13・56）

位置　１区－Ａ

X＝44,659 ～ 44,661Y＝－56,043 ～ 56,045

重複　16号竪穴建物（６世紀後半）→15号竪穴建物（７世紀前半）

形状　不明

規模　長軸(2.50m　短軸(1.65)m

深さ(0.27 ～ 0.33)m

方位　Ｎ－72°－Ｅ

面積　(2.20) ㎡

カマド　未確認

柱穴　未確認

床面　黄褐色土を含む暗褐色土で作られていた。

出土遺物　北壁面近くにまとまって出土している。長胴の土師器甕・丸底の土師器小甕がある。

所見　竪穴建物の大半が調査区外になる。出土遺物から７世紀前半と考えられる。

16号竪穴建物（第37・38図、PL. 12・13・57）

位置　１区－Ａ

X＝44,660 ～ 44,663　Y＝－56,042 ～ 56,044

重複　16号竪穴建物（６世紀後半）→15号竪穴建物（７世紀前半）

形状　不明

規模　長軸(2.25)m　短軸(1.75)m

深さ(0.27 ～ 0.33)m

方位　Ｎ－０°－ＥＷ

面積　(3.01) ㎡

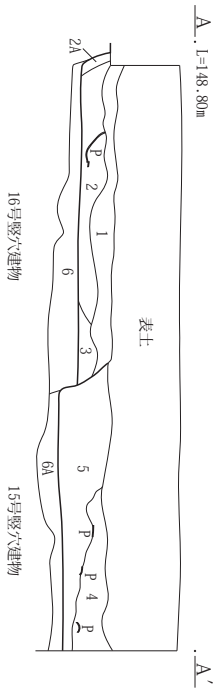
カマド　未確認

柱穴　未確認

床面　黄褐色土を含む暗褐色土で作られていた。

出土遺物　土師器杯と鉢が近接してまとまって出土している。

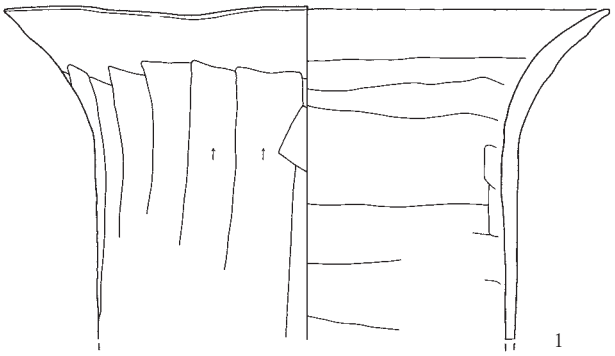
所見　出土遺物から６世紀後半と考えられる。

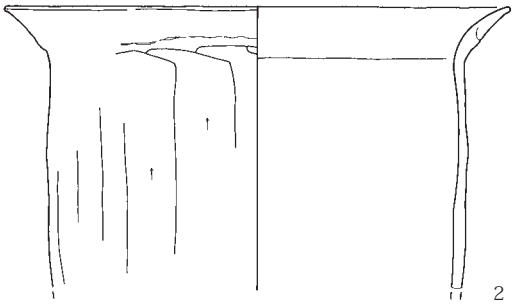


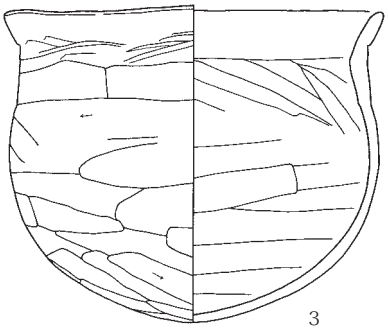
15号・16号竪穴建物　Ａ－Ａ′

1　黒褐色土(10YR3/2)　As-C（φ２～５㎜)少量を含む。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロック(φ20～30㎜)、黒褐色土粒(φ５～10㎜)を含む。
2Ａ 黒褐色土(10YR3/2)　２層の土が主体。ローム粒、黒褐色粒多量。
3　黒褐色土(10YR3/1)　φ５～10㎜の褐色土粒、As-C（φ２～４㎜)少量。
4　黒褐色土(10YR3/2)　粘性少々あり。褐色パミス(φ２㎜)少量。
5　黒褐色土(10YR3/2)　４層の土よりやや粘性強い。灰白色粒(φ２～４㎜)少量。
6　黒褐色土　黄褐色砂質ロームブロック少量。(掘り方フク土)
6Ａ 黒褐色土　６層と同質、砂質ロームブロックの混入少ない。

0　1：60　2m

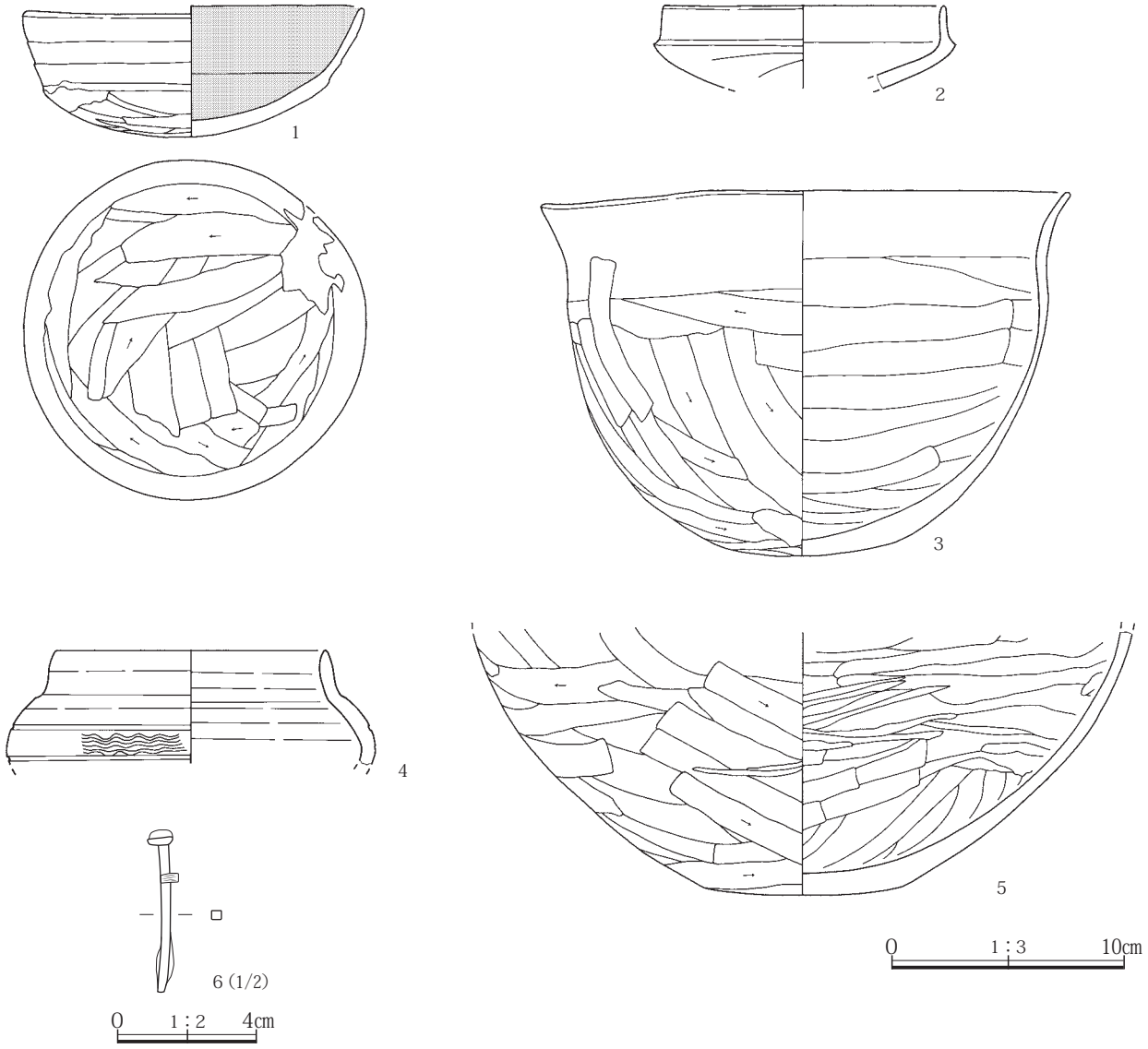






0　1：3　10cm

第37図　15号・16号竪穴建物と15号竪穴建物出土遺物



第38図　16号竪穴建物出土遺物

17号竪穴建物（第39図、PL. 12・14・57）

位置　１区－Ａ

X＝44,663 ～ 44,665　Y＝－56,041 ～ 56,044

重複　なし

形状　不明

規模　長軸(2.00)ｍ　短軸(1.80)ｍ

深さ(0.10 ～ 0.12)ｍ

方位　Ｎ－20°－Ｗ

面積　(2.47) ㎡

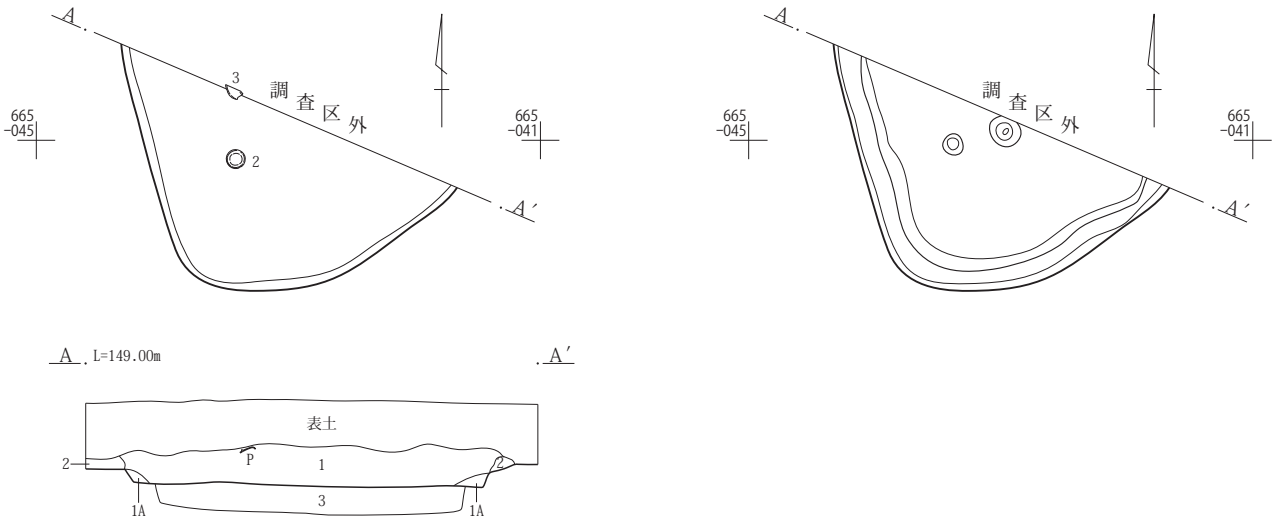
カマド　未確認

柱穴　未確認

床面　黒褐色土と黄褐色ローム塊の混土で作られていた。

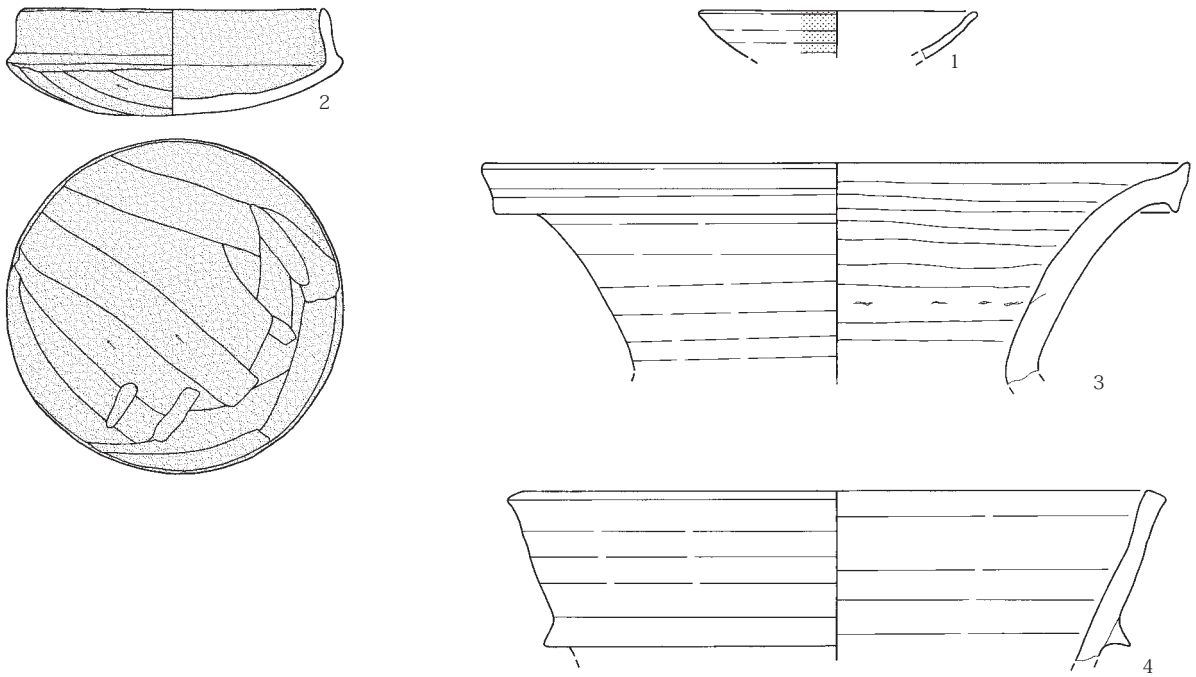
出土遺物　古墳時代の土師器杯と平安時代の灰釉陶器椀と須恵器甑が出土している。須恵器甑は同時代の羽釜と比較すると倍近くの容量を持つ大きな煮沸器である。出土例は多くない。古墳時代の土師器杯は、南に接する16号竪穴建物を含め、多くの古墳時代の竪穴建物があるので混入したものと考えたい。

所見　１区Ａの北端に位置する。同じ狭い調査区南側に15号竪穴建物・16号竪穴建物が調査されている。いずれの建物も大半が調査区外になる。幅20㎝程の周溝が巡る。調査範囲は狭いが小さな建物であり、東西２ｍ以下の小さな建物であったものと思われれる。出土遺物から10世紀前半と考えられる。



17号竪穴建物　Ａ－Ａ′
1　黒褐色土(10YR3/2)　やや粘性あり。灰白色粒(φ５～15㎜)（FPか？)を含む。
1Ａ 黒褐色土(10YR3/2)　黒褐色土、ローム粒を加えたもの。
2　黒褐色土(10YR3/2)　粘性あり。ややしまる。
3　黒褐色土と黄褐色ロームブロックの混土。

0　1：60　2m



0　1：3　10cm

第39図　17号竪穴建物と出土遺物

18号竪穴建物(第40・42図、PL. 15～17・57・58)

位置　９区

X＝44,681～44,686　Y＝－56,033～56,037

重複　なし　　**形状**　正方形

規模　長軸4.18m　短軸4.08m　深さ0.04～0.10m

方位　N－80°－E　　**面積**　15.78㎡

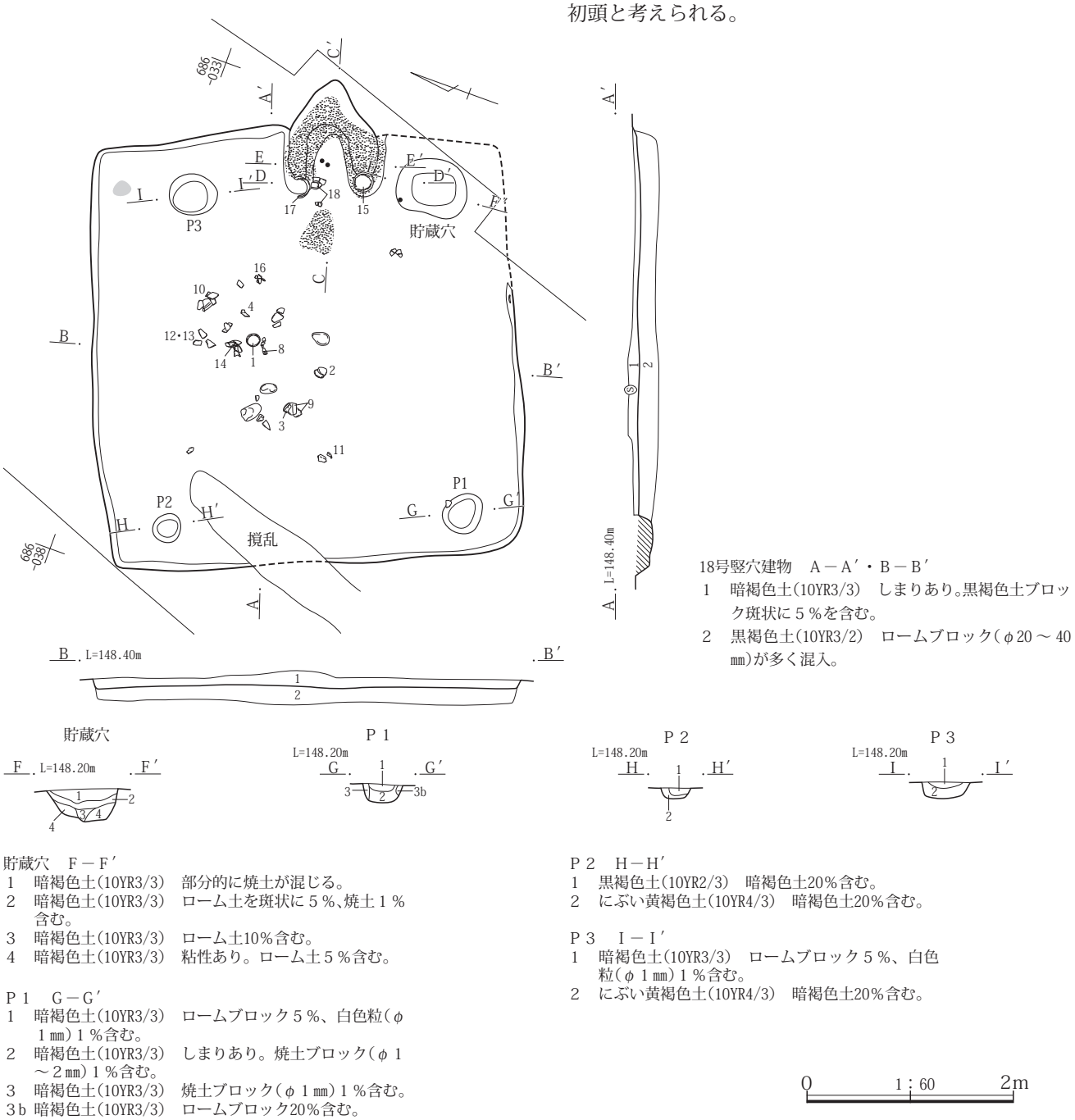
カマド　東壁中央に黄褐色土を持ち込んで構築していた。カマドの下部は残っていたが、そこから上の大部分は残っていなかった。土師器の長胴甕(15・17)が、炊口左右の袖部分に、口縁部を下に伏せた状態で出土している。両袖の芯材として、甕のまわりは、黄褐色土でおおわれており、焚口天井部や煙道部も黄褐色土を用いて作られていたものと思われる。

柱穴　Ｐ１～Ｐ３の３基。深さは10～20㎝程である。

床面　ローム塊が多量に含む黒褐色土で作られていた。

出土遺物　土師器杯・土師器鉢・土師器甕・須恵器高杯・須恵器短頸壺、須恵器脚付壺、須恵器壺が出土している。

所見　カマド右袖脇に長さ70㎝、深さ30㎝の楕円形をした貯蔵穴を検出した。遺物は建物の中央付近でまとまった状態で出土した。出土遺物から６世紀後半から７世紀初頭と考えられる。



18号竪穴建物　Ａ－Ａ′・Ｂ－Ｂ′
1　暗褐色土(10YR3/3)　しまりあり。黒褐色土ブロック斑状に５％を含む。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロック(φ20～40㎜)が多く混入。

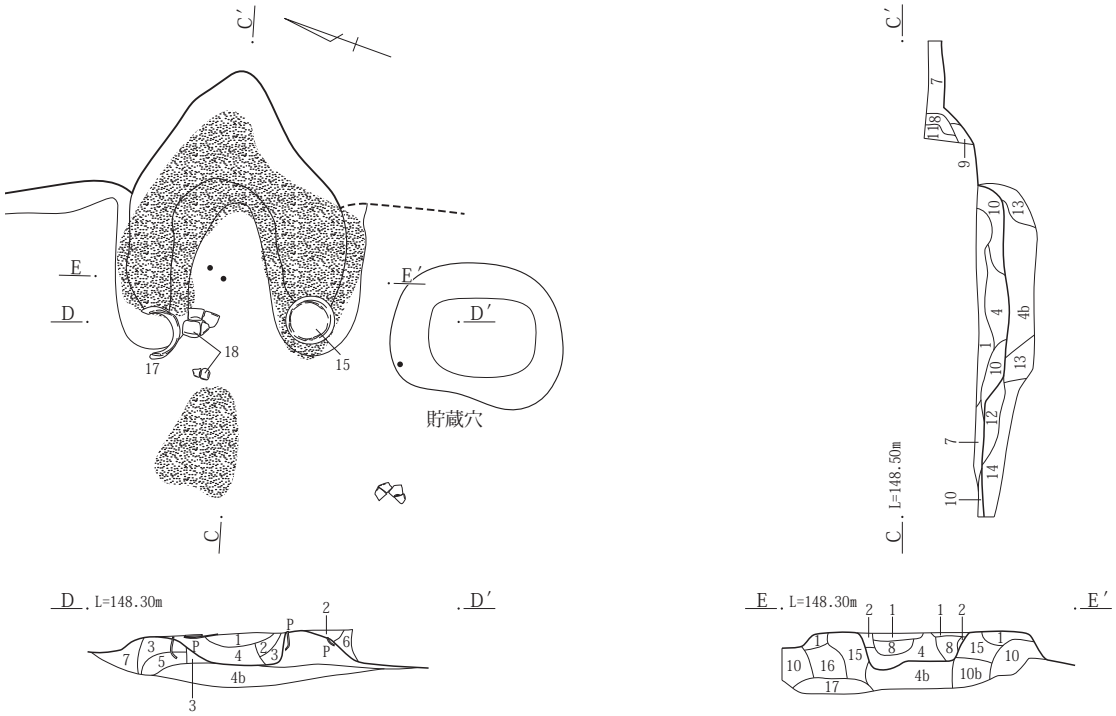
貯蔵穴　Ｆ－Ｆ′
1　暗褐色土(10YR3/3)　部分的に焼土が混じる。
2　暗褐色土(10YR3/3)　ローム土を斑状に５％、焼土１％含む。
3　暗褐色土(10YR3/3)　ローム土10％含む。
4　暗褐色土(10YR3/3)　粘性あり。ローム土５％含む。

Ｐ１　Ｇ－Ｇ′
1　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロック５％、白色粒(φ１㎜)１％含む。
2　暗褐色土(10YR3/3)　しまりあり。焼土ブロック(φ１～２㎜)１％含む。
3　暗褐色土(10YR3/3)　焼土ブロック(φ１㎜)１％含む。
3b 暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロック20％含む。

Ｐ２　Ｈ－Ｈ′
1　黒褐色土(10YR2/3)　暗褐色土20％含む。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　暗褐色土20％含む。

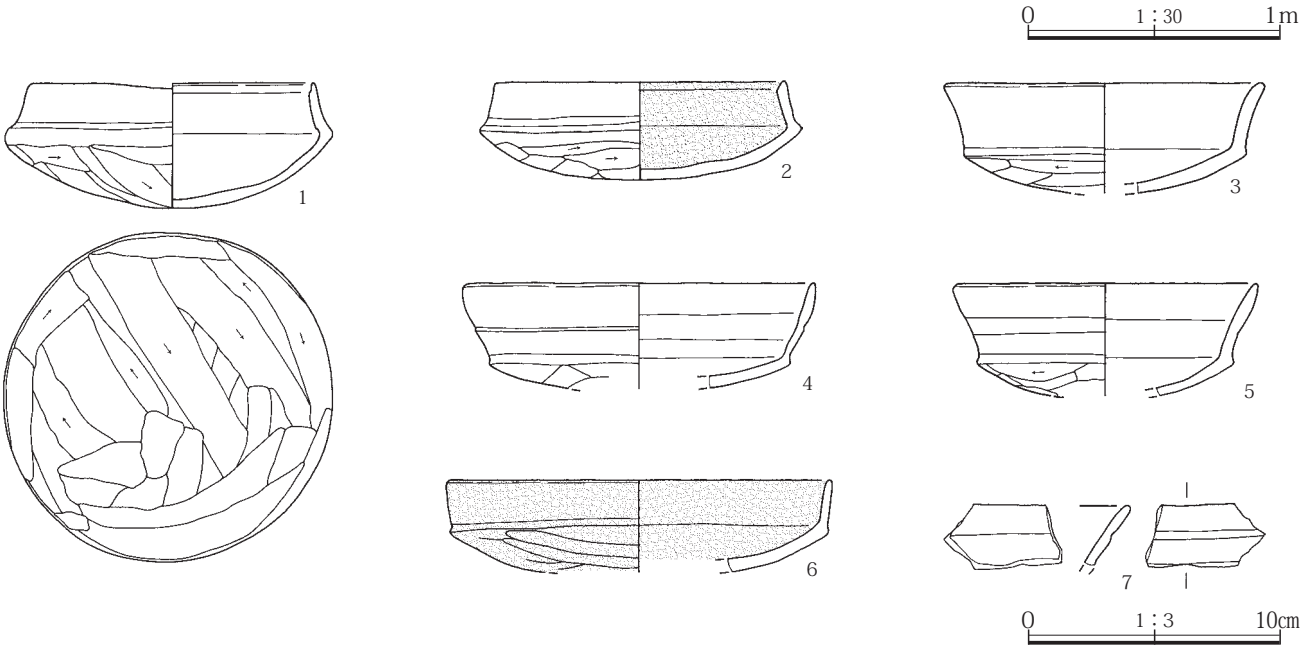
Ｐ３　Ｉ－Ｉ′
1　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロック５％、白色粒(φ１㎜)１％含む。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　暗褐色土20％含む。

第40図　18号竪穴建物

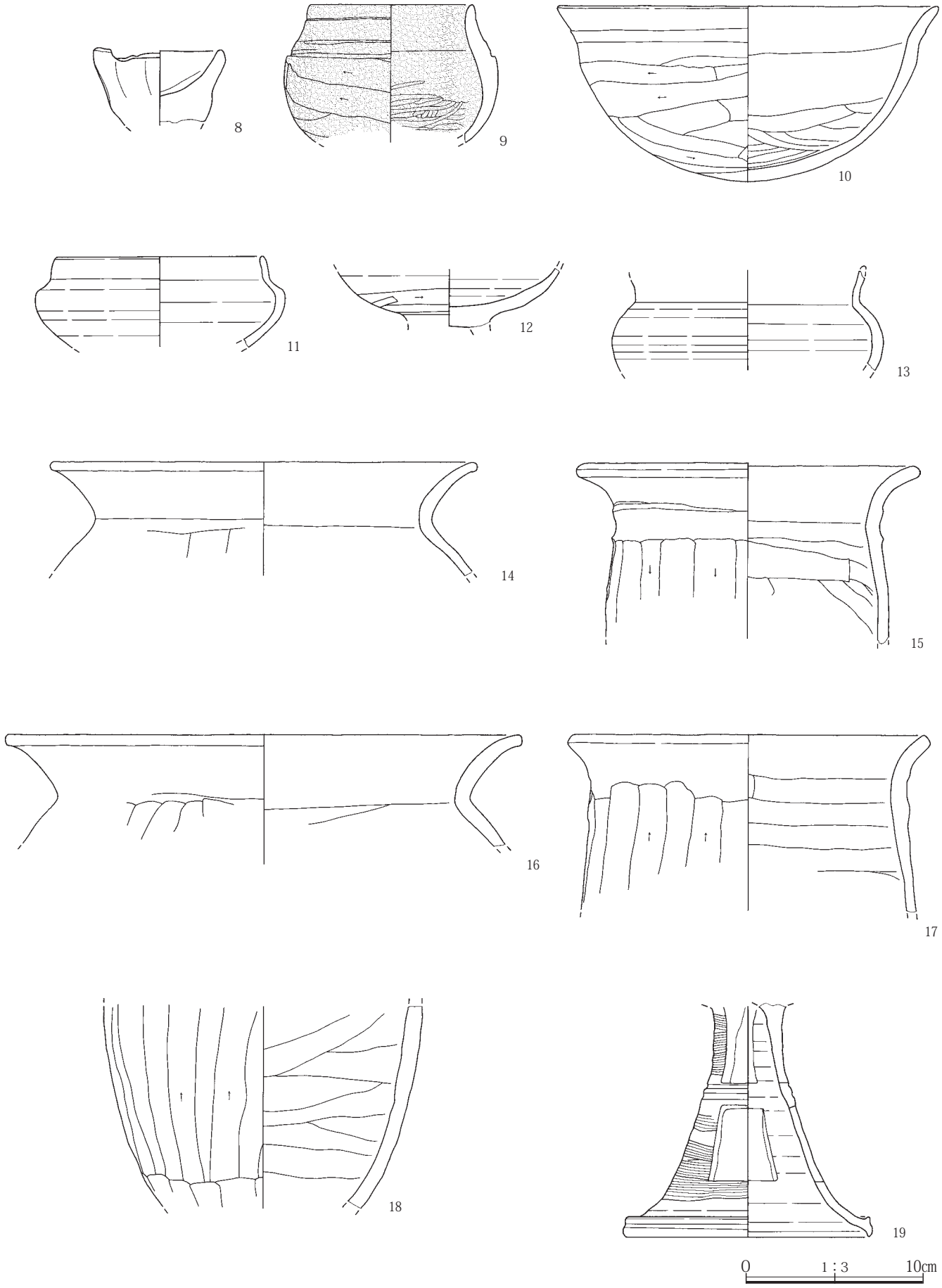


18号竪穴建物カマド　Ｃ－Ｃ′・Ｄ－Ｄ′

1　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　やや粘性。暗褐色ブロック10％、焼土ブロック５％含む。(天井の粘土)
2　灰黄褐色土(10YR5/2)　粘性あり。暗褐色ブロック10％を含む。
3　暗褐色土(10YR3/3)　土器をおさえている土。しまりあり。
4　暗赤褐色土(5YR3/2)　全体に灰を含む､暗褐色ブロック10％を含む。
4b 灰を多く含む。
5　暗褐色土(10YR3/4)　褐色ブロック５％を含む。土器の中の土。
6　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　暗褐色土10％を含む。
7　暗褐色土(10YR3/3)
8　褐灰色土(5YR4/1)　焼土が混じる。灰層。
9　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　やや粘りあり。焼土なし。
10　黒褐色土(10YR2/2)　やや粘りあり。にぶい黄褐色土10％､焼土５％を含む。
10b 黒褐色土(10YR2/2)　灰を含む。粘性にぶい黄褐色土10％を含む。
11　暗褐色土(10YR3/3)　にぶい黄褐色土10％を含む。焼土混じりの土。(煙道部の崩れか。)
12　にぶい赤褐色土(5YR4/4)　しまりあり。褐色土ブロック５％、10の土を上部に含む。
13　暗褐色土(10YR3/3)　しまりなく、柔らかい。ロームブロック10％、10の土10％含む。
14　地山
15　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　暗褐色土ブロック10％、焼土ブロック２％、炭化片１％含む。
16　暗褐色土(10YR3/3)　焼土ブロック１％、炭化片１％含む。
17　10YR4/3　にぶい黄褐色　地山の土(水性ローム土)。



第41図　18号竪穴建物カマドと出土遺物（１）



第42図　18号竪穴建物出土遺物（２）

19号竪穴建物（第43図、PL. 15・18・19）

位置　９区

X＝44,672～44,675　Y＝－56,038～56,041

形状　隅丸正方形

規模　長軸3.00m　短軸2.80m　深さ0.09～0.16m

方位　N－83°－E

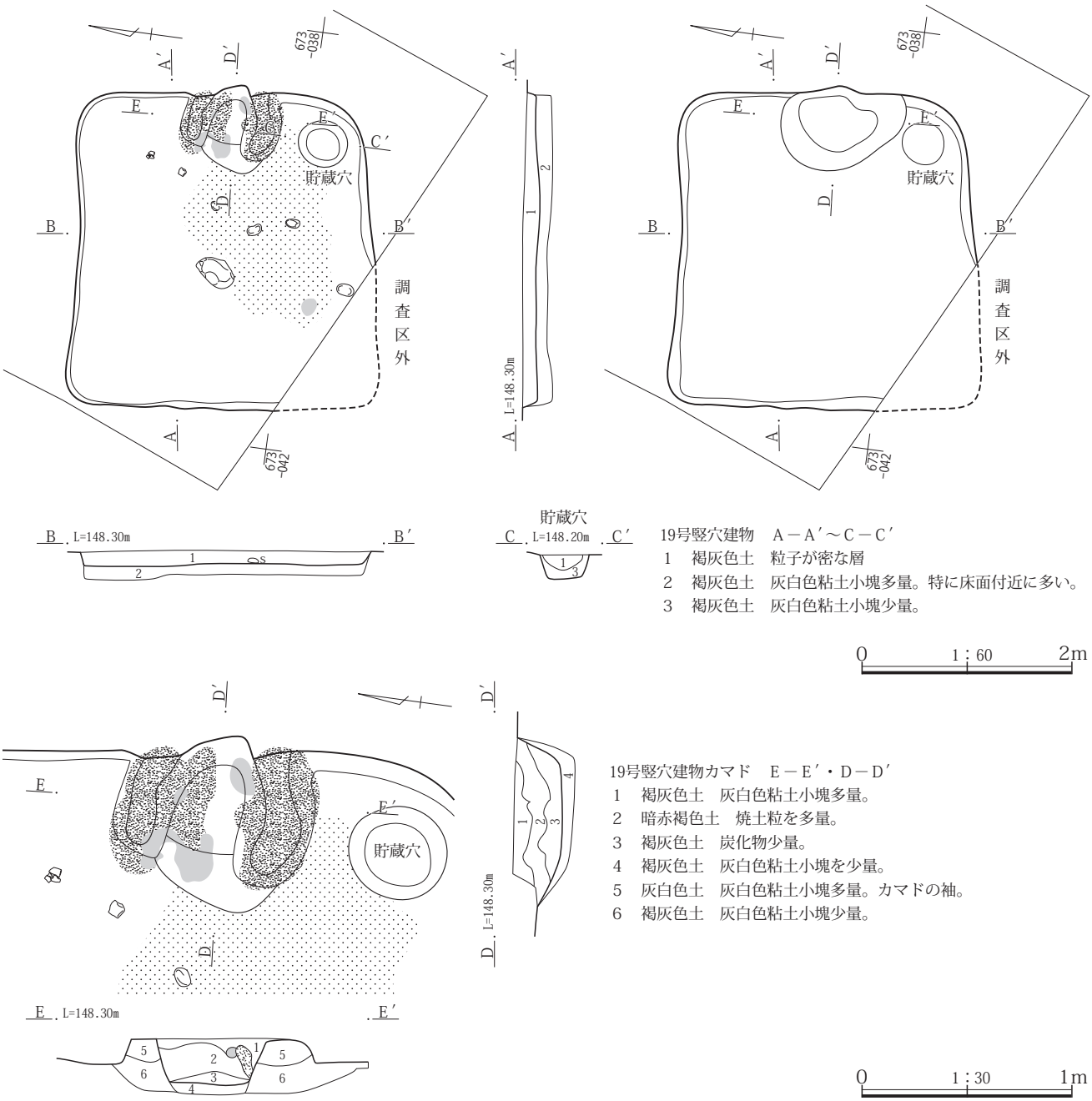
面積　（7.15）㎡

カマド　東壁中央に灰白色土を持ち込んで構築していた。燃焼部を含めた大部分は建物内に位置し、煙道は壁面外側に作られていたものと思われる。燃焼部に面した袖部分は、焼けて焼土化していた。

床面　灰白色粘土塊を含む褐灰色土で、南東部に貼り床を確認した。

出土遺物　なし

所見　規模が３m以下の小さな建物であり、東壁面にカマド、カマドの右側に貯蔵穴が掘られていた。柱穴はなし。残りのよい建物であるが、土器等の出土遺物は全くなかった。カマド右側手前床面上にカマドと同じような灰白色土が多く出土した。



第43図　19号竪穴建物・カマド

21号竪穴建物（第44～47図、PL. 19～21・58）

位置　１区－Ｅ

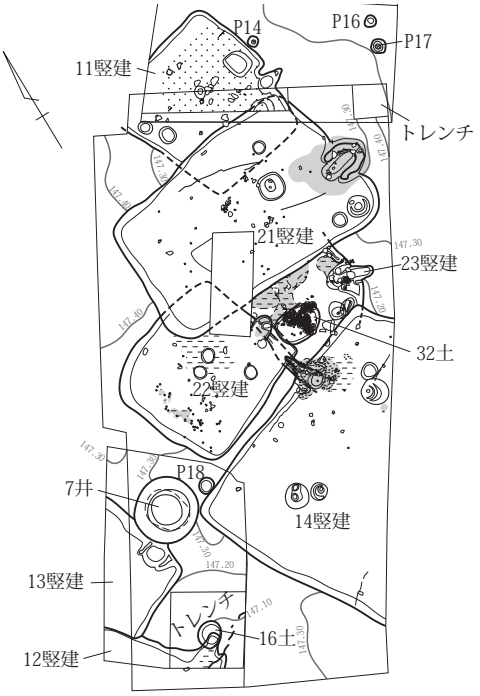
X＝44,602～44,607　Y＝－56,080～56,087

重複　４棟重複で、最も新しい時期の建物である。北側で11号竪穴建物、南東コーナー部分で22号竪穴建物、南側で23号竪穴建物と重複している。重複関係は23号竪穴建物（５世紀後半）→11号竪穴建物（６世紀後半）→22号竪穴建物（７世紀前半）→21号竪穴建物（８世紀後半）である。

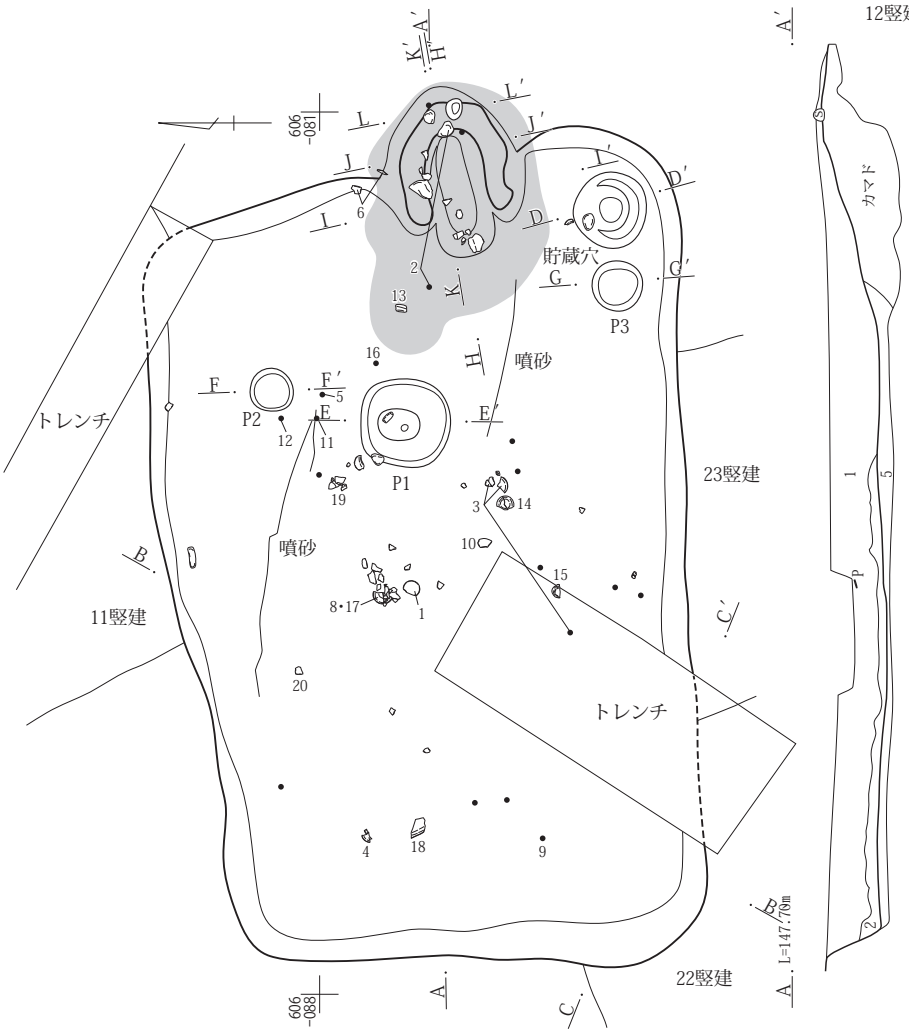
形状　東西方向に長い長方形

規模　長軸6.67m　短軸4.23m　深さ0.17～0.47m

方位　Ｎ－77°－Ｅ　　**面積**　21.94㎡

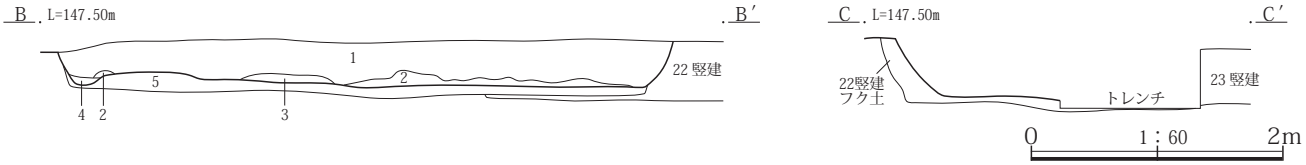


位置図



21号竪穴建物　Ａ－Ａ′・Ｂ－Ｂ′

1　４に焼土粒（φ２～50㎜）、炭化物粒（φ５㎜）多量。灰黄褐色粘土ブロック（φ10㎜）混入。
2　黒褐色土（10YR3/2）　黄褐色ローム（シルト質）が混入。
3　黄褐色シルト質ローム土と黒色灰の互層。
4　砂粒の混入多い。（壁下周溝フク土か。）
5　暗褐色砂質と灰黄褐色シルト質土の混土。



第44図　21号竪穴建物

カマド　東壁やや南寄りに構築していた。カマドの残りは良好である。カマドは地山の掘り抜きでなく、灰黄褐色粘土を持ち込んで作られている。カマド内から焼土粒の出土は多くない。

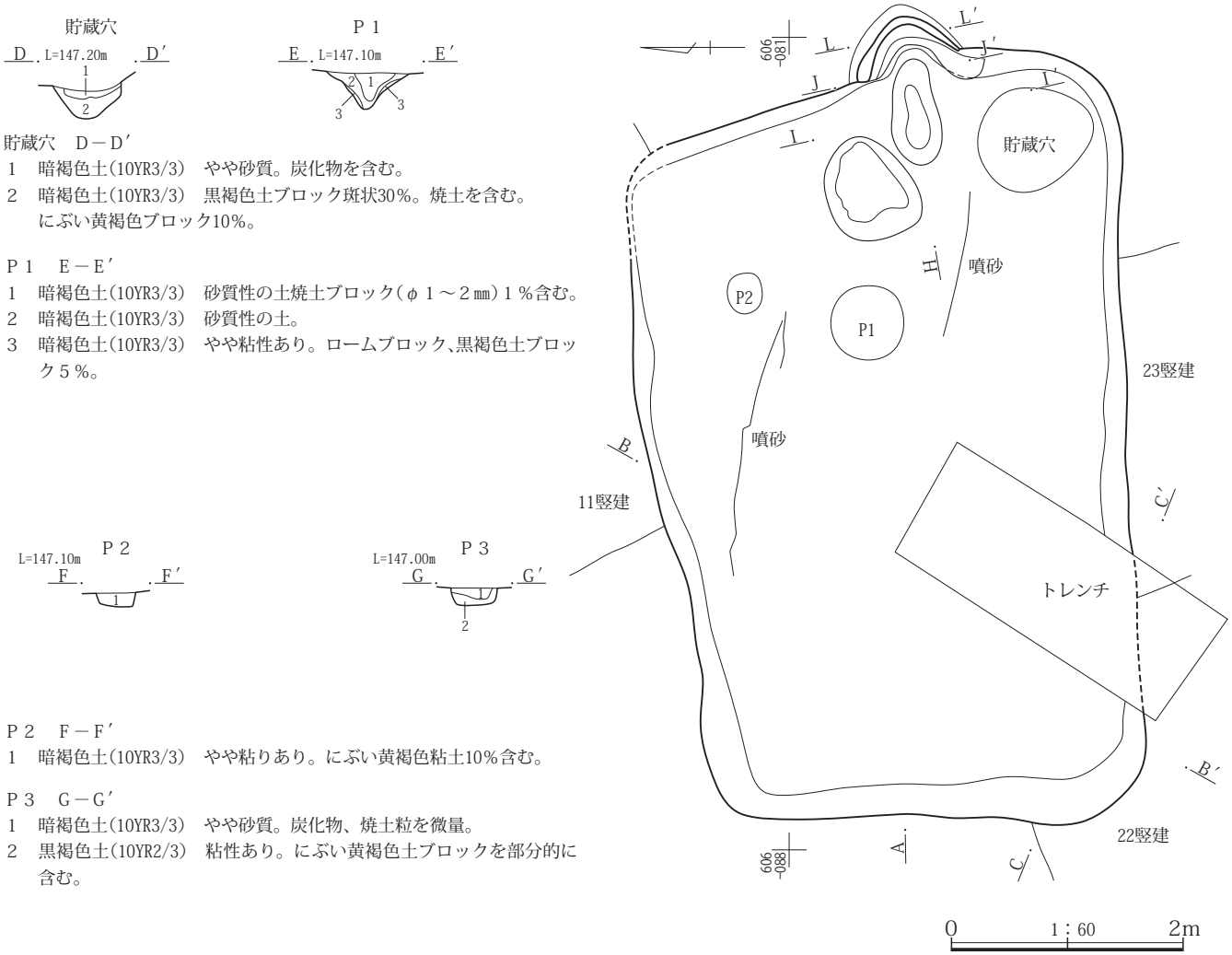
柱穴　明瞭な柱穴はない。カマド手前付近に小穴Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３が掘られていた。Ｐ１は深さ約30㎝である。

貯蔵穴　カマド右側に直径60㎝深さ25㎝の貯蔵穴が掘られていた。

床面　暗褐色土と灰黄褐色土の混土で、東西方向に走る噴砂により床面が一部壊される。

出土遺物　床面中央部付近から多くの遺物がまとまって出土している。出土遺物は丸底の土師器杯10個と甕３個、糸切後周辺回転ヘラ調整須恵器杯３個、敲石が出土している。

所見　出土遺物から８世紀第３四半期から第４四半期と考えられる。



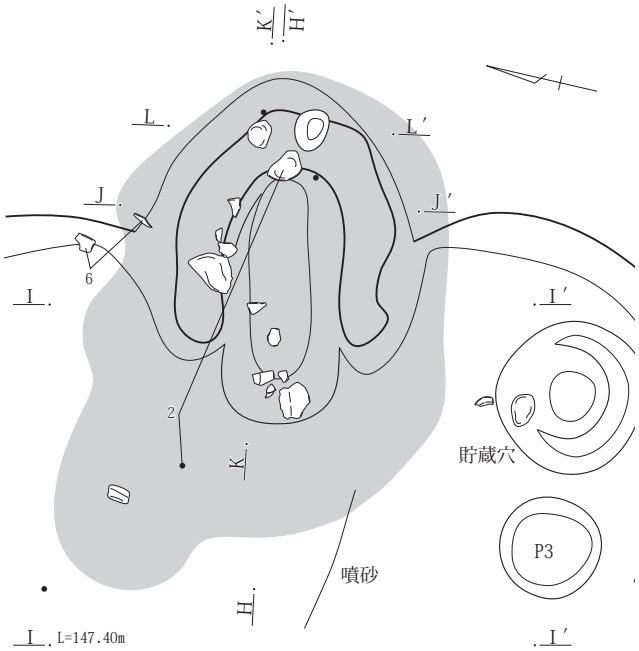
貯蔵穴　Ｄ－Ｄ′
1　暗褐色土(10YR3/3)　やや砂質。炭化物を含む。
2　暗褐色土(10YR3/3)　黒褐色土ブロック斑状30％。焼土を含む。にぶい黄褐色ブロック10％。

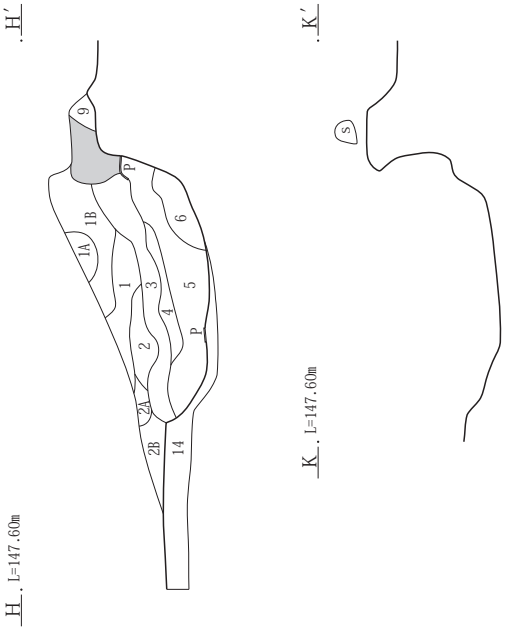
Ｐ１　Ｅ－Ｅ′
1　暗褐色土(10YR3/3)　砂質性の土焼土ブロック(φ１～２㎜)１％含む。
2　暗褐色土(10YR3/3)　砂質性の土。
3　暗褐色土(10YR3/3)　やや粘性あり。ロームブロック、黒褐色土ブロック５％。

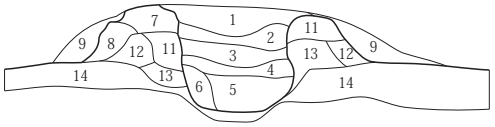
Ｐ２　Ｆ－Ｆ′
1　暗褐色土(10YR3/3)　やや粘りあり。にぶい黄褐色粘土10％含む。

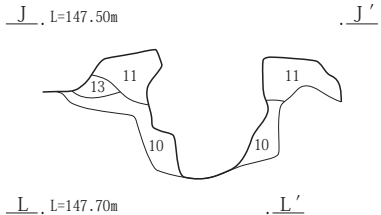
Ｐ３　Ｇ－Ｇ′
1　暗褐色土(10YR3/3)　やや砂質。炭化物、焼土粒を微量。
2　黒褐色土(10YR2/3)　粘性あり。にぶい黄褐色土ブロックを部分的に含む。

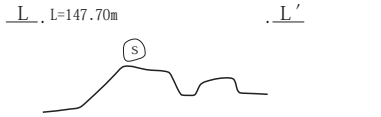
第45図　21号竪穴建物掘り方・土層断面







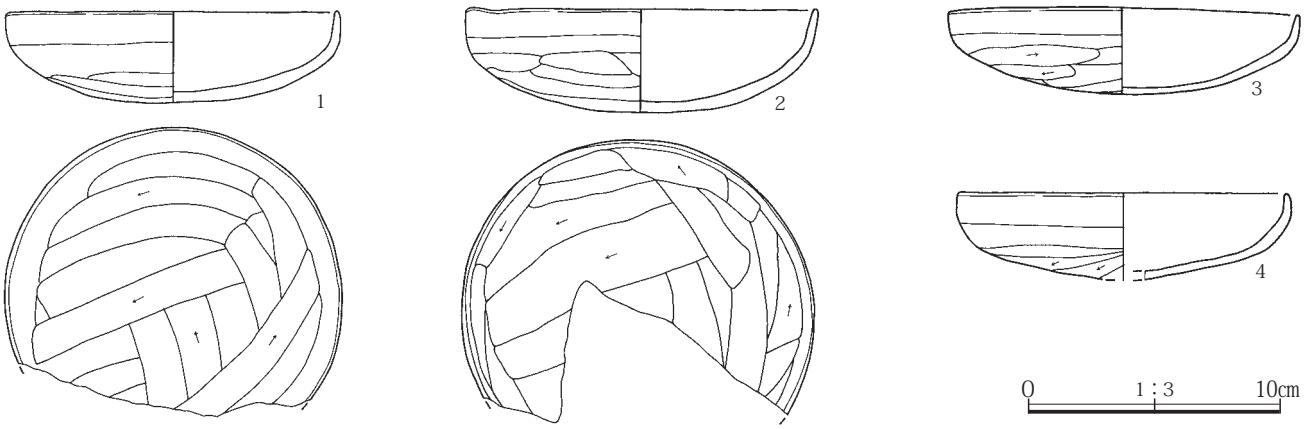




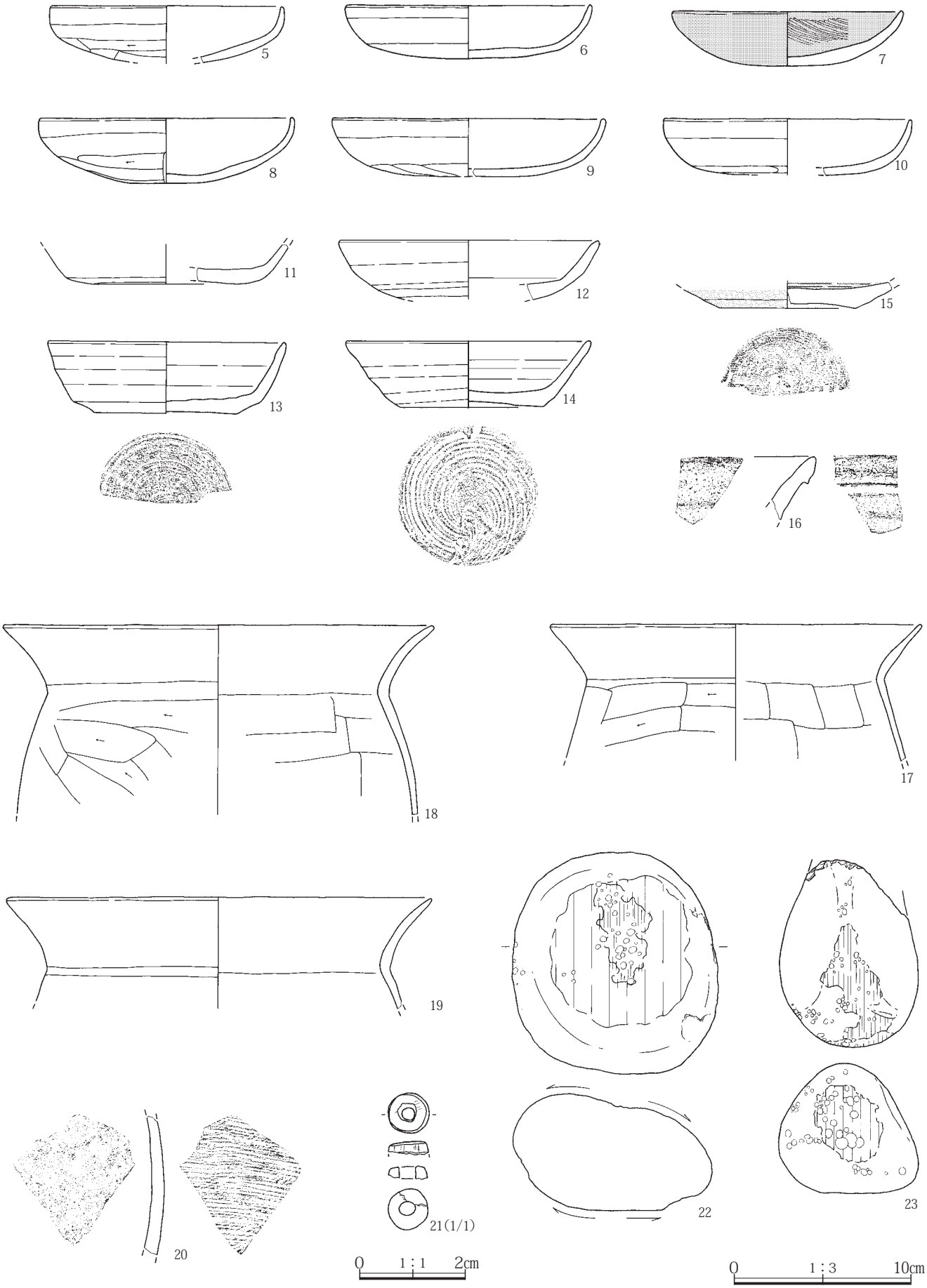
21号竪穴建物カマド　Ｈ－Ｈ′～Ｊ－Ｊ′

1　にぶい黄橙色土(10YR6/3)　にぶい黄橙色粘土を主体。焼土粒(φ２～５㎜)、炭化物(φ２～３㎜)を含む。カマドを構成する土。
1Ａ　１層に近似。焼土粒多量。
1Ｂ　１層に近似。焼土ブロック(φ30～50㎜)多量。
2　灰白色粘土主体。　焼土粒(φ２～10㎜)を含む。
2Ａ　２層に近似。　焼土粒やや多い。
2Ｂ　２層に灰褐色土塊混入。
3　にぶい黄橙色粘質土　灰白色粘土の焼土化したブロック(φ10～20㎜)を含む。
4　黒色灰主体。　焼土粒(φ２～７㎜)を含む。
5　にぶい黄橙色粘質土　焼土粒(φ５～10㎜)多量。燃焼部の崩落土か。
6　４層に近似する。焼土粒の混入少ない。
6　灰白色粘土もしくは灰を多く含む粘質土
7　にぶい黄橙色土(10YR7/3)　粘土に焼土粒(２～７㎜)が混入。
8　にぶい黄橙色土(10YR7/2)　粘土(２次堆積)又は袖の土。
9　灰黄褐色土(10YR5/2)　灰黄褐色粘土粒多量。
10　黒褐色土　焼土粒を含む。
11　灰黄褐色粘土　焼土粒を含む。
12　黒褐色土に近似。焼土粒の混入少ない。
13　灰黄褐色粘土
14　暗褐色砂質と灰黄褐色シルト質土の混土。

0　1：30　1m



第46図　21号竪穴建物カマドと出土遺物（１）



第47図　21号竪穴建物出土遺物（２）

22号竪穴状建物(第48・49図、PL. 21・22・58)

位置　１区－Ｅ

X=44,599 ～ 44,603　Y=－56,085 ～ 56,089

重複　23号竪穴物(５世紀後半)→22号竪穴建物(７世紀前半)→14号竪穴建物(７世紀後半)・21号竪穴建物(８世紀前半)→32号土坑(江戸時代)

形状　ほぼ正方形

規模　長軸3.95m　短軸3.65m　深さ0.29 ～ 0.46m

方位　Ｎ－66°－Ｅ　　**面積**　(11.55) ㎡

カマド　東壁面やや南寄りに構築していた。右袖に倒置した土師器甕を使用している。カマド内の焼土は、覆土上面に大量に残っている。燃焼部床面付近に焼土粒・炭・灰はほとんど残っていなかった。

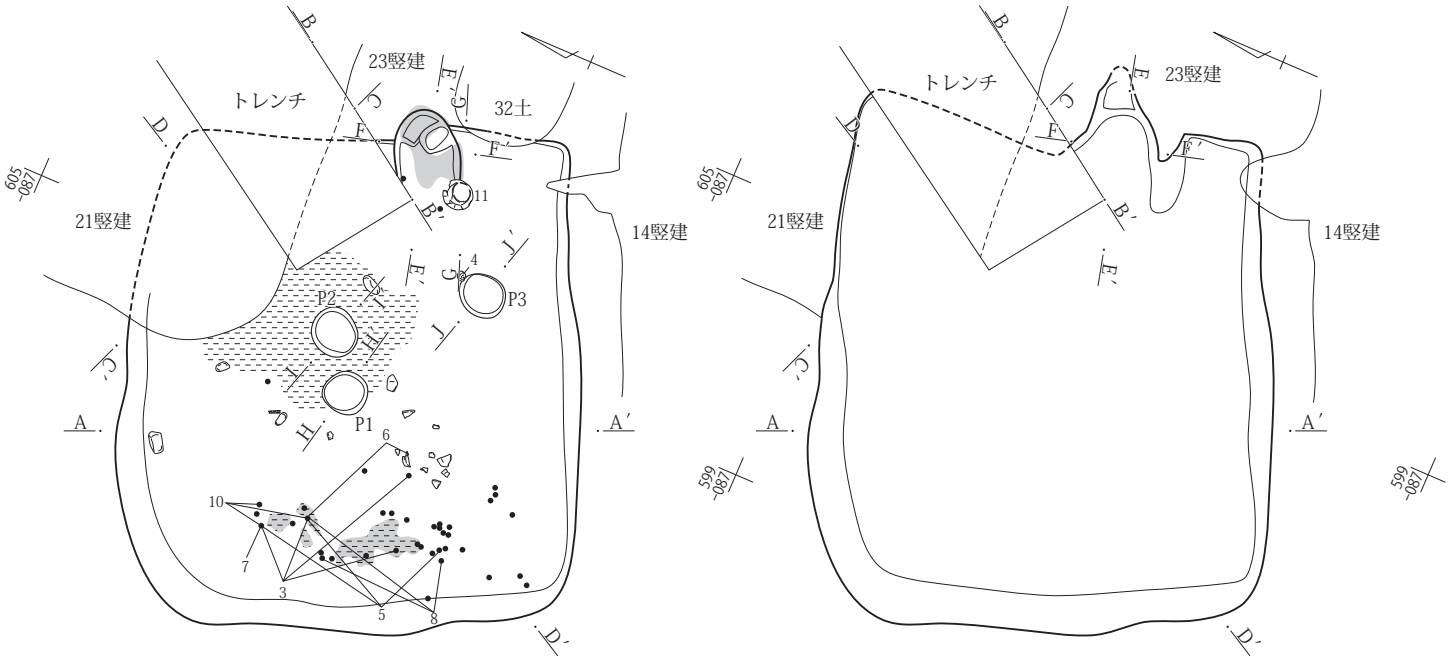
柱穴　柱穴はない。Ｐ１～Ｐ３の３基を検出した。

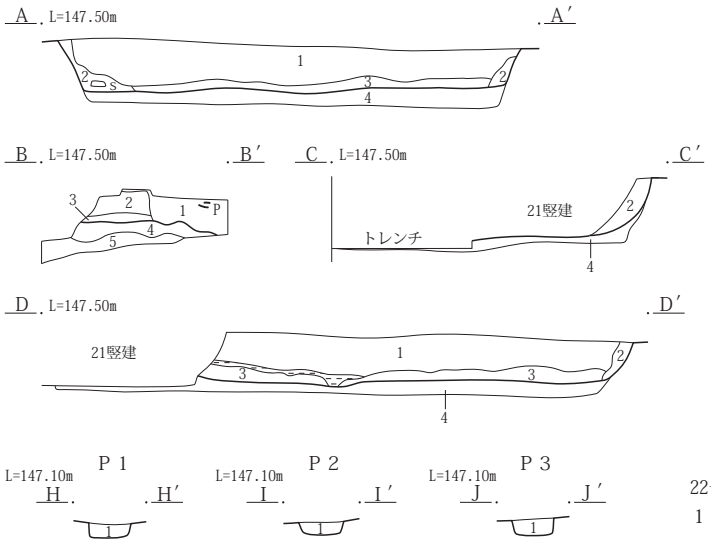
貯蔵穴　なし

床面　ほぼ平である。

出土遺物　古墳時代と奈良時代の土師器杯が混在。

所見　カマドと反対側の西床面付近から多くの遺物が出土している。袖に使われている甕の年代から古墳時代７世紀前半の建物と思われる。





22号竪穴建物　Ａ－Ａ′・Ｃ－Ｃ′・Ｄ－Ｄ′

1　黒褐色土(10YR3/2)　砂質土。φ５～15㎜の砂礫多量。
2　砂礫層の２次堆積土
3　黒褐色土(10YR3/2)　１層に近似。１層より砂礫の混入少ない。
4　暗褐色砂質と灰黄褐色シルト質土の混土。

22号竪穴建物　Ｂ－Ｂ′

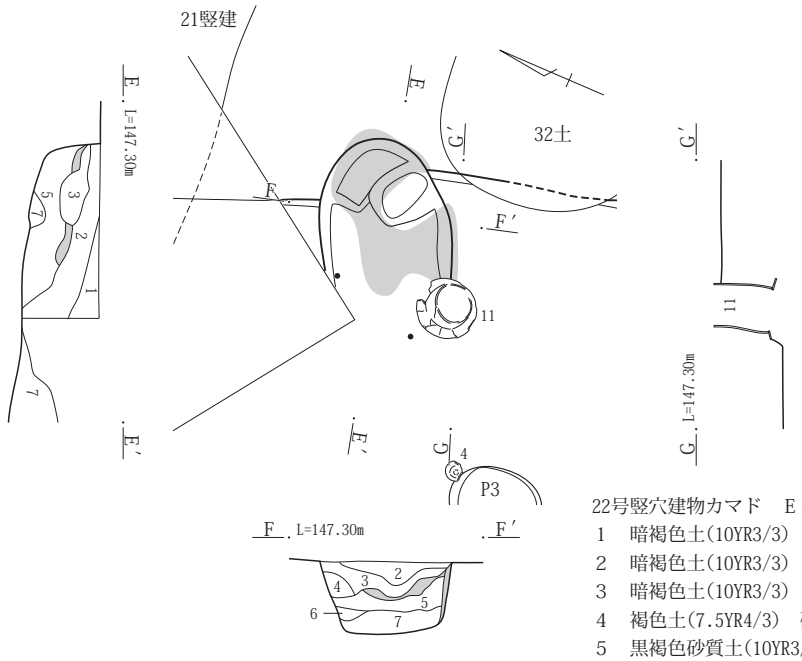
1　黒褐色土(10YR3/2)　砂質土。φ５～15㎜の砂礫多量。
2　暗褐色土(10YR3/3)　焼土５％、粘土質の土を含む。
3　暗赤褐色土(5YR3/2)　やや粘性あり。焼土ブロック(φ２～３㎜)５％。
4　黒褐色土(10YR3/1)　やや粘性あり。焼土ブロック(φ１㎜)１％。
5　カマド構築材の部分。

22号竪穴建物Ｐ１～Ｐ３　Ｈ－Ｈ′～Ｊ－Ｊ′

1　黒褐色砂質土(10YR3/2)

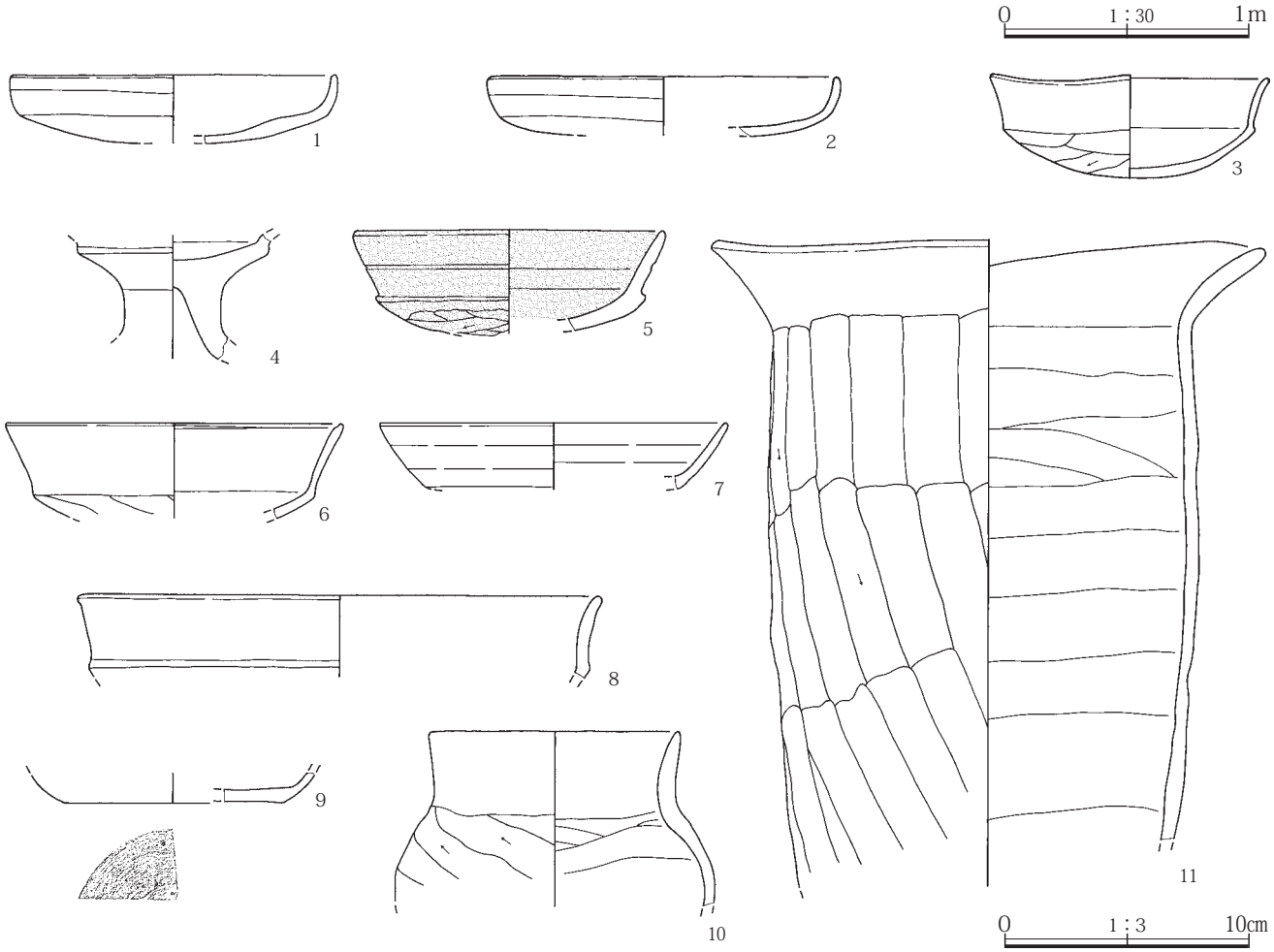
0　1：60　2m

第48図　22号竪穴建物



22号竪穴建物カマド　Ｅ－Ｅ′・Ｆ－Ｆ′

1　暗褐色土(10YR3/3)　焼土を含む土。
2　暗褐色土(10YR3/3)　下部に炭化物を含む。
3　暗褐色土(10YR3/3)　砂質性の土を多く含む。
4　褐色土(7.5YR4/3)　砂質の土。にぶい黄褐色の粘土を斑状に含む。
5　黒褐色砂質土(10YR3/2)　褐色粘質土ブロック混入。
6　黒褐色土(10YR3/2)　砂質土。焼土粒等含まない。
7　灰黄褐色土(10YR4/1)　焼土粒(φ２～30㎜)、炭化物(φ５㎜)混入。



第49図　22号竪穴建物カマドと出土遺物

23号竪穴建物(第50～54図、PL. 23～25・59～62)

位置　１区－Ｅ

X＝44,601～44,603　Y＝－56,082～56,085

概要　23号竪穴建物(５世紀後半)は北側に21号竪穴建物(８世紀前半)、西側に22号竪穴建物(７世紀前半)、南側に14号竪穴建物(７世紀後半)と４棟重複しており、その中で最も古い竪穴建物である。深さは４棟とも標高147m前後であり、床面の深さはほぼ同じである。23号竪穴建物覆土は、時代の新しい北・西・南の３方向から床面の一部まで掘り込まれていた。23号竪穴建物として残っていたのは、カマドから西側床面の一部であり、東西方向2.8、南北1.98mの範囲である。カマドの残りが良好であり、燃焼部には甕が据えられた状態で残っていた。土間面には、ほぼ完形の甑や杯等が残っており、遺跡内では、最も多くの遺物を出土した建物である。

重複　４棟の竪穴建物と土坑１基の重複であり新旧関係は、23号竪穴建物(５世紀後半)→22号竪穴建物(７世紀前半)→14号竪穴建物(７世紀後半)→21号竪穴建物(８世紀前半)→32号土坑(江戸時代)である。

形状　方形と思われるが不明。

規模　長軸(2.80)m　短軸(1.98)m

深さ(0.25～0.29)m

方位　Ｎ－83°－Ｅ

面積　(5.11) ㎡

カマド　東壁南寄りに構築していた。遺跡内で最も残りの良好なカマドである。カマドの右袖には高さ27.6cmの壺(22)、左袖には長さ26.4cmの長さの甕(24)が、口縁部を下にした状態で袖の芯材として伏せられていた。両袖内側の炊口床面付近に、大きな土器片の出土はないので、天井部は粘土等で作られていたものと思われる。カマド内中央燃焼部に２個の甕が、口縁部を上にした状態で出土した。25の長甕は32.7cmでカマド中央に据えられた状態で直立している。27の長甕は長さ23cmで焚口付近に倒れこむような状態で出土した。焚口天井部の崩壊に伴い、斜めに倒れたものと思われる。

カマドは灰黄褐色シルト粘土を大量に持ち込み、カマド燃焼部や煙道部を作る。22と24の甕を左右袖の芯材として、甕の外側を灰黄褐色シルト粘土で巻いて、焚口部分を作っているようである。

カマド内部から焼土粒ブロックや炭化物が出土しているが、量は多くない。

平安時代のカマドの場合、建物が廃棄される段階で、カマド天井や袖部分を壊して、天井石や焼土粒を焚口付近に散乱させることが多く認められる。23号竪穴建物のカマド焚口部分には、焼土粒の散乱はないので、人為的にカマドを壊すことはなく、27の甕の倒れ方から自然に焚口方向に壊れたのではないだろうか。カマド内から、支脚石は、出土していない。カマドは壊されていないと思われるので、支脚石が、持ち去れてたとは考えにくいので、最初から使用されていなかったものと思われる。

柱穴　調査範囲からは確認できなかった。

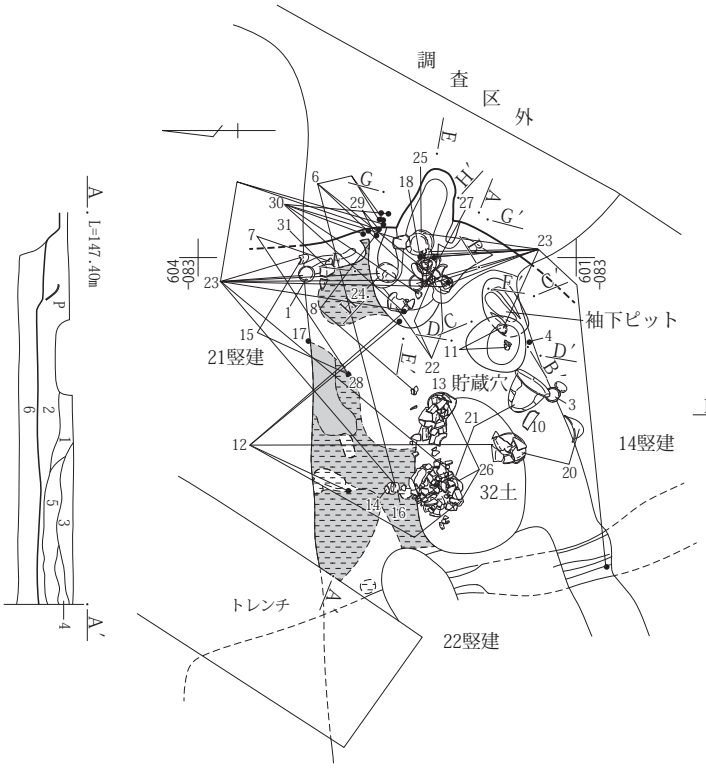
床面　全体に良好な状態で残っていた。カマド北側および床面中央部から北側に、焼土粒が残っていた。

出土遺物　建物一部の発掘調査であったが、カマド周辺とカマド手前部分を発掘調査することができ、良好な状態で多くの遺物を確認することができた。他の多くの建物と異なり、土器類の多くが残された状態で住居が廃棄されていたものと思われる。出土した土器を分類すると、当時の土器の種類を知る貴重な資料となりそうである。

カマド内から出土した25・27の甕は大小２個のセットである。カマドの袖に使われている土器は、甕(22・24)である。カマド右側の床面状に、大小２個のほぼ完形の甑が置かれたような状態で出土している。これまでの調査で、大小の甑がそろって出土する例は西側に近接する内堀Ⅳ遺跡Ｈ21で確認されているが、調査例は多くない。壺も大小が出土しており、大小の甕・壺・甑等が使い分けられていたようである。

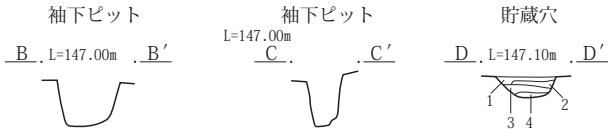
杯類に関しては出土数が少なく、21号竪穴建物のようにまとまった出土はない。

所見　３棟の竪穴建物により多くの部分を削られて調査出来た範囲は、カマドを中心として比較的狭い範囲であったが、多くの遺物を良好な状態で出土しており、多くの情報を得ることができた建物であった。出土遺物から５世紀第３四半期から第４四半期と考えられる。



23号竪穴建物　Ａ－Ａ′

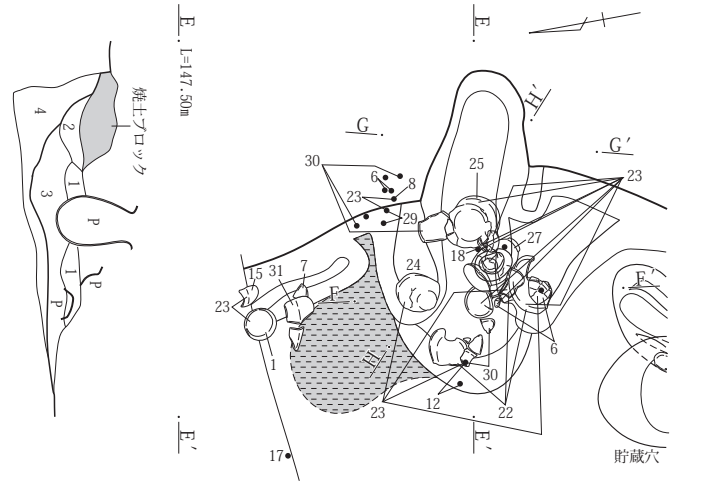
1　暗褐色土(10YR3/3)　やや粘性あり。礫(φ２～３㎜)５％。
2　暗褐色土(10YR3/3)　やや粘りあり。礫(φ２～３㎜)少量。下部に灰黄褐色土、焼土を含む。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　粘性あり。焼土や炭化物を斑状に含む。住居とは関係性は不明。
4　暗褐色土(10YR3/3)　下部に炭化物を含む。
5　暗褐色土(10YR3/3)　炭化物混入。
6　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　暗褐色をブロック状に20％。



23号竪穴建物貯蔵穴　Ｄ－Ｄ′

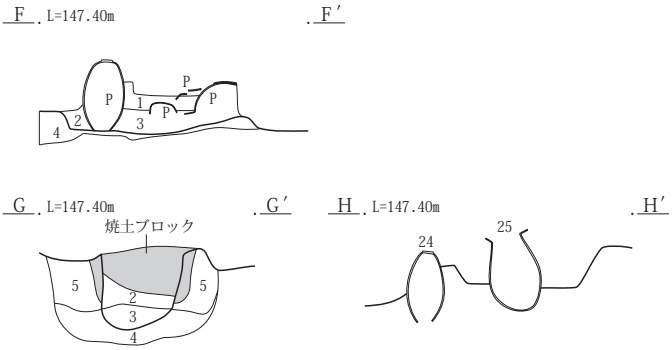
1　暗褐色土(10YR3/3)　焼土ブロック、礫を少量含む。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　焼土少量。砂質性の中に粘土を斑状に含む。
3　黒褐色土(10YR3/2)　砂質性の層。
4　黒褐色土(10YR2/2)　粘性の土。

0　1：60　2m



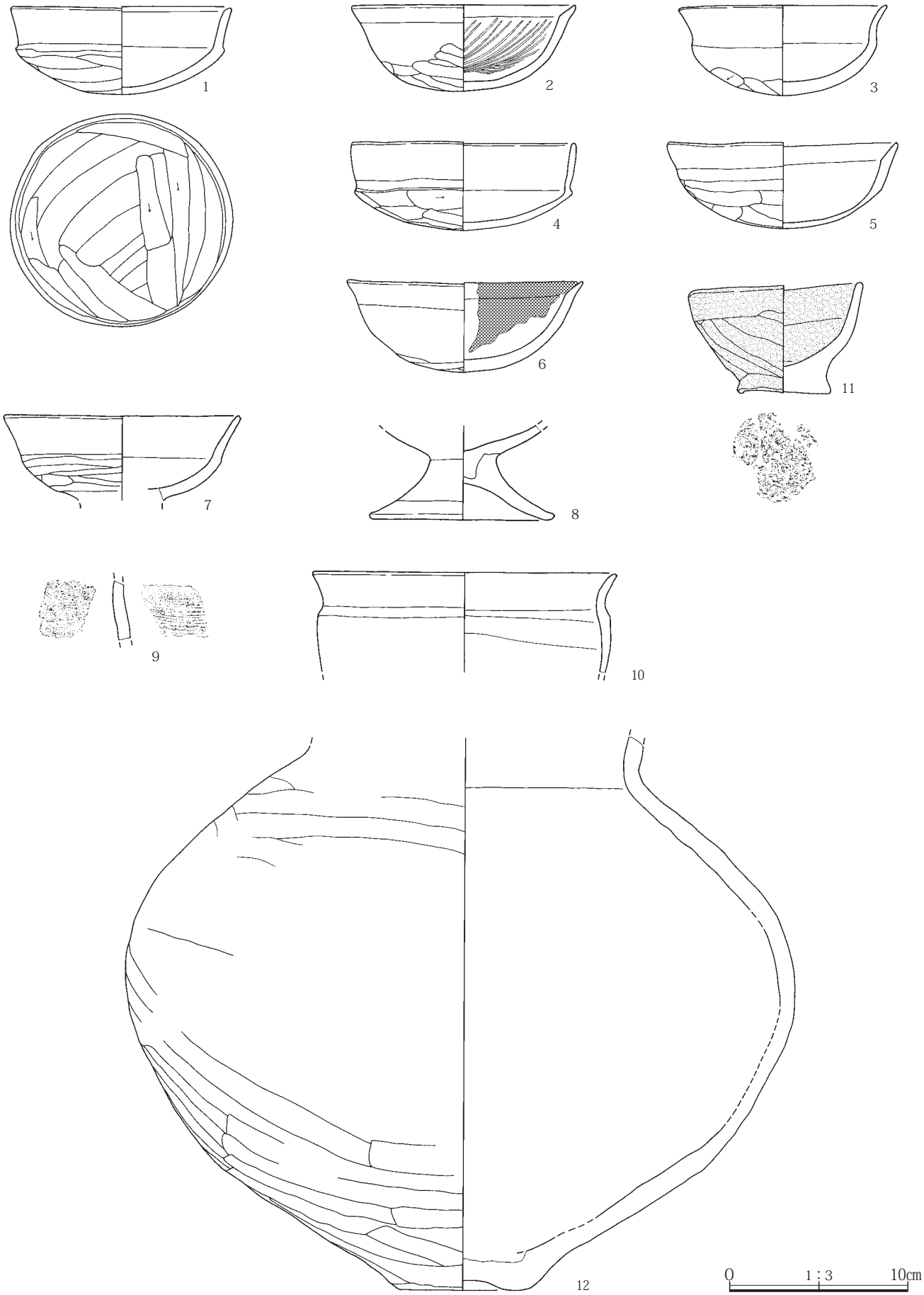
23号竪穴建物カマド　Ｅ－Ｅ′～Ｇ－Ｇ′

1　灰黄褐色土　下部が焼土化している。(持ち込まれた粘質土)
2　にぶい黄橙色土　１層に近い土層。焼土粒含む。
3　黒褐色土　黄褐色の小ブロックと焼土粒を含む。
4　褐灰色土　少量の焼土粒含む。(地山層)
5　灰黄褐色土　１層に近い粘土質層。(持ち込まれた粘質土)

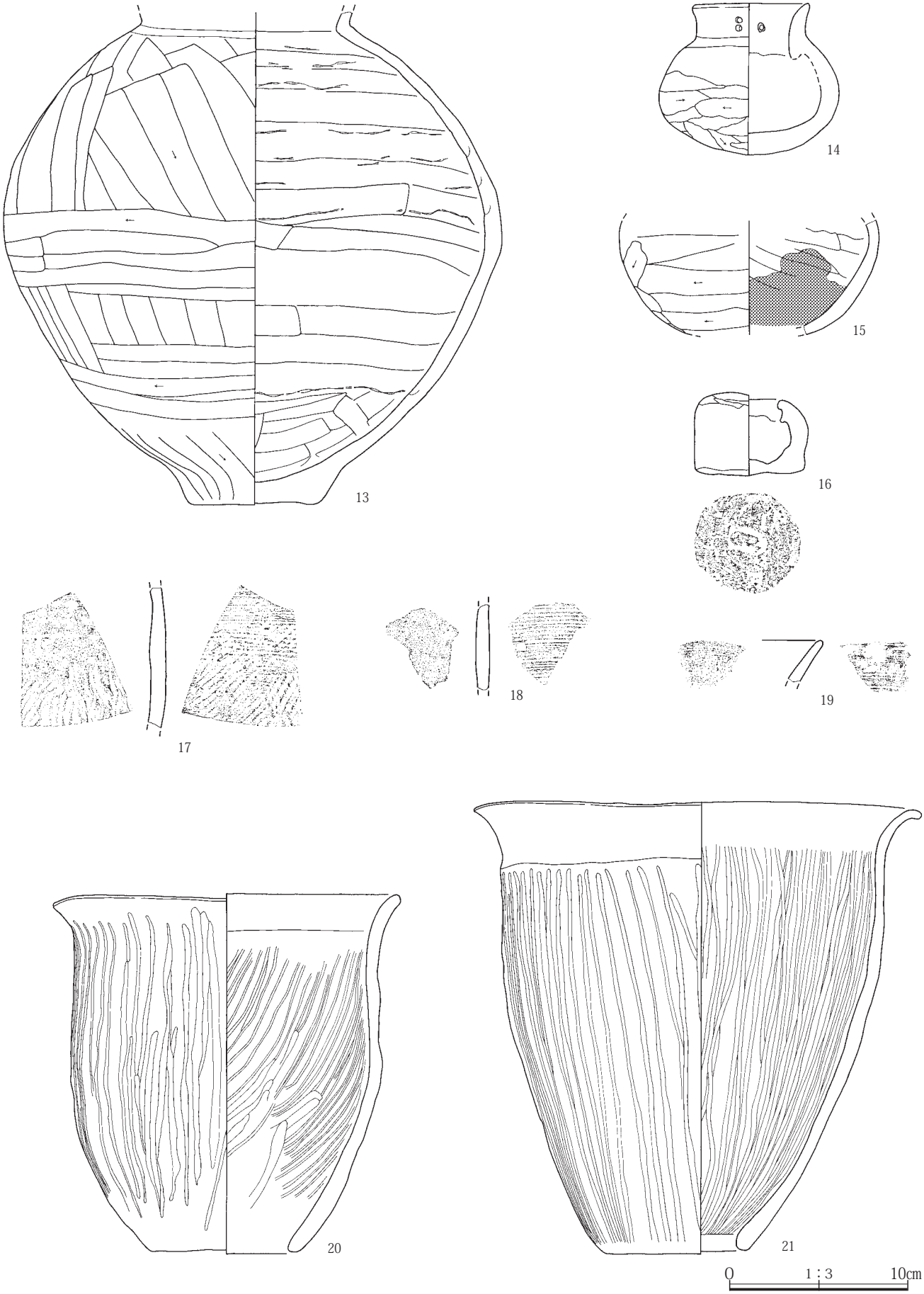


0　1：30　1m

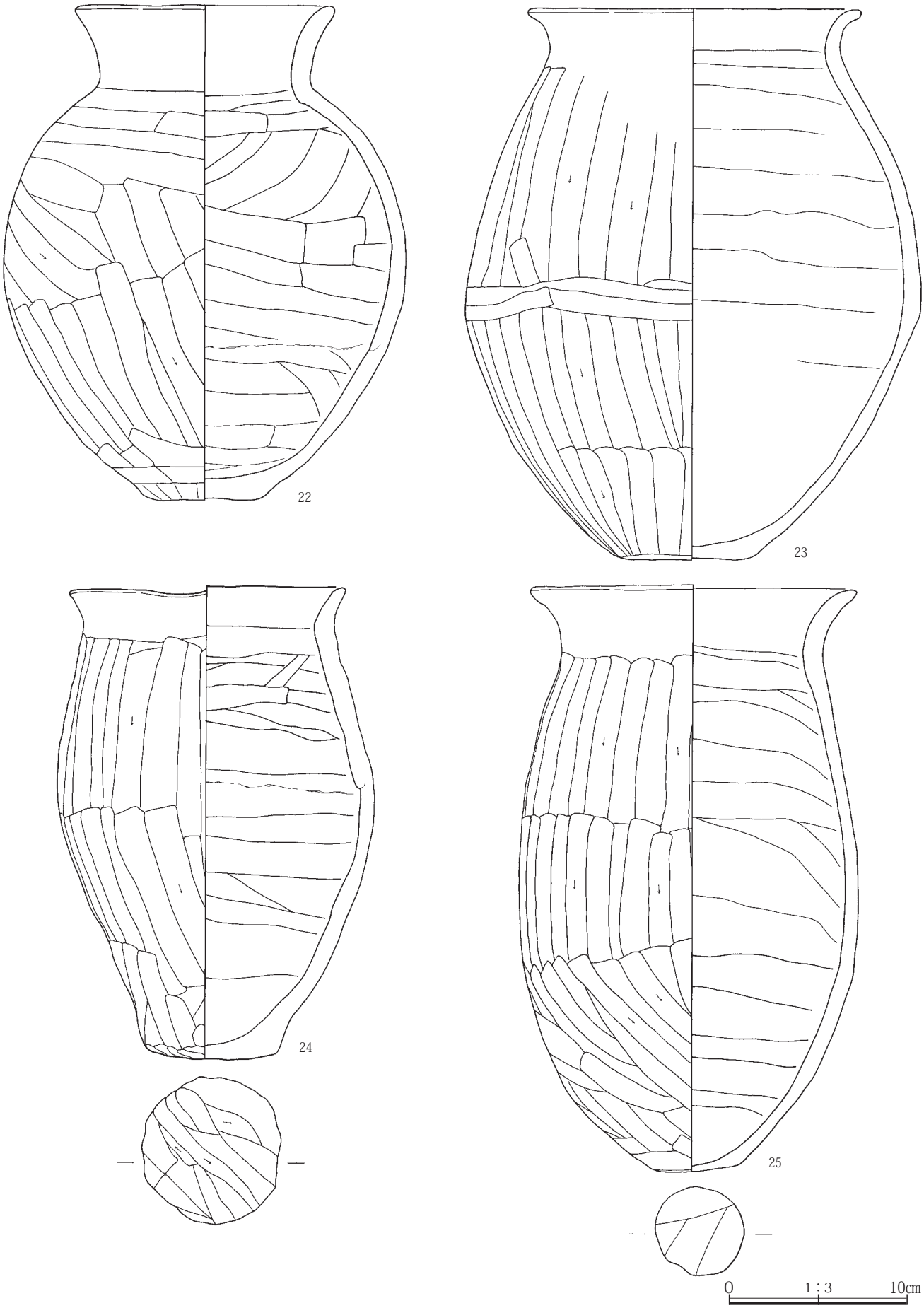
第50図　23号竪穴建物・カマド



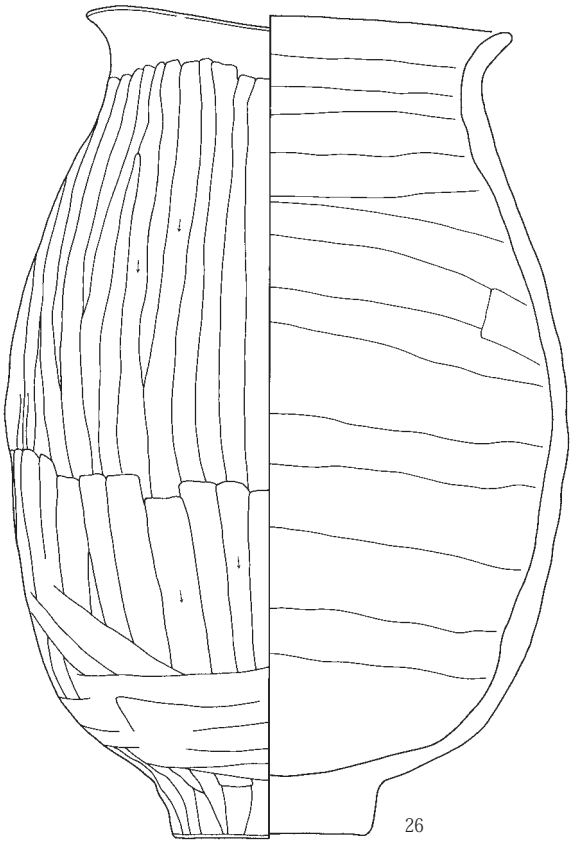
第51図　23号竪穴建物出土遺物（１）

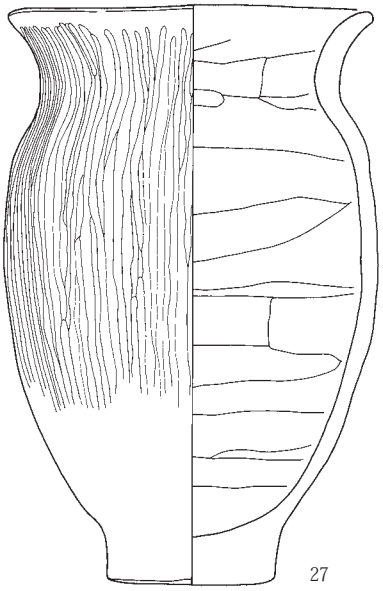


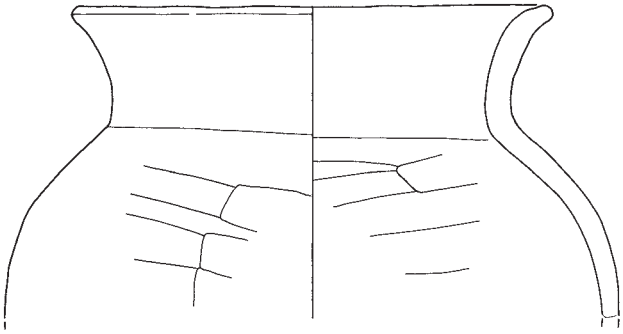
第52図　23号竪穴建物出土遺物（２）

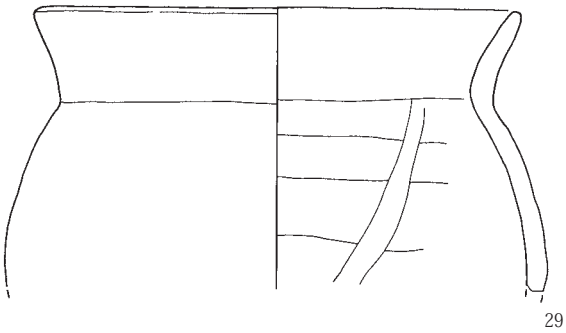


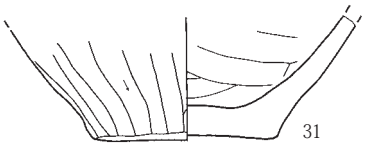
第53図　23号竪穴建物出土遺物（３）

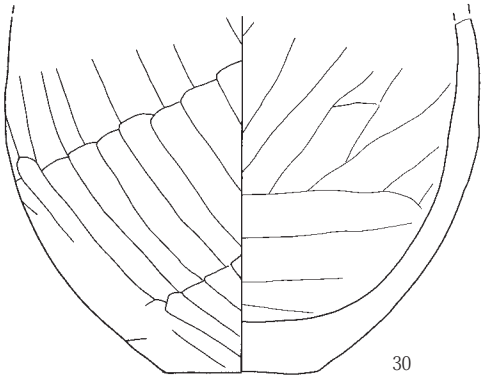


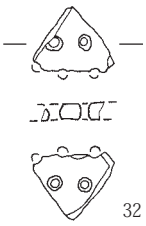












0　1：3　10cm

第54図　23号竪穴建物出土遺物（４）

24号竪穴建物(第55図、PL. 26)

位置　１区－D

X＝44,630 ～ 44,632　Y＝－56,081 ～ 56,063

重複　なし

規模　長軸(2.45)m　短軸(2.00)m

深さ(0.21 ～ 0.29)m

方位　N－20°－W

面積　(2.56) ㎡

カマド　未確認　　**柱穴**　未確認

床面　良好でない。　　**出土遺物**　なし

所見　調査範囲の狭い竪穴建物である。出土遺物もなく、詳しい内容は不明である。

25号竪穴建物(第56図、PL. 26)

位置　１区－D

X＝44,627 ～ 44,628　Y＝－56,064 ～ 56,065

重複　重複関係から27号竪穴建物(６世紀～７世紀)→25号竪穴建物(時期不明)→26号竪穴建物(時期不明)と思われる。

規模　長軸(1.55)m　短軸(0.90)m

深さ(0.18 ～ 0.24)m

方位　N－62°－W

面積　(1.17) ㎡

カマド　未確認　　**柱穴**　未確認

床面　良好でない。　　**出土遺物**　なし

所見　調査区南東コーナー部分で確認された。

26号竪穴建物(第56図、PL. 26・27)

位置　１区－D

X＝44,627 ～ 44,629　Y＝－56,065 ～ 56,067

重複　重複関係から27号竪穴建物(６世紀～７世紀)→25号竪穴建物(時期不明)→26号竪穴建物(時期不明)と思われる。

規模　長軸(2.30)m　短軸(1.30)m

深さ(0.13 ～ 0.38)m

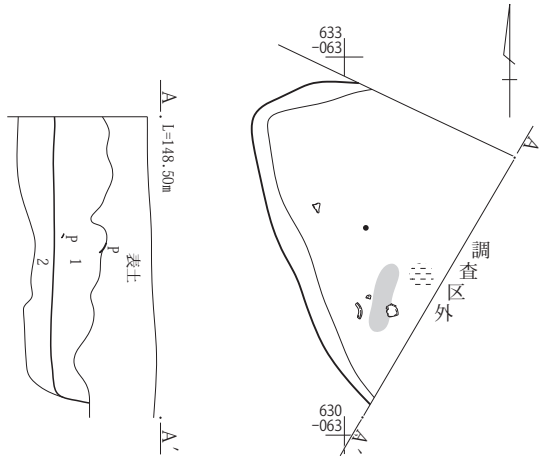
方位　N－62°－W

面積　(2.30) ㎡　　**カマド**　未確認

柱穴　未確認　　**床面**　良好に残っている。

出土遺物　なし

所見　出土遺物もなく、詳しい内容は不明である。



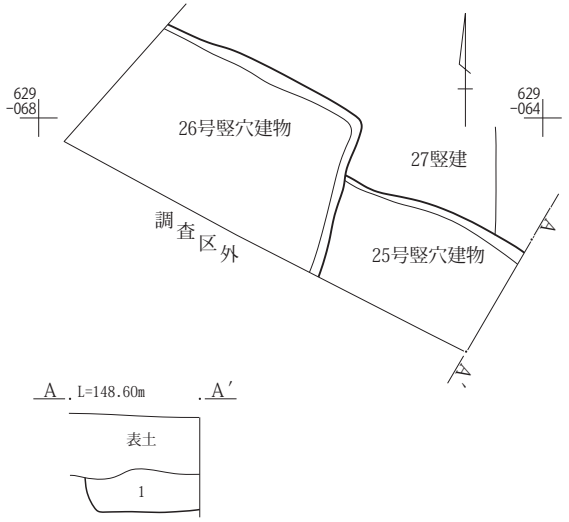
24号竪穴建物　A－A′

1　褐灰色土(10YR4/1)　砂質土。As-C軽石粒(φ５～10㎜)少量。

2　黒褐色土ブロックと砂質黄褐色土の混土。(掘り方)

0　1：60　2m

第55図　24号竪穴建物



25号竪穴建物　A－A′

1　褐灰色土(10YR4/1)　砂質性あり。小礫(φ10㎜)を含む。

0　1：60　2m

第56図　25号・26号竪穴建物

27号竪穴建物(第57・58図、PL. 26～28・62)

位置　１区－Ｄ

X＝44,627～44,632　Y＝－56,064～56,067

重複　２棟の竪穴建物と31号土坑と重複している。重複関係から27号竪穴建物(６世紀～７世紀)→25号竪穴建物(時期不明)→26号竪穴建物(時期不明)。27号竪穴建物(６世紀～７世紀)→31号土坑と思われる

規模　長軸(4.80)ｍ　短軸(3.44)ｍ

深さ(0.18～0.24)ｍ

方位　Ｎ－90°－Ｅ

面積　(8.46) ㎡

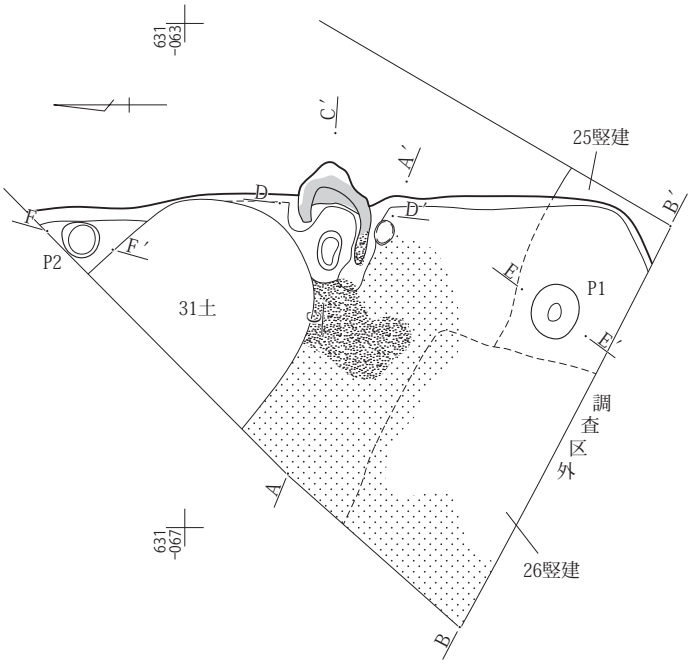
カマド　建物東壁部分に構築していた。カマドは灰黄褐色シルト粘土を大量に持込み作られている。両袖部分と奥壁部分が残っていた。燃焼部奥壁や側壁部分が焼けて多くの焼土粒粒が残っていた。燃焼部床面に少量の焼土粒と炭化物が残っていた。

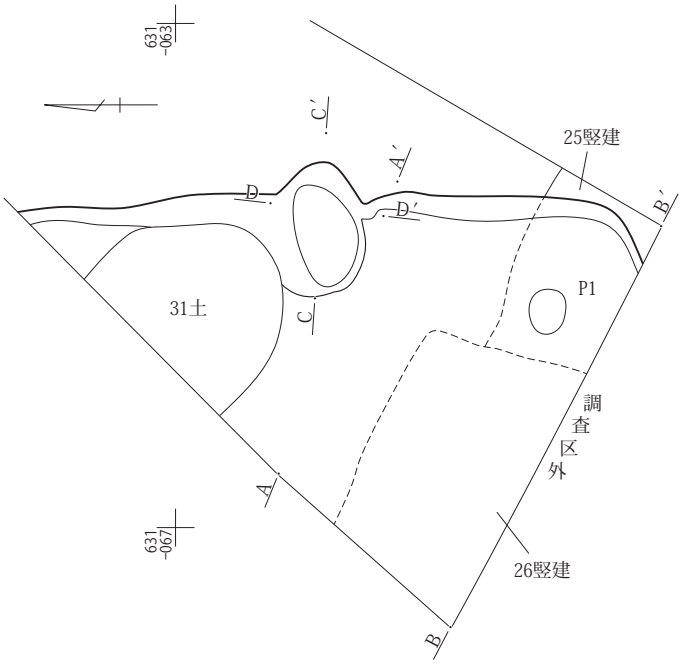
柱穴　なし。　**貯蔵穴**　カマド右側のＰ１は貯蔵穴と思われる。

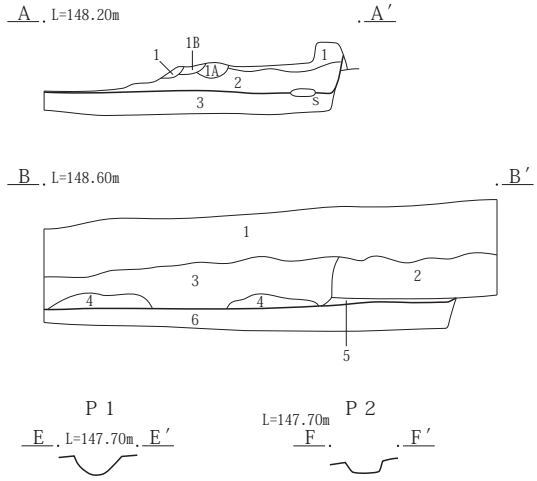
床面　カマド手前付近は、踏み固められ残りは良好であった。

出土遺物　土師器杯が出土している。

所見　出土遺物から６世紀後半から７世紀前半と考えられる。







27号竪穴建物　Ａ－Ａ′

1　褐灰色土(10YR5/1)　砂質性あり。

1Ａ 褐灰色土(10YR5/1)　砂質性あり。灰白色ローム質土多量。カマドの炉体の土か。

1Ｂ 褐灰色土(10YR5/1)　砂質性あり。焼土粒が多量。カマド焼土か。

2　１層に近似するが部分的に黒褐色土ブロック(φ20㎜)が混入。

3　黒褐色土ブロックと砂質黄褐色土の混土。

27号竪穴建物　Ｂ－Ｂ′

1　表土

2　褐灰色土(10YR4/1)　砂質性あり。小礫(φ10㎜)を含む。(25号竪穴建物覆土)

3　褐灰色土(10YR4/1)　小礫(φ10～30㎜)を含む砂質土。(26号竪穴建物覆土)

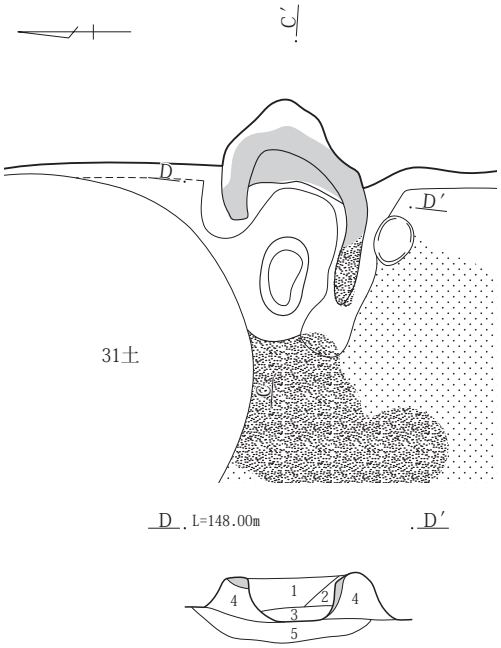
4　褐灰色土(10YR4/1)　３に近似、小礫少なく砂質性に富む。(26号竪穴建物覆土)

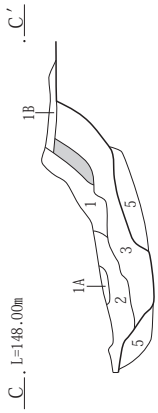
5　褐灰色土が部分的に黒褐色土ブロック(φ20㎜)が混入。

6　黒褐色土ブロックと砂質黄褐色土の混土。

0　1：60　2m

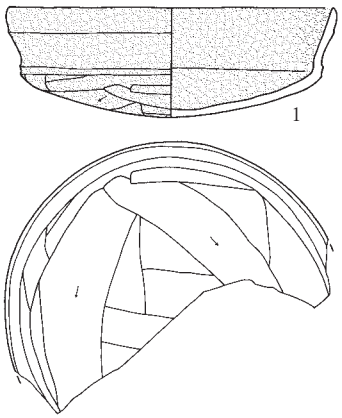
第57図　27号竪穴建物

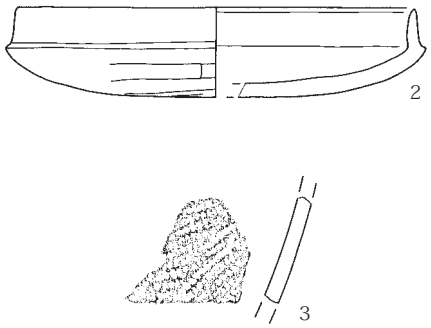




27号竪穴建物カマド　Ｃ－Ｃ′・Ｄ－Ｄ′
1　褐灰色土(10YR5/1)　焼土ブロック(微細～φ40㎜)多量。
1Ａ　１層に近似。焼土ブロック多い。
2　褐灰色土(10YR5/1)　焼土粒(φ２～４㎜)、炭化物粒(φ２～５㎜)多量。
3　褐灰色土(10YR5/1)　焼土粒(φ２～３㎜)炭化物(φ２～５㎜)少量。
4　灰黄色粘土
5　黒褐色土ブロックと砂質黄褐色土の混土。

0　1：30　1m





0　1：3　10cm

第58図　27号竪穴建物カマドと出土遺物

28号竪穴建物(第59図、PL. 29～31・62)

位置　４区

X＝44,529～44,534　Y＝－56,125～56,128

重複　なし

形状　南北方向に長い長方形と思われる。

規模　長軸(4.87)m　短軸(3.44)m

深さ(0.21～0.42)m

方位　Ｎ－10°－Ｗ

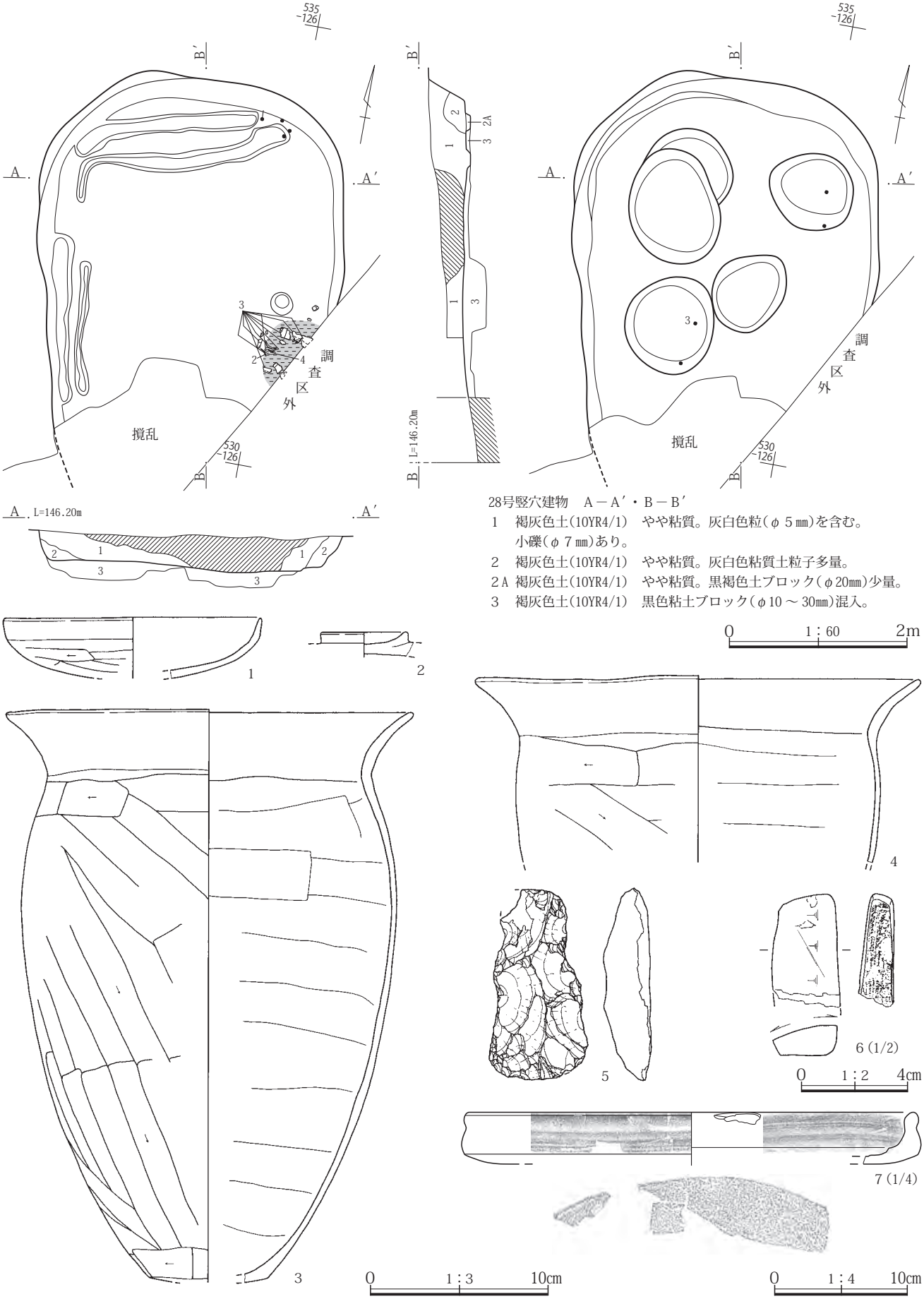
面積　(11.55) ㎡

カマド　カマドは調査範囲内にはなかった。調査出来た東壁南端の床面付近が踏み固められ、少量の焼土粒とともに多くの土師器甕の破片が出土した。この場所から東側の調査区域外の部分に、カマドがつくられていたことが考えられる。

床面　多くの遺物が出土した付近の床面は、固く踏み固められていた。床下には多くの土坑が掘られていた。

出土遺物　砥石、打製石斧、土師器杯、土師器甕が出土している。

所見　建物北と西側壁面下付近から浅い周溝状の掘り込みが確認されている。東壁面付近では確認されていない。出土遺物から建物の年代は８世紀第３四半期と思われる。



28号竪穴建物　Ａ－Ａ′・Ｂ－Ｂ′

1　褐灰色土(10YR4/1)　やや粘質。灰白色粒(φ５㎜)を含む。小礫(φ７㎜)あり。

2　褐灰色土(10YR4/1)　やや粘質。灰白色粘質土粒子多量。

2Ａ 褐灰色土(10YR4/1)　やや粘質。黒褐色土ブロック(φ20㎜)少量。

3　褐灰色土(10YR4/1)　黒色粘土ブロック(φ10～30㎜)混入。

第59図　28号竪穴建物と出土遺物

29号竪穴建物(第60図、PL. 31)

位置　４区

X＝44,536 ～ 44,541　Y＝－56,119 ～ 56,123

重複　なし　　**形状**　不明

規模　長軸3.85m　短軸3.50m

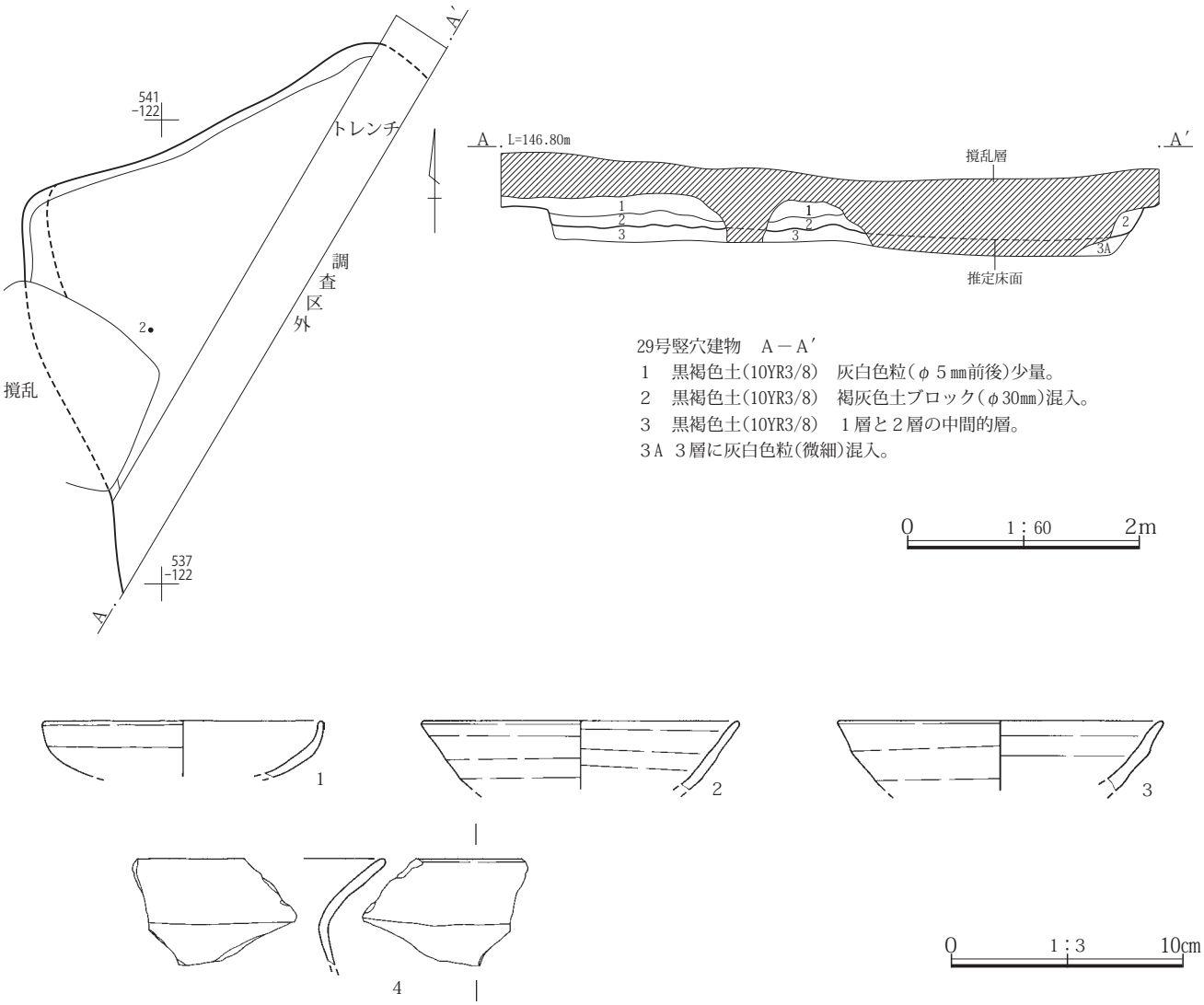
深さ(0.16 ～ 0.21)m

方位　N－16°－W

面積　(6.61) ㎡　　**カマド**　未確認

出土遺物　土師器杯、甕、須恵器杯が出土している。

所見　覆土の大部分と床面の一部が大きく撹乱を受けている残りの悪い建物である。床面の一部に重機の爪痕が残っている。出土遺物として土師器の杯や甕、須恵器の杯等が出土している。それらの年代から９世紀前半の建物であると思われる。



第60図　29号竪穴建物と出土遺物

30号竪穴建物(第61～63図、PL. 31～33・63)

位置　４区

X＝44,525 ～ 44,530　Y＝－56,128 ～ 56,133

重複　33号土坑　　**規模**　長軸5.03m　短軸4.80m

深さ(0.06 ～ 0.34)m

方位　N－80°－E　　**面積**　21.27㎡

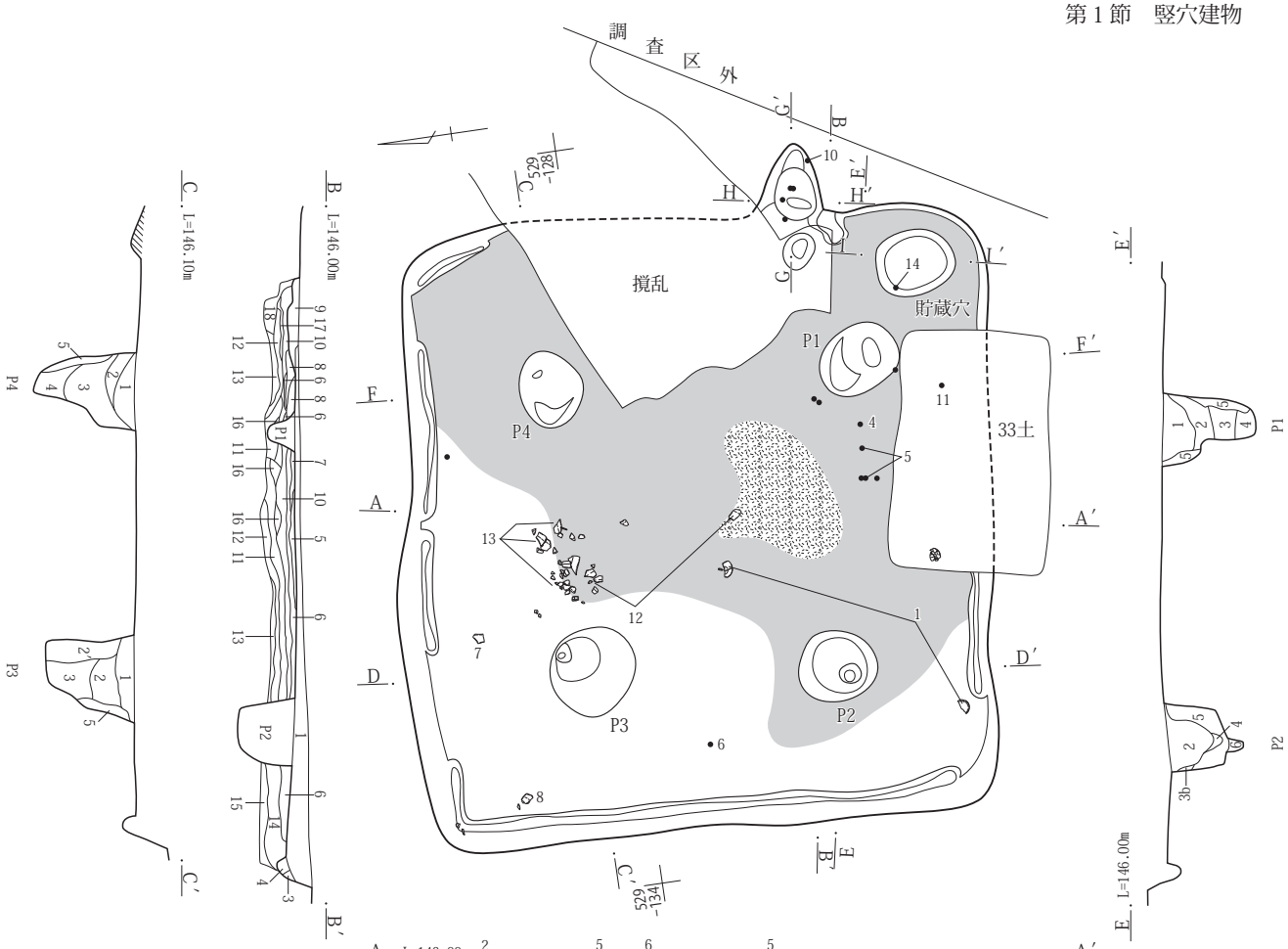
カマド　東壁南寄りに構築していた。

柱穴　Ｐ１～Ｐ４の４基を検出した。

床面　中央部分が固く踏み固められていた。

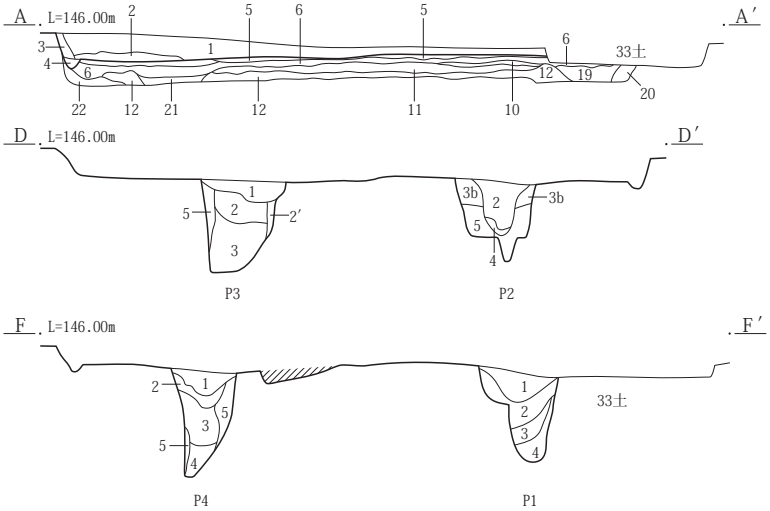
出土遺物　土師器杯、甕、台付甕、須恵器杯、鉢等を出土している。出土遺物から８世紀後半の建物と思われる。

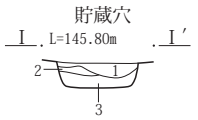
所見　14号竪穴建物に次ぐ規模を持つ建物であり、４本柱を持つ建物と思われる。覆土や建物の一部は重機により撹乱を受けている。



30号竪穴建物　Ａ－Ａ′・Ｂ－Ｂ′

1　黒褐色土(10YR3/1)　しまりあり。砂質性あり。灰白色軽石(φ２～７㎜)を含む。
2　黒褐色土(10YR3/1)　炭化物(灰)、焼土粒(φ２～５㎜)を加えたもの。
3　黒褐色土と灰白色シルトブロック(地山２次堆積)の混土。
4　黒褐色土(10YR3/1)　砂質性。しまりあり。





貯蔵穴　Ｉ－Ｉ′

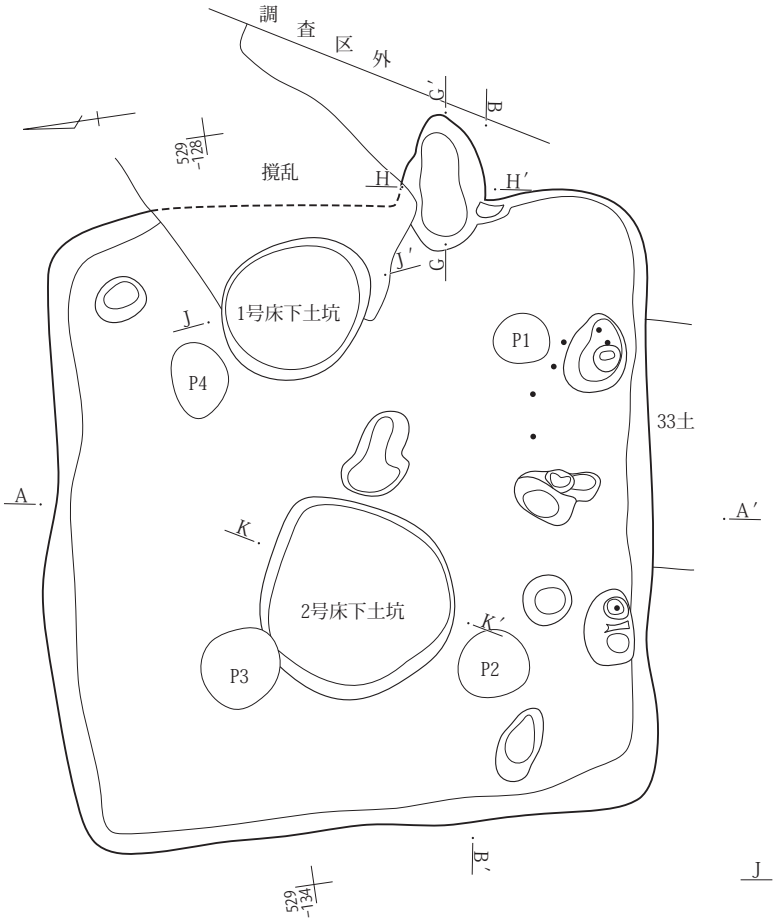
1　暗褐色土(10YR3/2)　ややしまる。焼土ブロック２％。全体に灰や炭化材を含む層。
2　黒褐色土(10YR2/1)　炭化材、灰の混土。
3　暗褐色土(10YR3/3)　ややしまる。全体に灰や焼土ブロック、炭化材少量。

30号竪穴建物Ｐ１～Ｐ４　Ｃ－Ｃ′～Ｆ－Ｆ′

1　暗褐色土(10YR3/3)　しまりあり。焼土ブロック、炭化材少量。灰褐色土を含む。
2　褐灰色土(10YR4/1)　焼土を含む。
2′褐灰色土(10YR4/1)　焼土黒色土をブロック状に含む。
3　灰褐色土(10YR4/1)　粘性あり。焼土ブロック、粘土ブロックを斑状に含む。
3b しまりあり。
4　黒褐色土(10YR3/2)　やや柔かい。灰黄褐色の砂質土をブロック状に含む。
5　灰黄褐色土(10YR4/2)　黒色土をブロック状、褐色ブロック、焼土ブロック少量。
6　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　暗褐色土をブロック状に含む。

0　1：60　2m

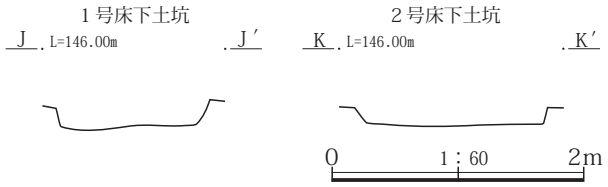
第61図　30号竪穴建物

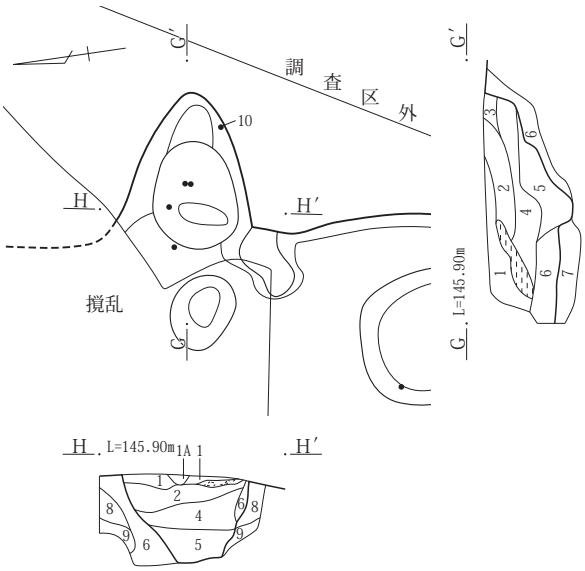


掘り方　Ａ－Ａ′・Ｂ－Ｂ′

5　焼土粒(φ２～10㎜)を主体とした褐灰色土と混土。
6　黒褐色土(10YR3/1)　焼土粒(φ２～３㎜)、炭化物(微細)少量。砂質性に富み、かたくしまる。
7　５に近似。焼土ブロック(φ20㎜)多量。炭化物混入。
8　７に近似。灰白色シルト質ブロック(φ20㎜)混入。
9　８に炭化灰(黒色)多量。
10　６に灰白色シルトブロック(φ20㎜)、炭化物(φ２～５㎜)多量。
11　褐灰色土(10YR4/1)　灰白色シルトブロック(φ10～20㎜)多量。炭化物(φ２～３㎜)焼土粒(φ２～３㎜)混入。
12　褐灰色土(10YR4/1)　かたくしまる。灰白色シルト質土主体。炭化物(φ２～10㎜)、焼土粒(φ２㎜)少量。
13　粘質黒色土　焼土粒(φ２㎜)混入。
14　11と13に近似。焼土粒、炭化物のわずかに混入。
15　14に黒色粘土ブロック(φ10～30㎜)混入したもの。
16　10に近似。焼土粒の混入少ない。
17　黒色灰を主体とした炭化物層。
18　褐灰色土　褐灰色(灰白)シルトを主体。焼土粒(φ２㎜)、炭化物少量。
19　褐灰色土(10YR4/1)　焼土粒(φ10㎜)、炭化物(φ10㎜)含む。
20　黒褐色土(10YR3/2)　かたくしまる。灰白色軽石(φ２～３㎜)多量。
21　灰白色や黒色の灰が互層　灰かきPitか。
22　灰黄褐色土(10YR4/1)　鉄分多量。地山暗褐色土の２次堆積。

※赤線部は床硬化面で、炭化灰(黒色)の薄層をはさむ部分が多い。ほとんどの層が、炭化物焼土粒が混入し、版築の様相を持ち、硬くしまる。



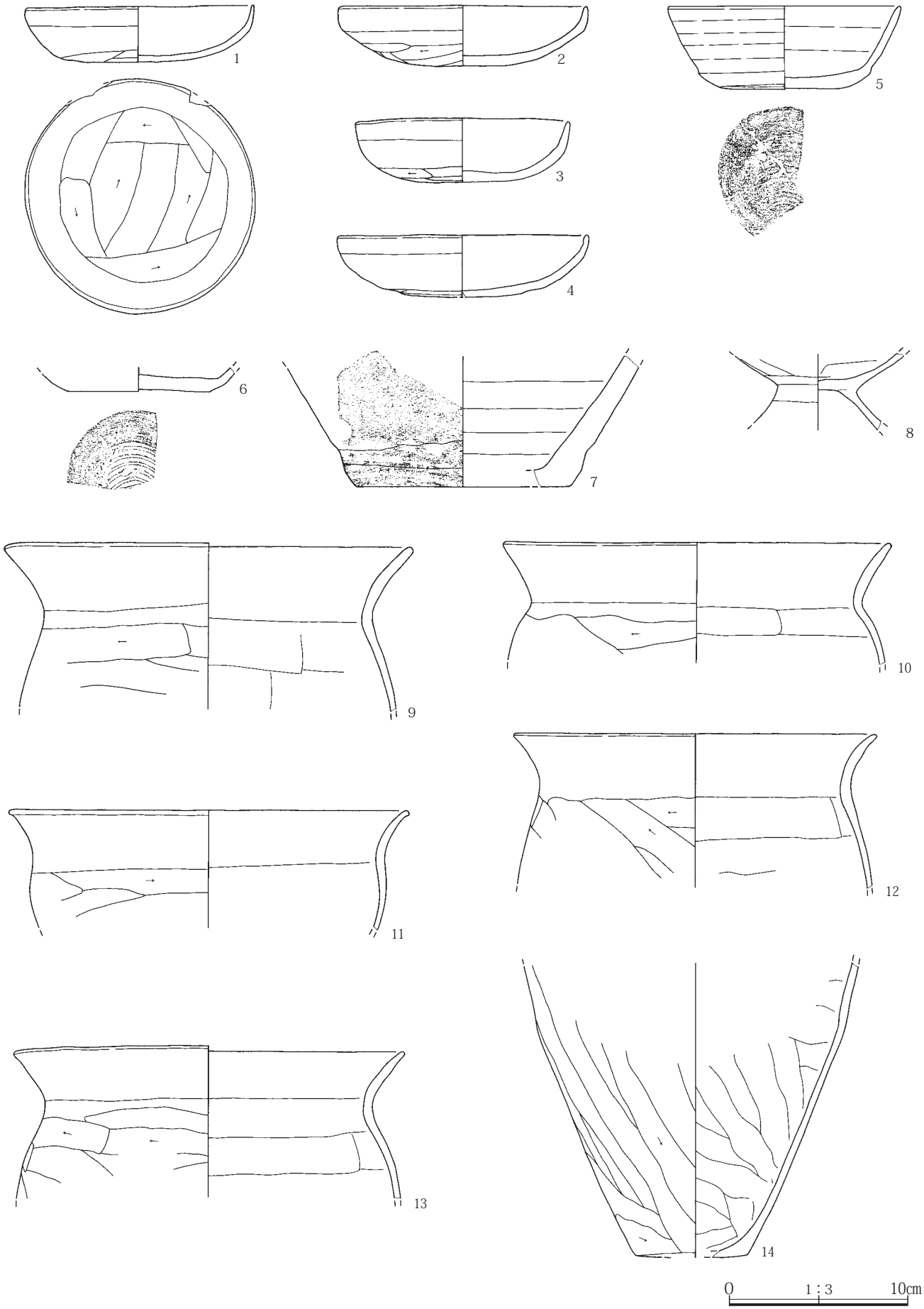


30号竪穴建物カマド　Ｇ－Ｇ′・Ｈ－Ｈ′

1　黒褐色土(10YR3/2)　焼土粒(φ２～15㎜)を含む。
1Ａ　黒褐色土(10YR3/2)　１層より焼土粒の混入少ない。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　焼土粒(φ２～10㎜)多量。
3　焼土ブロック。
4　２層に近似。焼土ブロックの混入少ない。
5　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　４層に近似する。焼土ブロックの混入が４層目よりさらに少ない。
6　にぶい黄褐色土　焼土ブロック(φ10～20㎜)多量。
7　粘質黒色土と灰褐色シルトの混土
8　褐灰色シルト(地山)
9　粘質黒褐土(地山)

0　1：30　1m

第62図　30号竪穴建物掘り方・カマド



第63図　30号竪穴建物出土遺物

第２節　竪穴状遺構

竪穴状遺構とは、竪穴建物と同じように掘り込まれているが、調査出来た遺構の範囲が狭く出土遺物も少なく、竪穴建物と特定できない遺構を呼称したものである。同じような遺構でもカマドが確認された場合は、竪穴建物として扱ったものもある。

９区はトレンチ状に南北方向に細長い調査区である。竪穴建物とした調査したのはカマドの確認されている18号・19号竪穴建物の２棟で、竪穴状遺構は２号・３号・４号竪穴状遺構の３棟である。

４区は東西方向の調査範囲が最も広い調査区である。竪穴建物とした調査したのは、28号・29号・30号竪穴建物の３棟で、竪穴状遺構は５号竪穴状遺構の1棟である。５号竪穴状遺構の平面形は竪穴建物に似ているが、覆土から床面までの多くの部分が撹乱を受けている。

竪穴状遺構の年代を特定する資料は少ない。遺物を出土してるのは２号竪穴状遺構だけである。２号竪穴状遺構では土師器の杯・甕、灰釉陶器、埴輪の破片が出土している。古墳から平安時代の遺物である。この遺物から竪穴状遺構の年代を想定すると、他の竪穴建物とほぼ同じ古墳から平安時代の遺構の可能性が考えられるが、明らかでない。

２号竪穴状遺構(第64・65図、PL. 33・34・63)

位置　９区

X＝706 ～ 710　Y＝－028 ～ 030

重複　不明

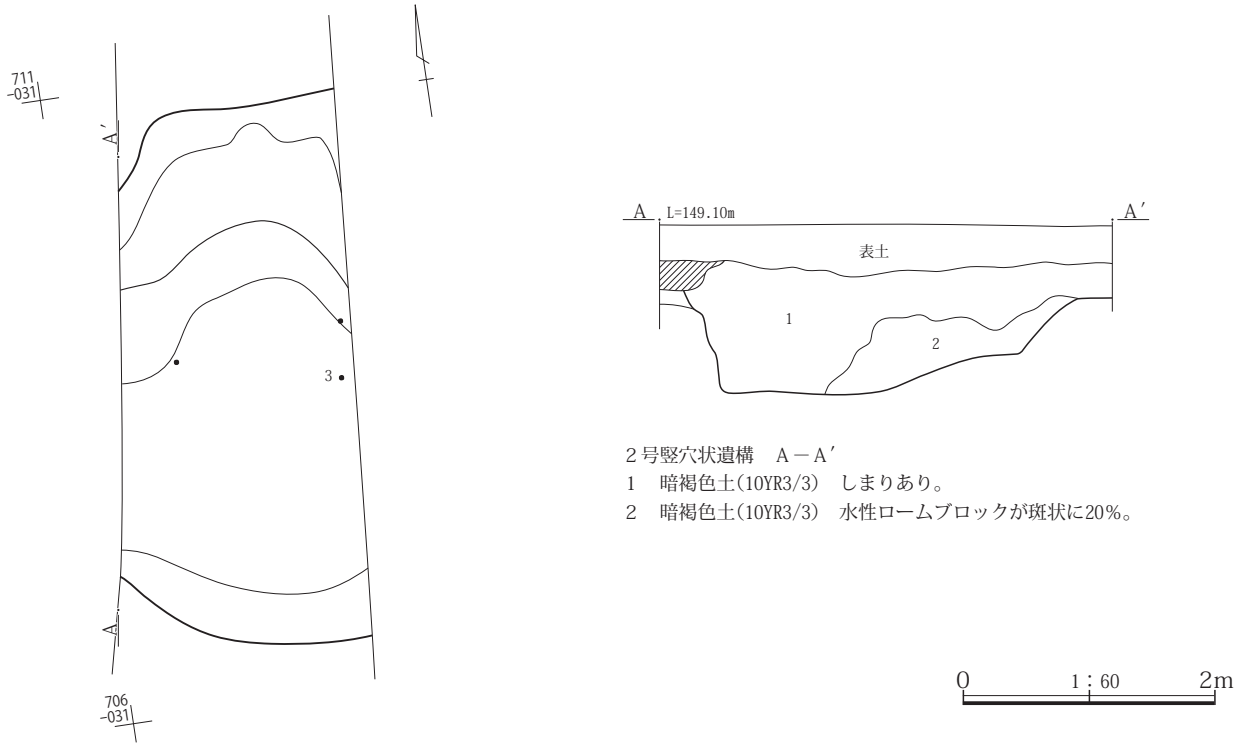
規模　長軸4.37m　短軸(1.80)m

深さ(0.68 ～ 0.81)m

方位　N－20°－E

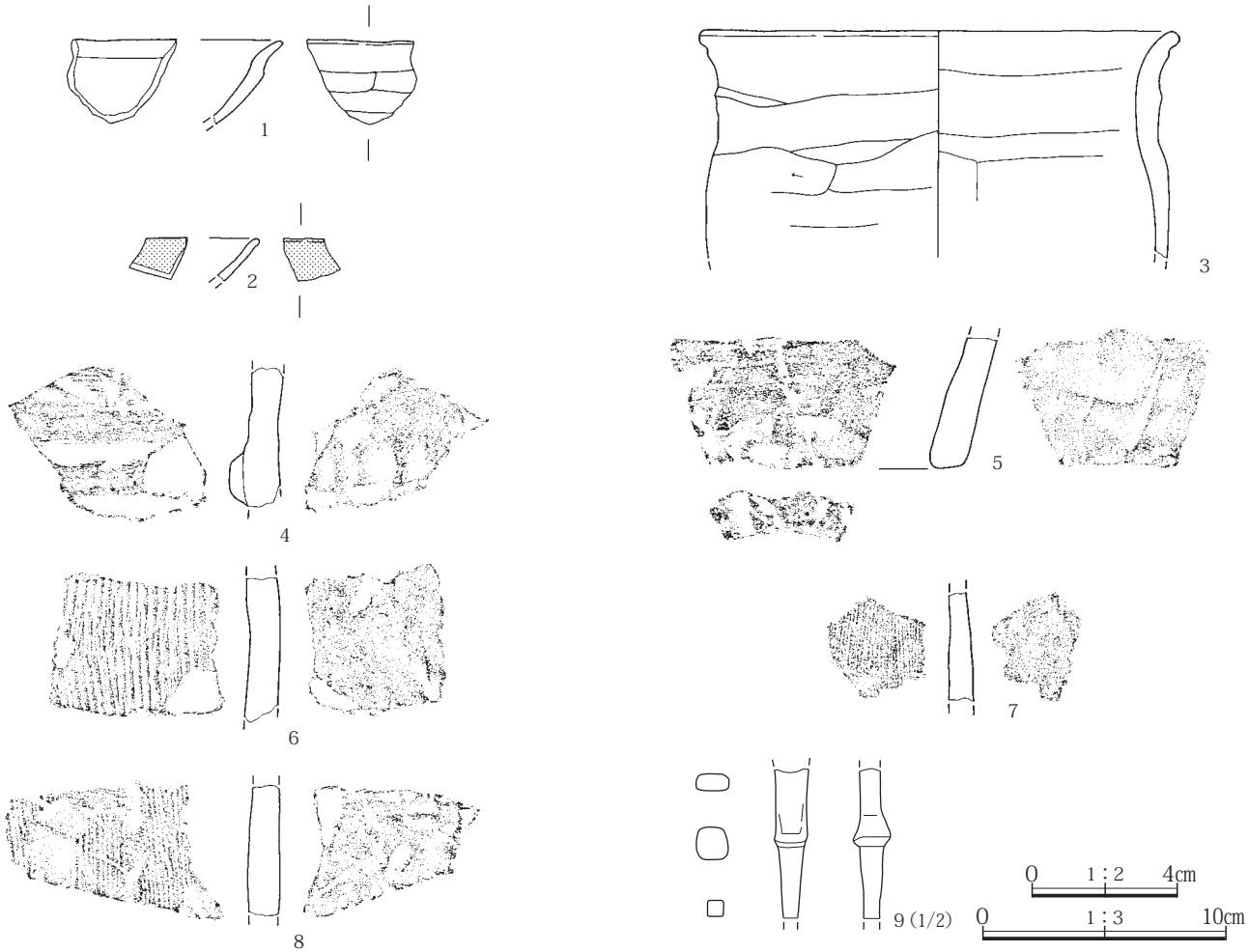
出土遺物　土師器の杯・甕、灰釉陶器各１点、埴輪の破片４点出土している。

所見　９区の最も北側に位置する幅２m以下の狭い調査範囲である。遺構の底面が平らでなく、南側が少し深くなっている。竪穴建物の可能性は低いと思われる。竪穴状遺構の中で唯一遺物が出土している。土師器の杯･甕、灰釉陶器各１点、埴輪の破片４点が出土している。古墳から平安時代の遺物である。最も新しい遺物は、平安時代の甕である。時代の特定は難しいが、平安時代の遺構の可能性が考えられる。



２号竪穴状遺構　A－A′
1　暗褐色土(10YR3/3)　しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　水性ロームブロックが斑状に20%。

第64図　２号竪穴状遺構



第65図　２号竪穴状遺構出土遺物

３号竪穴状遺構(第66図、PL. 33・34)

位置　９区

X＝685～688　Y＝－032～033

重複　なし

規模　長軸(2.98)m　短軸1.40m

深さ(0.13～0.20)m

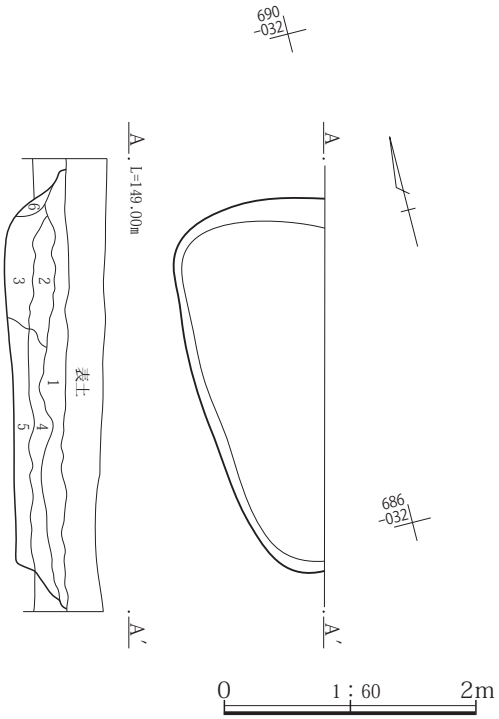
方位　N－5°－W

出土遺物　なし

所見　北側に２号竪穴状遺構、南側に４号竪穴状遺構がある。平面形や床面の状態から竪穴建物の可能性も考えられる。

３号竪穴状遺構　A－A′

1　暗褐色土(10YR3/3)　しまりあり。白色粒子(φ２～３㎜)１％。
2　暗褐色土(10YR3/3)　礫(φ２～５㎜)５％。撹乱か。
3　暗褐色土(10YR3/3)　礫(φ２～５㎜)３％。撹乱か。
4　暗褐色土(10YR3/3)　礫(φ１～２㎜)２％。
5　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロック、黒褐色土ブロック５％。
6　暗褐色土(10YR3/3)　しまりあり。黒褐色ブロック５％。焼土ブロック２％。



第66図　３号竪穴状遺構

４号竪穴状遺構(第67図、PL. 33・34)

位置　９区

X＝677 ～ 679　Y＝－034 ～ 036

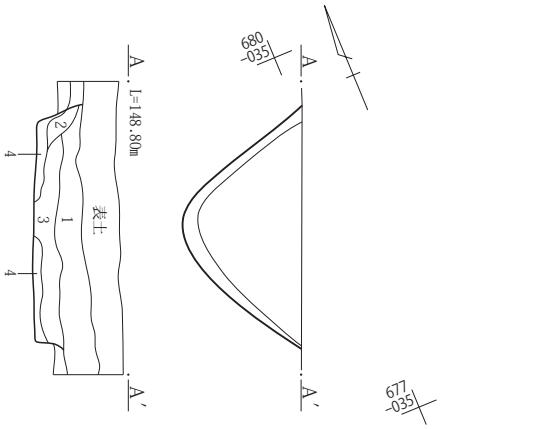
規模　長軸(1.57)m　短軸(1.48)m

深さ(0.15 ～ 0.17)m

方位　N－19°－W

出土遺物　なし

所見　９区の南端部分に位置する。平面形や床面の状態から竪穴建物の可能性も考えられる。



４号竪穴状遺構　A－A′
1　暗褐色土(10YR3/3)　固くしまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　しまりあり。焼土ブロック10%。
3　暗褐色土(10YR3/3)　しまりあり。黒褐色土ブロック、ロームブロック５%。
4　暗褐色土(10YR3/3)　しまりあり。ロームブロック５%。

0　1：60　2m

第67図　４号竪穴状遺構

５号竪穴状遺構(第68図、PL. 34)

位置　４区

X＝541 ～ 545　Y＝－121 ～ 126

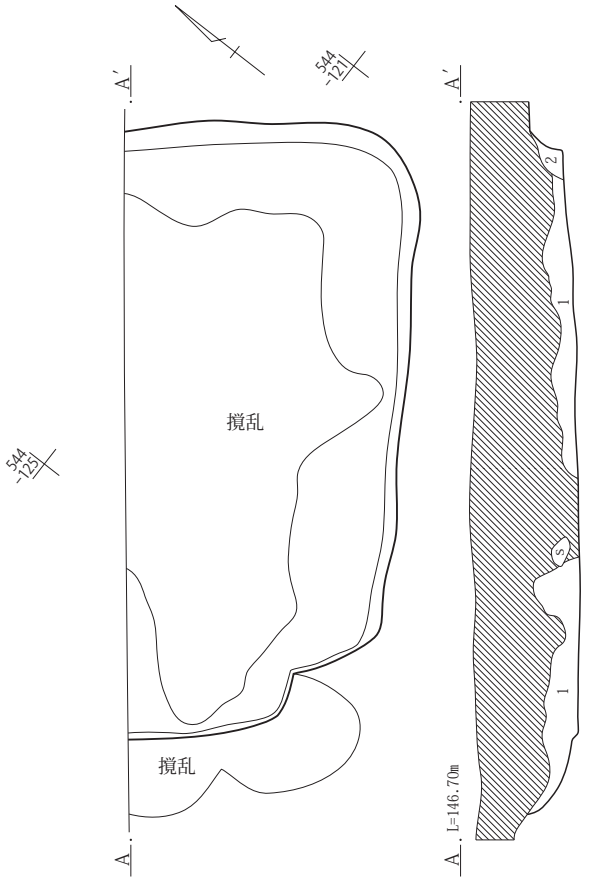
規模　長軸4.72m　短軸2.35m

深さ(0.31 ～ 0.36)m

方位　N－64°－E

出土遺物　なし

所見　平面形は竪穴建物に似ているが、覆土から床面までの多くの部分が撹乱を受けているので竪穴状遺構とした。



５号竪穴状遺構　A－A′
1　黒褐色土(10YR3/2)　灰白色軽石(φ２～５㎜)少量。
2　黒褐色土(10YR3/2)　灰白色シルト質土ブロック(φ40㎜)混入。

0　1：60　2m

第68図　５号竪穴状遺構

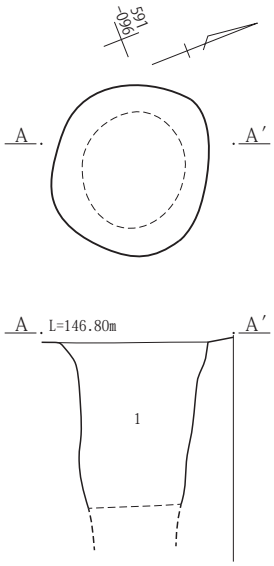
第３節　井戸

(第69～77図、PL. 35～39・63・64)

12基の井戸が発掘調査されている。調査区では１区２基、２区３基、４区４基、６区２基、９区１基である。調査区は５つに分かれるが、３区と４区の間の水路を挟んだ北側に６基、南に５基が集中している。平面形状は円形で、断面形は上面が崩れており明らかでないが、多くが円筒状と思われる。５号井戸と６号井戸は残りが良好でありロート状と思われる。

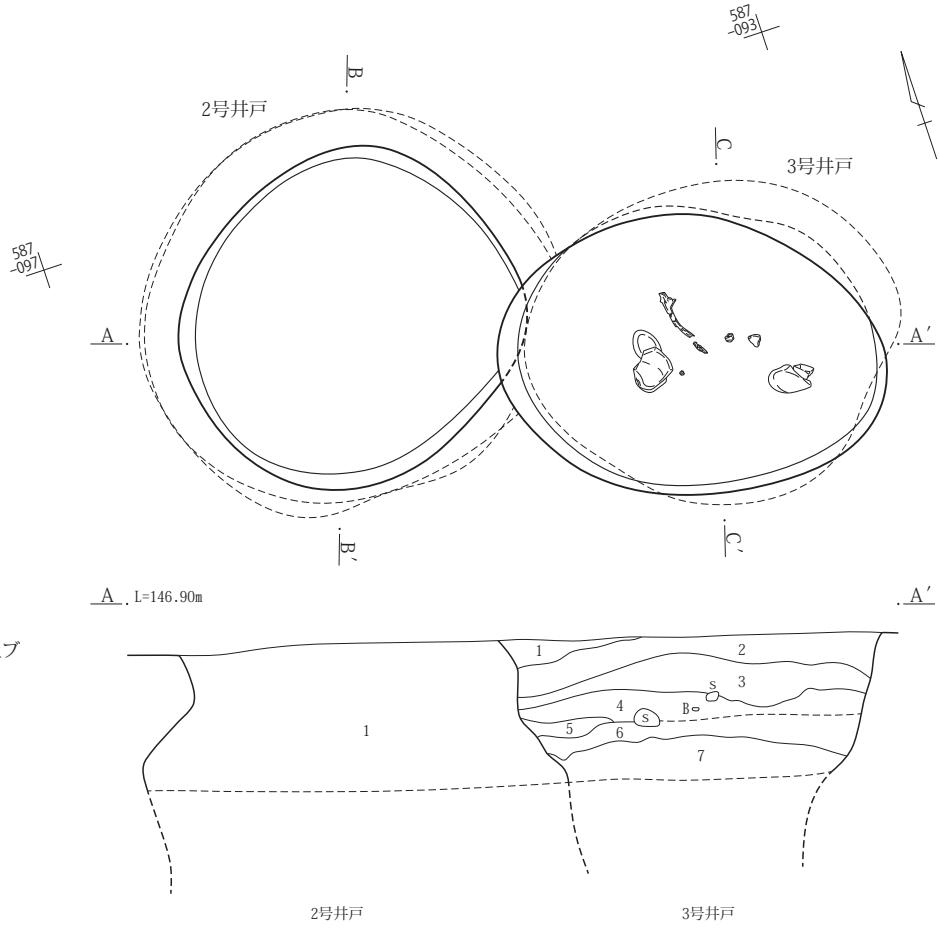
規模等は以下の第４表に掲載した。６基の井戸から遺物が出土している。２号(近世)・４号(古代から中近世)・

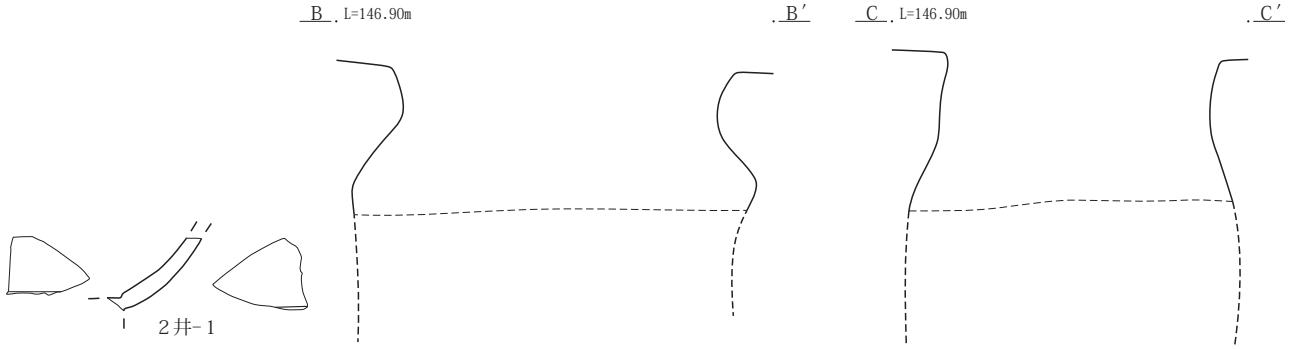
２区１号井戸



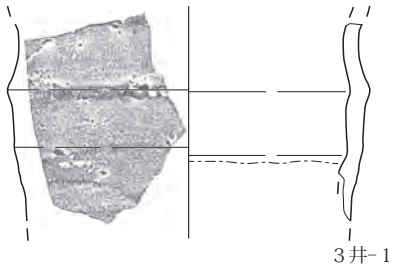
１号井戸　Ａ－Ａ′
1　暗褐色～黄灰白色砂質土　黒褐色粘土ブロック、にぶい黄色土微量。

２区２号・３号井戸





２号井戸　Ａ－Ａ′
1　暗褐色～黄灰色砂質土　鉄分多量。灰白色～灰色土ブロック、黒褐色粘土ブロック微量。

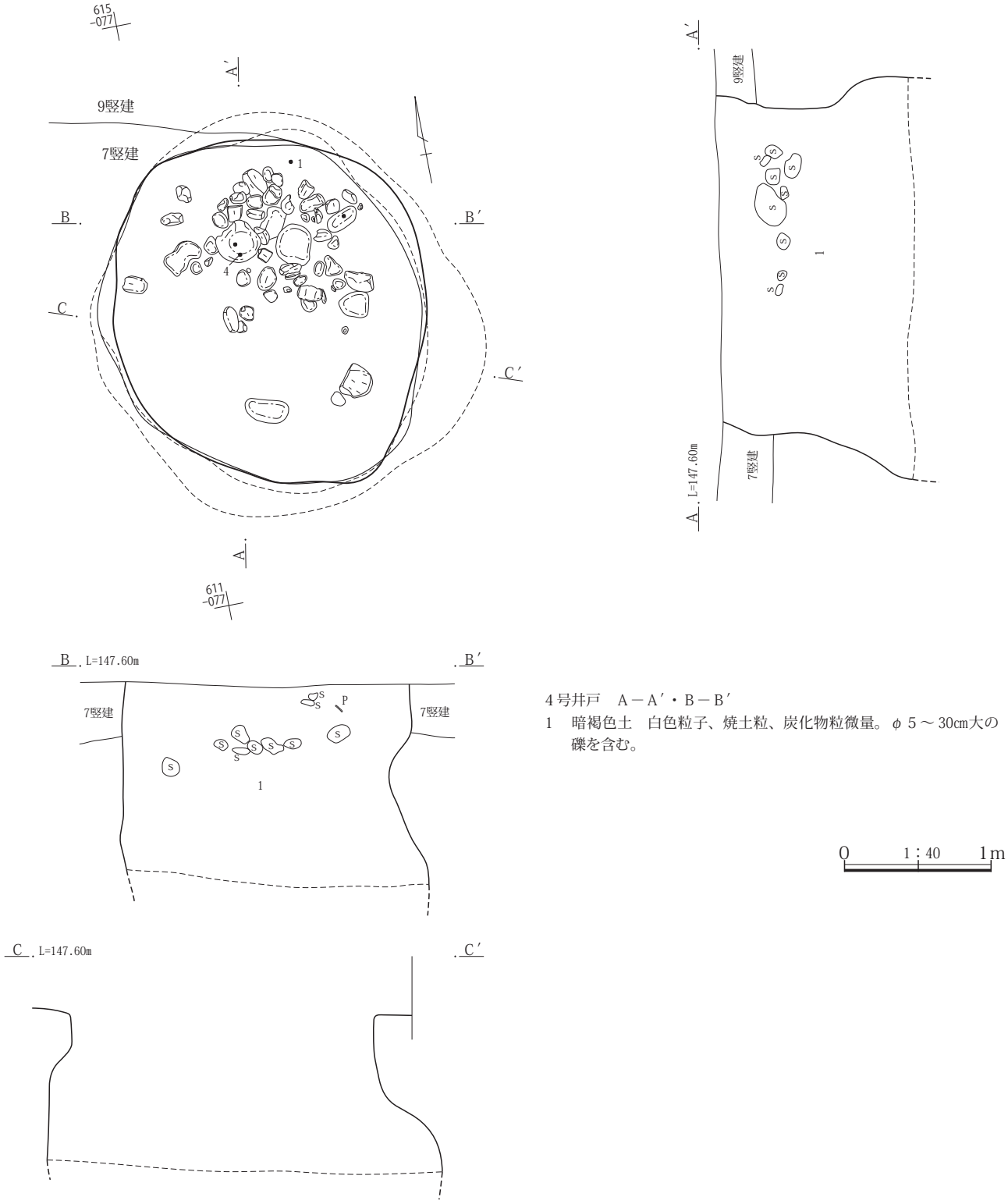


３号井戸　Ａ－Ａ′
1　暗褐色砂質土　灰白色粘土ブロック、焼土粒少量。黒褐色粘土ブロック微量。
2　暗褐色砂質土　黒褐色粘土ブロック、にぶい黄色土ブロック中量。灰白色粘土ブロック微量。
3　暗褐砂質土　黒褐色粘土ブロック多量。にぶい黄色土ブロック、白色粒子微量。
4　黄灰色～暗褐色土砂質土　黒褐色粘土ブロック、浅黄色土粒、鉄分微量。
5　暗褐色土　ローム塊少量。
6　暗褐色土　ローム粒少量。
7　明褐色土　ロームを主とした層。

0　1：3　10cm　　0　1：40　1m

第69図　１号～３号井戸と２号・３号井戸出土遺物

１区４号井戸

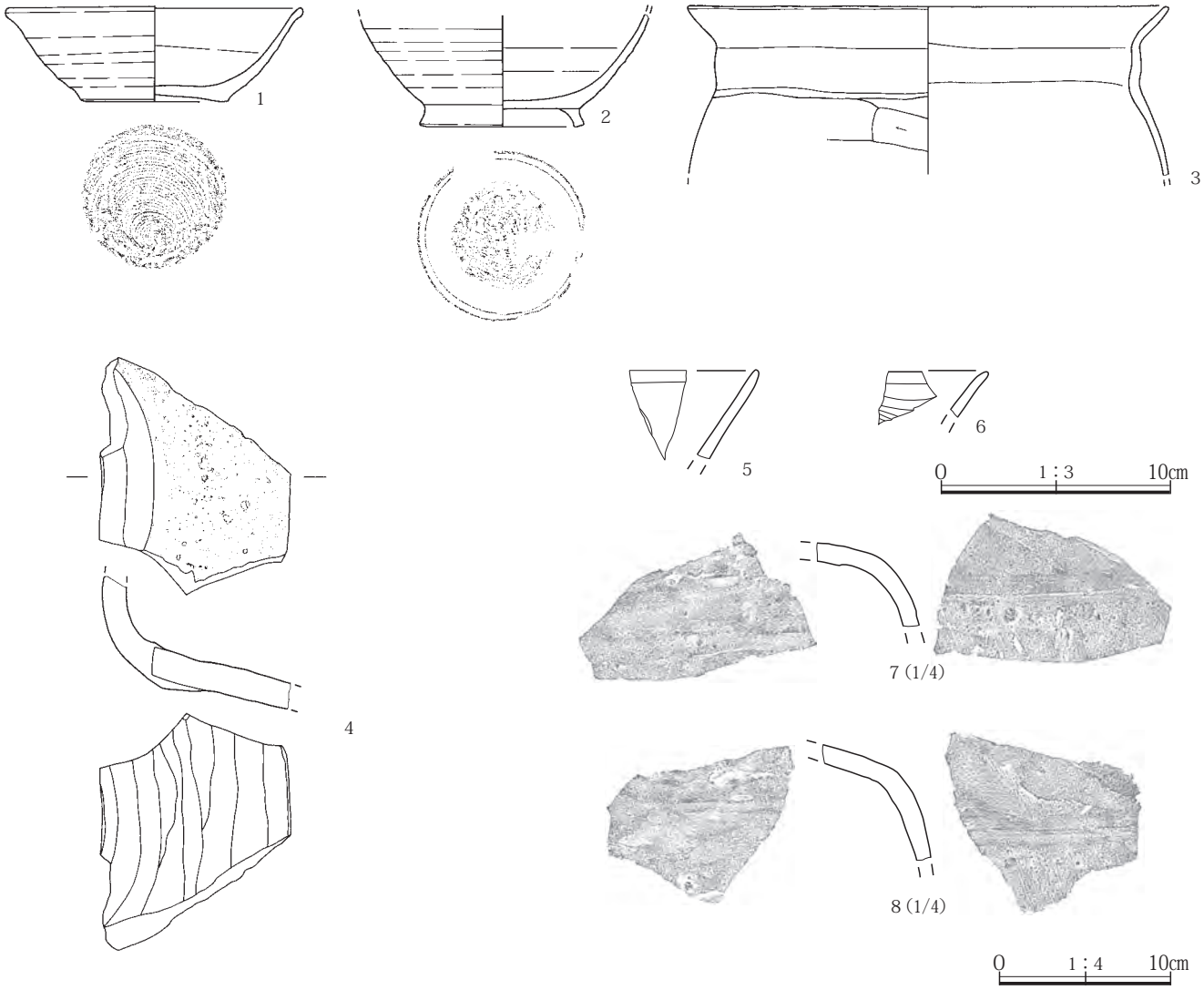


４号井戸　Ａ－Ａ′・Ｂ－Ｂ′
1　暗褐色土　白色粒子、焼土粒、炭化物粒微量。φ５～30㎝大の礫を含む。

0　1：40　1m

第70図　４号井戸

６号(近世)・７号(古代)・10号(古代)・12号(近現在)井戸から出土した遺物は、井戸が使われた時代に属するものと、周辺の遺物が混入する場合があり、時代を特定することは難しいが、大きく分けて古代と中近世である。特色ある遺物として青磁破片が北側の２号井戸と４号井戸から出土している。中近世の寄居の遺構が存在していたと指摘されている場所の北側であり、関連が注目される。

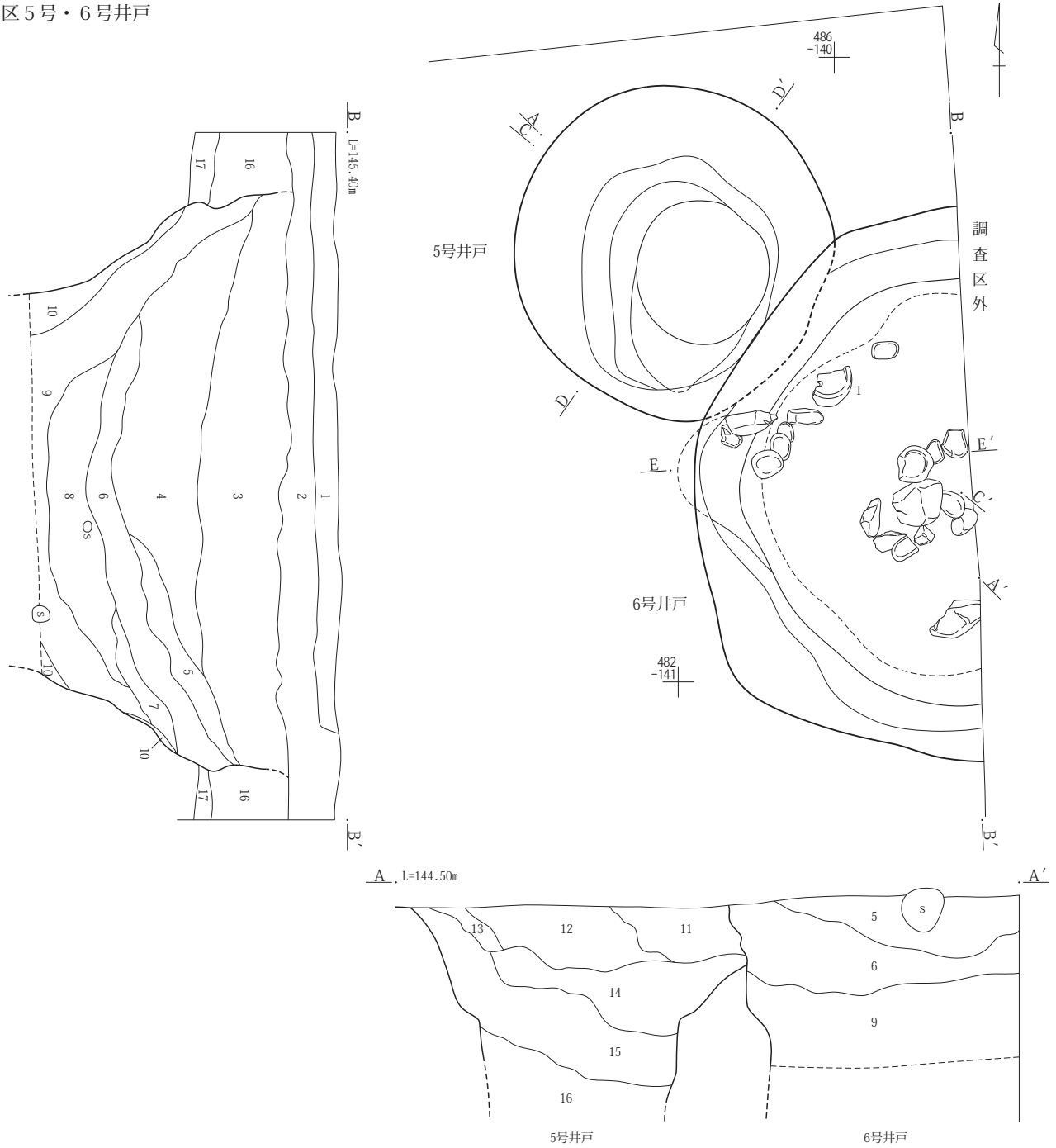


第71図　４号井戸出土遺物

第４表　井戸一覧表

調査区	遺構名		グリット	長軸方位	規模		重複
	報告時	調査時			長軸(m)	短軸(m)	旧→新
2	１号井戸	１号土坑	X＝44,590～44,591 Y＝-56,094～56,095	N-49°-W	0.88	(0.80)	１号竪穴建物→１号井戸
2	２号井戸	３号土坑	X＝44,585～44,587 Y＝-56,094～56,096	N-65°-E	1.80	1.65	２号井戸→３号井戸
2	３号井戸	４号土坑	X＝44,584～44,586 Y＝-56,092～56,094	N-63°-W	2.07	1.48	２号井戸→３号井戸
1	４号井戸	10号土坑	X＝44,611～44,614 Y＝-56,075～56,077	N-17°-W	2.54	2.20	７号・９号竪穴建物→４号井戸
6	５号井戸	12号土坑	X＝44,483～44,485 Y＝-56,140～56,142	N-45°-W	2.04	2.05	５号井戸→６号井戸
6	６号井戸	13号土坑	X＝44,611～44,614 Y＝-56,075～56,078	N-17°-W	(3.56)	(1.78)	５号井戸→６号井戸
1	７号井戸	15号土坑	X＝44,598～44,600 Y＝-56,089～56,091	N-43°-E	1.76	1.64	
9	８号井戸	29号土坑	X＝44,696～44,699 Y＝-56,029～56,031	N-44°-W	(2.35)	1.67	25号ピット→８号井戸
4	９号井戸	34号土坑	X＝44,537～44,538 Y＝-56,123～56,125	N-42°-E	1.22	1.06	26号ピット→９号井戸
4	10号井戸	40号土坑	X＝44,533～44,534 Y＝-56,132～56,134	N-60°-W	1.78	1.58	39号土坑→10号井戸
4	11号井戸	43号土坑	X＝44,523～44,524 Y＝-56,134～56,135	N-76°-E	0.65	0.63	
4	12号井戸	44号土坑	X＝44,511～44,513 Y＝-56,142～56,144	N-10°-W	2.20	1.89	

６区５号・６号井戸

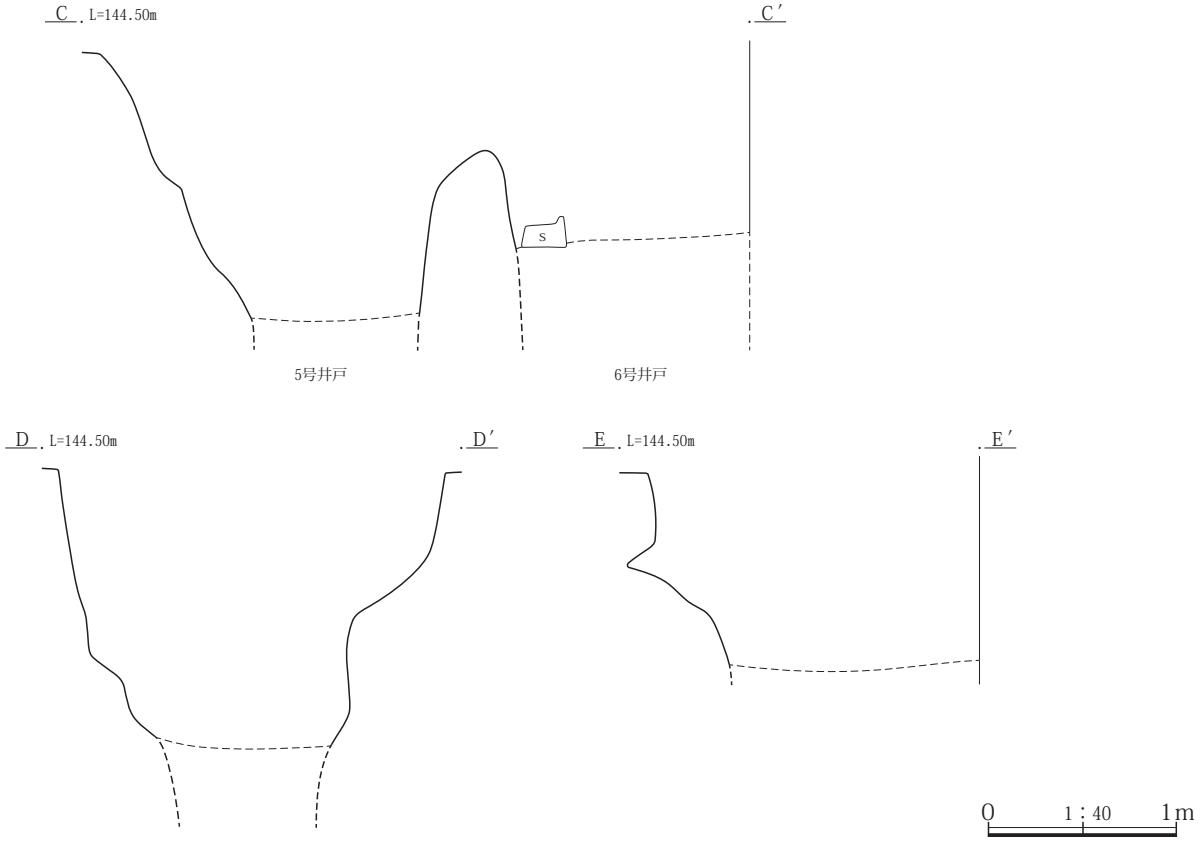


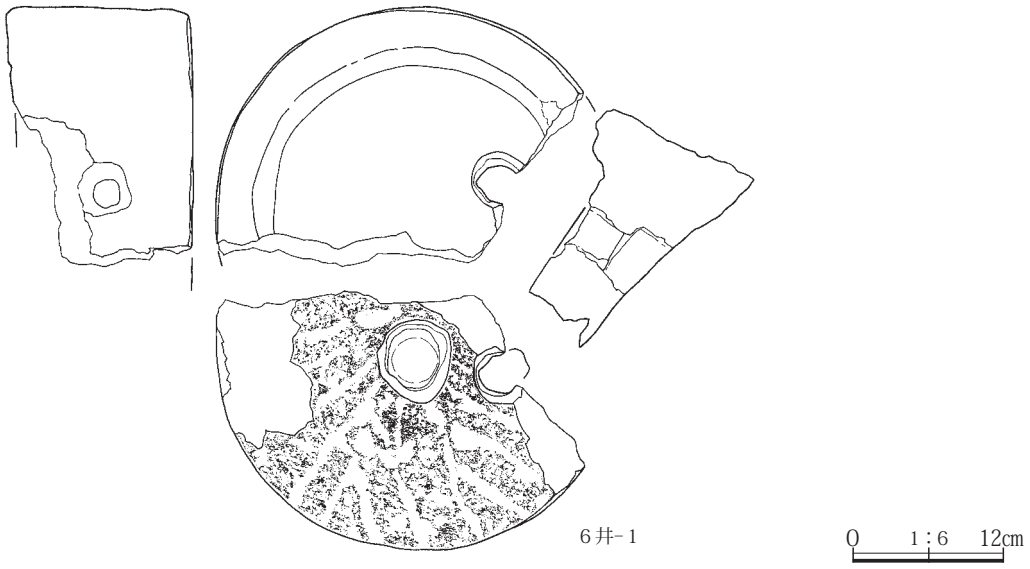
５号・６号井戸　Ａ－Ａ′・Ｂ－Ｂ′

1　暗褐色土　シルト質土等を含まない粘質土(表土の崩落)
2　暗褐色土　暗褐色粘質土主体。灰白色土ブロック(小)少量。
3　暗褐色土　暗褐色土と灰白色シルト質土粒、ブロックの混土。
4　暗褐色土　２層土に類似する層。
5　暗褐色土　暗褐色土主体。灰白色土・黄色シルト質土ブロック多量。
6　黒褐色土　黒色粘質土主体。暗褐色土と混土。
7　暗褐色土　灰褐色粘質土と暗褐色土ブロックの混土。
8　灰褐色土　灰褐色粘質土と灰白色シルト質土の混土。
9　灰褐色土　灰褐色粘質土主体の層。
10　黒褐色土　黒色粘質土主体。灰褐色土ブロックを含む。
11　暗褐色土　黒褐色土を塊状に含む。
12　暗褐色土　暗褐色土、少量の灰白色粒を全体に含む。
13　暗褐色土　暗褐色土、少量の灰白色粒を塊状に含む。
14　暗褐色土　暗褐色土、灰白色粒を小さな塊状に含む。
15　暗褐色土　黒褐色土を塊状に含む。
16　暗褐色土　３層に近いが、３層よりやや暗い。
17　暗褐色土　灰白色粒を主とした層。

0　1：40　1m

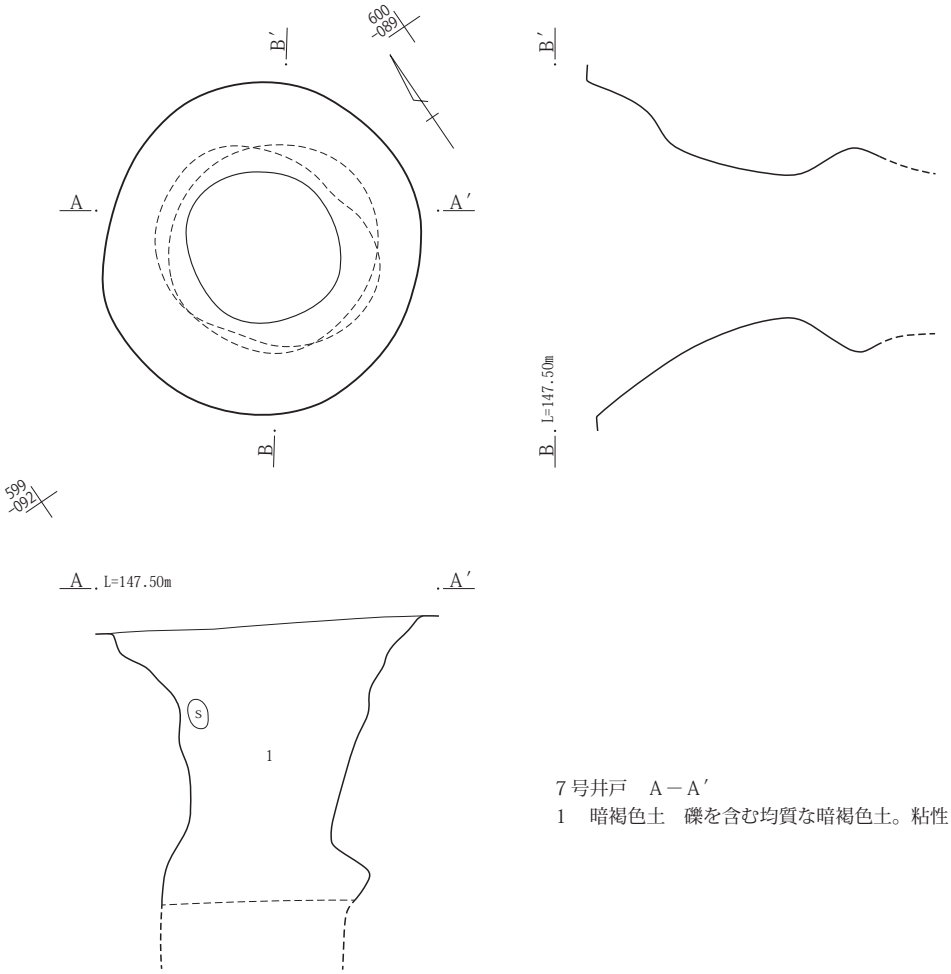
第72図　５号・６号井戸





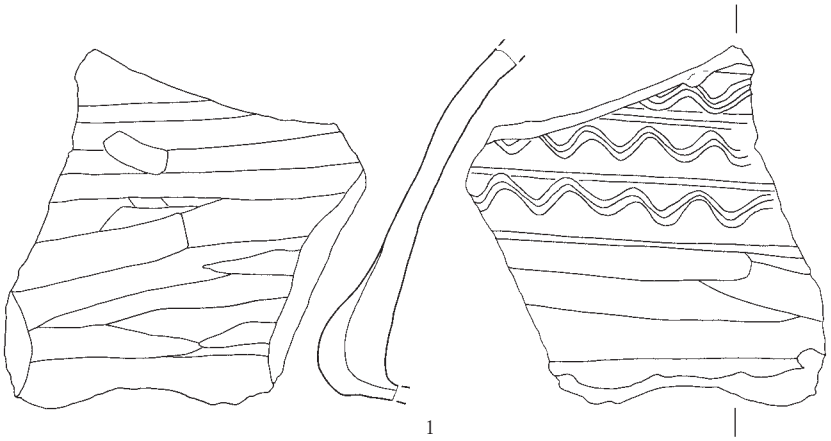
第73図　５号・６号井戸土層断面と６号井戸出土遺物

１区７号井戸



７号井戸　Ａ－Ａ′
1　暗褐色土　礫を含む均質な暗褐色土。粘性としまりが弱い。

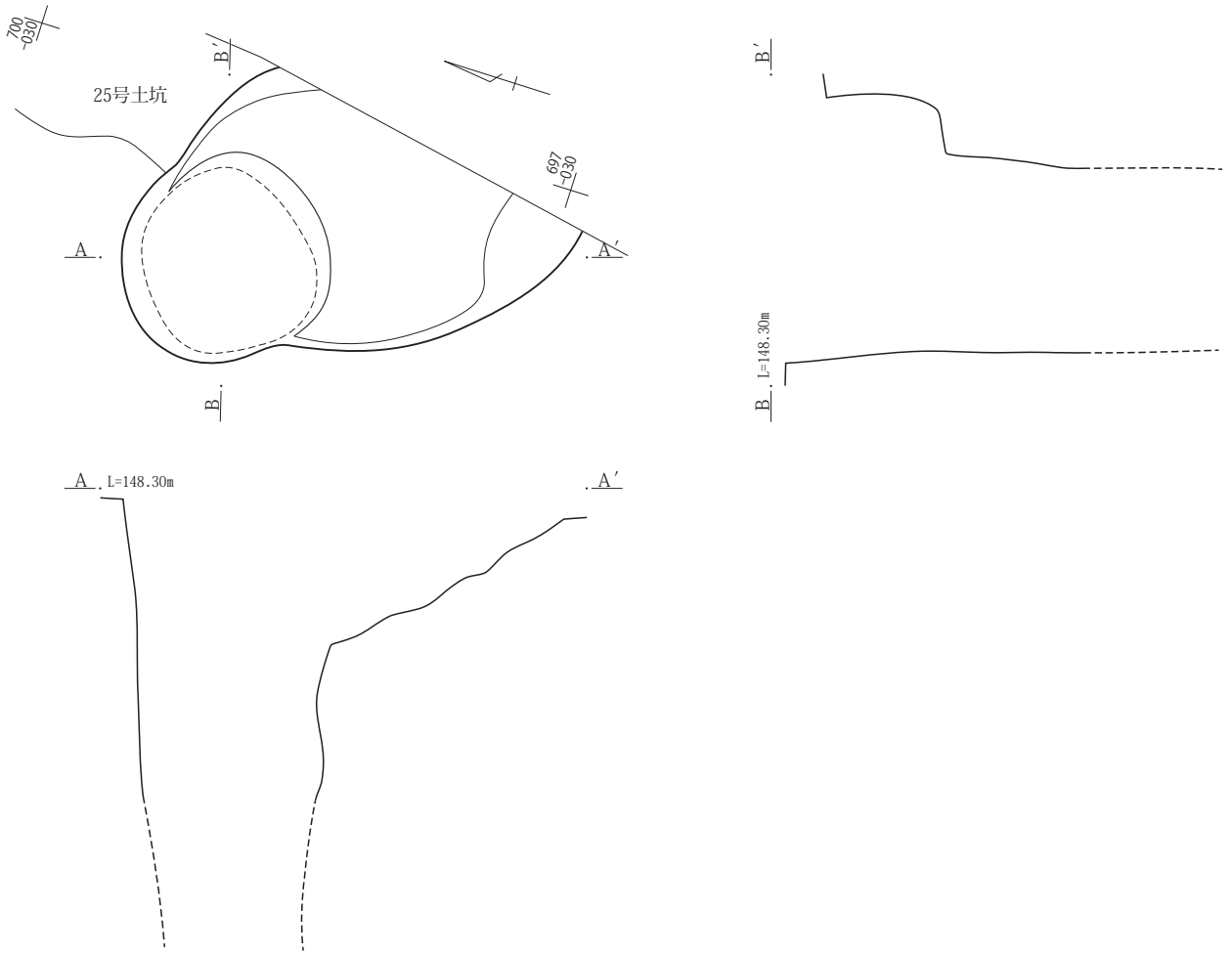
0　1：40　1m



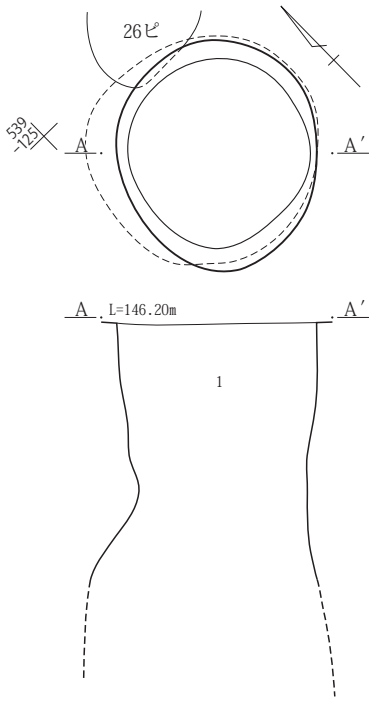
0　1：3　10cm

第74図　７号井戸と出土遺物

９区８号井戸



４区９号井戸

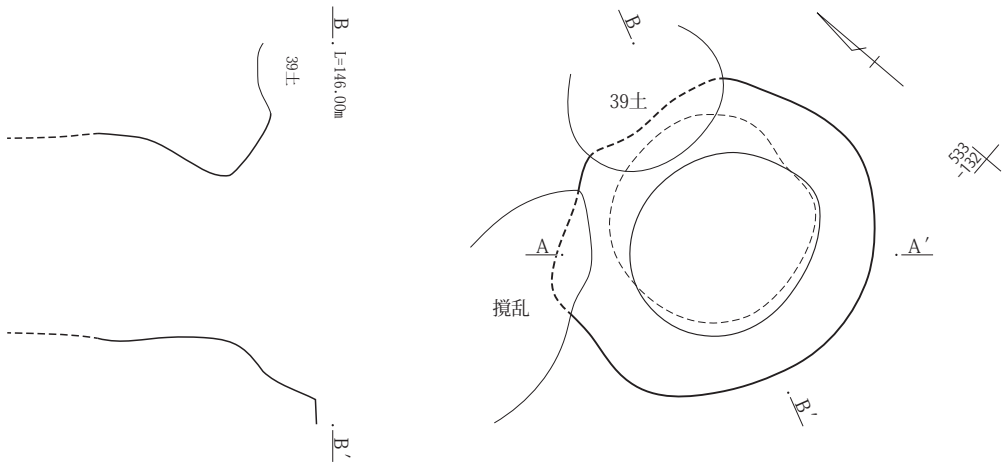


９号井戸　Ａ－Ａ′
1　褐灰色土(10YR4/1)　黒色粘土ブロック(φ10～15mm)、褐灰色粘土ブロック(φ20～40mm)を含む。

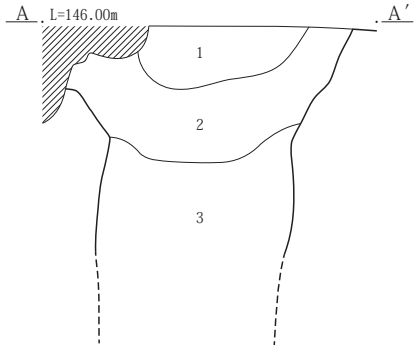
0　1：40　1m

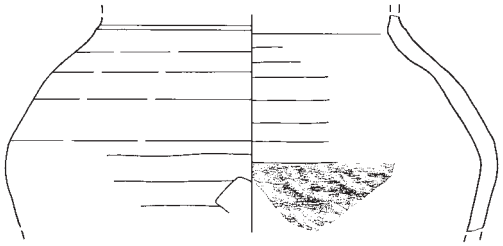
第75図　８号・９号井戸

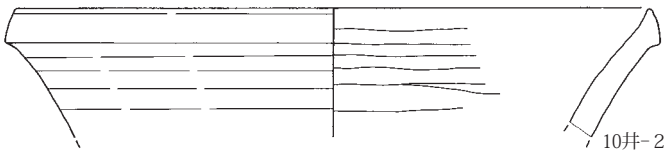
４区10号井戸



10号井戸　Ａ－Ａ′
１　褐灰色土　焼土粒（φ２～５㎜）、炭化物（φ５～10㎜）を含む。
２　１に近似。炭化物、焼土粒の混入少ない。
３　褐灰色土　１層に近似。１層よりやや暗い。

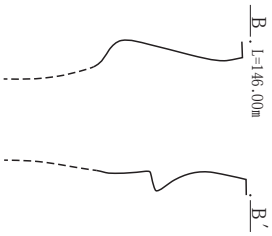


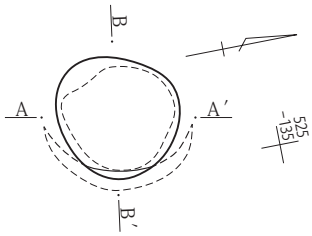


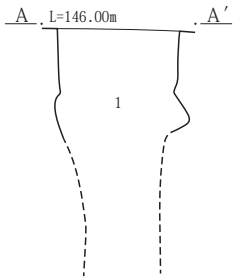


0　1：3　10cm

４区11号井戸





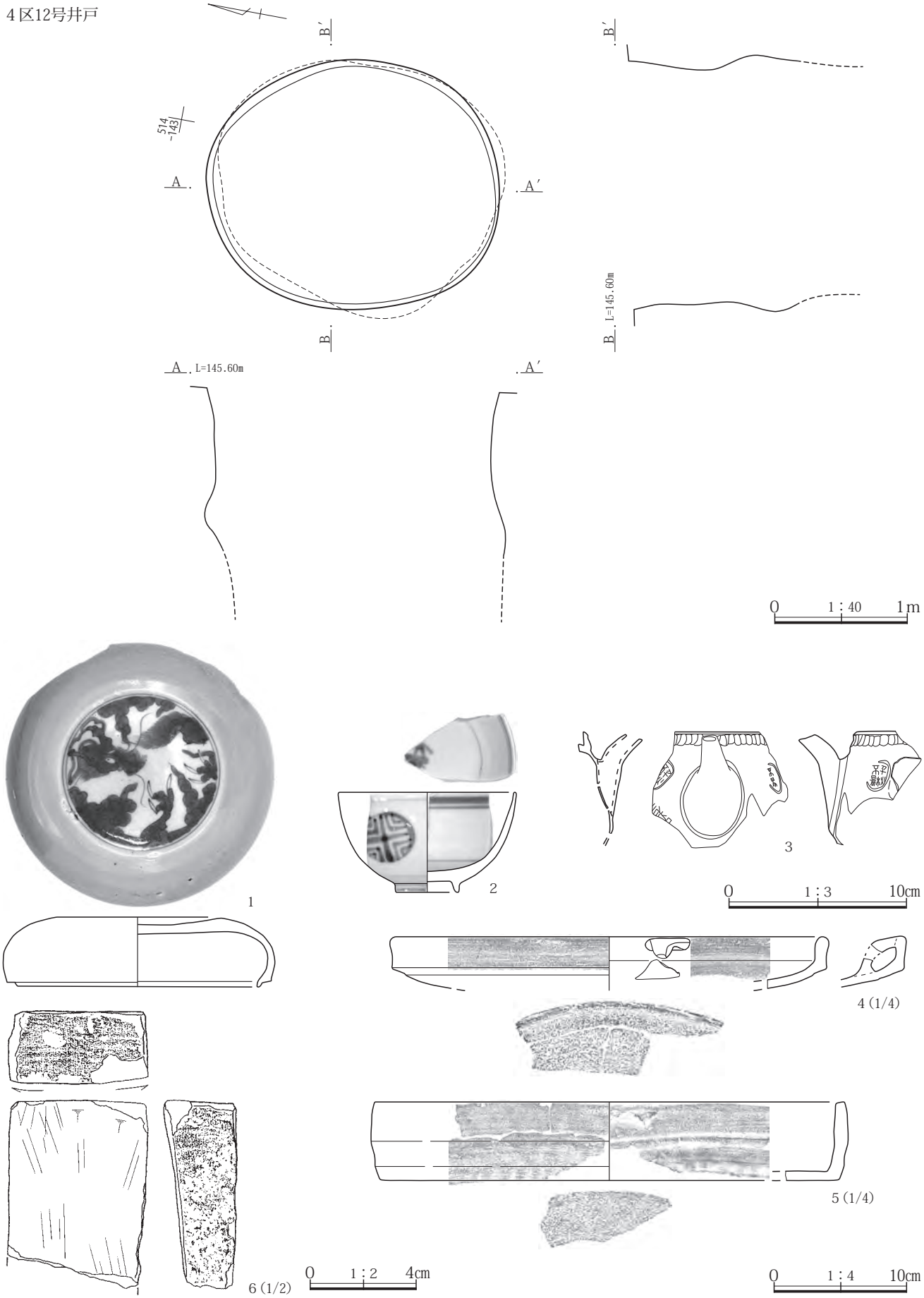


11号井戸　Ａ－Ａ′
１　黒褐色土（10YR3/2）　よくしまる。灰白色軽石粒（φ２～10㎜）を含む。

0　1：40　1m

第76図　10号・11号井戸と10号井戸出土遺物

４区12号井戸



第77図　12号井戸と出土遺物

第４節　溝

（第78～83図、PL. 39～43・64）

溝の概要

遺跡内から11条の溝が発掘調査されている。発掘調査は、道路屈曲部分を中心とした道路拡張工事に伴い実施されたもので、南北に長く幅が狭い。調査区の長さは南北約460m、幅は１m～11mであった。各溝の調査区内出土位置は第６図（２号・３号溝）、７図（１号・４号・５号・６号溝）、９図（１号溝）、11図（７号・９号・10号溝）、12図（８号・11号溝）、各溝の図面は以下図示した。溝全体の規模や位置等は第５表で概要をまとめた。

このように調査できた11条の溝は、狭い範囲内での調査であり、全体の様子を知ることはできない。

地形と溝の流れた方向

遺跡北側の９区18号竪穴建物付近の標高は148.23m、南側の４区28号竪穴建物付近の標高は146.06mで北側が高い。東西では、東側の４区28号竪穴建物付近の標高は146.06mで西側の５号溝西橋部分では145.9mで西側が低くなっている。遺跡の西側は桂川に接しており、地形全体が桂川に向かって少し低くなっているようである。このような地形に造られている遺跡内の溝は、北から南に流れて、東側から西側に流れていた。

４区と５区の間は、川となっており、道路（三夜沢国定停車場線）には寄居橋が架かっている。この川は現在多くの水が東から西方向に流れており、西側の桂川と直角に合流している。

溝覆土の特色

溝の大きさや深さは、第５表のとおりである。しかし幅や深さは、確認面から計測したものであり、本来の大きさは不明である。

溝底面付近の覆土を観察すると、同じでなく明瞭でないものも多いが、暗褐色土を主とした覆土と明褐色土を主とした堆積の２つに分類することができそうである。さらに10号溝では暗褐色土の上に明褐色土が堆積していることが確認できる。

暗褐色土覆土の溝	２号・４号・７号・９号・10号
明褐色土覆土の溝	１号・５号・６号・８号・11号
不明	３号

溝の出土遺物と溝の造られた時期

以下３条の溝から遺物が出土している。

１号溝（江戸時代の陶磁器）

２号溝（古代の須恵器や羽釜）

６号溝（中世末から江戸時代の陶磁器皿や灯火受皿等）

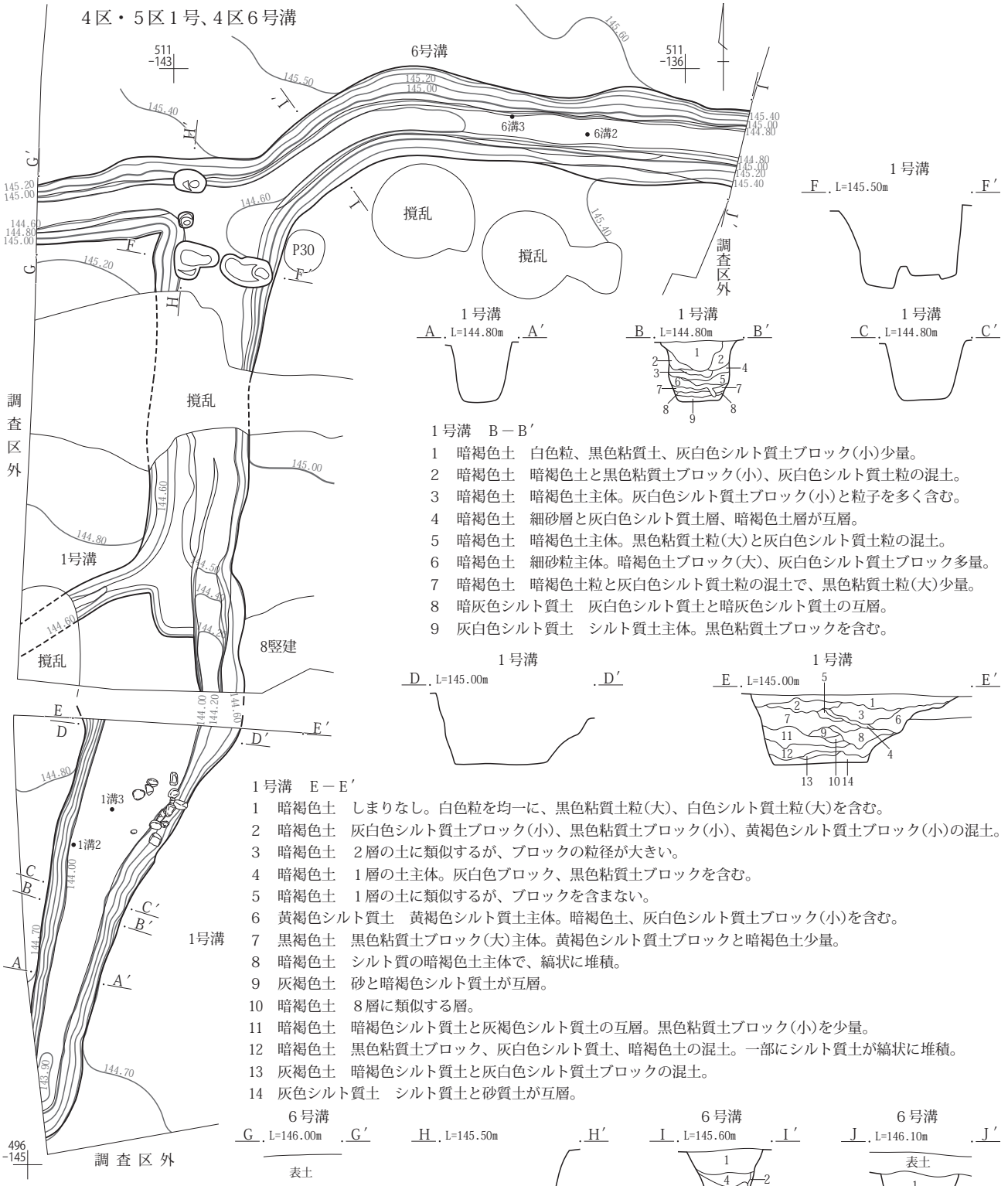
出土遺物から古代と江戸時代を中心とした2つに時期があるものと思われる。

１号溝と６号溝は、明褐色土覆土の溝であり、２号溝は暗褐色土覆土の溝である。このように観察すると、暗褐色土覆土の溝は古代の溝であり、明褐色土覆土の溝は中近世の溝であることが、考えられるのではないだろうか。

「深津の寄居」と溝との関連

遺跡内溝の多くは，中近世に存在していたことが、出土遺物と覆土の特色から想定できた。この時期の遺構として４区付近に「深津の寄居」が存在していたことが報告されている。（山崎　一『群馬県古城塁址の研究』補遺編上巻　昭和54年）これらの溝と深津の寄居にどのような関連があるのか不明であるが、何らかの関連が考えられる遺構と思われる。

第４章第３節「深津の寄居について」の中で１つの考え方を提示した。



1号溝　B－B′

1　暗褐色土　白色粒、黒色粘質土、灰白色シルト質土ブロック(小)少量。
2　暗褐色土　暗褐色土と黒色粘質土ブロック(小)、灰白色シルト質土粒の混土。
3　暗褐色土　暗褐色土主体。灰白色シルト質土ブロック(小)と粒子を多く含む。
4　暗褐色土　細砂層と灰白色シルト質土層、暗褐色土層が互層。
5　暗褐色土　暗褐色土主体。黒色粘質土粒(大)と灰白色シルト質土粒の混土。
6　暗褐色土　細砂粒主体。暗褐色土ブロック(大)、灰白色シルト質土ブロック多量。
7　暗褐色土　暗褐色土粒と灰白色シルト質土粒の混土で、黒色粘質土粒(大)少量。
8　暗灰色シルト質土　灰白色シルト質土と暗灰色シルト質土の互層。
9　灰白色シルト質土　シルト質土主体。黒色粘質土ブロックを含む。

1号溝　E－E′

1　暗褐色土　しまりなし。白色粒を均一に、黒色粘質土粒(大)、白色シルト質土粒(大)を含む。
2　暗褐色土　灰白色シルト質土ブロック(小)、黒色粘質土ブロック(小)、黄褐色シルト質土ブロック(小)の混土。
3　暗褐色土　２層の土に類似するが、ブロックの粒径が大きい。
4　暗褐色土　１層の土主体。灰白色ブロック、黒色粘質土ブロックを含む。
5　暗褐色土　１層の土に類似するが、ブロックを含まない。
6　黄褐色シルト質土　黄褐色シルト質土主体。暗褐色土、灰白色シルト質土ブロック(小)を含む。
7　黒褐色土　黒色粘質土ブロック(大)主体。黄褐色シルト質土ブロックと暗褐色土少量。
8　暗褐色土　シルト質の暗褐色土主体で、縞状に堆積。
9　灰褐色土　砂と暗褐色シルト質土が互層。
10　暗褐色土　８層に類似する層。
11　暗褐色土　暗褐色シルト質土と灰褐色シルト質土の互層。黒色粘質土ブロック(小)を少量。
12　暗褐色土　黒色粘質土ブロック、灰白色シルト質土、暗褐色土の混土。一部にシルト質土が縞状に堆積。
13　灰褐色土　暗褐色シルト質土と灰白色シルト質土ブロックの混土。
14　灰色シルト質土　シルト質土と砂質土が互層。

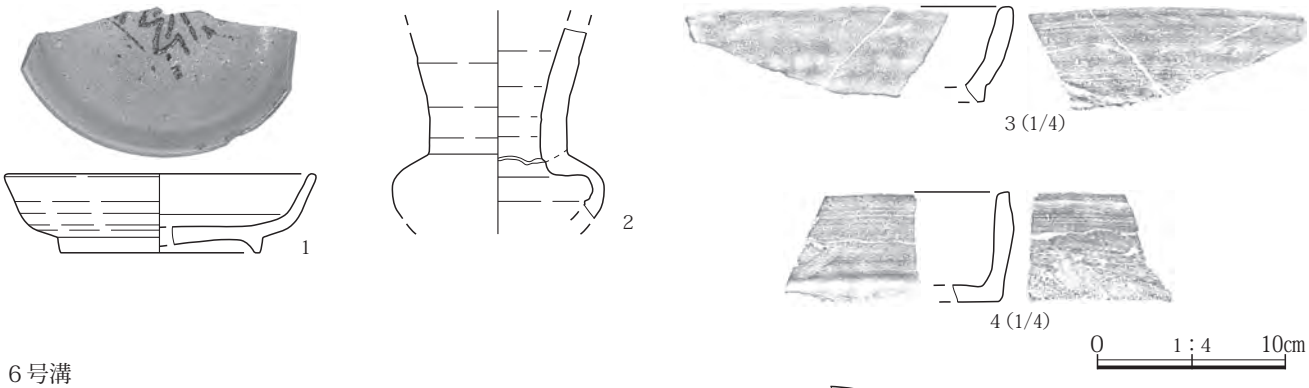
6号溝　G－G′・I－I′・J－J′

1　暗褐色土(10YR3/2)　灰白色軽石(φ５～７㎜)少量。小礫(φ７～10㎜)微量。
2　暗褐色土(10YR3/2)　灰白色軽石(φ５～７㎜)少量。小礫(φ７～10㎜)微量。暗色粘土ブロック混入。
3　暗褐色土(10YR3/2)　粘質黒色土ブロック、シルト質褐灰色ブロック(いずれもφ10～30㎜)多量。灰白色軽石(φ５～７㎜)少量。小礫(φ７～10㎜)微量。※褐灰色砂質土(地山)、地山(砂質)２次堆積。
4　１層に近似。小礫の混入少ない。
5　２層にシルト質褐灰色土多量。※褐灰色砂質土(地山)、地山(砂質)２次堆積。
6　褐灰色土(10YR4/1)　含有物は２層に同じ。※中世薬研堀か。

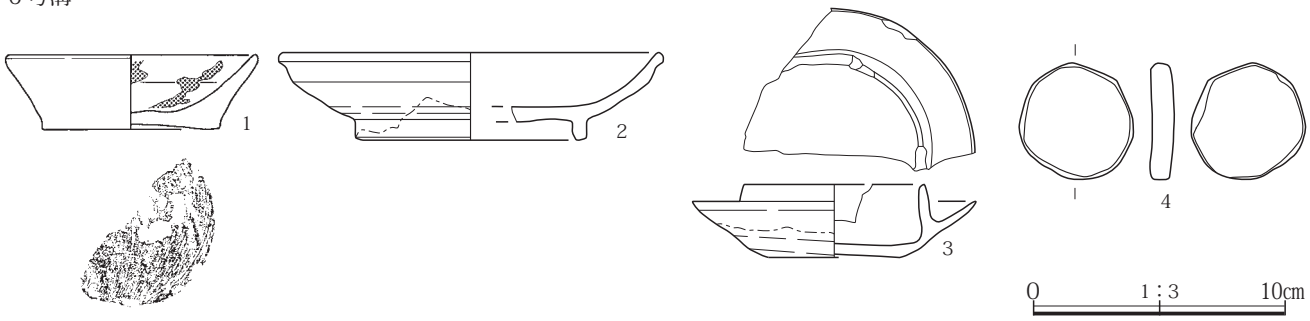
0　1：80　2m

第78図　１号・６号溝

１号溝



６号溝

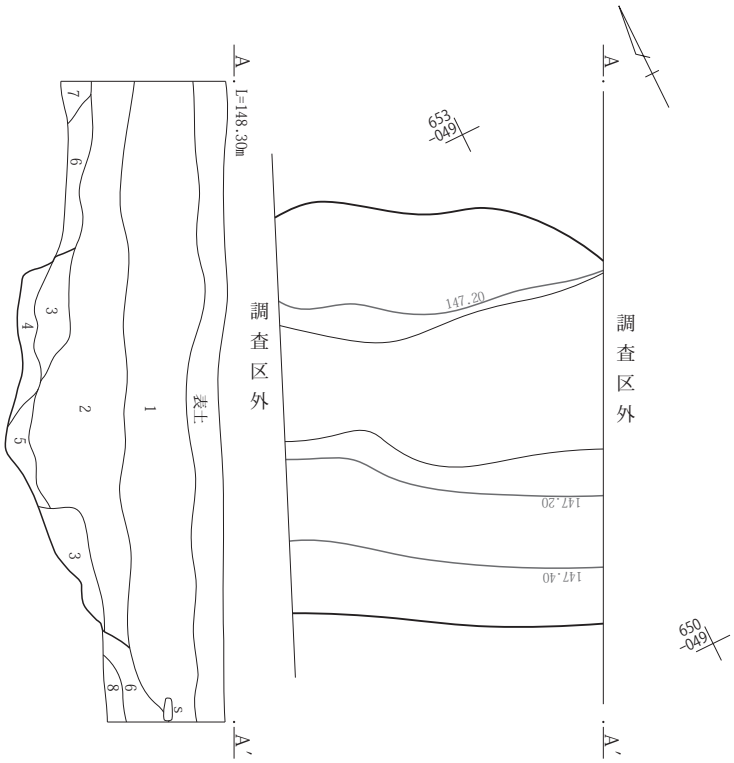


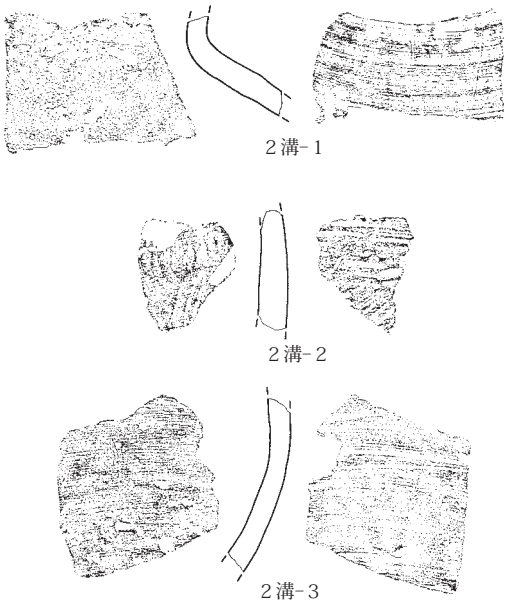
第79図　１号・６号溝出土遺物

第５表　溝一覧表

調査区	調査面	溝番号	グリット	主軸方位	規模			重複	
					長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	旧→新	不明
4 5		1	X＝44,496 ～ 44,502 Y＝-56,142 ～ 56,144	N- 5°-E	(6.27)	(0.85 ～ 2.17)	0.13 ～ 0.44	６号溝→８号竪穴建物 →１号溝	
1-B		2	X＝44,650 ～ 44,653 Y＝-56,048 ～ 56,050	N-65°-W	1.65	(1.93 ～ 1.22)	0.21 ～ 0.43		
1-C		3	X＝44,641 ～ 44,644 Y＝-56,054 ～ 56,055	N-25°-W	0.78	(0.95 ～ 1.07)	0.46 ～ 0.50		
4		4	X＝44,544 ～ 44,546 Y＝-56,117 ～ 56,119	N-30°-W	(2.00)	(0.78)	0.19 ～ 0.30		
4		5	X＝44,514 ～ 44,534 Y＝-56,133 ～ 56,136	N- 5°-W	(21.2)	(0.77)	0.06 ～ 0.37		
4		6	X＝44,508 ～ 44,511 Y＝-56,135 ～ 56,144	N-83°-E	(9.90)	(0.90)	0.69 ～ 1.03	６号溝→１号溝	
10	2	7	X＝44,412 ～ 44,413 Y＝-56,125 ～ 56,127	N-85°-E	(4.10)	(1.90)	0.64 ～ 0.77	７号溝→46号土坑	９号溝
11	1	8	X＝44,356 ～ 44,358 Y＝-56,110 ～ 56,113	N-81°-E	(2.41)	(5.34 ～ 5.40)	0.15 ～ 0.20		
10	2	9	X＝44,408 ～ 44,412 Y＝-56,124 ～ 56,128	N-71°-E	(4.03)	(1.33)	0.59 ～ 1.35		７号溝
10	2	10	X＝44,412 ～ 44,413 Y＝-56,125 ～ 56,127	N-85°-E	(1.35)	(0.83)	0.24 ～ 0.31		
11	2	11	X＝44,348 ～ 44,363 Y＝-56,110 ～ 56,113	N-12°-E	(145.7)	0.13 ～ 0.53	0.01 ～ 0.05		

１区−Ｂ　２号溝



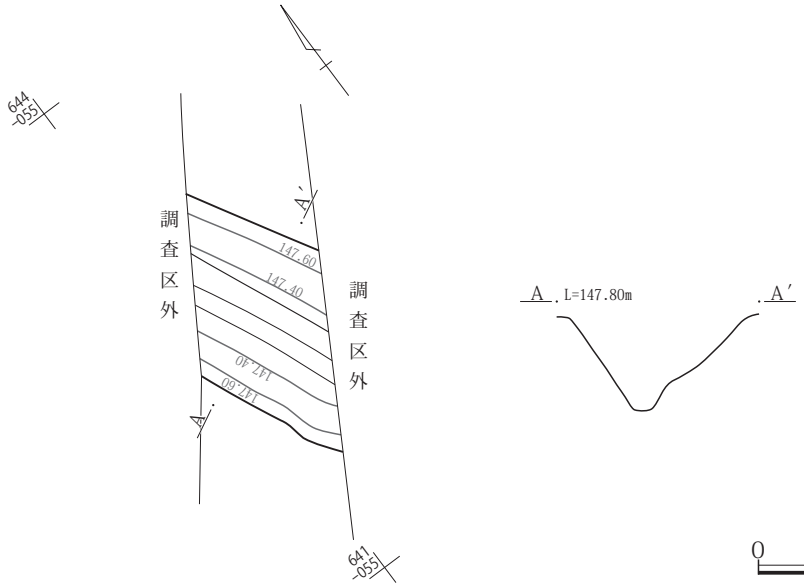


0　1：3　10cm

２号溝　Ａ−Ａ′

1　褐灰色土(10YR4/1)　砂質性あり。しまりない。小礫(φ50～60㎜)少量。
2　褐灰色土(10YR4/1)　やや粘質。１層に近似。礫の混入なし。
3　褐灰色土(10YR4/1)　砂質のローム粒(φ10～20㎜)含む。
4　３層に近似。ローム粒の混入多く褐色味が強い。
5　４層よりローム粒(φ２～５㎜)の混入多い。
6　褐灰色土(10YR4/1)　やや粘質。礫の混入なし。やや粘質の黒褐色土(φ30㎜)が混入。
7　６層に同質黒褐色土ブロックの混入ない。
8　６層にロームブロック(φ30㎜)混入。
※近世以降の溝。

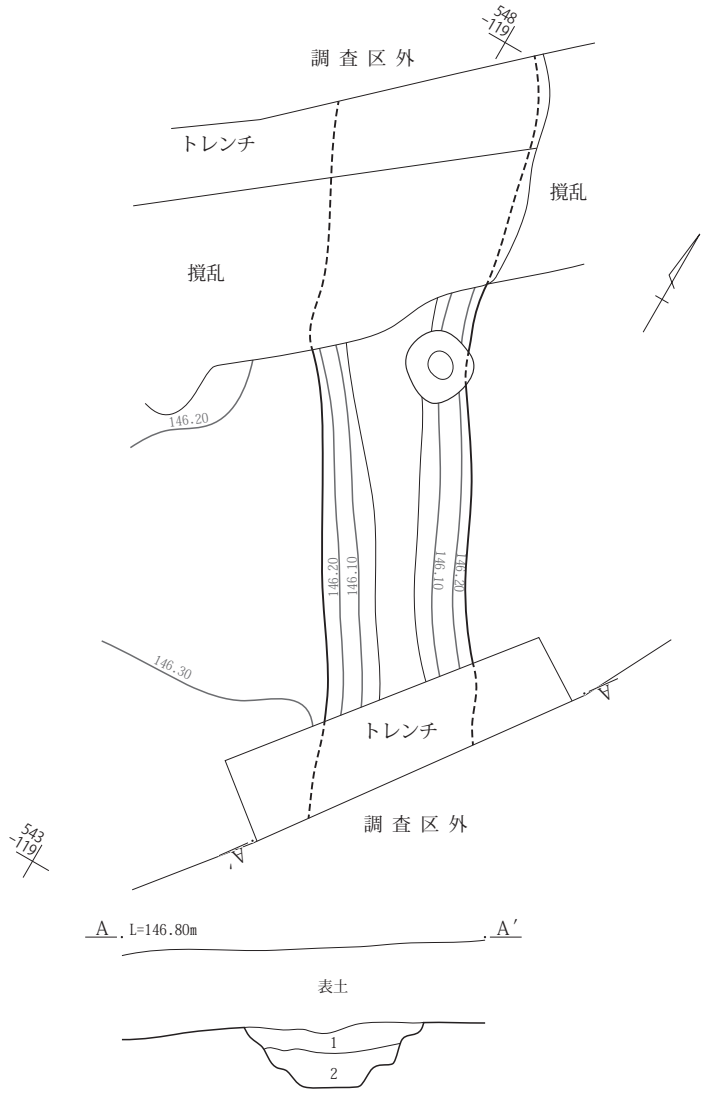
１区−Ｃ　３号溝



0　1：40　1m

第80図　２号・３号溝と２号溝出土遺物

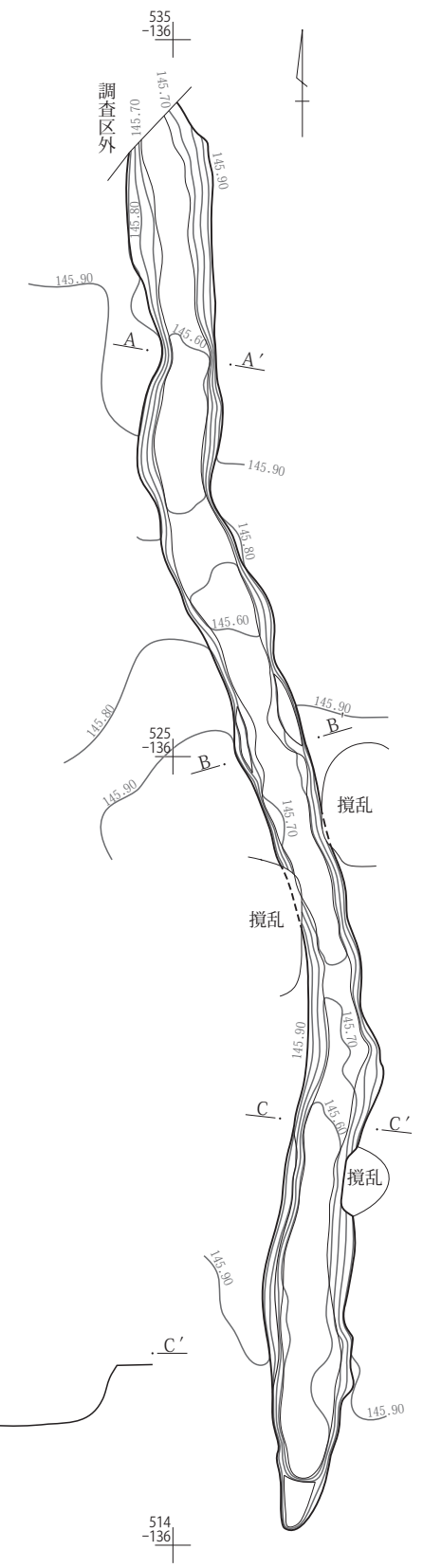
４区４号溝



４号溝　Ａ－Ａ′
1　褐灰色土(10YR4/1)　粘質土。炭化物粒(φ２㎜)含む。
2　１層に近似。粘性が強い。

５号溝　Ａ－Ａ′
1　褐灰色砂層　砂礫層(φ２～５㎜)で、一部ラミナ状に堆積。
2　シルト及び細砂の砂層　一部砂鉄分がラミナ状に堆積。

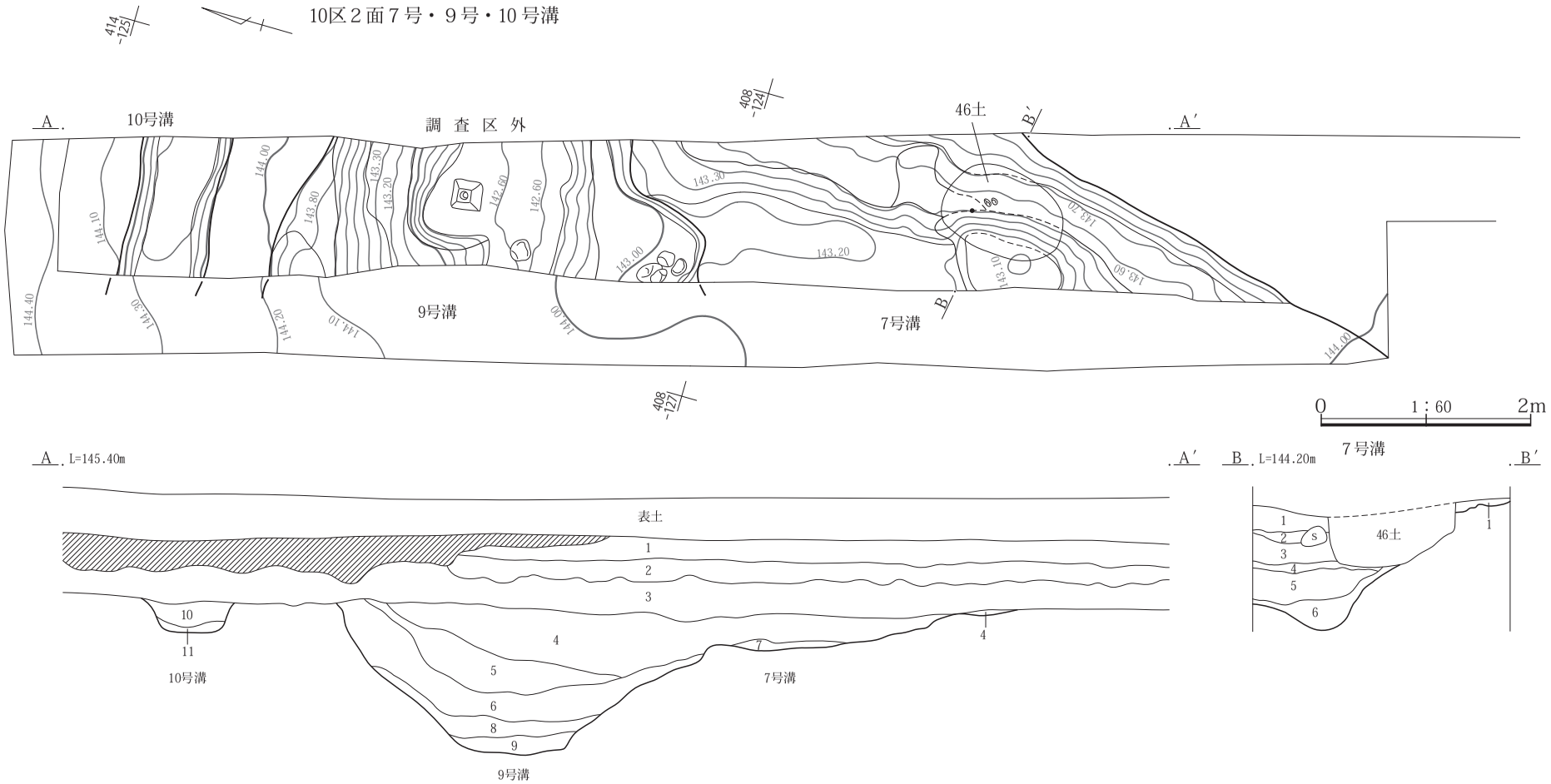
４区５号溝



0　1：40　1m

0　1：100　5m

第81図　４号・５号溝



７号・９号・10号溝　Ａ－Ａ′

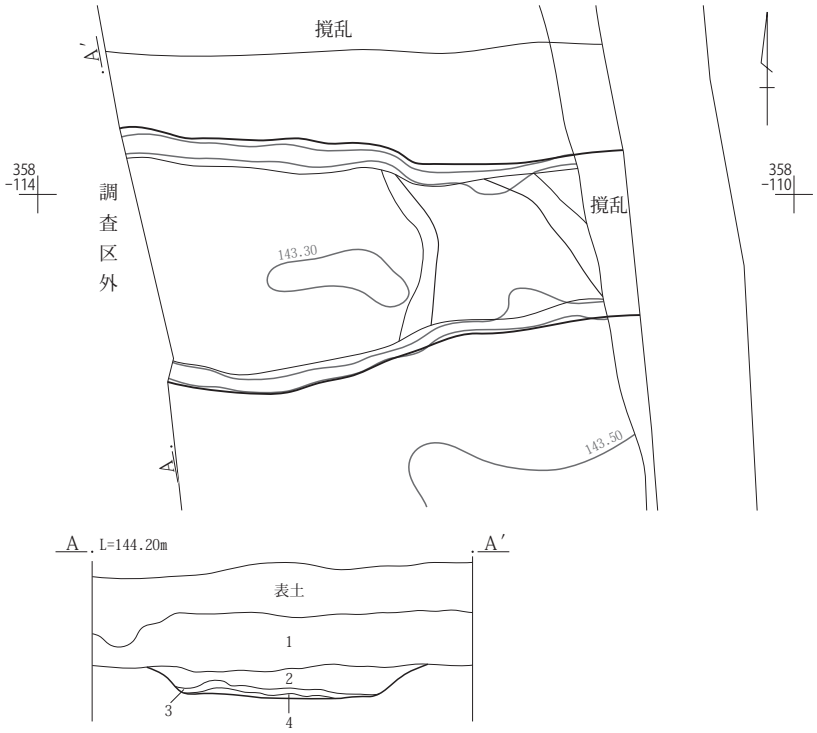
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　シルト質。上層部分に鉄分凝集あり。※近現代水田面か。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　シルト質。全体に斑状の鉄分凝集。
3　褐灰色土(10YR4/1)　シルト質。白色軽石(φ３～５㎜大)（As-BないしAs-Kkか。)を全体に少量含む。
4　(10YR3/2)黒褐色土　全体に鉄分凝集。白色軽石が不均質にわずかに含む。
5　(10YR3/2)黒褐色土　砂質味やや強い。にぶい黄褐色土ブロック溶け込み。
6　(10YR3/2)黒褐色土　ややしまり欠き不均質。鉄分凝集含む。
7　(10YR4/2)灰黄褐色土　にぶい黄褐色土ブロック主体に、暗褐色砂質土含む。不均質。
8　(10YR4/2)灰黄褐色土　にぶい黄褐色土ブロック主体。④層より均質。
9　(10YR4/3)灰黄褐色土　粘生やや強い。しまり弱い。にぶい黄褐色土ブロックを僅か含む。
10　暗褐色土(10YR3/3)　やや砂質味強いシルト質。均質。10号溝覆土。
11　暗褐色土(10YR3/3)　やや砂質味強いシルト質。均質。黄褐色土ブロック少量。10号溝覆土。

７号溝　Ｂ－Ｂ′

1　黒褐色土(10YR3/2)　にぶい黄褐色土ブロックをやや多く含み均質。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　にぶい黄褐色土ブロック主体。暗褐色砂質土含み不均質。
3　黒褐色土(10YR3/2)　にぶい黄褐色土ブロックわずかに含む。
4　灰黄褐色土(10YR4/2)　にぶい黄褐色土ブロック主体。２層より均質。
5　黒褐色土(10YR3/2)　にぶい黄褐色土ブロックをごくわずかに含む。
6　黒褐色土(10YR3/2)　にぶい黄褐色土ブロックを斑に１：１に含む。

第82図　７号・９号・10号溝

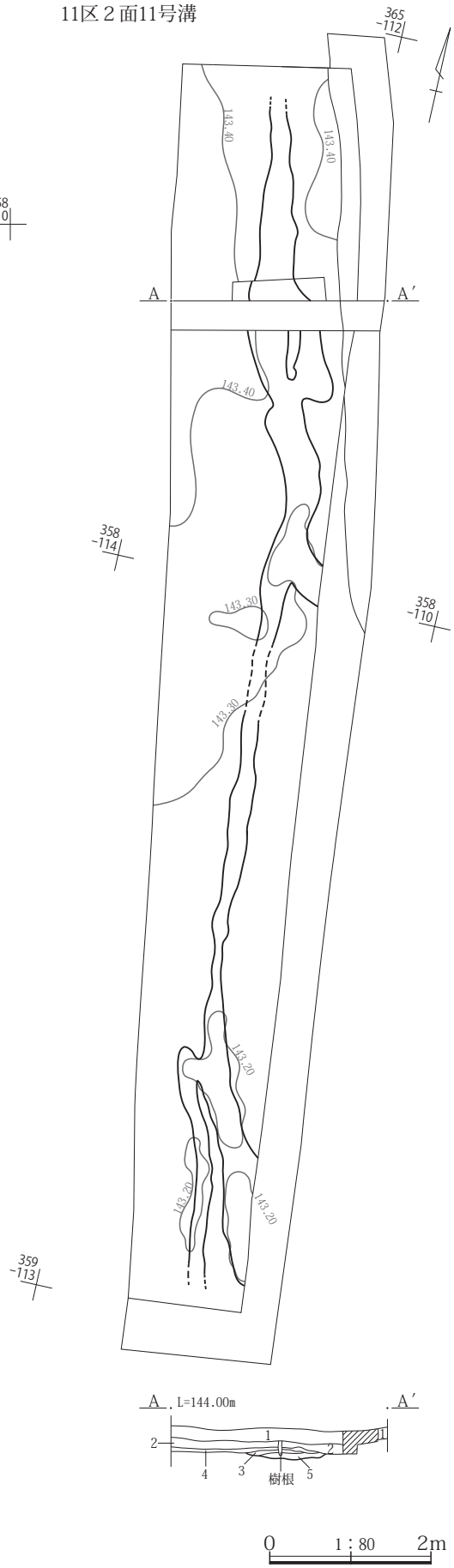
11区１面８号溝



８号溝　Ａ－Ａ′
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　シルト質。上層部分に鉄分凝集あり。近現代水田面か。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　シルト質。やや不均質。白色軽石わずかに含む。
3　黒色土(10YR2/1)　しまり、粘性ともにややあり。
4　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　粗粒砂層。

0　1：40　1m

11区２面11号溝



11号溝　Ａ－Ａ′
1　褐灰色土(10YR4/1)　シルト質。白色軽石(φ３～５㎜大)(As-BないしAs-Kkか)を全体に少量含む。
2　黒褐色土(10YR3/2)　しまり粘性ともにややあり。
3　黒色土(10YR2/1)　しまり粘性ともにややあり。５層より色調暗く、光沢感あり。
4　褐色土(10YR4/6)　中～細粒砂層。やや不均質(黄褐色火山灰層はFAか？ FA洪水相当か？
5　褐色土(10YR4/4)　細粒砂層と黒色粘質土の互層。

0　1：80　2m

第83図　８号・11号溝

第５節　土坑

（第84～88図、PL. 44～48・65）

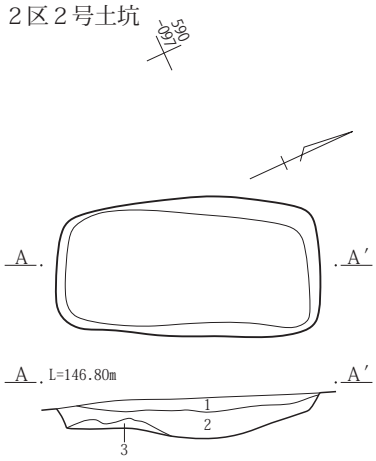
30基の土坑が発掘調査されている。調査区では１区９基、４区７基、９区10基で、他の調査区では２区と10区で１基調査されている。規模等は以下の第６表に掲載した。形状としては円形と長方形が多い。遺物を出土している土坑は、５号土坑（９世紀の土師器と須恵器）18号土坑（９世紀の土師器甕）20号土坑（９世紀の須恵器杯・土師器杯）33号土坑（江戸時代陶磁器鍋や焙烙）であり、これらの出土遺物から土坑の年代は古代と近世の土坑の可能性が高い。遺物を出土していない他の土坑は年代を特定できないが、出土遺物や覆土の特色から古代と近世が多いものと思われる。

第６表　土坑一覧表

調査区	土坑番号	グリット	長軸方位	規模 長軸（m）	規模 短軸（m）	規模 深さ（m）	平面形状	重複 旧→新
	1	１号井戸へ						
2	2	X＝44,588～44,590 Y＝-56,095～56,096	N-25°-E	1.40	0.75	0.13	長方形	
	3	２号井戸へ						
	4	３号井戸へ						
1	5	X＝44,619～44,620 Y＝-56,071～56,072	N-19°-W	(0.98)	(0.88)	0.18	(楕円形)	
	6	欠番						
1	7	X＝44,613 Y＝-56,073～56,074	N-48°-W	(0.36)	(0.65)	0.19	(楕円形)	
1	8	X＝44,620～44,621 Y＝-56,081	N-20°-E	(1.16)	(0.43)	0.25	楕円形	８号土坑→４号竪穴建物
1	9	X＝44,615～44,616 Y＝-56,073	N-３°-W	(1.12)	(0.70)	0.30	(楕円形)	
	10	４号井戸へ						
1	11	X＝44,613～44,614 Y＝-56,079～56,080	N-18°-W	(0.94)	(0.80)	0.31	楕円形	
	12	５号井戸へ						
	13	６号井戸へ						
1	14	X＝44,609～44,610 Y＝-56,078～56,080	N-29°-E	(2.08)	(0.75)	0.16	長方形	
	15	７号井戸へ						
1	16	X＝44,595～44,596 Y＝-56,090～56,091	N-39°-E	0.73	0.60	0.14	楕円形	
3	17	X＝44,575 Y＝-56,102～56,103	—	(0.64)	(0.30)	0.10	—	
1	18	X＝44,613～44,614 Y＝-56,077～56,078	N-27°-E	(1.03)	(0.90)	0.35	楕円形	
9	19	X＝44,696～44,697 Y＝-56,031～56,032	N-76°-W	1.28	0.87	0.15	長方形	
9	20	X＝44,704～44,705 Y＝-56,030～56,031	N-16°-E	1.44	(0.77)	0.10	不明（楕円形か）	
9	21	X＝44,704～44,705 Y＝-56,029～56,030	N-39°-W	0.90	0.67	0.27	楕円形	
9	22	X＝44,702～44,703 Y＝-56,029～56,030	N-64°-W	(0.92)	0.78	0.58	不明（楕円形か）	
9	23	X＝44,699～44,700 Y＝-56,031～56,032	N-31°-E	1.66	1.13	0.34	長方形	24号土坑→23号土坑
9	24	X＝44,699～44,701 Y＝-56,029～56,032	N-58°-W	(2.37)	1.33	0.13	不明（長方形か）	24号土坑→23号・25号土坑
9	25	X＝44,698～44,700 Y＝-56,029～56,030	N-17°-E	(1.48)	(0.82)	0.33	不明（不定形か）	24号土坑→25号土坑→８号井戸
9	26	X＝44,697～44,698 Y＝-56,032～56,033	N-26°-E	1.76	(0.80)	0.16	不明（長方形か）	
9	27	X＝688～689 Y＝-033～034	N-30°-E	1.00	0.93		不定形	
	28	欠番						
	29	８号井戸へ						
	30	欠番						
1-D	31	X＝629～631 Y＝-064～066	N-42°-W	1.80	1.73		不明（楕円形）	
1-E	32	X＝601～602 Y＝-084～085	N-85°-E	1.25	0.87		楕円形	23号竪穴建物→22号竪穴建物→32号土坑
4	33	X＝525～526 Y＝-129～131	N-79°-W	1.97	1.28		長方形	30号竪穴建物→33号土坑
	34	９号井戸へ						
4	35	X＝697～698 Y＝-032～033	N-52°-E	1.04	0.85		楕円形	25号ピット→35号土坑
4	36	X＝537～538 Y＝-125～126	N-72°-W	1.07	0.82		楕円形	
4	37	X＝535～536 Y＝-125～126	N-47°-W	(1.08)	0.98		楕円形	
4	38	X＝532～533 Y＝-129	N-13°-W	0.95	0.68		楕円形	
4	39	X＝534～535 Y＝-132～133	N-37°-W	0.82	0.80		楕円形	39号土坑→10号井戸
	40	10号井戸へ						
4	41	X＝533～534 Y＝-134～135	N-30°-E	(1.06)	0.55		不明（楕円形）	
	42	欠番						
	43	11号井戸へ						
	44	12号井戸へ						
9	45	X＝694～695 Y＝-030～031	N-0°-EW	1.08	0.96	0.08	不明（円形）	９区18号土坑から変更
10	46	X＝44,405 Y＝-56,024	N-６°-E	1.17	0.83	0.42	楕円形	７号溝→46号土坑

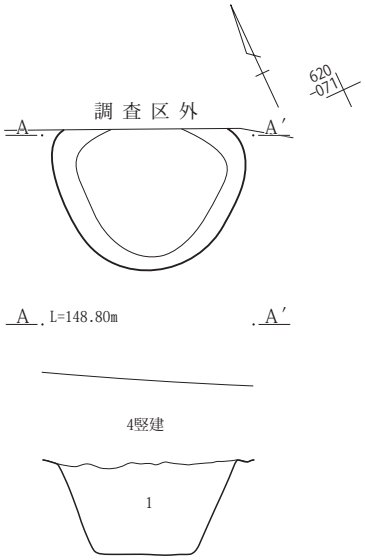
※45号土坑は９区18土坑から変更

２区２号土坑



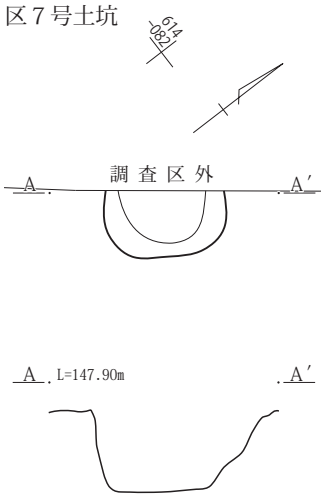
２号土坑　Ａ－Ａ′
1　暗褐色砂質土　白色粒子微量。
2　暗褐色砂質土　黒褐色粘土、にぶい黄色土、焼土粒微量。
3　暗褐色土　暗褐色土多量、白色粒子含む。

１区５号土坑

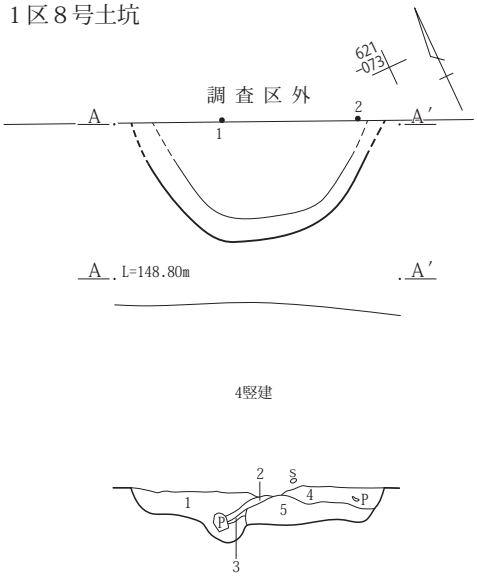


５号土坑　Ａ－Ａ′
1　暗褐色土　白色軽石微量。小礫含む。

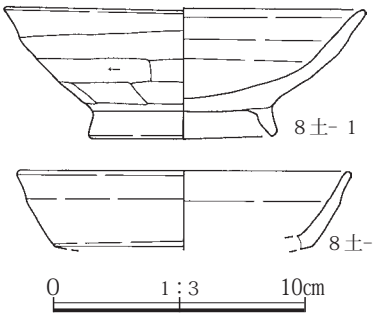
１区７号土坑



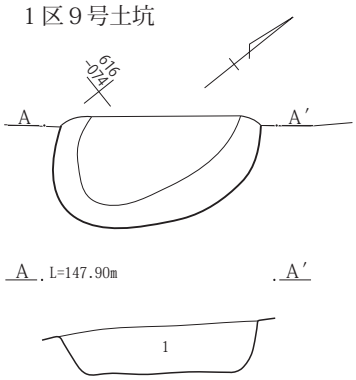
１区８号土坑



８号土坑　Ａ－Ａ′
1　暗褐色土　白色軽石混入。
2　暗褐色土　浅黄色差砂混入。
3　暗褐色土　炭化物多量。
4　暗褐色土　小礫混入。
5　暗褐色土と浅黄色砂の混土。

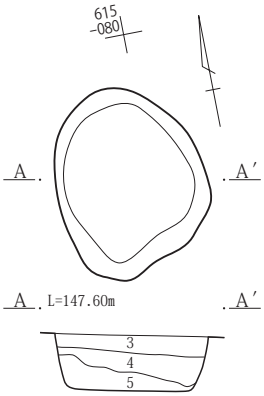


１区９号土坑



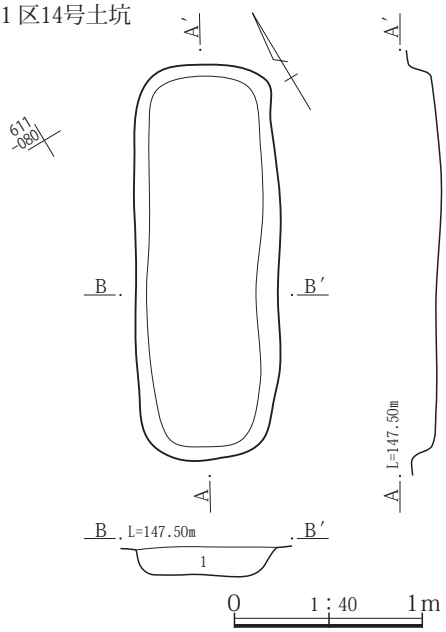
９号土坑　Ａ－Ａ′
1　暗褐色砂　黄灰色土少量。白色粒子、炭化物粒、鉄分微量。

１区11号土坑



11号土坑　Ａ－Ａ′
1　暗褐色土
2　暗褐色土　にぶい黄色土中量。黒褐色土微量。
3　暗褐色土　にぶい黄色土中量。黒褐色土小量。白色粒子微量。鉄分凝集が見られる。

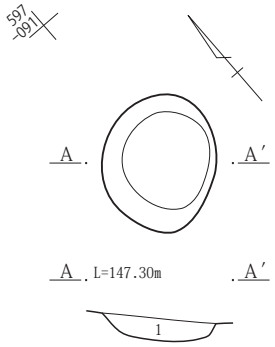
１区14号土坑



14号土坑　Ｂ－Ｂ′
1　暗褐色土　白色粒子を少量含む。

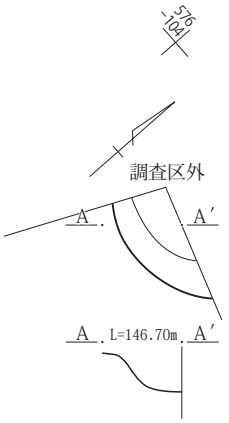
第84図　２号・５号・７号～９号・11号・14号土坑と８号土坑出土遺物

１区16号土坑

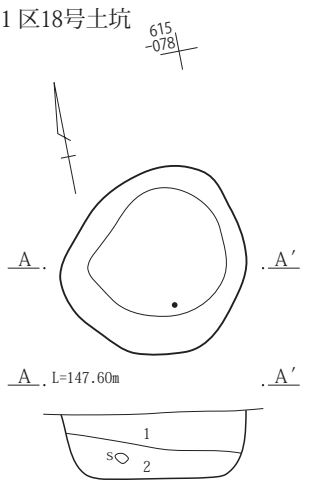


16号土坑　Ａ－Ａ′
1　暗褐色土　やや砂質の暗褐色土主体。黄色砂質土ブロックを含む。

３区17号土坑

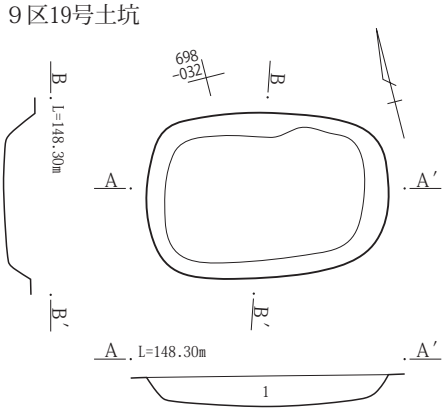


１区18号土坑

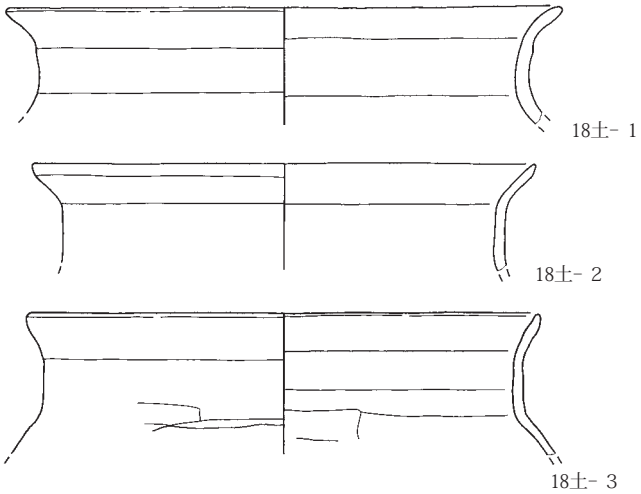


18号土坑　Ａ－Ａ′
1　暗褐色土　焼土粒含む。
2　暗褐色土　にぶい黄色土多量。焼土粒含む。

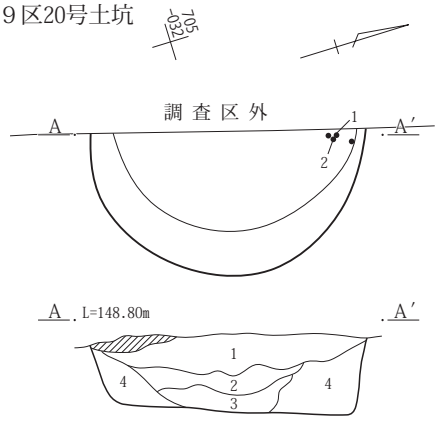
９区19号土坑



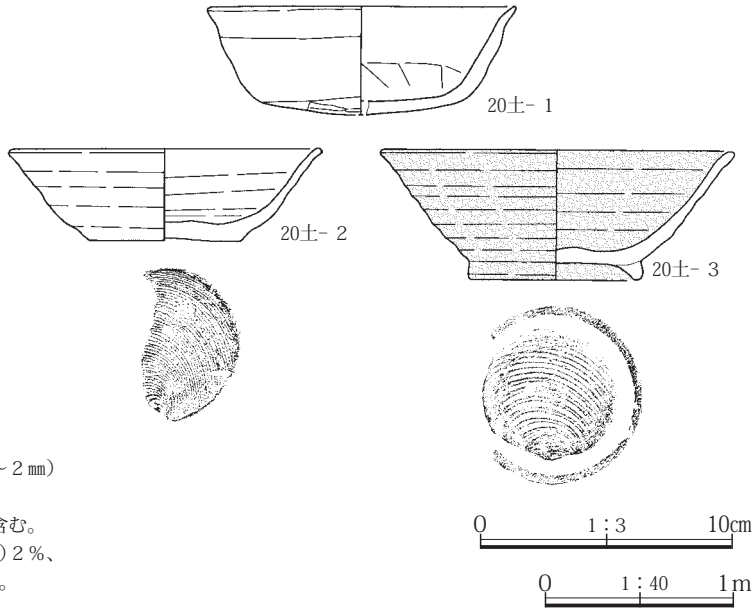
19号土坑　Ａ－Ａ′
1　黒褐色土(10YR3/2)　しまりあり。砂質性あり。ローム粒(φ２～10㎜)、炭化物粒(φ２㎜)を含む。



９区20号土坑

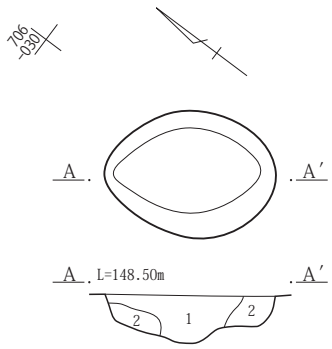


20号土坑　Ａ－Ａ′
1　暗褐色土(10YR3/3)　ややしまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　ややしまりあり。焼土ブロック(φ１～２㎜)２％、炭化片２％、黒褐色土５％含む。
3　暗褐色土(10YR3/3)　ややしまりあり。水性ローム土20％を含む。
4　暗褐色土(10YR3/3)　しまりあり。焼土ブロック(φ１～２㎜)２％、褐色土ブロック(φ１～２㎜)２％、炭化片(φ１～２㎜)２％。



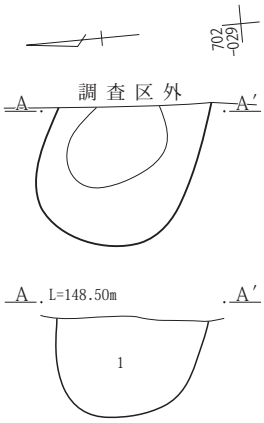
第85図　16号～ 20号土坑と18号・20号土坑出土遺物

９区21号土坑



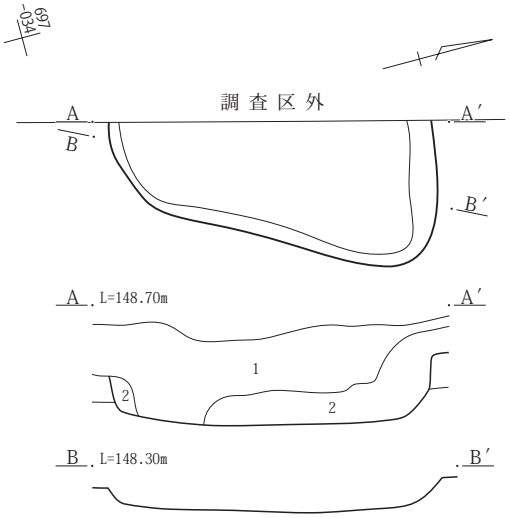
21号土坑　Ａ－Ａ′
1　暗褐色土(10YR3/3)　褐色土ブロック２％。
2　暗褐色土(10YR3/3)　水性ロームブロック(褐色土) 30%。

９区22号土坑



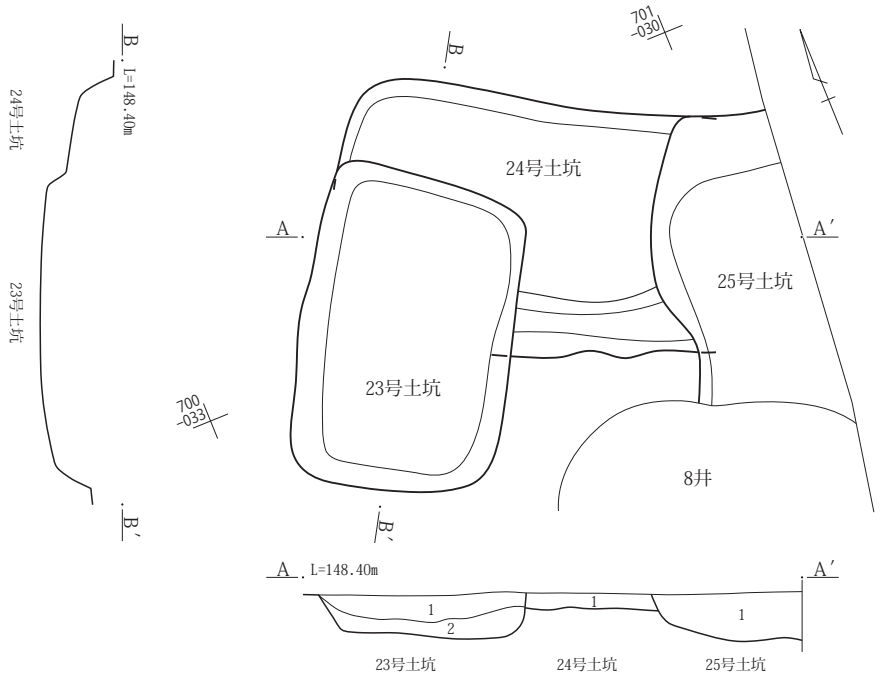
22号土坑　Ａ－Ａ′
1　暗褐色土(10YR3/3)　褐色土ブロック、炭化片、焼土ブロック少量。

９区26号土坑

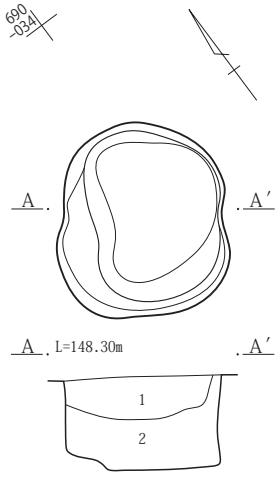


26号土坑　Ａ－Ａ′
1　暗褐色土(10YR3/3)　砂質土を含む。
2　暗褐色土(10YR3/3)　ややしまる。褐色土ブロック５％。

９区23号～25号土坑



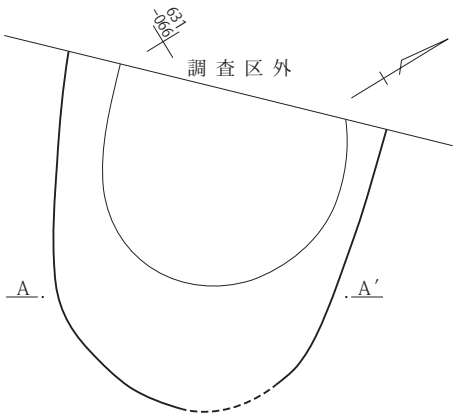
９区27号土坑

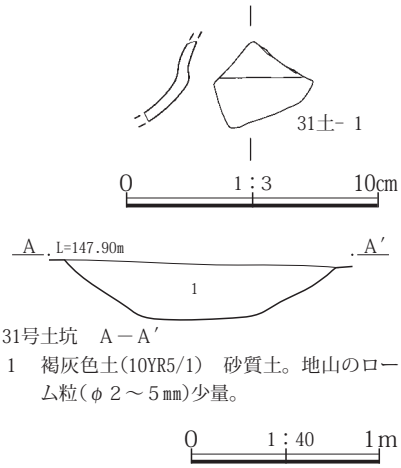


27号土坑　Ａ－Ａ′
1　暗褐色土(10YR3/3)　しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　水性ローム
　ブロック20%。

23号土坑　Ａ－Ａ′
1　暗褐色土(10YR3/3)
2　暗褐色土(10YR3/3)　褐色土ブロック10%。
24号土坑　Ａ－Ａ′
1　暗褐色土(10YR3/3)　褐色土ブロック10%。
25号土坑　Ａ－Ａ′
1　暗褐色土(10YR3/3)　褐色土ブロック５％。

１区-D　31号土坑

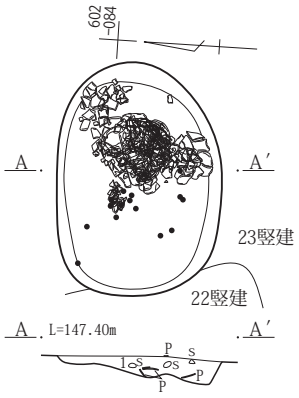




31号土坑　Ａ－Ａ′
1　褐灰色土(10YR5/1)　砂質土。地山のローム粒(φ２～５㎜)少量。

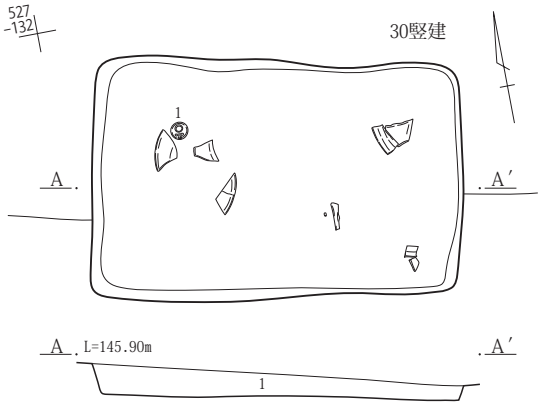
第86図　21号～ 27号・31号土坑と31号土坑出土遺物

１区−Ｅ　32号土坑

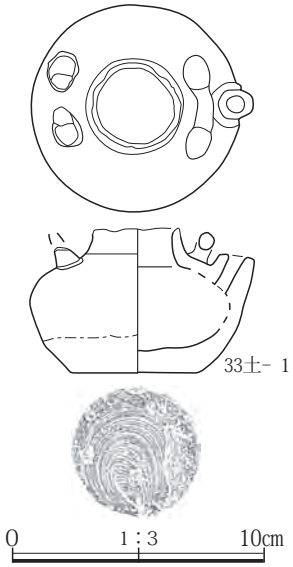


32号土坑　Ａ−Ａ′
1　黒褐色土(10YR3/1)　炭化物多量。
As-C軽石粒(φ２〜７㎜)少量。

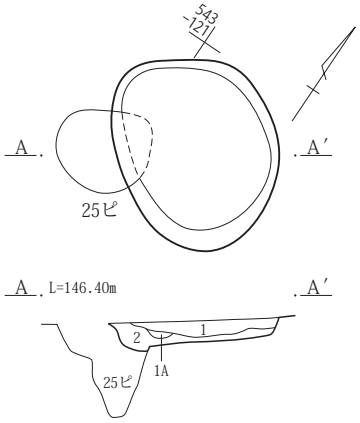
４区33号土坑



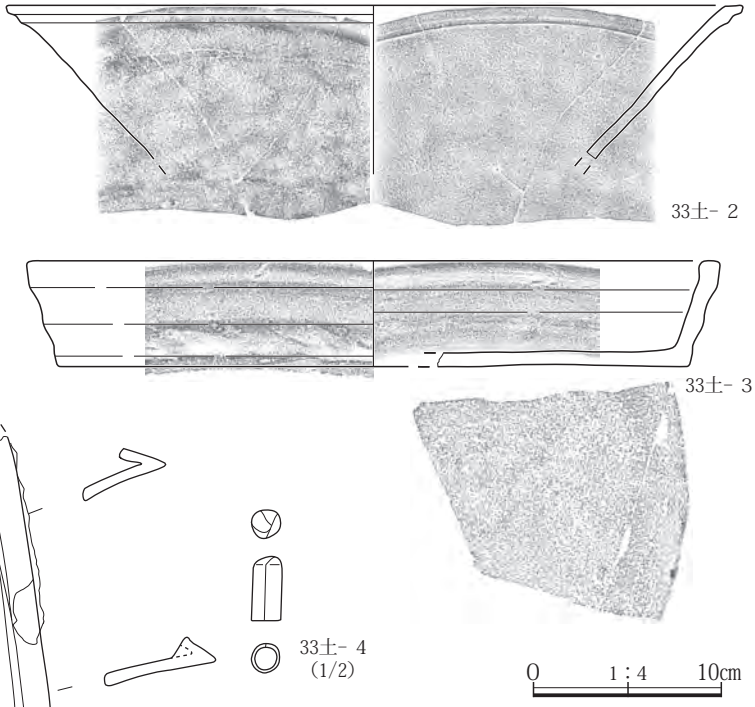
33号土坑　Ａ−Ａ′
1　褐灰色土(10YR5/1)　砂質性あり。粘質ローム粒(φ２〜７㎜)少量。※住居を壊す。近世遺物あり。

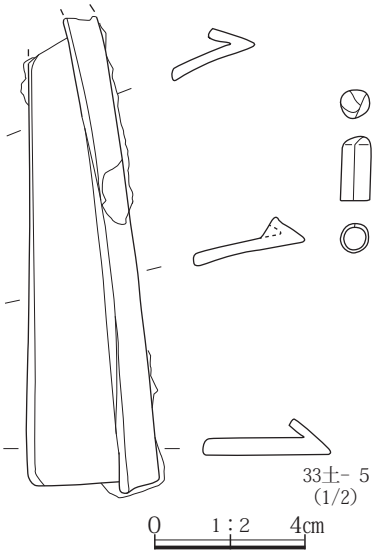


４区35号土坑

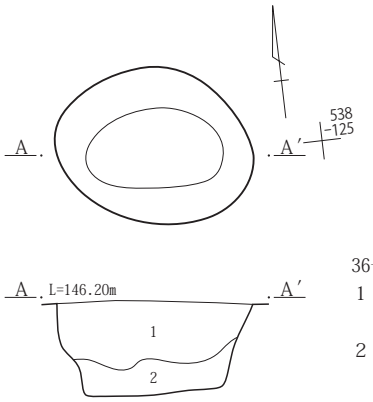


35号土坑　Ａ−Ａ′
1　褐灰色土(10YR4/1)　灰白色粘土ブロックを含む。
1Ａ　１層に近似。灰白色粒の多量。
2　灰白色シルト質土　砂粒多量。

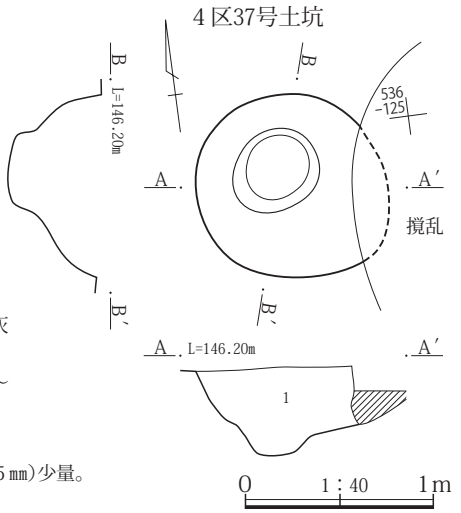




４区36号土坑



４区37号土坑

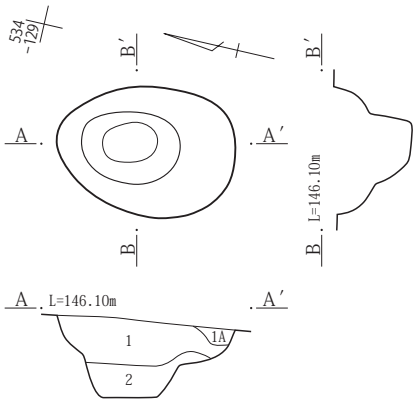


36号土坑　Ａ−Ａ′
1　黒褐色土(10YR3/2)　しまりあり。粘性あり。上層に灰白色粒軽石(φ２〜５㎜)を含む。
2　褐灰色土(10YR4/1)　灰白色シルト質ブロック(φ２〜50㎜)多量。

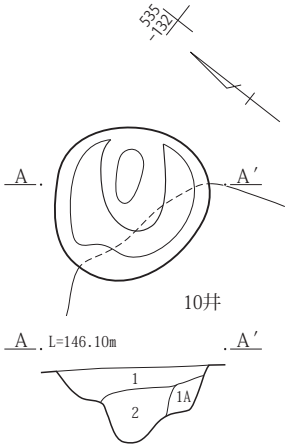
37号土坑　Ａ−Ａ′
1　褐灰色土(10YR4/1)　しまりあり。灰白色軽石(φ２〜５㎜)少量。

第87図　32号・33号・35号〜37号土坑と33号土坑出土遺物

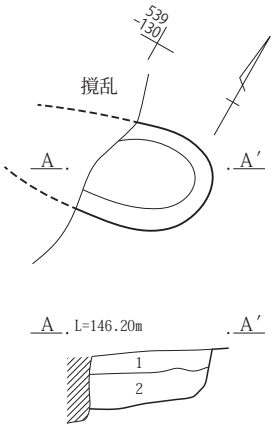
４区38号土坑



４区39号土坑



４区41号土坑

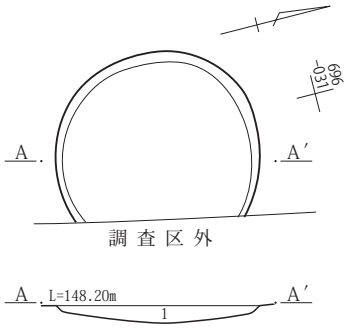


38号土坑　Ａ－Ａ′
1　黒褐色土(10YR3/2)　灰白色軽石(φ２～４㎜)少量。
1Ａ 黒褐色土(10YR3/2)　シルト質土粒子(灰白色)多量。
2　褐灰色土(10YR4/1)　灰白色シルト質土(φ５～７㎜)混入。

39号土坑　Ａ－Ａ′
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　やや砂質でしまりあり。
1Ａ １層に近似。焼土粒炭化物のわずかに混入。
2　褐灰色土(10YR4/1)　やや粘性あり。砂礫(φ５～７㎜)少量。

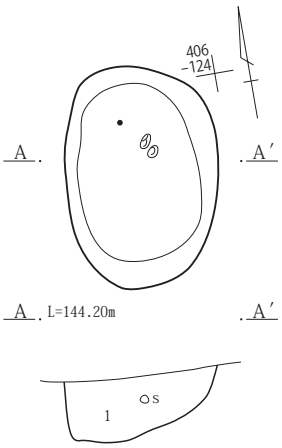
41号土坑　Ａ－Ａ′
1　褐灰色土(10YR4/1)　焼土粒(φ２～５㎜)、炭化物(φ５～10㎜)を含む。
2　１層に近似。炭化物、焼土粒の混入少ない。

９区45号土坑



45号土坑　Ａ－Ａ′
1　黒褐色土(10YR3/2)　ややしまりあり。φ５～15㎜の砂質ローム粒(地山)を含む。

10区46号土坑



46号土坑　Ａ－Ａ′
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　シルト質。白色軽石わずかに含む。鉄分凝集なし。にぶい黄褐色土ブロックを少量含む不均質。

0　1：40　1m

第88図　38号・39号・41号・45号・46号土坑

第６節　ピット(第89～92図、PL. 49～53)

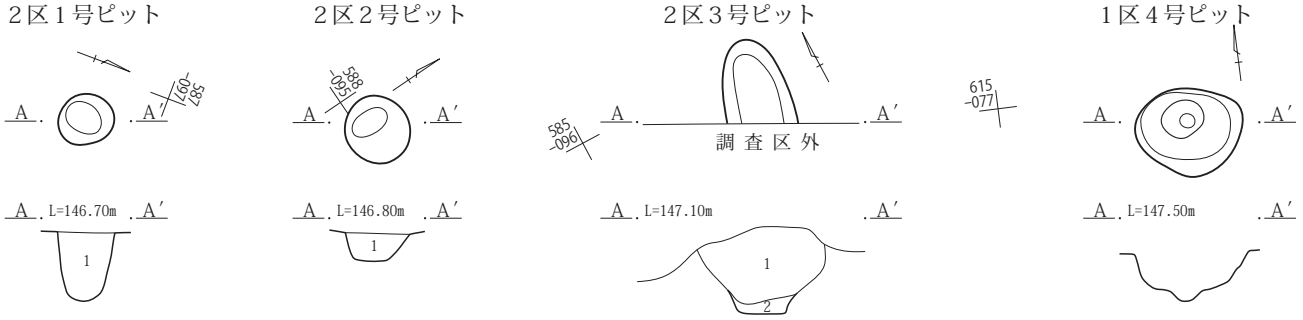
50基のピットが発掘調査されている。調査区では１区９基、２区３基、４区８基、６区３基、７区５基、９区４基、10区８基、11区10基である。数の多い１区と10区はまとまって出土しているが、掘立柱建物等を確認することはできなかった。11区は第２面からの出土である。形状は大部分が楕円形であり、短径20～30㎝、深さは20～30㎝が多い。７区６号ピットでは、断面で直径20㎝深さ１ｍ以上の掘り込み面を確認できた。規模等は以下の第７表に掲載した。遺物は出土していない。土坑の年代は明らかでないが、竪穴建物や土坑・溝が古代と近世の遺構であり、ピットを埋めている覆土も近いので、ほぼ同じ時期と思われる。しかし、覆土の違いから古代と近世を区別することはできなかった。

50基のピットの中で２区３号ピットが他のピットと大きく異なっている。覆土中に大量の焼土粒があり、形状はＵ字状を呈し先端部が北側に位置する。南側は発掘区域外となっているが、南側に竪穴建物が存在し、その建物のカマドの可能性があるのではないだろうか。

第７表　ピット計測表

調査区	調査面	ピット番号	位置	主軸方位	規模			平面形状	重複
					長軸（m）	短軸（m）	深さ（m）		旧→新
2		1	X＝44,586 Y＝-56,096	N-42°-W	0.31	0.26	0.36	楕円形	２号竪穴建物→１号ピット
2		2	X＝44,587 ～44,588 Y＝-56,094	N-70°-W	0.38	0.35	0.16	楕円形	
2		3	X＝44,584 ～44,585 Y＝-56,094 ～56,095	N-15°-E	(0.45)	0.38	0.11	楕円形	
1		4	X＝44,614 ～44,615 Y＝-44,075 ～44,076	N-71°-E	(0.62)	(0.54)	0.26	楕円形	９号竪穴建物→４号ピット
7		5	X＝44,461 Y＝-56,138	N-40°-W	(0.24)	(0.21)	0.31	楕円形	
7		6	X＝44,462 ～44,663 Y＝-56,138	N-80°-E	(0.27)	(0.25)	0.69	楕円形	
7		7	X＝44,463 Y＝-56,139 ～46.140	N-70°-E	0.37	0.35	0.20	楕円形	
7		8	X＝44,462 Y＝-56,139 ～56,140	N-30°-E	0.50	0.41	0.14	楕円形	
7		9	X＝44,461 ～44,462 Y＝-56,139	N-85°-E	0.42	0.32	0.26	楕円形	
6		10	X＝44,475 Y＝-56,141	N-20°-W	0.27	(0.23)	0.12	楕円形	
6		11	X＝44,474 Y＝-56,139	N-45°-E	0.25	0.21	0.08	楕円形	
6		12	X＝44,478 ～44,479 Y＝-56,139	N-51°-E	0.41	0.35	0.26	不定形	
1		13	X＝44,610 Y＝-56,081	N-0°-EW	0.23	0.23	0.15	円形	
1		14	X＝44,608 Y＝-56,081 ～56,082	N-42°-E	0.28	0.27	0.17	楕円形	
1		15	X＝44,608 ～44,609 Y＝-56,079	N-55°-E	0.35	0.24	0.23	楕円形	
1		16	X＝44,607 Y＝-56,078 ～56,079	N-45°-E	0.32	0.28	0.37	不定形	
1		17	X＝44,606 ～44,607 Y＝-56,078 ～56,079	N-46°-W	0.39	0.37	0.28	楕円形	
1		18	X＝44,599 Y＝-44,088 ～56,099	N-47°-E	0.43	0.39	0.13	楕円形	
9		19	X＝44,713 Y＝-58.028	N-6°-E	0.50	(0.30)	0.48	(楕円形)	
9		20	X＝44,695 Y＝-56,032	N-20°-E	0.50	0.36	0.26	不定形	
9		21	X＝44,705 ～44,706 Y＝-56,029 ～56,030	N-14°-W	0.43	0.33	0.28	楕円形	
1-A		22	X＝44,664 ～44,665 Y＝-56,044	N-5°-E	0.43	0.38	0.30	楕円形	
1-A		23	X＝44,663 Y＝-56,044	N-60°-W	0.47	0.43	0.36	楕円形	
9		24	X＝44,687 Y＝-56,034	N-25°-W	0.44	0.42	0.26	不定形	
4		25	X＝44,542 Y＝-56,120 ～56,121	N-57°-E	0.52	0.45	0.51	楕円形	35号土坑→25号ピット
4		26	X＝44,538 ～44,539 Y＝-56,123 ～56,124	N-81°-E	0.72	0.57	0.49	楕円形	26号ピット→９号井戸
4		27	X＝44,532 ～44,533 Y＝-56,130 ～56,131	N-63°-W	0.47	0.37	0.46	楕円形	
4		28	X＝44,512 Y＝-56,139	N-68°-E	0.37	0.32	0.33	楕円形	
4		29	X＝44,516 Y＝-56,142	N-45°-W	0.28	0.27	0.31	楕円形	
4		30	X＝44,508 Y＝-56,140 ～56,141	N-12°-E	0.58	0.52	0.44	楕円形	
4		31	X＝44,521 Y＝-56,135 ～56,136	N-46°-E	0.20	0.18	0.35	楕円形	
4		32	X＝44,523 Y＝-56,132 ～56,133	N-13°-E	0.54	0.47	0.73	楕円形	
10	1	33	X＝44,400 Y＝-56,124	N-30°-W	0.44	0.42	0.48	楕円形	
10	1	34	X＝44,400 Y＝-56,123	N-63°-W	0.24	0.18	0.08	楕円形	
10	1	35	X＝44,399 Y＝-56,123	N-5°-W	0.23	0.17	0.22	楕円形	36号ピット→35号ピット
10	1	36	X＝44,399 Y＝-56,123	N-36°-W	0.33	0.25	0.40	楕円形	36号ピット→35号ピット
10	1	37	X＝44,400 Y＝-56,122	N-40°-E	0.35	0.27	0.21	楕円形	
10	1	38	X＝44,402 ～44,403 Y＝-56,123	N-37°-W	0.35	(0.32)	0.24	楕円形	
10	1	39	X＝44,404 Y＝-56,123 ～56,124	N-33°-W	0.35	0.32	0.11	楕円形	
10	1	40	X＝44,411 Y＝-56,127	N-48°-W	0.33	0.30	0.21	楕円形	
11	2	41	X＝44,374 Y＝-56,116	N-37°-W	0.34	0.28	0.29	楕円形	
11	2	42	X＝44,369 ～44,370 Y＝-56,114 ～56,115	N-5°-E	0.38	0.36	0.17	楕円形	
11	2	43	X＝44,368 ～44,369 Y＝-56,114 ～56,115	N-82°-W	0.48	0.42	0.13	楕円形	44号ピット→43号ピット
11	2	44	X＝44,368 Y＝-44,114	N-82°-W	0.27	0.25	0.22	楕円形	44号ピット→43号ピット
11	2	45	X＝44,366 Y＝-56,114	N-50°-W	(0.45)	0.37	0.35	楕円形	
11	2	46	X＝44,371 Y＝-56,115 ～56,116	N-79°-W	0.32	0.27	0.06	楕円形	
11	2	47	X＝44,368 Y＝-56,114	N-23°-E	0.33	0.30	0.29	楕円形	
11	2	48	X＝44,364 Y＝-56,114	N-15°-W	0.43	(0.17)	0.13	(楕円形)	
11	2	49	X＝44,364 Y＝-56,112 ～56,113	N-17°-W	0.38	(0.26)	0.17	楕円形	
11	2	50	X＝44,368 Y＝-56,114 ～56,115	N-79°-E	0.33	(0.17)	0.11	(楕円形)	

２区１号ピット　２区２号ピット　２区３号ピット　１区４号ピット

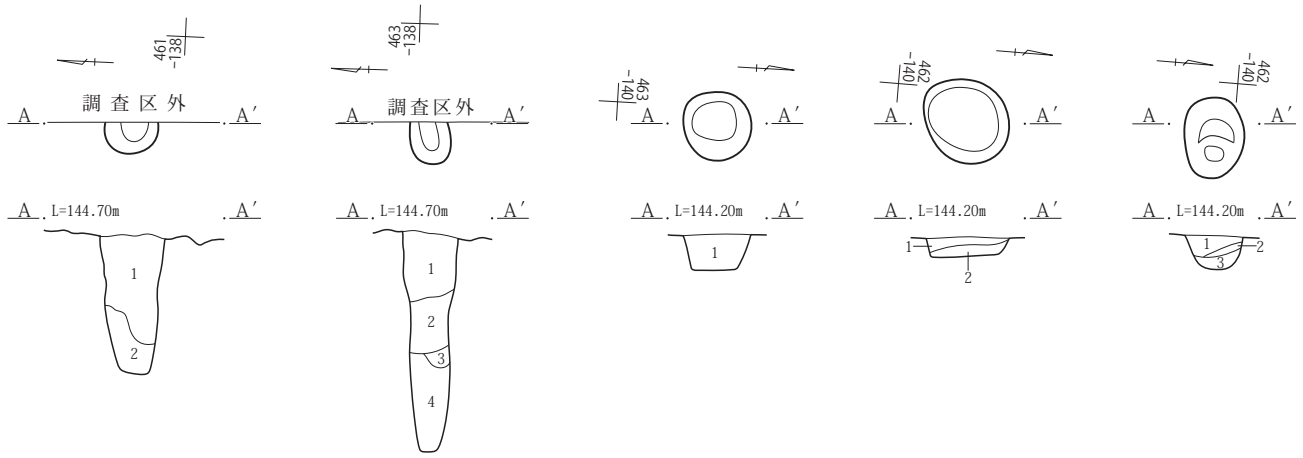


１号ピット　Ａ－Ａ′
1　灰白色土　灰白色シルト質土ブロック多量。

２号ピット　Ａ－Ａ′
1　暗褐色土　灰白色シルト質土粒多量。

３号ピット　Ａ－Ａ′
1　黄褐色土　焼土塊大量。炭化物少量。暗褐色土塊含む。
2　黄褐色土　炭化物、灰白色土中量。焼土塊少量。

７区５号ピット　７区６号ピット　７区７号ピット　７区８号ピット　７区９号ピット



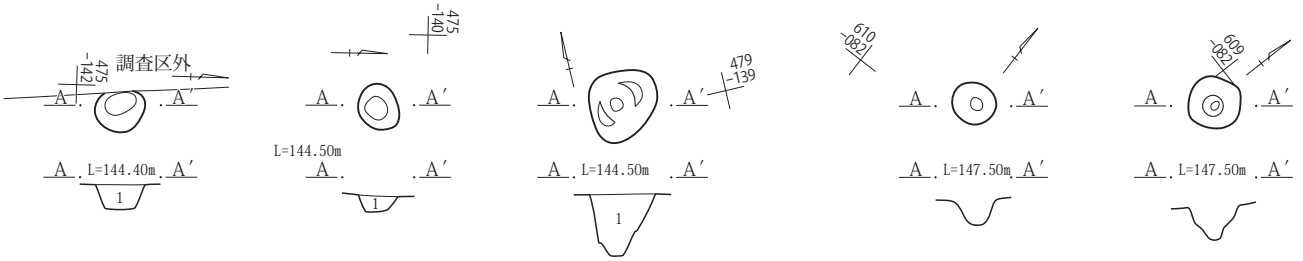
５号ピット　Ａ－Ａ′
1　暗褐色土　暗褐色土主体。灰白色シルト質土ブロック多量。
　　黒色粘質土ブロック少量。
2　暗褐色土　暗褐色土と灰白色シルト質土ブロックの混土。

６号ピット　Ａ－Ａ′
1　暗褐色土　粘性のある暗褐色土主体。黒色粘質土、黄色シルト質土。
　　灰白色シルト質土大粒を含む。
2　暗褐色土　１層より灰白色シルト質土の含有が多く、全体に灰色が
　　強い。
3　暗褐色土　暗褐色土と灰白色シルト質土ブロックの混土。
4　暗褐色土　２層に類似。

７号ピット　Ａ－Ａ′
1　暗褐色土　暗褐色土と灰白色シルト質土小ブロックの混土。

８号・９号ピット　Ａ－Ａ′
1　暗褐色土　暗褐色粘質土主体。灰白色シルト質土ブロック(小)を
　　含む。
2　灰白色シルト質土　灰白色シルト質土主体の層。
3　暗褐色土　暗褐色土と灰白色シルト質土小ブロックの混土。

６区10号ピット　６区11号ピット　６区12号ピット　１区13号ピット　１区14号ピット



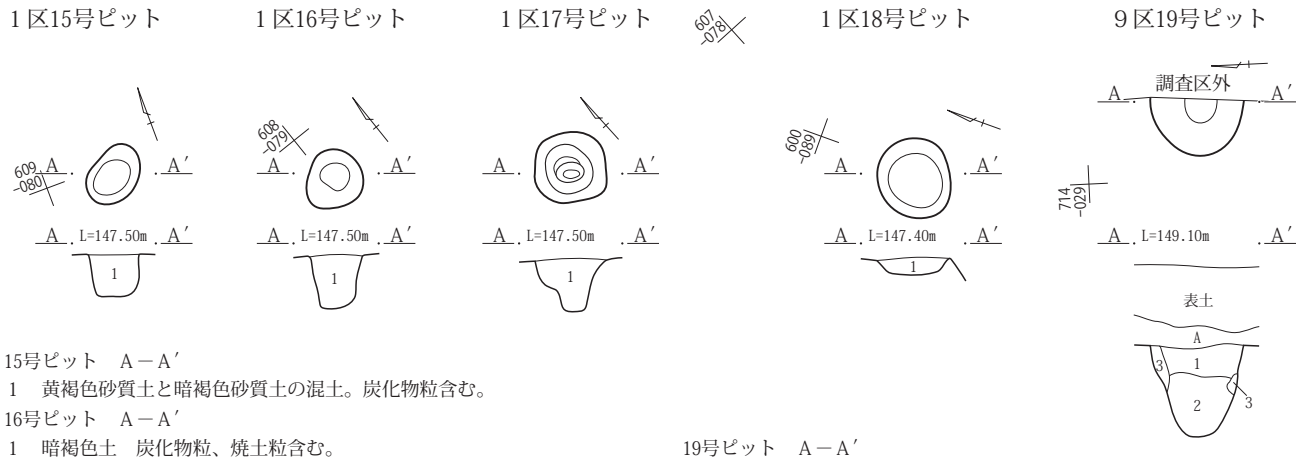
10号ピット　Ａ－Ａ′
1　暗褐色土　暗褐色土と灰白色シルト質土ブロックを含む。

11号ピット　Ａ－Ａ′
1　暗褐色土　灰白色シルト質土粒(大)少量。

12号ピット　Ａ－Ａ′
1　暗褐色土　暗褐色土主体。灰白色粘質土と黒色粘質土ブロック(小)少量。

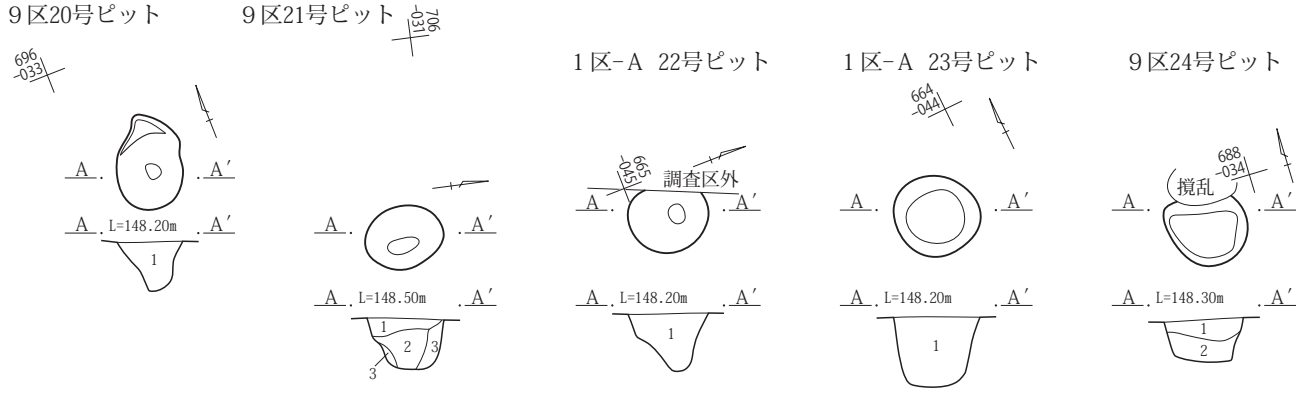
0　1：40　1m

第89図　１号～14号ピット



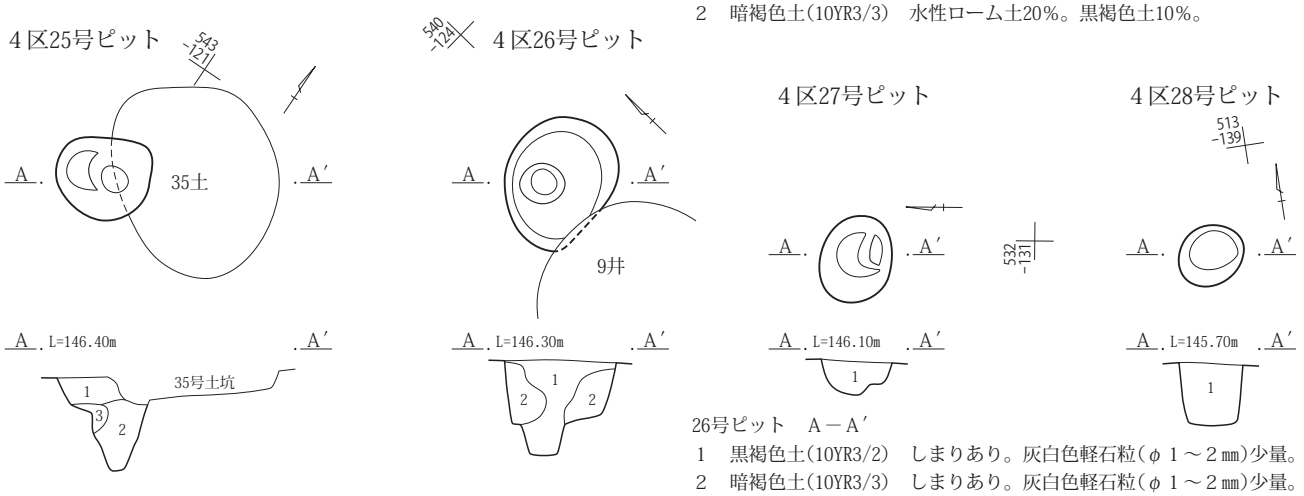
15号ピット　Ａ－Ａ′
1　黄褐色砂質土と暗褐色砂質土の混土。炭化物粒含む。
16号ピット　Ａ－Ａ′
1　暗褐色土　炭化物粒、焼土粒含む。
17号ピット　Ａ－Ａ′
1　暗褐色土　黄褐色土少量。鉄分凝集が見られる。
18号ピット　Ａ－Ａ′
1　暗褐色土　均質でしまりと粘性の弱い層。表土に類似する。

19号ピット　Ａ－Ａ′
A　表土と黒色土と砂質ロームの混土。
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒(灰黄褐色6/2:砂質)、炭化物を含む。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　砂質ローム粒(φ２㎜)、砂質ロームブロック(φ40㎜)多量。
3　灰黄褐ロームブロック２次堆積。



20号ピット　Ａ－Ａ′
1　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒・ブロック(φ10～20㎜)を含む。
21号ピット　Ａ－Ａ′
1　暗褐色土(10YR3/3)　褐色土ブロック２％。
2　暗褐色土(10YR3/3)　水性ロームブロック(褐灰色土) 30％。
3　暗褐色土(10YR3/3)　褐灰色ブロック５％。

22号ピット　Ａ－Ａ′
1　黒褐色土(10YR3/2)　灰白色粒(φ１㎜)少量。
23号ピット　Ａ－Ａ′
1　黒褐色土(10YR3/2)　灰白色粒(φ１㎜)、ローム粒少量。
24号ピット　Ａ－Ａ′
1　暗褐色土(10YR3/3)　しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　水性ローム土20％。黒褐色土10％。

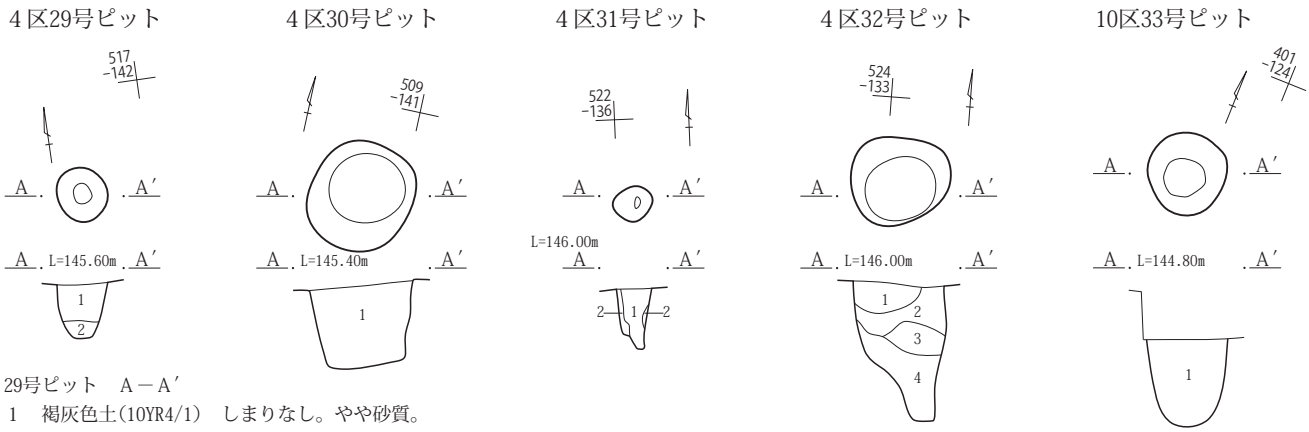


25号ピット　Ａ－Ａ′
1　黒褐色(10YR3/2)　灰白色軽石(φ２㎜)少量。
2　褐灰白色土(10YR4/1)　灰白色シルト質土粒子多量。
3　シルト質土(地山)の２次堆積土。

26号ピット　Ａ－Ａ′
1　黒褐色土(10YR3/2)　しまりあり。灰白色軽石粒(φ１～２㎜)少量。
2　暗褐色土(10YR3/3)　しまりあり。灰白色軽石粒(φ１～２㎜)少量。
27号ピット　Ａ－Ａ′
1　褐灰色土(10YR4/1)　やや砂質しまりない。
28号ピット　Ａ－Ａ′
1　褐灰色土(10YR4/1)　しまりなし。やや砂質。

0　1：40　1m

第90図　15号～ 28号ピット



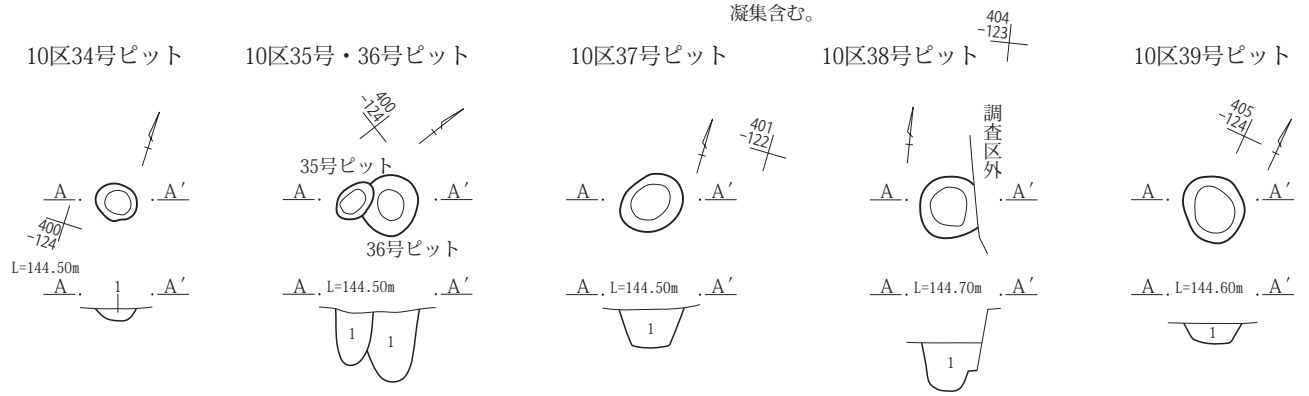
29号ピット　A－A′
1　褐灰色土(10YR4/1)　しまりなし。やや砂質。
2　粘質黒色土　地山。

30号ピット　A－A′
1　黒褐色土(10YR3/1)　しまりあり。灰白色軽石(φ２～３㎜)少量。

31号ピット　A－A′
1　暗褐色土(10YR3/3)　しまりあり。灰白色軽石(φ１～２㎜)少量。
2　褐灰色土　地山２次堆積土。

32号ピット　A－A′
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　しまりあり。砂質性あり。灰白色粒(φ１㎜)褐色粒(φ５㎜)を含む。
2　黒褐色土(10YR3/1)　しまりあり。灰白色軽石(φ２㎜)を含む。
3　２層に近似。軽石粒少ない。
4　２層に近似。軽石粒さらに少ない。

33号ピット　A－A′
1　灰黄褐色土(10YR5/2)　砂質味強い。しまり弱い。均質。斑に鉄分凝集含む。



34号ピット　A－A′
1　灰黄褐色土(10YR5/2)　砂質味強い。しまり弱い。均質。斑に鉄分凝集含む。

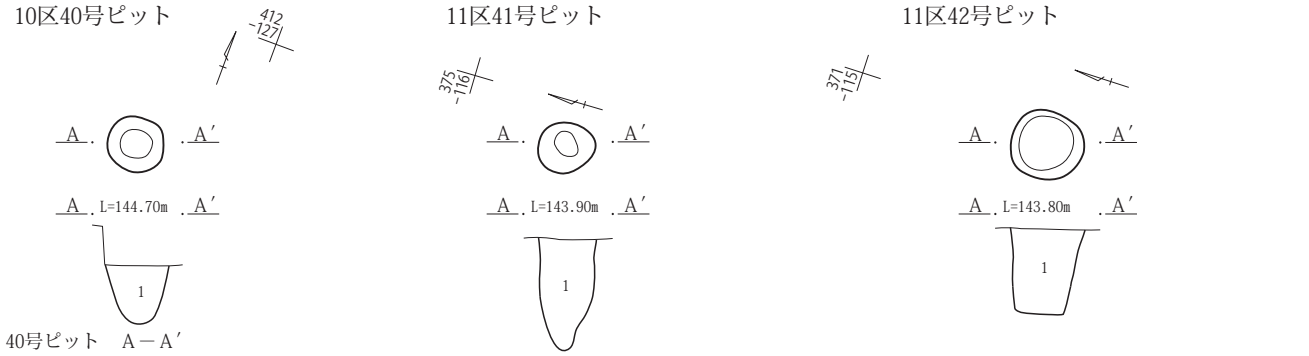
35号ピット　A－A′
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　砂質味強い。しまり弱い。色調暗くやや不均質。

36号ピット　A－A′
1　灰黄褐色土(10YR5/2)　砂質味強い。しまり弱い。均質。斑に鉄分凝集含む。

37号ピット　A－A′
1　灰黄褐色土(10YR5/2)　砂質味強い。しまり弱い。均質。斑に鉄分凝集含む。

38号ピット　A－A′
1　灰黄褐色土(10YR5/2)　砂質味強い。しまり弱い。均質。斑に鉄分凝集含む。

39号ピット　A－A′
1　灰黄褐色土(10YR5/2)　砂質味強い。しまり弱い。均質。斑に鉄分凝集含む。



40号ピット　A－A′
1　灰黄褐色土(10YR5/2)　砂質味強い。しまり弱い。均質。斑に鉄分凝集含む。

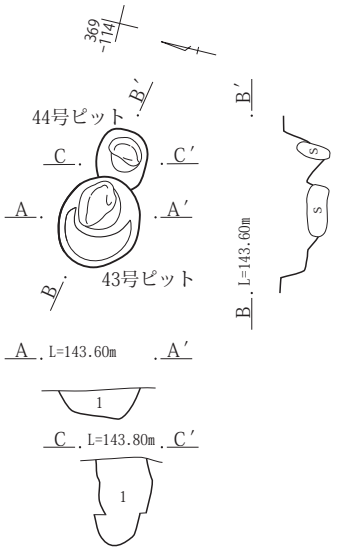
41号ピット　A－A′
1　褐灰色土(10YR4/1)　シルト質。しまりやや弱い。白色軽石(φ３～５㎜大。As-BないしAs-Kkか。)少量。黒色粘質土ブロックを全体にわずかに含む。

42号ピット　A－A′
1　褐灰色土(10YR4/1)　シルト質。しまりやや弱い。白色軽石(φ３～５㎜大。As-BないしAs-Kkか。)少量。黒色粘質土ブロックを全体にわずかに含む。

第91図　29号～ 42号ピット

0　1：40　1m

11区43号・44号ピット



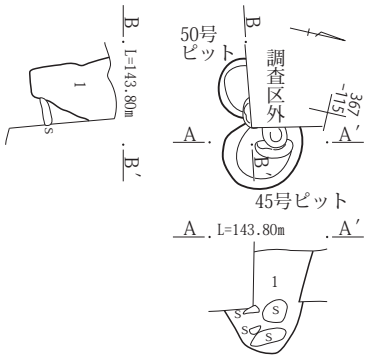
43号ピット　Ａ－Ａ′

1　灰黄褐色土(10YR5/2)　白色軽石(φ３～５㎜大。As-BないしAs-Kkか。)少量。黒色粘質土ブロックを全体にわずかに含む。

44号ピット　Ａ－Ａ′

1　褐灰色土(10YR4/1)　シルト質。しまりやや弱い。白色軽石(φ３～５㎜大。As-BないしAs-Kkか。)少量。黒色粘質土ブロックを全体にわずかに含む。

11区45号・50号ピット



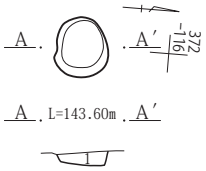
45号ピット　Ａ－Ａ′

1　褐灰色土(10YR4/1)　シルト質。しまりやや弱い。白色軽石(φ３～５㎜大。As-BないしAs-Kkか。)少量。黒色粘質土ブロックを全体にわずかに含む。

50号ピット　Ａ－Ａ′

1　褐灰色土(10YR4/1)　シルト質。しまりやや弱い。白色軽石(φ３～５㎜大。As-BないしAs-Kkか。)少量。黒色粘質土ブロックやや多い。

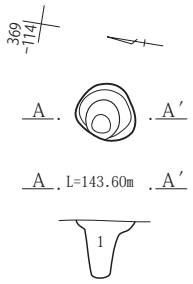
11区46号ピット



46号ピット　Ａ－Ａ′

1　灰黄褐色土(10YR5/2)

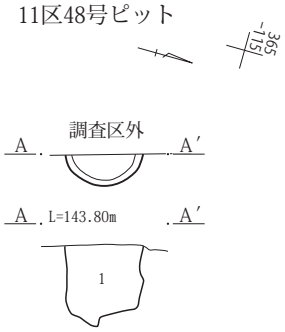
11区47号ピット



47号ピット　Ａ－Ａ′

1　灰黄褐色土(10YR5/2)　白色軽石を含む。

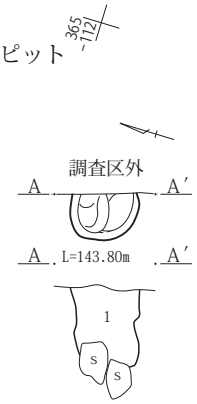
11区48号ピット



48号ピット　Ａ－Ａ′

1　褐灰色土(10YR4/1)　シルト質。しまりやや弱い。白色軽石(φ３～５㎜大。As-BないしAs-Kkか。)少量。黒色粘質土ブロックを全体にわずかに含む。

11区49号ピット



49号ピット　Ａ－Ａ′

1　褐灰色土(10YR4/1)　シルト質。しまりやや弱い。白色軽石(φ３～５㎜大。As-BないしAs-Kkか。)少量。黒色粘質土ブロックを全体にわずかに含む。

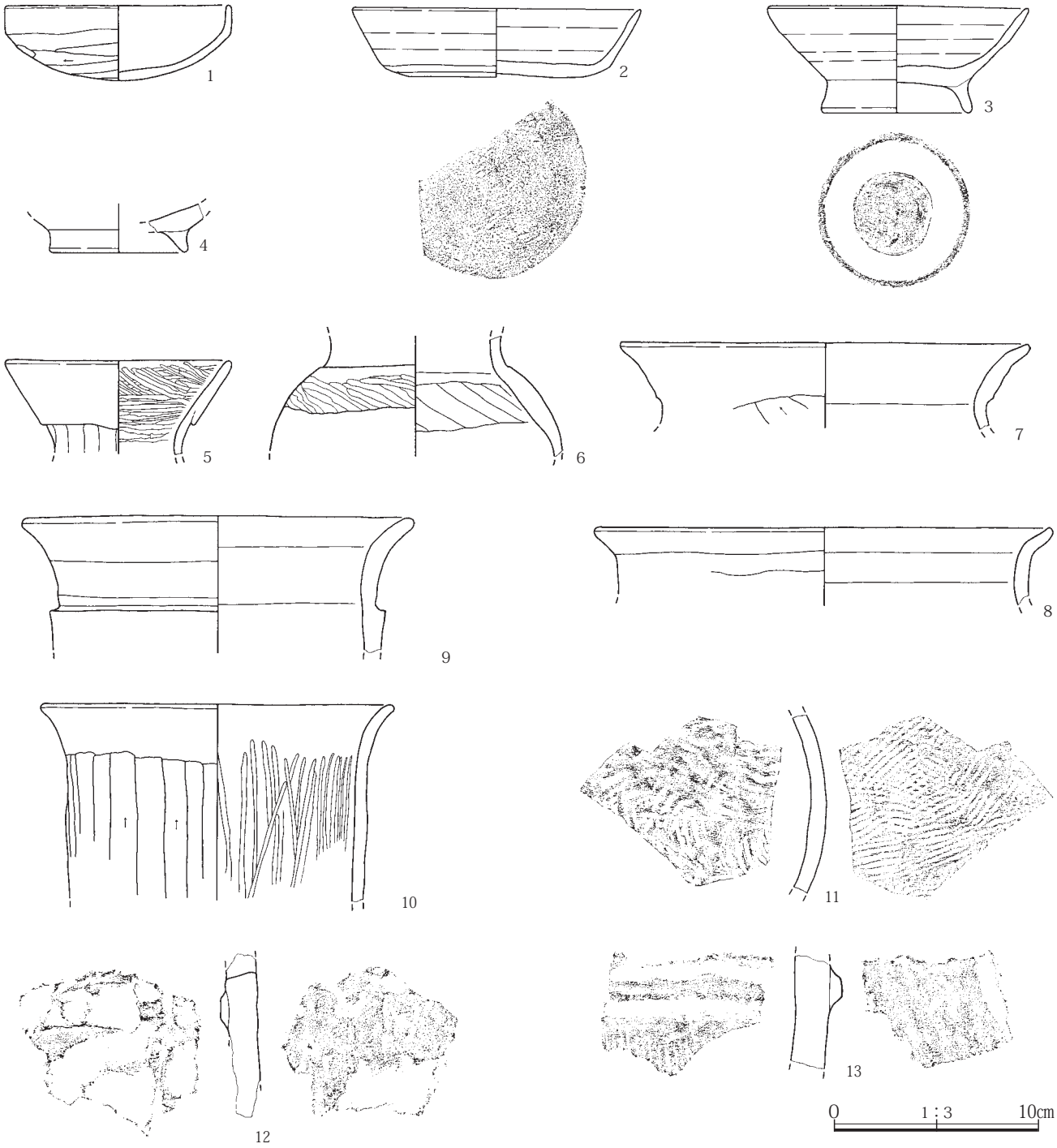
0　1：40　1m

第92図　43号～ 50号ピット

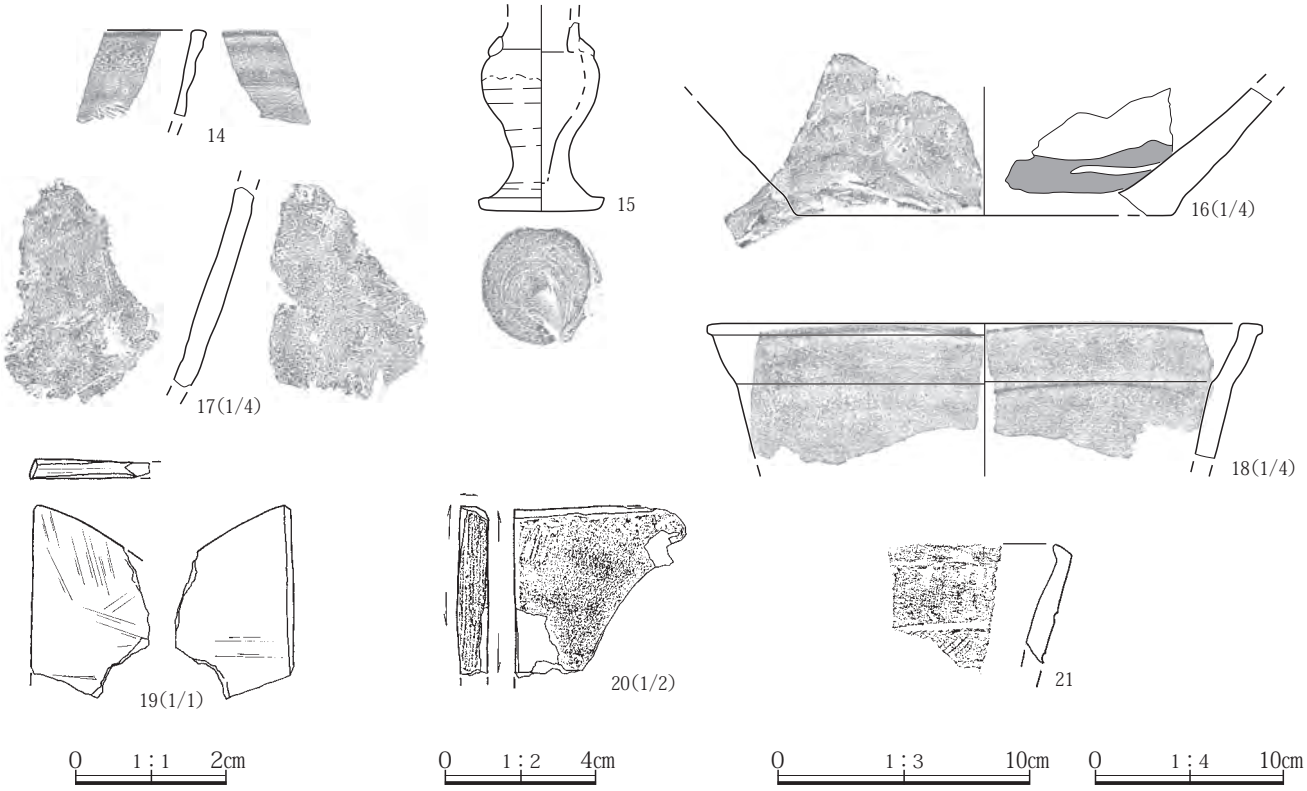
第７節　遺構外出土遺物

（第93・94図、PL. 65）

特定の遺構からの出土でない遺物が、21点出土している。時期は縄文時代から近世までである。縄文時代後期の深鉢(21)、古墳時代の壺２点（５・６）埴輪の破片(12・13)土師器甕３個（７・９・10）須恵器甕破片(11)、奈良時代の土師器杯（１）須恵器杯（２）、平安時代の土師器甕（８）須恵器椀（３）、中世の古瀬戸おろし皿(14)、中近世の常滑の甕(17)鉢(16)内耳鍋(18)花瓶(15)、近現代の石板(19)研石(20)等である。縄文時代と弥生時代以外の遺物は、遺跡内から確認された遺構と同じ時代である。



第93図　遺構外出土遺物（１）



第94図　遺構外出土遺物（２）

第４章　まとめ

第１節　前橋市0891遺跡について

発掘は道路拡幅工事に伴うものであり、南北方向に細長い発掘区である。全長は南北約460m、幅は５m前後が多く、狭いところで約１m、最も広い４区で11mである。調査調査の結果、古墳時代から江戸時代までの多くの遺構と遺物が確認されている。

遺跡は旧粕川村大字深津字本郷を中心とし（２区～12区）、北側（１区・９区）が大字女淵字根柵である。本郷の東は本郷東、南東方向に本郷前がある。それぞれの地名の中心地と思われる付近は微高地で多くの建物が建っているが、周辺は水田地帯となっている。微高地である１区～６区と９区は、建穴建物や土坑・溝・井戸等が確認されているが、低地部分である発掘南の７区・８区・10区・11区・12区ではそれらの遺構はなかった。

発掘調査により古墳時代から平安時代までの竪穴建物29棟、同じ頃と思われる竪穴状遺構４棟、古墳時代から近世までの井戸12基、溝11条、土坑30基、ピット50基を確認することができた。竪穴建物の時代は古墳時代から平安時代であった。他の遺構は、竪穴建物と同じ時代と、それ以降の中近世と思われる。中世末から近世にかけて周辺には多くの館や城が作られる。この頃の遺構として３区と４区周辺に作られた深津の寄居の存在が指摘されている。（引用文献２）

第２節　古墳時代の土器について

竪穴建物29棟を中心として、多くの土坑・井戸・溝等から土器が出土している。幅の狭い調査区であり、竪穴建物等の全体を発掘調査出来た建物は少なく、遺物の出土量も少なかった。その中で完形品に近い多くの土師器を良好な状態で出土した建物が23号竪穴建物であり、完形品は少ないが多くの土師器等を出土しているのが、５号・７号・11号・21号・18号・30号竪穴建物等である。それらの土器年代は古墳時代の５世紀後半から平安時代の９世紀前半である。６世紀前半・７世紀後半・８世紀前半、および９世紀後半以降の竪穴建物は遺跡内には存在していたと思われるが、発掘調査されていない。これらの土器の中から古墳時代の土器について、最も古い23号竪穴建物の一括遺物を第１段階、11号・16号・18号竪穴建物を第２段階、10号・15号竪穴建物を第３段階として、以下概要を説明する。

第１段階（５世紀後半想定）

この段階の土器は、内斜口縁の杯（１・２・３）と模倣杯（杯蓋）（４・５・６）が出土している。カマド内で同時に使用されていた甕（11・12）の器面は密であり、小石等の混入は認められない。カマド両袖の芯材として口縁部を下にして据えられていた使われた甕（16・17）も器面は密であり、小石等の混入は認められない。杯は杯蓋模倣であり杯身模倣は基本的に出土しない。内斜口縁杯は深く、底部は丸く凹状となっていない。

カマド手前の32号土坑付近から出土した丸胴の壺（18・19）は、胴部が大きく張り出している。その南側から大小の甑（20・21）が近接して出土している。甑はカマドに据えられて甕（11・12）同様に大小と使い分けられていたものと思われる。

第２段階　（６世紀後半想定）

この段階の土器は内斜口縁杯が使われなくなり、第１段階では出土しなかった模倣杯（杯身）（１・２・３）が出土している。甕は胴部が直線的に長胴化し（22・23）、胴部外面のヘラ削りが垂直方向に直線となってくる。胎土中に小石を多く混入させた甕も多く作られている。

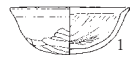
第３段階　（７世紀前半想定）

この段階の土器は、土師器杯の口径および器高が小さくなる（１・２）。甕（４・５・６）がさらに長胴化し、器肉が薄くなる。甕の最大径は、第１段階では胴部中央付近、第２段階では口縁部と胴部中央付近がほぼ同じ、第３段階では口縁部となる。

竪穴建物から出土した土器は、生活段階で使用していた土器のすべてではなく、竪穴建物が廃棄された段階で残されたものが多い。23号竪穴建物は、一部の調査であったが、生活の様子を良好に残した建物であった。

第１段階

杯

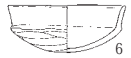

1
23竪建-2

2
23竪建-6

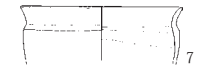
3
23竪建-5

4
23竪建-3

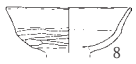
5
23竪建-4


6
23竪建-1

高杯

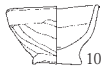

7
23竪建-10

鉢

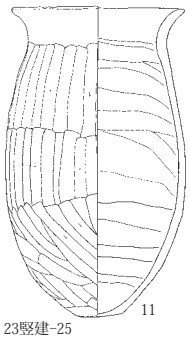

8
23竪建-7

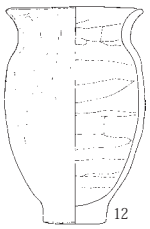
9
23竪建-8

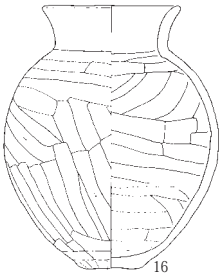
ミニチュア椀型

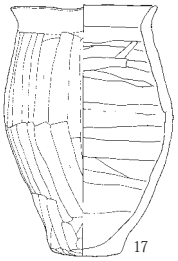

10
23竪建-11

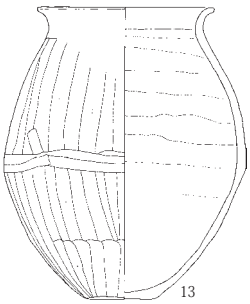
甕

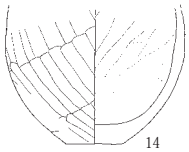

カマド内左側
11
23竪建-25

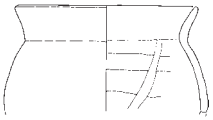

カマド内右側
12
23竪建-27

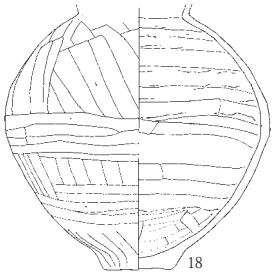

カマド右袖芯
16
23竪建-22

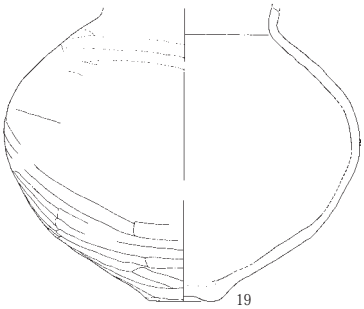

カマド左袖芯
17
23竪建-24

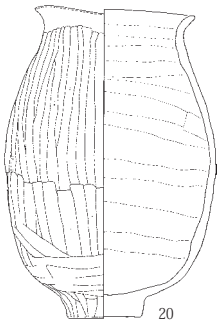

カマド上面
13
23竪建-23


カマド袖上
14
23竪建-30

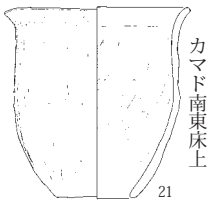

カマド袖上
15
23竪建-29

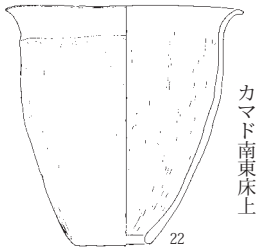

カマド南32土坑付近床上
18
23竪建-13


カマド南32土坑付近床上
19
23竪建-12

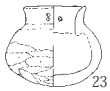

カマド南32土坑付近床上
20
23竪建-26

甑


カマド南東床上
21
23竪建-20


カマド南東床上
22
23竪建-21

壺

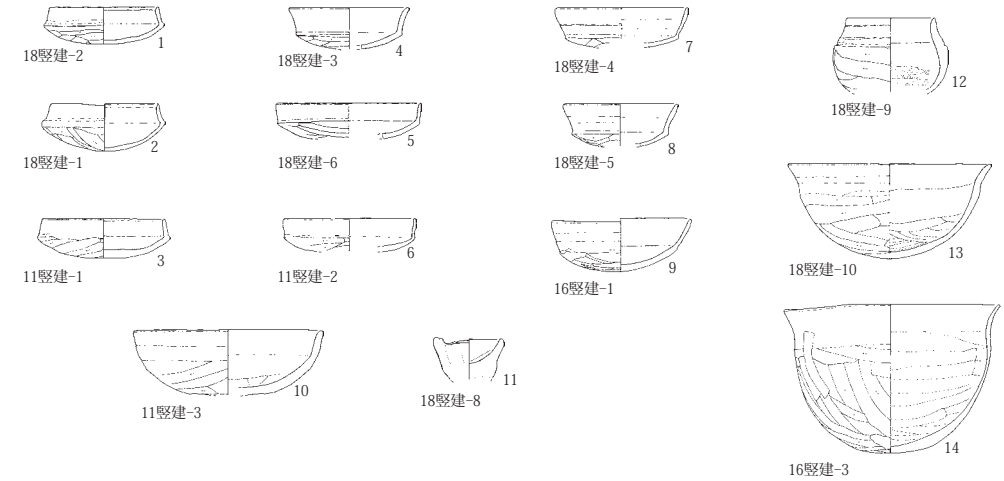

23
23竪建-14

0　1：8　20cm

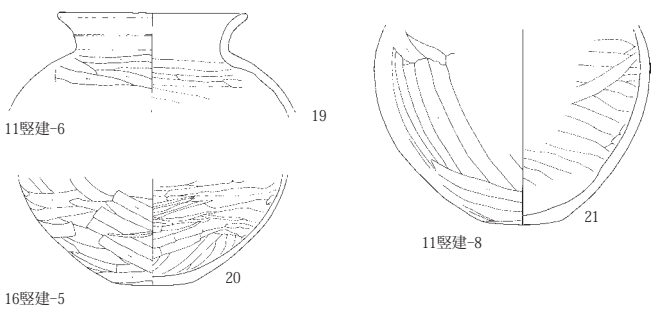
第95図　竪穴建物出土土器（１）

第２段階

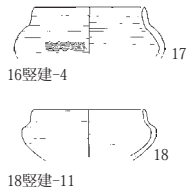
杯



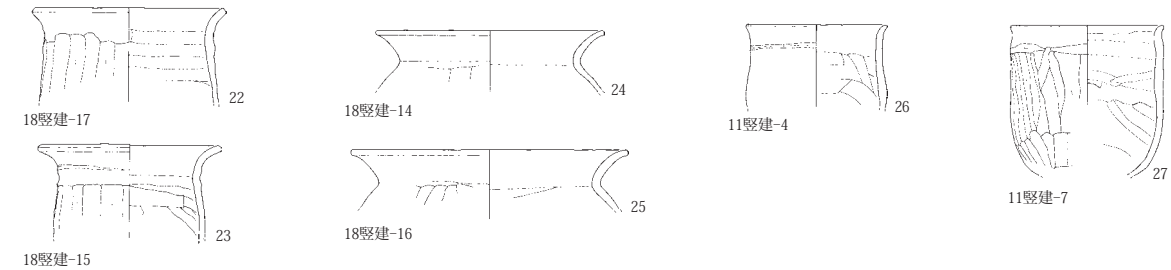
壺



短頸壺

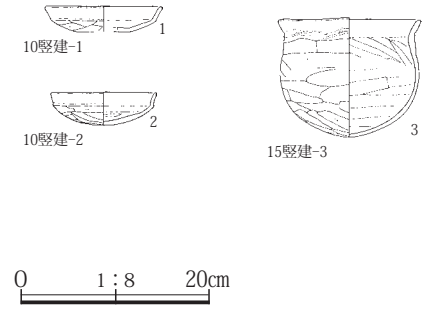


甕

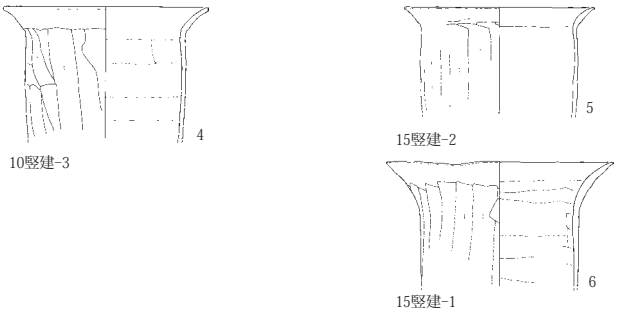


第３段階

杯



甕



第96図　竪穴建物出土土器（２）

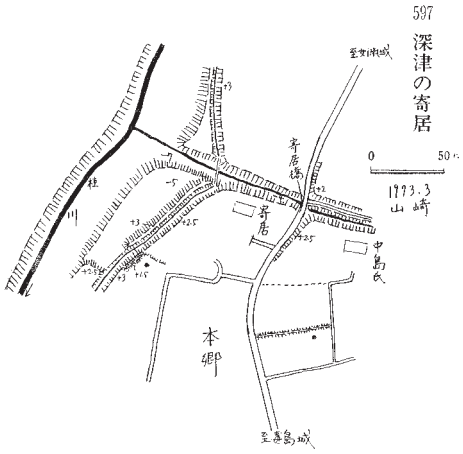
第３節　深津の寄居について

調査北側３区と４区の間に東から西側に流れる細い川がある。川は調査区西約100m付近で東側の桂川と直交し合流している。川には寄居橋が架けられており、山崎一氏は、この橋南側が寄居と呼ばれている場所であり、深津の寄居(中世末頃・引用文献４)とし、川(流路)は恐らく寄居の北堀流路とした利用したものであろうと報告している。

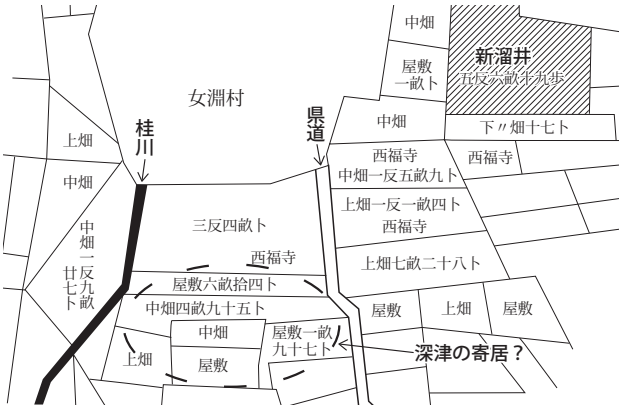
寄居とはどのような構造の施設であったのか不明であるが、小さな館相当の敷地を必要としたと仮定して、川北と南を比較検討したい。川を境に土地区割りを明治六年壬申地引絵図(第97図)と昭和35年前後作成と思われる粕川村全図の深津字本郷付近(第98図)で比較検討する。

壬申地引絵図には川の北側(３区)に大きな東西方向の畑があり、畑三反四畝九歩(約1029坪・3401.7㎡)所有者の書かれている場所に個人名でなく西福寺と記入されている。川の南側(４区)には、敷地面積が１～７畝と狭い屋敷や畑が密集している。周辺で三反歩のまとまった敷地は見当たらない。おそらく西福寺と記入されている広い場所は他の畑や屋敷と異なった用途で使われていたものと思われる。３区北側に近接する１区・２区の２号・４号井戸の中から12世紀中葉以降の青磁の破片が出土している。他の場所から青磁は出土していない。表土と地層および竪穴建物床面高を比較すると、北側の３区は４区より１～1.5m高くなっている。川の北と南側は古墳時代以前から段差のある地形である。

山崎　一氏が指摘した深津の寄居は、川南の狭い区画が集中している一段低い区画ではなく、川北の明治六年頃西福寺の所有地となっていた1,023坪の広い敷地と考えられないだろうか。

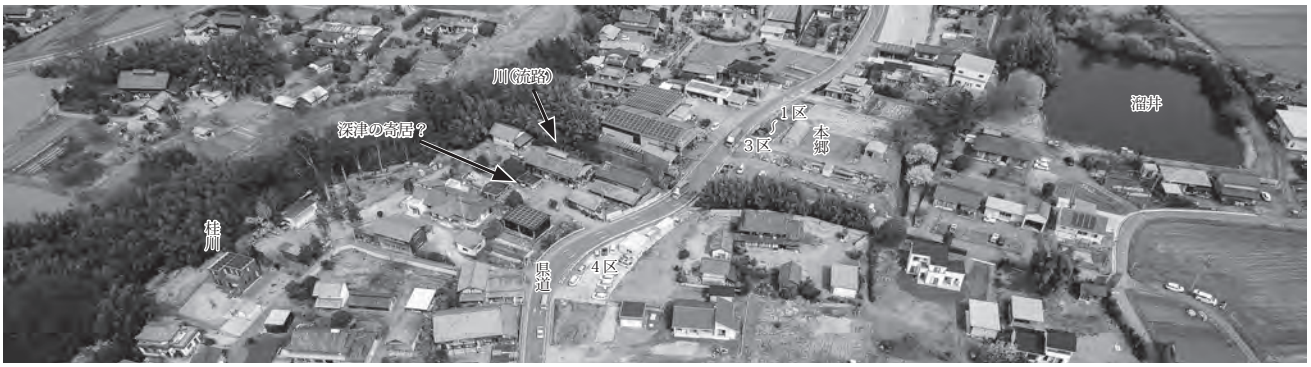


第97図　深津の寄居(引用文献４　頁140)



第98図　深津の寄居付近の図　明治(引用文献75)

第99図　深津の寄居付近の図　昭和(引用文献76)



３区・４区(深津の寄居)付近空撮　(南上空から)

第８表　遺物観察表

３号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第16図	1	土師器 杯	覆土 口縁部～体部小片	口	14.0			細砂粒/良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ。	
第16図 PL.54	2	須恵器 椀	覆土 1/2	口 底	13.0 5.6	高	4.0	細砂粒・粗砂粒・礫/還元焔/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第16図	3	須恵器 甕	覆土 胴部片					細砂粒・粗砂粒・礫/還元焔/灰	叩き締め成形。外面には平行叩き痕、内面は同心円状アテ具痕が残る。	
第16図	4	須恵器 甕	床面 胴部片					細砂粒/還元焔/灰	叩き締め成形。外面の平行叩き痕はナデ消され微かに残る程度であるが、内面は同心円状アテ具痕が残る。	
第16図 PL.54	5	須恵器 甕	覆土 胴部片					細砂粒・粗砂粒・礫/還元焔/灰黄	叩き締め成形。外面には平行叩き痕、内面は同心円状アテ具痕が残る。	
第16図 PL.54	6	石製品 砥石		長 幅	6.1 3.4	厚 重	3.1 85.2	砥沢石/	四面使用。各面に線条痕が良く残る。糸巻状を呈す砥石が中央付近で破損したもので、砥石上端部・破損面とも研磨整形されている。	

４号竪穴建物

第17図 PL.54	1	土師器 杯	床面 ほぼ完形	口 底	12.7 5.6	高	3.9	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい黄褐	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
第17図	2	土師器 高杯	掘方 脚部～杯部下位	底	5.2			細砂粒/良好/明褐	杯部と台部の接合状態不明。胴部は台部ともヘラ削り。内面は杯部がヘラミガキ、脚部はナデ。	

５号竪穴建物

第20図 PL.54	1	須恵器 杯	床面 3/4	口 底	13.5 7.6	高	4.0	細砂粒/還元焔・燻/にぶい黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第20図 PL.54	2	須恵器 杯	覆土 1/2	口 底	14.8 8.8	高	3.6	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り。底部は疑似高台状を呈す。	
第20図	3	須恵器 杯	覆土 口縁部～底部小片	口 底	13.4 9.6	高	3.0	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削りか。	
第20図 PL.54	4	土師器 鉢	カマド 口縁部～体部片	口	13.2			細砂粒/良好/明褐 褐	口縁部は横ナデ、体部は手持ちヘラ削りか、器面摩滅のため単位不明。内面は体部にヘラナデ。	
第20図	5	須恵器 甕	掘方 胴部小片					細砂粒/還元焔/暗灰	叩き締め成形。外面には平行叩き痕、内面は同心円状アテ具痕が残る。	
第20図 PL.54	6	土師器 甕	カマド右袖 口縁部～胴部下位	口 胴	20.4 20.1			細砂粒/良好/明赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第20図 PL.54	7	須恵器 甕	カマド 胴部下半片					細砂粒/酸化焔/橙	叩き締め成形。外面には平行叩き痕、内面は同心円状アテ具痕が残るが、内外面とも1.5～2.5㎝間隔に数条単位のカキメを施す。	

６号竪穴建物

第22図	1	土師器 杯	床面 口縁部～底部片	口 底	12.0 10.0			細砂粒/良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第22図	2	土師器 杯	覆土 口縁部～底部片	口 底	11.1 9.0			細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第22図	3	須恵器 台付杯	カマド 底部片	底 台	8.0 8.0			細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第22図	4	須恵器 壺	覆土 底部～胴部下位片	底 台	9.3 8.2			細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転は右回り。高台は貼付、胴部は回転ヘラ削り後ヘラナデ。	
第22図	5	須恵器 甕	覆土 口縁部～頸部片	口	20.2			細砂粒/還元焔/褐灰	ロクロ整形、回転は右回りか。口唇部下に小規模な凸帯を作り、口縁部は間隔の粗いハケメが残る。	

７号竪穴建物

第24図	1	土師器 杯	床面 口縁部～底部片	口 底	11.0 9.1			細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第24図 PL.54	2	須恵器 皿	床直 底部～体部	底 台	7.0 7.0			細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第24図 PL.54	3	須恵器 杯蓋	掘方 天井部片					細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は中程まで回転ヘラ削り。	
第24図	4	須恵器 椀	掘方 1/3	口 底	13.0 8.3	高	4.3	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り後周囲と周縁を回転ヘラ削り。	
第24図	5	須恵器 椀	覆土 底部～体部片	底	7.2			細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第24図	6	土師器 甕	床面 口縁部～頸部	口	19.5			細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ。	
第24図	7	在地系土器 片口鉢	口縁部片	口 底	－ －	高	－	灰色鉱物少量含む/灰/	口縁部上面はほぼ平坦で端部内面は内側に小さく突き出る。	14世紀後半頃
第24図	8	鉄製品 刀子か	一部欠損	長		重			全体が錆に覆われる。下の関が不明瞭となる。茎の途中から割れる。	

９号竪穴建物

第26図	1	須恵器 杯	覆土 口縁部片					細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転は右回りか。	
第26図	2	土師器 甕	掘方 頸部片					細砂粒/良好/橙	頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。	

10号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第27図	1	土師器 杯	覆土 1/4	口 稜	12.0 11.0	高	2.6	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第27図 PL.55	2	土師器 杯	床直 完形	口 稜	10.8 10.7	高	3.4	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第27図 PL.55	3	土師器 甕	カマド 口縁部～胴部上位片	口	21.2			細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、胴部は下から頸部に向けてのヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第27図 PL.55	4	縄文土器 深鉢	10号竪穴建物 胴部片	長 幅	(4.0) (6.9)	厚 重	0.7	細粒砂、石英、黒雲母/良好/浅黄	内湾する。ＬＲ縄文横回転。内面横ナデ。無文部分は縄文施文ののち、擦り消し。	

11号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第29図 PL.55	1	土師器 杯	床面 1/3	口 稜	12.8 14.2	高	4.1	細砂粒/良好・燻/にぶい黄褐	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。内外面とも燻し焼成。	杯身模倣
第29図	2	土師器 杯	覆土 口縁部～底部片	口 稜	13.8 13.8			細砂粒/良好/褐	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	杯身模倣
第29図 PL.55	3	土師器 大型杯	床面 1/4	口 稜	19.6 18.0	高	6.8	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。内面は底部がヘラナデ。口縁部中位にごく細い凹線が巡る。	
第29図	4	土師器 小型甕	床面 口縁部～胴部上半片	口	14.6			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削りか、器面摩滅のため単位不明。。内面胴部はヘラナデ。	
第29図	5	土師器 甕	床面 口縁部～胴部位片	口	18.6			細砂粒/良好/灰黄褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。口縁部中位に段を作る。	
第29図 PL.55	6	土師器 壺	床面 口縁部～胴部上位片	口	19.6			細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。胴部は球胴状を呈す。	
第29図 PL.55	7	土師器 小型甕	床面 口縁部～胴部片	口 胴	15.8 16.2			細砂粒/良好/にぶい黄褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。胴部最大径は下半である。	
第30図 PL.55	8	土師器 壺	床面 底部～胴部下位片	胴 底	29.0 8.7			細砂粒・粗砂粒/良好/浅黄	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部がヘラナデ、底部付近は器面剥落のため不明。	
第30図	9	須恵器 甕	床面 胴部片					細砂粒/還元焔/黄灰	叩き締め成形。外面は平行叩き痕が残るが、２～３㎝間隔に細いナデが施されている。内面は同心円状アテ具痕が残る。	

12号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第31図	1	土師器 甕	カマド 口縁部～胴部上位片	口	15.2			細砂粒/良好/にぶい黄褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

13号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第32図	1	土師器 杯	覆土 口縁部～底部片	口	11.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	

14号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第35図 PL.56	1	土師器 杯	床面 完形	口 稜	10.1 11.0	高	4.3	細砂粒/良好・燻/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。外面は燻し焼成。	杯身模倣
第35図 PL.56	2	土師器 杯	覆土 1/2	口 稜	12.4 11.6	高	4.4	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第35図 PL.56	3	土師器 杯	カマド 1/4	口 稜	15.2 9.4			細砂粒・粗砂粒/良好・燻し/灰黄褐	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。内面は口縁部下にヘラミガキ。内外面とも燻し焼成。	
第36図	4	土師器 杯	床面 口縁部～底部	口 稜	15.6 9.5			細砂粒/良好・燻し/黒褐	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。内外面とも燻し焼成。	
第36図 PL.56	5	土師器 甕	カマド 口縁部～胴部上位片	口	20.8			細砂粒・粗砂粒・礫/良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。胴部最大径は下半である。	
第36図 PL.56	6	土師器 小型甕	カマド 胴部～底部	底	4.2			細砂粒/良好/褐	底部には木葉痕が残る、胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部がヘラナデ。	
第36図 PL.56	7	土師器 甕	覆土 底部	底	7.2			細砂粒・粗砂粒/良好/橙	底部はヘラ削り、内面はナデ。胴部は打ち欠いて再利用か。	
第36図 PL.56	8	土師器 壺	カマド 底部～胴部下位	底	7.3			細砂粒/良好/にぶい黄橙	底部と胴部はヘラ削り、胴部は器面摩滅のため単位不明。内面はヘラナデ。	

15号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第37図 PL.56	1	土師器 甕	床面 口縁部～胴部上半片	口	23.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部は頸部から下に向けてのヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第37図 PL.56	2	土師器 甕	覆土 口縁部～胴部上位片	口	19.8			細砂粒/良好/橙	外面頸部に輪積み痕が残る。口縁部は横ナデ、胴部は下から頸部へ向けてのヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第37図 PL.56	3	土師器 小型甕	床面 1/2	口 胴	14.8 14.8	高	12.5	細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部から底部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
第37図	4	須恵器 壺	覆土 胴部片					細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形。胴部に２条の凹線が巡る。	

16号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第38図 PL.57	1	土師器 杯	床面 完形	口 稜	14.3 12.3	高	5.6	細砂粒/良好/にぶい黄橙	内面黒色処理。口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第38図 PL.57	2	土師器 杯	覆土 口縁部～底部	口 稜	12.0 13.0			細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第38図 PL.57	3	土師器 鉢	床面 2/3	口 高	22.5 15.6			細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。内面は底部から体部にヘラナデ。	
第38図 PL.57	4	須恵器 短頸壺	覆土 口縁部～胴部上半片	口 胴	11.6 15.8			細砂粒/還元焔/暗灰	ロクロ整形、回転は右回り。胴部中位に凹線に区画を設け、その中に波状文を巡らす。	
第38図 PL.57	5	土師器 壺	床面 底部～胴部下位	底	8.6			細砂粒/良好/にぶい黄橙	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部がヘラナデ。	
第38図 PL.57	6	釘	一部欠損	長 幅	4.7 0.4	厚 重	0.4 2.1		一部木片が付着する。頭は折れが見られる。	有

17号竪穴建物

第39図	1	灰釉陶器 椀	覆土 口縁部片	口	10.8			微砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。施釉方法不明。	大原２号窯式期
第39図 PL.57	2	土師器 杯	床面 ほぼ完形	口 稜	11.8 13.2	高	4.2	細砂粒/良好・燻/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。内外面とも燻し焼成。	
第39図 PL.57	3	須恵器 甕	床面 口縁部～頸部片	口	27.8			細砂粒・粗砂粒/還元焔/オリーブ黒	ロクロ整形、回転は右回り。口唇部は上下に引く出されている。内面はヘラナデ。	
第39図	4	須恵器 甑	覆土 口縁部～胴部上位片	口 凸	24.6 23.0			細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転方向不明。胴部上位に断面三角形の凸帯を貼付、口唇部は外傾する平坦面を作る。内面は酸化焔状態。	

18号竪穴建物

第41図 PL.57	1	土師器 杯	完形	口 稜	11.0 12.8	高	4.9	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	杯身模倣
第41図 PL.57	2	土師器 杯	1/2	口 稜	11.7 12.6	高	3.8	細砂粒/良好・燻/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。内面は燻焼成。	杯身模倣
第41図 PL.57	3	土師器 杯	1/4	口 稜	12.4 11.1			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	杯蓋模倣
第41図 PL.57	4	土師器 杯	覆土 口縁部～底部片	口 稜	13.8 12.0			細砂粒/良好/灰黄褐	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。口縁部に段を作る。	有段口縁杯
第41図	5	土師器 杯	覆土 口縁部～底部片	口 稜	11.8 10.1			細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第41図	6	土師器 杯	覆土 口縁部～底部片	口 稜	15.0 14.8			細砂粒/良好・燻/黒褐	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。内外面とも燻し焼成。	
第41図	7	土師器 杯	覆土 口縁部片					細砂粒/良好/褐	口縁部は横ナデ、中位に段を作る。	有段口縁杯
第42図	8	手捏ね土器 椀形	3/4	口	6.9			細砂粒/良好/黒褐	口縁部から体部は内外面ともナデ。	
第42図 PL.57	9	土師器 鉢	口縁部～体部片	口 稜	9.0 11.7	最	12.0	細砂粒/良好・燻/にぶい橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。内面は底部から体部下半にヘラミガキ、体部上半はヘラナデ。外面は燻し焼成。	盌形
第42図 PL.57	10	土師器 鉢	覆土 1/2	口 高	21.2 9.8			細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。内面は底部から体部下半にヘラナデ。	
第42図 PL.57	11	須恵器 短頸壺	口縁部～胴部	口 胴	11.6 14.0			細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転は右回り。	
第42図 PL.57	12	須恵器 高杯	杯部底部片					細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転は右回りか。杯部底部は回転ヘラ削り。	
第42図 PL.57	13	須恵器 壺	口縁部～胴部	頸 胴	12.6 15.0			細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転は右回りか。	
第42図	14	土師器 甕	覆土 口縁部～胴部上位片	口	23.6			細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り、一部にヘラミガキ。内面胴部はヘラナデ。	
第42図 PL.57	15	土師器 甕	口縁部～胴部上位片	口	18.4			細砂粒・粗砂粒/良好/灰黄褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第42図	16	土師器 甕	覆土 口縁部～胴部上位片	口	28.6			細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第42図 PL.57	17	土師器 甕	掘方 口縁部～胴部上位片	口	19.6			細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第42図 PL.58	18	土師器 甕	カマド 胴部片					細砂粒/良好/黒褐	外面はヘラ削り、内面はヘラナデ。	
第42図 PL.58	19	須恵器 高杯	脚部片	脚	13.6			細砂粒/還元焔/オリーブ黒	ロクロ整形、回転は右回りか。脚部はカキメ、中位に２条の凹線を巡らし、その上下に２段２方の透かしを穿孔。	

21号竪穴建物

第46図 PL.58	1	土師器 杯	3/4	口 底	13.0 10	高	3.6	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	内面底部「×」のに刻書
第46図 PL.58	2	土師器 杯	カマド 2/3	口 高	13.8 4.1			細砂粒/良好/明褐	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第46図 PL.58	3	土師器 杯	3/4	口 高	13.7 3.4			細砂粒/良好/明褐	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
第46図	4	土師器 杯	1/4	口	13.0			細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
第47図	5	土師器 杯	覆土 1/3	口 0	13.0 0			細砂粒/良好/にぶい黄褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第47図	6	土師器 杯	カマド 1/3	口 底	13.8 11.0	高	3.0	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第47図	7	黒色土器 杯	カマド 1/5	口 底	12.8 5.0	高	3.0	細砂粒/還元焔ぎみ/黒	ロクロ整形。内外面ヘラミガキ、外面は器面が荒れており単位不明。	
第47図 PL.58	8	土師器 杯	1/2	口 高	14.2 3.6			細砂粒/良好/褐	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
第47図	9	土師器 杯	1/4	口 底	15.2 11.2	高	3.2	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第47図	10	土師器 杯	口縁部～底部片	口 底	13.8 11.0	高	3.1	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第47図	11	須恵器 杯	底部～体部下位辺	底	11.0			細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り。	
第47図	12	須恵器 杯	覆土 口縁部～体部片	口	14.6			細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。体部下位は回転ヘラ削り。	
第47図 PL.58	13	須恵器 杯	1/3	口 底	13.2 8.0	高	4.0	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り。底部は疑似高台状を呈す。	
第47図 PL.58	14	須恵器 杯	3/4	口 底	13.6 8.1	高	3.7	細砂粒/還元焔/褐灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第47図	15	須恵器 鉢または椀	底部～体部下位片	底	7.6			細砂粒・粗砂粒/酸化焔・燻/黄灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部と底部周縁は回転ヘラ削り。内外面とも燻し焼成。	
第47図	16	須恵器 甕	覆土 口縁部片					細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形。口唇部は肥厚し、下方に引き出されている。	
第47図	17	土師器 甕	口縁部～胴部上位片	口	20.8			細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第47図	18	土師器 甕	口縁部～胴部上位片	口	24.0			細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第47図	19	土師器 甕	口縁部～胴部上位片	口	23.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第47図	20	須恵器 甕	胴部片					細砂粒/還元焔/灰	叩き締め成形。外面は平行叩き痕が残るが、内面のアテ具痕はナデ消されている。	
第47図 PL.58	21	石製品 臼玉		径 -	0.8 -	厚 重	(0.2) 0.2	滑石/	臼玉上半部破片。上孔面は著しく摩耗、わずかながら線条痕が残る。体部線条痕は幅広く、斜めタイプ。片理に影響されて破損したもの。形態的には太鼓状か、棗状を呈する。	
第47図 PL.58	22	礫石器 凹石		長 幅	12.4 10.6	厚 重	6.7 1188.1	粗粒輝石安山岩/	背面側中央付近にアバタ状の打痕が集中するほか、窪み部の周辺に摩耗痕が広がる。礫面にはススが付着した痕跡があり、被熱してヒビ割れたものか。	
第47図 PL.58	23	礫石器 敲石		長 幅	10.5 7.7	厚 重	7.3 668.7	粗粒輝石安山岩/	断面三角形状を呈する礫の先端部および礫稜部に打痕を伴う摩耗痕が広がる。上端側破損面は風化、破損した状態で使用されたものと見られる。	

22号竪穴建物

第49図	1	土師器 杯	覆土 口縁部～底部片	口	13.0			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第49図	2	土師器 杯	覆土 口縁部～底部片	口	14.0			細砂粒/良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第49図 PL.58	3	土師器 杯	覆土 1/2	口 稜	11.2 10.2	高	4.1	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第49図	4	土師器 高杯	脚部上位～杯部底部					細砂粒/良好/赤褐	杯部と脚部の接合方法不明。脚部は横ナデ、杯に底部はナデ。	
第49図 PL.58	5	須恵器 杯	口縁部～底部片	口 稜	12.4 10.9			細砂粒/良好・燻/褐灰	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。内外面とも燻し焼成。	
第49図	6	須恵器 杯	口縁部～底部片	口 稜	13.6 11.4			細砂粒/良好/にぶい黄褐	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第49図	7	須恵器 杯	口縁部～体部片	口 底	14.0 10.4			細砂粒/還元焔/灰オリーブ	ロクロ整形、回転は右回り。	
第49図	8	土師器 大型杯	覆土 口縁部～稜片	口 稜	21.0 20.2			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下体部は手持ちヘラ削り。	
第49図	9	須恵器 杯	覆土 底部～体部下位片	底	9.0			細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り。	
第49図 PL.58	10	土師器 小型壺	口縁部～胴部上半片	口 胴	10.0 13.0			細砂粒/やや軟質/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第49図 PL.58	11	土師器 甕	口縁部～胴部中位	口	22.0			細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい黄褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

23号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第51図 PL.59	1	土師器 杯	完形	口 稜	12.1 11.5	高	4.9	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。内面の一部にススが付着。	杯蓋模倣
第51図 PL.59	2	土師器 杯	掘方 1/2	口 高	12.4 4.8			細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。内面は体部に斜放射状のヘラミガキ。	内斜口縁杯
第51図 PL.59	3	土師器 杯	完形	口 稜	11.5 10.2	高	5.0	細砂粒・粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ、稜下体部はヘラ削り後ナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第51図 PL.59	4	土師器 杯	1/2	口 稜	12.4 12.1	高	4.9	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	杯蓋模倣
第51図 PL.59	5	土師器 杯	ほぼ完形	口 高	12.7 4.8			細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	内斜口縁杯
第51図 PL.59	6	土師器 杯	ほぼ完形	口 高	13.1 5.1			細砂粒/良好/赤褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	内斜口縁杯
第51図	7	土師器 高杯または 台付杯	口縁部～底部	口 稜	13.0 11.0			細砂粒/良好/黄褐	底部に脚か台に移行する痕跡がみられる。口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第51図	8	土師器 高杯	脚部～杯部底部片	脚	10.2			細砂粒/良好/明赤褐	杯部底部に突起を作り、脚部に差し込んで接合。脚部裾部は横ナデ、他は器面摩滅のため整形不鮮明。	
第51図	9	須恵器 高盤	脚部片					細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。外面はカキメ。	
第51図	10	土師器 鉢	口縁部～胴部上位片	口	16.8			細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、体部は器面剥落により不明。内面体部はヘラナデ。	
第51図 PL.59	11	土師器 ﾐﾆﾁｭｱ椀形	4/5	口 底	9.5 5.0	高	6.2	細砂粒/良好・燻/黒褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は器面摩滅のため不明。内面は底部から体部にヘラナデ。外外面とも燻し焼成。	
第51図 PL.59	12	土師器 壺	底部～頸部	頸 胴	19.0 37.2	底	8.6	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り、胴部の一部は器面剥離のため単位不明。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
第52図 PL.59	13	土師器 壺	覆土 底部～頸部	頸 胴	11.6 27.8	底	7.4	細砂粒/良好/橙	頸部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
第52図 PL.59	14	土師器 壺	ほぼ完形	口 頸	6.3 6.2	胴 高	10.0 8.4	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ、胴部上位はナデ、中位から底部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。口縁部中位に上下に径3mm程の孔を対で穿す。	
第52図 PL.59	15	土師器 壺	胴部片	胴 底	14.4 7.0			細砂粒/良好/にぶい黄橙	胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。内面胴部下半の一部に煤が付着。	
第52図 PL.59	16	土師器 ﾐﾆﾁｭｱ壺形	完形	口 胴	3.3 6.3	底 高	6.0 4.6	細砂粒/良好/にぶい褐	器厚は0.7～1.2cmと厚い。胴部はヘラナデ、底部はヘラ削り。口唇部(外面と内面の間)はヘラ削りか。内面はナデ。	
第52図	17	須恵器 壺	胴部片					細砂粒/還元焔/暗灰黄	叩き締め成形。外面は残存部下半に平行叩き痕が残るが、上半はカキメ。内面は下半は同心円状アテ具痕が残るが上半はヘラナデ。	
第52図	18	須恵器 壺	胴部片					細砂粒/還元焔/黄灰	外面はカキメ、内面はヘラナデ。	
第52図	19	須恵器 壺	カマド 口縁部片					細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転は右回り。外面はカキメ。	
第52図 PL.60	20	土師器 甑	ほぼ完形	口 底	19.0 7.9	高	20.0	細砂粒/良好/明褐	口縁部は横ナデ、頸部から胴部は縦方向のヘラミガキ。内面は胴部に斜めのヘラミガキ。	
第52図 PL.60	21	土師器 甑	ほぼ完形	口 底	24.3 7.7	高	25.2	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ胴部は縦方向のヘラミガキ。内面は口縁部下半から頸部は横方向ヘラミガキ、器面摩滅のため単位不明、胴部は縦方向のヘラミガキ。	
第53図 PL.61	22	土師器 甕	1/3	口 胴	14.0 22.4	底 高	6.8 27.6	細砂粒/良好/にぶい黄橙	内面胴部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
第53図 PL.61	23	土師器 甕	3/4	口 胴	18.0 25.3	底 高	7.4 30.7	細砂粒・粗砂粒/良好/明黄褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
第53図 PL.61	24	土師器 甕	完形	口 胴	15.0 17.6	底 高	7.4 26.4	細砂粒・粗砂粒/良好/明褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
第53図 PL.61	25	土師器 甕	完形	口 胴	17.8 18.8	底 高	4.9 32.7	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
第54図 PL.62	26	土師器 甕	覆土 4/5	口 胴	16.4 22.0	底 高	7.6 32.8	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。底部は2.5cmと厚く台状を呈す。	
第54図 PL.62	27	土師器 甕	ほぼ完形	口 胴	13.9 14.7	底 高	6.5 23.0	細砂粒・粗砂粒/良好/明黄褐	口縁部から胴部は縦方向のヘラミガキ、胴部下位は器面摩滅のため単位不明。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
第54図	28	土師器 甕	口縁部～胴部上位片	口	18.4			細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、頸部下はナデか、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第54図	29	土師器 甕	口縁部～胴部上位片	口	18.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部は器面摩滅のため整形不明。内面胴部はヘラナデ。	
第54図 PL.62	30	土師器 甕	底部～胴部下半片	底 胴	6.6 18.8			細砂粒/良好/明赤褐	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部がヘラナデ。	
第54図	31	土師器 甕	底部～胴部下位	底	7.3			細砂粒/良好/にぶい黄橙	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部がヘラナデ。	
第54図	32	土師器 多孔円盤	覆土 小片					細砂粒/良好/褐	甑底部にはめ込み使用か。径3mm程の孔が複数穿孔されている。	

27号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第58図 PL.62	1	土師器 杯	掘方 1/2	口 稜	12.8 12.0	高	4.3	細砂粒/良好/燻/明赤褐	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。内外面とも燻し焼成。	
第58図	2	土師器 杯	覆土 口縁部～底部片	口 稜	15.7 16.6	高	3.5	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第58図 PL.62	3	縄文土器 深鉢	27号竪穴建物 胴部片	長 幅	(4.1) (3.3)	厚 重	0.6	細粒砂、石英、黒雲母/良好/黒	LR縄文を横方向に多重に施文。	

28号竪穴建物

第59図	1	土師器 杯	口縁部～底部	口	14.3			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
第59図	2	須恵器 蓋	摘	摘	4.8			細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転は右回り。摘はボタン状の粘土板を貼付し周囲をつまみ上げ環状に作る。	
第59図 PL.62	3	土師器 甕	1/2	口 底	22.6 6.6	高	31.8	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
第59図 PL.62	4	土師器 甕	口縁部～胴部上位片	口	24.7			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第59図 PL.62	5	剥片石器 打斧		長 幅	10.6 5.5	厚 重	2.6 165.6	黒色頁岩	両側縁が弱く開く。頭部側側縁は着柄目的で、側縁をノッチ状に加工する。裏面側剥離面は平坦な風化剥離面となっており、爪条痕が無数にある。石器はローリングを受け、稜の摩耗が著しい。	
第59図 PL.62	6	石製品 砥石		長 幅	(4.2) 2.6	厚 重	1.3 18	砥沢石	一面使用。両側面には、櫛歯タガネ状痕が残る。裏面側は破損してしまっているが、粗く磨き整形されている。	
第59図	7	在地系土器 焙烙	1/5	口 底	(33.2) (33.8)	高	－	黒色鉱物含む/灰白/	口縁部から体部外面器表は黒変。体部外面は凹線状に窪む。丸底であるが、周縁付近で屈曲気味。	江戸時代末～明治前期

29号竪穴建物

第60図	1	土師器 杯	口縁部～底部片	口	11.8			細砂粒/良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削りか、器面摩滅のため単位不明。	
第60図	2	須恵器 杯	口縁部～体部片	口	13.5			細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転は右回り。	
第60図	3	須恵器 杯	口縁部～体部片	口	13.8			細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。	
第60図	4	土師器 甕	口縁部～頸部片					細砂粒/良好/灰黄褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

30号竪穴建物

第63図 PL.63	1	土師器 杯	覆土 ほぼ完形	口 底	12.5 9.3	高	3.1	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第63図 PL.63	2	土師器 杯	２ピット 1/2	口 高	13.6 3.3			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
第63図 PL.63	3	土師器 杯	４ピット 1/3	口 高	11.8 3.5			細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第63図	4	土師器 杯	掘方 1/4	口 底	12.8 3.6	高	3.4	細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第63図 PL.63	5	須恵器 杯	掘方 1/3	口 底	12.8 7.6	高	4.6	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部と体部下位は回転ヘラ削り。	
第63図	6	須恵器 杯	底部～体部下位片	底	8.0			細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り後周囲を回転ヘラ削り。	
第63図	7	須恵器 鉢	底部～体部下位片	底	12.0			細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形か。底部はヘラ削り、体部はヘラナデ。内面は体部にヘラナデ。	
第63図	8	土師器 台付甕	脚部～胴部下位	底	4.3			細砂粒/良好/明赤褐	脚部は底部に貼付。脚部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
第63図	9	土師器 甕	掘方 口縁部～胴部上位片	口	22.4			細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第63図	10	土師器 甕	口縁部～胴部上位片	口	21.4			細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第63図	11	土師器 鉢	掘方 口縁部～体部上半片	口	22.0			細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部は横ナデ、体部は手持ちヘラ削り。内面体部はヘラナデ。	
第63図	12	土師器 甕	口縁部～胴部上位片	口	20.0			細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第63図 PL.63	13	土師器 甕	口縁部～胴部上位片	口	21.6			細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第63図 PL.63	14	土師器 甕	貯蔵穴 底部～胴部下半片	底	5.8			細砂粒/良好/にぶい赤褐	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部がヘラナデ。	

２号竪穴状遺構

第65図	1	土師器 椀	覆土 口縁部～体部小片					細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ、体部は手持ちヘラ削り。	
第65図	2	灰釉陶器 椀	覆土 口縁部小片					微砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。施釉方法不明。	大原２号窯式期

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第65図 PL.63	3	土師器 甕	覆土 口縁部～胴部上位片	口	19.2			細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第65図 PL.63	4	埴輪 形象か	覆土 円筒部片					細砂粒/良好/橙	詳細不明。断面四角形の凸帯を貼付。凸帯上位は横ハケが施されているが、器面摩滅のため詳細不明。	
第65図 PL.63	5	埴輪 円筒か	覆土 基底部片					細砂粒・粗砂粒/良好/明黄褐	内外面ともナデ。	
第65図 PL.63	6	埴輪 円筒	覆土 胴部片					細砂粒/良好/橙	外面はハケメ（２㎝当たり６本）、内面はナデ。	
第65図 PL.63	7	埴輪 形象か	覆土 部位不明					細砂粒/良好/橙	外面はハケメ（２㎝当たり15本）、内面はナデ。	
第65図 PL.63	8	埴輪 円筒	覆土 胴部片					細砂粒/良好/橙	外面はハケメ（２㎝当たり10本）、内面はナデ。	
第65図	9	鉄製品 鏃か	破片	長 幅	(4.0) 0.9	厚 重	0.9 4.3		茎部と頸部の一部のように見られる。台形の関を持ち、断面形状はやや丸みを帯びる方形。茎部の断面形状は方形。	
２号井戸										
第69図 PL.63	1	龍泉窯系 青磁碗	体部下位片	口 底	－ －	高	－	/灰/	残存部内外面無文。底部内面周縁箆による圏線。大宰府分類の龍泉窯系青磁「椀Ⅰ－２・３・４類」か。	12世紀中葉～後葉か
３号井戸										
第69図 PL.63	1	製作地不詳 陶器 瓶か	体部片	口 底	－ －	高	－	/暗赤灰/	外面と内面上位1/3に光沢のない錆色の鉄釉。素地は炻器質。	江戸時代か
４号井戸										
第71図 PL.63	1	須恵器 椀	覆土 ほぼ完形	口 底	12.7 6.4	高	4.1	細砂粒・粗砂粒・礫/酸化焔/灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第71図 PL.63	2	須恵器 椀	覆土 底部～体部	底 台	6.8 6.6			細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第71図	3	土師器 甕	覆土 口縁部～胴部上位片	口	20.8			細砂粒/良好/にぶい褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第71図	4	須恵器 甕	覆土 頸部～胴部上位片					細砂粒/還元焔/灰黄褐	叩き締め成形、頸部にて口縁部と接合。外面は降灰が厚く付着のため技法不明。内面はアテ具痕をナデ消している。	
第71図 PL.63	5	龍泉窯系 青磁碗	口縁部片	口 底	－ －	高	－	/灰/	外面は無文、内面は箆による施文。内外面青磁釉。大宰府分類の龍泉窯系青磁「椀Ⅰ－２・３・４類」。	12世紀中葉～後葉
第71図 PL.63	6	龍泉窯系 青磁碗	口縁部片	口 底	－ －	高	－	/灰/	外面は無文、内面は箆による施文。内外面青磁釉。大宰府分類の龍泉窯系青磁「椀Ⅰ-2・3・4類」。	12世紀中葉～後葉
第71図	7	常滑陶器 甕	肩部片	口 底	－ －	高	－	/黄灰/	外面器表は赤褐色で上半に自然釉薄くかかる。内面器表は黒褐色。８と同一個体の可能性高い。	中世
第71図	8	常滑陶器 甕	肩部片	口 底	－ －	高	－	/黄灰/	外面器表は赤褐色で上半に自然釉薄くかかる。内面器表は黒褐色。７と同一個体の可能性高い。	中世
６号井戸										
第73図 PL.64	1	石製品 石臼		径 －	(31.8) －	高 重	14.9 6100	粗粒輝石安山岩/	６分割した上臼。軸孔穴は略方形に刻まれ、孔中央に径3.6cmの軸受け痕が残る。挽き手孔は外径3.8cm、物入れ孔は両側穿孔。	
７号井戸										
第74図 PL.64	1	須恵器 甕	覆土 頸部～口縁部					細砂粒/還元焔/灰	頸部にて胴部と口縁部を接合、胴部側から幅広く粘土を貼り付けている。口縁部上半は凹線による区画と区画内に波状文を巡らす。内面はヘラナデ。	
10号井戸										
第76図	1	須恵器 壺	覆土 頸部～胴部中位片	頸 胴	11.8 19.4			細砂粒/還元焔/灰	胴部下半は叩き締め成形、上半はロクロ整形。胴部下半はヘラナデ。内面は胴部上半がヘラナデ、下半は同心円状アテ具痕が残る。	
第76図	2	須恵器 甕	覆土 口縁部片	口	25.0			細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転は右回りか。口縁部は内外面ともヘラナデ。	
12号井戸										
第77図 PL.64	1	肥前磁器 青磁染付蓋	口縁部1/3欠	口 天井	13.4 9.2	高	4.0	/白/	内面と天井部外面に透明釉。天井部を除く外面に青磁釉。天井部外面に雲龍文。身受け部は無釉。	18世紀～19世紀中葉
第77図 PL.64	2	瀬戸・美濃 磁器か 染付碗	1/6	口 底	(9.8) (3.5)	高	5.6	/白/	外面丸文。口縁部内面２重圏線。底部内面１重圏線内に不明文様。	19世紀前葉～中葉
第77図 PL.64	3	製作地不詳 陶器 急須	1/3	口 底	(6.0) －	高	－	夾雑物含まない/灰/	器表は暗赤褐色。内型成型で外面に指紋状圧痕残る。取っ手欠損。外面に「千秋万古」印２カ所。１カ所に不明印。	近現代か
第77図	4	製作地不詳 陶器 焙烙	1/6	口 底	(32.0) (32.6)	高	－	黒色鉱物含む/にぶい黄褐橙/	口縁部から体部外面器表は黒変。体部外面は凹線状に窪む。丸底であるが、周縁付近で屈曲気味。	江戸時代末～明治前期
第77図	5	在地系土器 焙烙	1/8	口 底	(35.2) (33.8)	高	5.8	黒色鉱物含む/黒、灰褐/	断面中央は黒色、器表付近は灰褐色、器表は黒褐色。内面耳剥離。	江戸時代
第77図 PL.64	6	石製品 砥石		長 幅	7 5.3	厚 重	2.7 150.7	砥沢石/	一面使用。砥面は片べり、線条痕が残る。両側面は切断後に粗く磨き整形、上端小口部および裏面側は平刃ノミ状工具にて平坦に整形する。下半部を欠く。	

1号溝

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第79図 PL.64	1	瀬戸・美濃 陶器 摺絵皿	1/3	口 底	(12.0) (8.0)	高	3.1	/灰白/	底部内面鉄絵具による型紙摺り。内面から高台脇灰釉。	18世紀前葉～中葉
第79図 PL.64	2	瀬戸・美濃 陶器 華瓶	頸部から体部上位1/2	口 底	－ －	高	－	/灰白/	外面に灰釉。貫入入る。残存部に取っ手なし。	江戸時代
第79図	3	在地系土器 焙烙	口縁部から体部片	口 底	－ －	高	－	黒色鉱物含む/灰白/	内面器表は灰白色、外面器表は褐灰色。	江戸時代
第79図	4	在地系土器 焙烙	小片	口 底	－ －	高	－	黒色鉱物含む/灰白/	内外面器表は黒色。内外面器表に接合痕残る。	江戸時代

6号溝

第79図 PL.64	1	須恵器 杯	覆土 1/3	口 底	9.8 7.0	高	2.9	細砂粒/酸化焔/にぶい褐	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。内面の一部に煤が付着。	
第79図 PL.64	2	瀬戸・美濃 陶器 皿	1/3	口 底	(14.8) (9.0)	高	3.5	/灰白/	口縁部外反。内面から高台脇灰釉。底部内面高台の重ね焼き痕。	17世紀か
第79図 PL.64	3	志戸呂陶器 灯火受皿	口縁部1/3、底部1/2	口 底	(11.1) 5.5	高	2.9	/灰白/	受け部のアーチ状くり抜き欠損。体部外面以下回転箆削り。内面から外面中位に錆釉。	18世紀
第79図 PL.64	4	製作地不詳 陶器 二次加工品	完形	径 径	4.5 4.3	厚	0.8	/橙/	土器質の素地にやや白濁した透明釉を薄くかける。破片の周囲を磨って円盤状に仕上げる。凸面側中央の釉は剥落か擦れにより消失。	江戸時代以降

2号溝

第80図	1	須恵器 甕	覆土 頸部～胴部上位片					細砂粒/還元焔ぎみ/暗灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。	
第80図	2	須恵器 甕	覆土 胴部小片					細砂粒/還元焔/灰	叩き締め成形。外面は平行叩き痕が残るが、内面はアテ具痕をナデ消している。	
第80図	3	須恵器 羽釜	覆土 胴部小片					細砂粒・粗砂粒/酸化焔/にぶい黄	ロクロ整形、回転は右回りか。	

8号土坑

第84図 PL.65	1	土師器 椀	覆土 2/3	口 底	14.1 7.1	台 高	7.1 5.2	細砂粒/良好/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転は右回り。口縁部は横ナデ、体部は手持ちヘラ削り、底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。。	
第84図	2	須恵器 杯	覆土 口縁部～底部片	口 底	13.0 10.2			細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部切り離し技法不明。	

18号土坑

第85図	1	土師器 甕	覆土 口縁部～頸部小片	口	21.8			細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部から頸部は横ナデ。	
第85図	2	土師器 甕	覆土 口縁部～頸部小片	口	19.8			細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部から頸部は横ナデ。	
第85図	3	土師器 甕	口縁部～胴部上位片	口	20.2			細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	

20号土坑

第85図 PL.65	1	土師器 杯	覆土 1/2	口 底	12.0 7.8	高	4.2	細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第85図 PL.65	2	須恵器 杯	覆土 1/3	口 底	12.2 6.0	高	3.6	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第85図 PL.65	3	須恵器 椀	覆土 1/3	口 底	13.6 6.7	台 高	6.3 5.1	細砂粒/還元焔・燻/オリーブ黒	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。内外面とも燻し焼成。	

31号土坑

第86図	1	土師器 杯	覆土 口縁部～体部片					細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、稜下の体部はヘラ削りか、器面摩滅のため単位不明。	

33号土坑

第87図 PL.65	1	瀬戸・美濃 陶器 水注	一部欠	口 底	－ 5.0	高	－	/灰白/	内面から体部外面下位に鉄釉。底部右回転糸切無調整。口縁部細かい剥離で欠損。	江戸時代か
第87図 PL.65	2	在地系土器 鍋	1/3	口 底	(39.0) －	高	－	白色鉱物少量含む/黒、灰白/	断面中央黒色、器表付近灰白色、器表灰黄褐色から黒色。口縁端部上面は平坦。	江戸時代
第87図 PL.65	3	在地系土器 焙烙	1/6	口 底	(36.2) (33.2)	高	5.6	黒色鉱物含む/にぶい黄褐/	内面器表は灰白色、口縁部から体部外面器表は黒色、底部外面は灰黄褐色。底部内面に小判形の不明押印。文字は３文字か	江戸時代
第87図 PL.65	4	銅製品 不明	完形	長 径	1.7 0.8	重	2.5		片方の口が閉じられている銅製の筒状製品。内部には砂が多く含まれている。	有
第87図 PL.65	5	鉄製品 鍬先か	一部	長 幅	12.8 3.5	厚 重	1.6 84.1		端部が折り返されて立ち上がっており、木製の風呂につけられていたか。多く欠けているため詳細不明。	有

遺物観察表

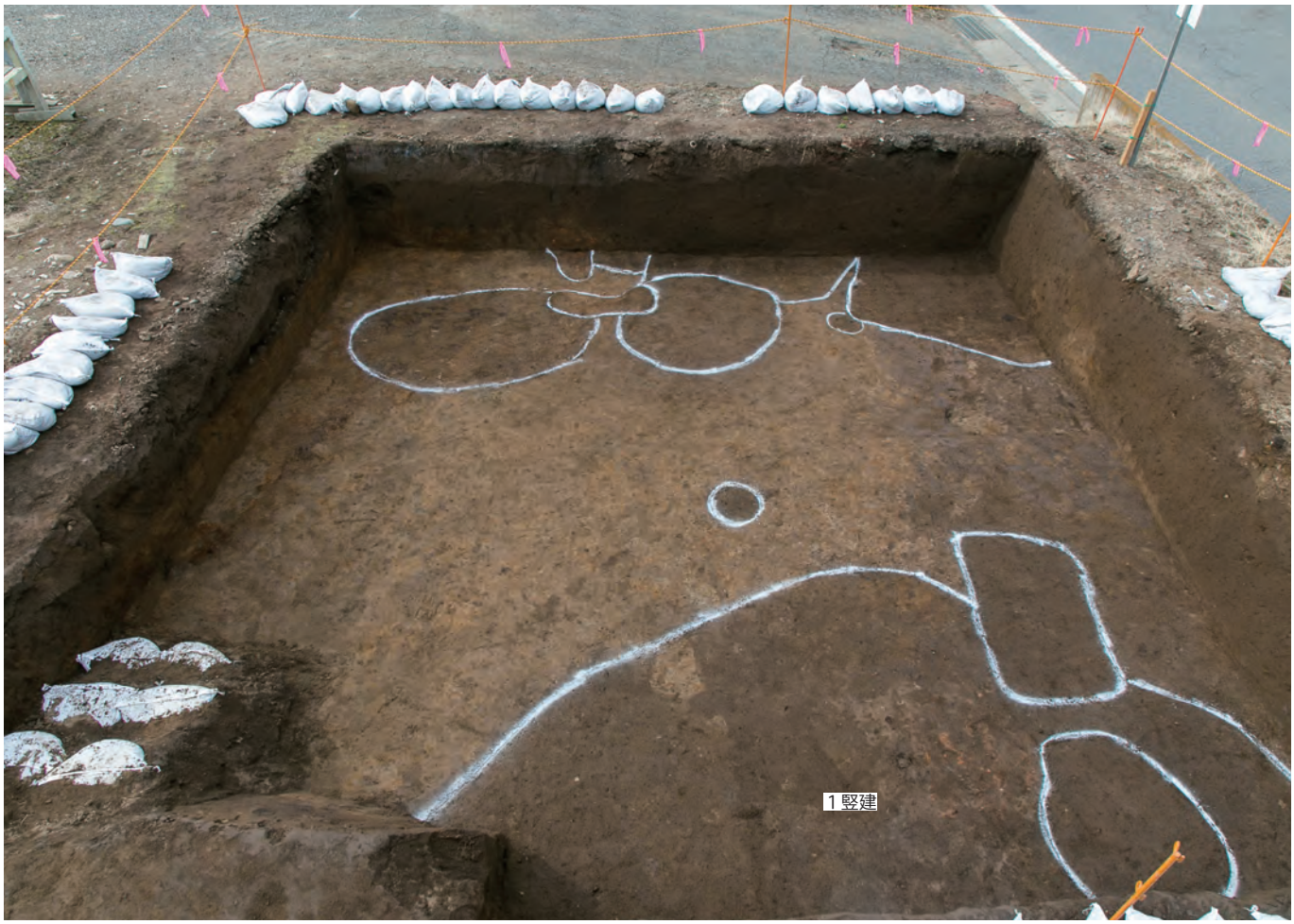
遺構外

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第93図	1	土師器 杯	表土 1/2	口 高	10.8 3.6			細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第93図 PL.65	2	須恵器 杯	表土 1/3	口 底	14.0 8.8	高	3.3	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は手持ちヘラ削り、周縁は回転ヘラ削り。	
第93図 PL.65	3	須恵器 椀	一括 4/5	口 底	12.5 6.8	台 高	7.0 5.2	細砂粒/酸化焔/灰黄褐	ロクロ整形、回転は左回り。底部は回転糸切りか、高台は貼付。	
第93図	4	須恵器 椀	一括 底部片	底 台	6.8 6.4			細砂粒/酸化焔/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切りか、高台は貼付。	
第93図	5	土師器 壺	一括 口縁部片	口	10.8			細砂粒/良好/にぶい黄褐	口縁部は折り返し、頸部はナデ。内面はヘラミガキ。	
第93図	6	土師器 壺	表土 頸部～胴部上半片	頸 0	9.0			細砂粒/良好/黒褐	頸部は横ナデ、胴部上位はヘラミガキ、中位はヘラ削り。内面は胴部上位がナデ、中位はヘラナデ。	
第93図	7	土師器 甕	表土 口縁部～頸部片	口	19.8			細砂粒/良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第93図	8	土師器 甕	一括 口縁部～頸部小片	口	22.0			細砂粒/良好/灰黄褐	口縁部から頸部は横ナデ。	
第93図 PL.65	9	土師器 甕	表土 口縁部～胴部上位片	口	18.8			細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は縦方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第93図	10	土師器 甕	表土 口縁部～胴部上位片	口	16.8			細砂粒/良好/にぶい黄褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラミガキ。	
第93図 PL.65	11	須恵器 甕	旧石器トレンチ 胴部片					細砂粒/還元焔/黄灰	叩き締め成形。外面には平行叩き痕、内面は同心円状アテ具痕が残る。	
第93図 PL.65	12	埴輪 形象か	攪乱 胴部片					細砂粒/良好/にぶい黄橙	凸帯は貼付、外面は器面剥離のため整形不明。内面はナデ。横に貼付された凸帯の下方に弧状に剥離した凸帯痕がみられることから大刀形か。	
第93図 PL.65	13	埴輪 円筒	表土 胴部片					細砂粒/良好/明赤褐	凸帯は貼付、胴部は縦方向ハケメ、器面摩滅のため詳細不明。内面はナデ。	
第94図 PL.65	14	瀬戸・美濃 陶器 おろし皿か	口縁部片	口 底	－ －	高	－	/浅黄橙/	外面顕著な轆轤目。口縁部に薄い灰釉。体部内面に卸目。古瀬戸。	中世
第94図 PL.65	15	瀬戸・美濃 陶器 華瓶	口縁部欠損	口 底	－ 4.5	高	－	/灰白/	小型華瓶。上半は灰釉、下半は鉄釉の掛け分け。脚底面は右回転糸切無調整。	18世紀後葉
第94図 PL.65	16	在地系土器 片口鉢	体部下位から底部片	口 底	－ (19.8)	高	－	片岩由来の微細鉱物？含む/灰白/	外面器表は黒褐色、内面器表は灰色。内面器表は使用により部分的に摩滅。	中世
第94図	17	常滑陶器 甕	体部片	口 底	－ －	高	－	/灰白/	内外面器表は暗赤褐色。	中世
第94図 PL.65	18	在地系土器 内耳鍋	1/6	口 底	(29.1) －	高	－	黒色鉱物含む/にぶい橙/	器表は黒色。口縁部外反。口縁部内面は低い段を有する。外面屈曲部は凹線状に窪む。	14世紀後半～15世紀中葉
第94図 PL.65	19	石製品 不明		長 幅	(2.5) (1.6)	厚 重	0.3 1.5	頁岩/	薄い石板様の石片を用いたもので、左辺を斜め方向に研磨する一方、上端を弧状に研磨整形する。小片で詳細は不明。	
第94図 PL.65	20	石製品 砥石		長 幅	(4.5) (4.6)	厚 重	0.7 17.8	珪質粘板岩/	二面使用。左側面にノコギリ痕を残す。砥面には細かな線条痕が残されているが、片減り等はない。細粒石材を用いた仕上げ砥。	
第94図 PL.65	21	縄文土器 深鉢	2号旧石器トレンチ16層褐色粘質土 口縁部片	長 幅	(4.3) (4.0)	厚 重	0.8	細粒砂、長石、黒雲母/良好/灰黄	平口縁。内外面に丁寧なミガキ。半裁竹管による横方向の沈線２条。沈線の間にLR縄文。	

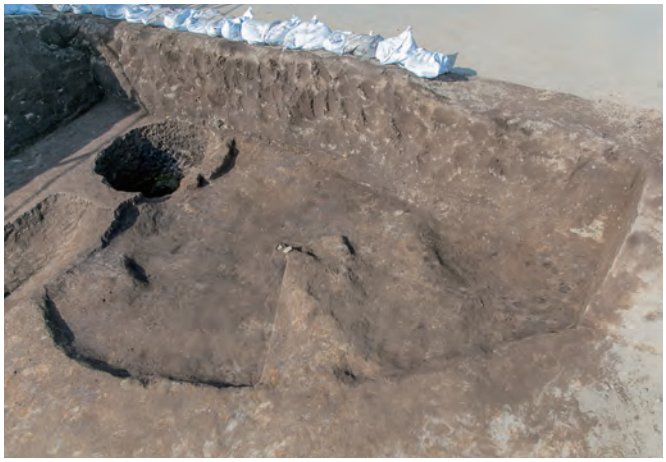
写 真 図 版

1　1区～11区調査区全景（南から）

2　1区4号・5号・6号・7号・10号・11号竪穴建物全景（上から）



1　２区１号竪穴建物検出状況（北から）



2　２区１号竪穴建物全景（南から）

3　２区１号竪穴建物全景（南から）

4　２区１号竪穴建物焼土・炭化物検出状況（南から）

5　２区２号竪穴建物全景（北東から）

1　１区３号・４号竪穴建物検出状況(南から)

2　１区３号竪穴建物土層断面A-A′（西から）

3　１区３号竪穴建物全景(西から)

4　１区３号竪穴建物内集石全景(西から)

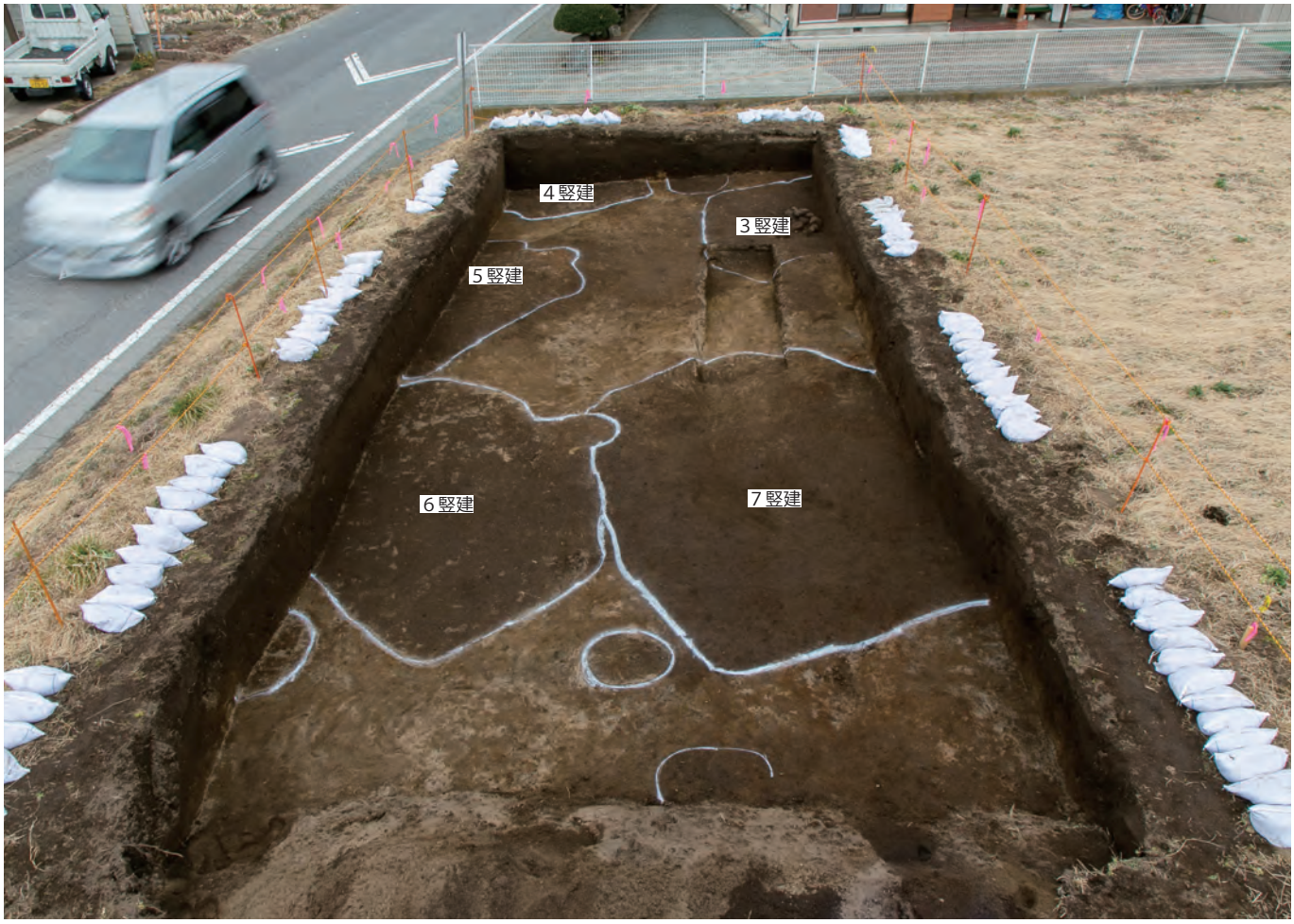
5　１区３号竪穴建物全景(西から)

1　1区4号竪穴建物全景(南から)

2　1区4号竪穴建物全景(西から)

3　1区4号竪穴建物全景(南から)

4　1区4号竪穴建物遺物出土状態(南から)



5　1区3号～7号竪穴建物検出状況(南から)

1　1区5号竪穴建物全景(南から)

2　1区5号竪穴建物カマド土層断面C-C′(南から)

3　1区5号竪穴建物カマド遺物出土状態(西から)

4　1区5号竪穴建物カマド掘り方全景(西から)

5　1区6号竪穴建物全景(西から)

6　1区6号竪穴建物掘り方全景(南から)

7　1区6号竪穴建物カマド土層断面E-E′(西から)

8　1区6号竪穴建物カマド全景(南西から)

1　１区７号竪穴建物全景（南から）

2　１区７号竪穴建物全景（西から）

3　１区７号竪穴建物カマド検出状況（西から）

4　１区７号竪穴建物カマド検出状況（南から）

5　１区７号竪穴建物カマド土層断面D - D′（南から）

1　4区8号竪穴建物検出状況（南から）

2　4区8号竪穴建物北半全景（南から）

3　1区9号竪穴建物検出状況（南から）

4　1区9号竪穴建物掘り方全景（南から）

5　1区10号竪穴建物掘り方全景（南西から）

1　1区10号竪穴建物掘り方土層断面A-A′（北東から）

2　1区10号竪穴建物カマド土層断面D-D′（南から）

3　1区10号竪穴建物カマド掘り方土層断面D-D′（南から）

4　1区10号竪穴建物カマド掘り方全景（南西から）

5　1区－E　11号竪穴建物北側半分（南から）

1　1区－E　11号竪穴建物北側半分(南から)

2　1区－E　11号竪穴建物カマド周辺(南から)

3　1区－E　11号竪穴建物遺物出土状態(南から)

4　1区－E　11号竪穴建物全景(北から)

5　1区－E　11号竪穴建物南半分(南から)

6　1区－E　11号竪穴建物カマド全景(西から)

7　1区－E　11号竪穴建物カマド土層断面H-H′(西から)

8　1区－E　11号竪穴建物カマド掘り方全景(西から)

1　1区－E　12号竪穴建物全景(西から)

2　1区－E　12号竪穴建物カマド土層断面D-D′（南から）

3　1区－E　12号竪穴建物土層断面A-A′（南から）

4　1区－E　13号竪穴建物全景(南から)

5　1区－E　13号竪穴建物掘り方全景(南から)

6　1区－E　13号竪穴建物カマド掘り方土層断面D-D′(南から)

1　1区－E　14号竪穴建物全景（西から）

2　1区－E　14号竪穴建物遺物出土状態（南から）

1　1区－E　14号竪穴建物掘り方土層断面C-C′（西から）

2　1区－E　14号竪穴建物カマド焼土検出状況（南東から）

3　1区－E　14号竪穴建物カマド全景（南東から）

4　1区－E　14号竪穴建物カマド土層断面D-D′（北東から）

5　1区－A　15号・16号・17号竪穴建物全景（南から）

1　1区－A　15号・16号竪穴建物土層断面A-A′（西から）

2　1区－A　15号竪穴建物全景(北西から)

3　1区－A　15号竪穴建物遺物出土状態(西から)

4　1区－A　16号竪穴建物遺物出土状態(北東から)

5　1区－A　16号竪穴建物遺物出土状態(南から)

1　1区17号竪穴建物土層断面A-A′（南から）

2　1区17号竪穴建物全景（南西から）

3　1区17号竪穴建物掘り方全景（南西から）

4　1区17号竪穴建物遺物出土状態（南から）

5　1区17号竪穴建物遺物出土状態（西から）

1　９区18号・19号竪穴建物、３号・４号竪穴状遺構全景（南から）

2　９区18号・19号竪穴建物、３号・４号竪穴状遺構全景（東から）

1　９区18号竪穴建物全景（南西から）

2　９区18号竪穴建物遺物出土状態（南西から）

1　９区18号竪穴建物土層断面B-B′（南西から）

2　９区18号竪穴建物掘り方全景（南西から）

3　９区18号竪穴建物遺物出土状態（南西から）

4　９区18号竪穴建物遺物出土状態（北西から）

5　９区18号竪穴建物カマド土層断面C-C′（南東から）

6　９区18号竪穴建物カマド土層断面E-E′（南西から）

7　９区18号竪穴建物カマド遺物出土状態（南西から）

8　９区18号竪穴建物カマド掘り方土層断面C-C′（南から）

1　９区19号竪穴建物全景（西から）

2　９区19号竪穴建物土層断面A-A′（西から）

3　９区19号竪穴建物土層断面B-B′（東から）

4　９区19号竪穴建物掘り方土層断面A-A′（西から）

5　９区19号竪穴建物掘り方全景（西から）

1　９区19号竪穴建物カマド土層断面E‐E′（西から）

2　９区19号竪穴建物カマド全景（西から）

3　９区19号竪穴建物カマド全景（西から）

4　９区19号竪穴建物カマド土層断面E-E′（西から）

5　１区－E　21号・22号・23号竪穴建物全景（北東から）

1　1区－E　21号竪穴建物全景(西から)

2　1区－E　21号竪穴建物土層断面B-B′(西から)

3　1区－E　21号竪穴建物遺物出土状態(西から)

4　1区－E　21号竪穴建物遺物出土状態(西から)

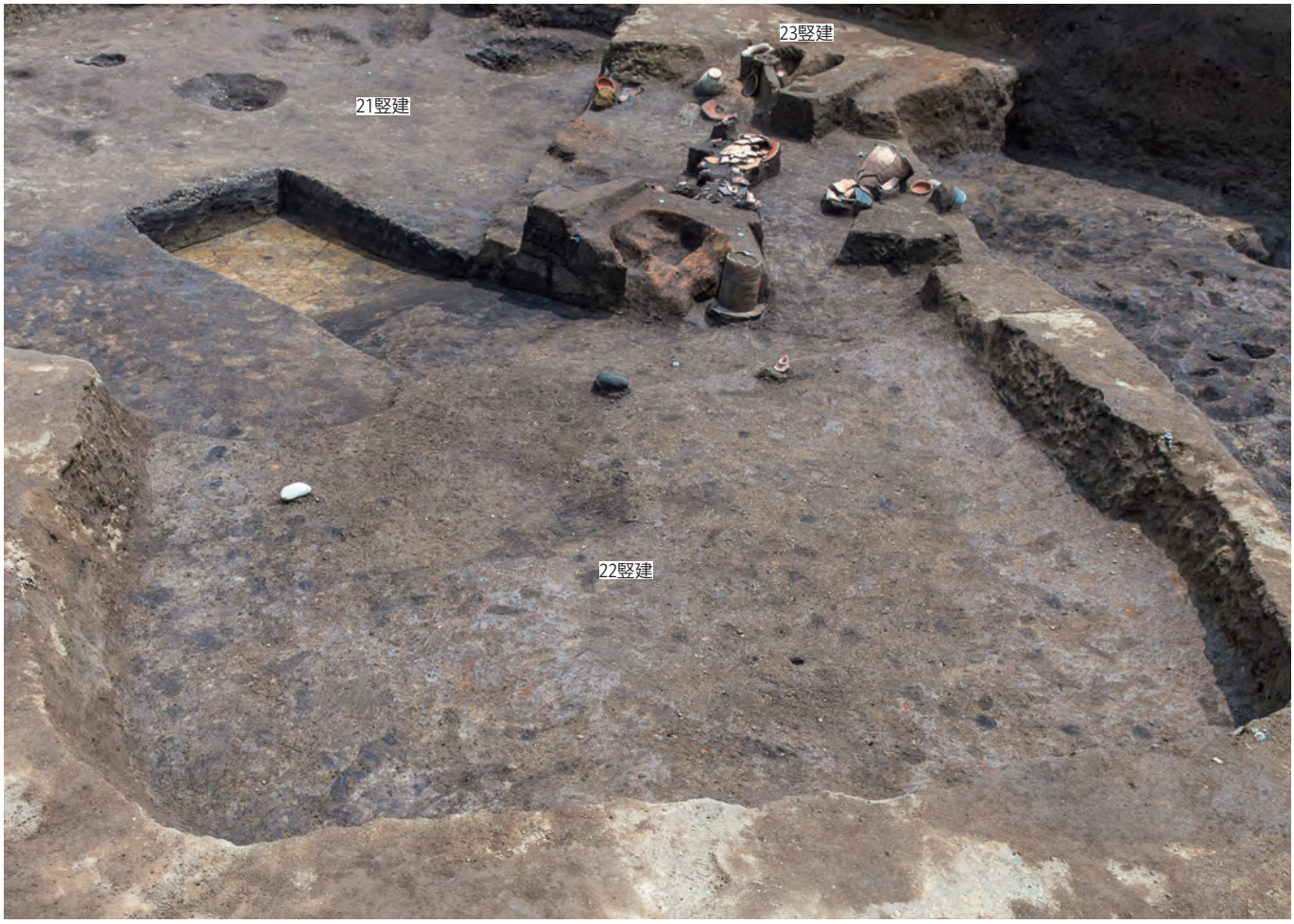
5　1区－E　21号竪穴建物遺物出土状態(西から)

1　1区－E　21号竪穴建物カマド焼土検出状況（西から）

2　1区－E　21号竪穴建物カマド土層断面I-I′（西から）

3　1区－E　21号竪穴建物カマド全景（西から）

4　1区－E　21号竪穴建物カマド土層断面H-H′（北から）



5　1区－E　22号竪穴建物全景（南から）

1　1区－E　22号竪穴建物掘り方全景(南西から)

2　1区－E　22号竪穴建物遺物出土状態(西から)

3　1区－E　22号竪穴建物土層断面A-A′（西から）

4　1区－E　22号竪穴建物カマド土層断面F-F′（南から）

5　1区－E　22号竪穴建物カマド遺物出土状態(南西から)

6　1区－E　22号竪穴建物カマド土層断面F-F′（南から）

7　1区－E　22号竪穴建物カマド土層断面E-E′（西から）

8　1区－E　22号竪穴建物カマド掘り方全景(南から)

1　1区－E　23号竪穴建物全景(西から)　数字は遺物番号

2　1区－E　23号竪穴建物遺物出土状態(西から)

3　1区－E　23号竪穴建物遺物出土状態(西から)

4　1区－E　23号竪穴建物遺物出土状態(西から)

5　1区－E　23号竪穴建物遺物出土状態(西から)

1　1区－E　23号竪穴建物カマド遺物出土状態（西から）

2　1区－E　23号竪穴建物カマド遺物出土状態（南から）

1　1区－E　23号竪穴建物カマド遺物出土状態(西から)

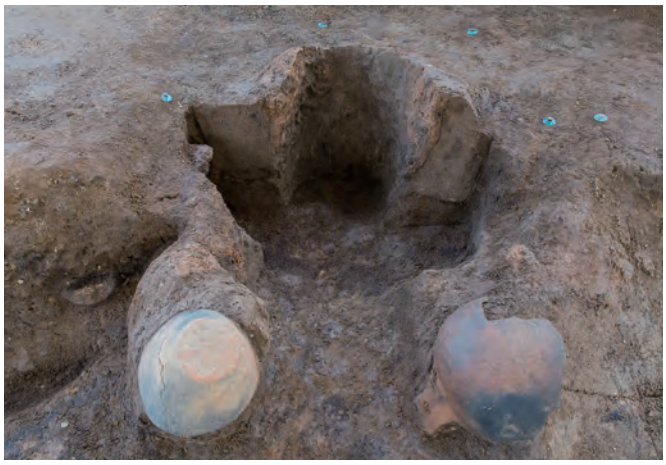
2　1区－E　23号竪穴建物カマド土層断面F-F′（西から）

3　1区－E　23号竪穴建物カマド遺物出土状態(東から)

4　1区－E　23号竪穴建物カマド遺物出土状態(北から)

5　1区－E　23号竪穴建物カマド土層断面E-E′（北から）

6　1区－E　23号竪穴建物カマド全景(西から)



7　1区－E　23号竪穴建物カマド土層断面G-G′（西から）

8　1区－E　23号竪穴建物カマド土層断面G-G′（西から）

1　1区－D　24号・25号・26号・27号竪穴建物全景(南から)

2　1区－D　24号竪穴建物土層断面A-A′（西から）

3　1区－D　24号竪穴建物土層断面A-A′（西から）

4　1区－D　25号竪穴建物全景(南から)

5　1区－D　25号竪穴建物土層断面A-A′（西から）

1　1区－D　26号竪穴建物全景（南から）

2　1区－D　27号竪穴建物全景（西から）

1　1区－D　27号竪穴建物掘り方全景(南西から)

2　1区－D　27号竪穴建物カマド全景(西から)

3　1区－D　27号竪穴建物掘り方全景(南から)

4　1区－D　27号竪穴建物カマド土層断面D-D′(南東から)

5　1区－D　27号竪穴建物カマド全景(西から)

6　1区－D　27号竪穴建物カマド全景(西から)

7　1区－D　27号竪穴建物カマド土層断面C-C′(南から)

8　1区－D　27号竪穴建物カマド掘り方全景(西から)

1　4区28号・30号竪穴建物全景（南から）

2　4区28号竪穴建物掘り方全景（南から）

1　４区28号竪穴建物土層断面B-B′（東から）

2　４区28号竪穴建物土層断面A-A′（北から）

3　４区28号竪穴建物遺物出土状態（西から）

4　４区28号竪穴建物北側周溝（南西から）

5　４区28号竪穴建物全景（南西から）

6　４区28号竪穴建物掘り方土層断面B-B′（北東から）

7　４区28号竪穴建物掘り方土層断面A-A′（北西から）

8　４区28号竪穴建物焼土・炭化物検出状況（南西から）

1　4区28号・29号・30号竪穴建物全景（南から）

2　4区29号竪穴建物全景（南から）

1　４区30号竪穴建物全景（西から）

2　４区30号竪穴建物土層断面B-B′（北西から）

3　４区30号竪穴建物遺物出土状態（南から）

4　４区30号竪穴建物遺物出土状態（南から）

5　４区30号竪穴建物掘り方全景（西から）

1　４区30号竪穴建物カマド土層断面H-H′（西から）

2　４区30号竪穴建物カマド掘り方土層断面H-H′（西から）

3　４区30号竪穴建物貯蔵穴全景（西から）

4　４区30号竪穴建物Ｐ１全景（南から）

5　９区２号・３号・４号竪穴状遺構全景（南東から）

1　4区5号竪穴状遺構全景(北から)

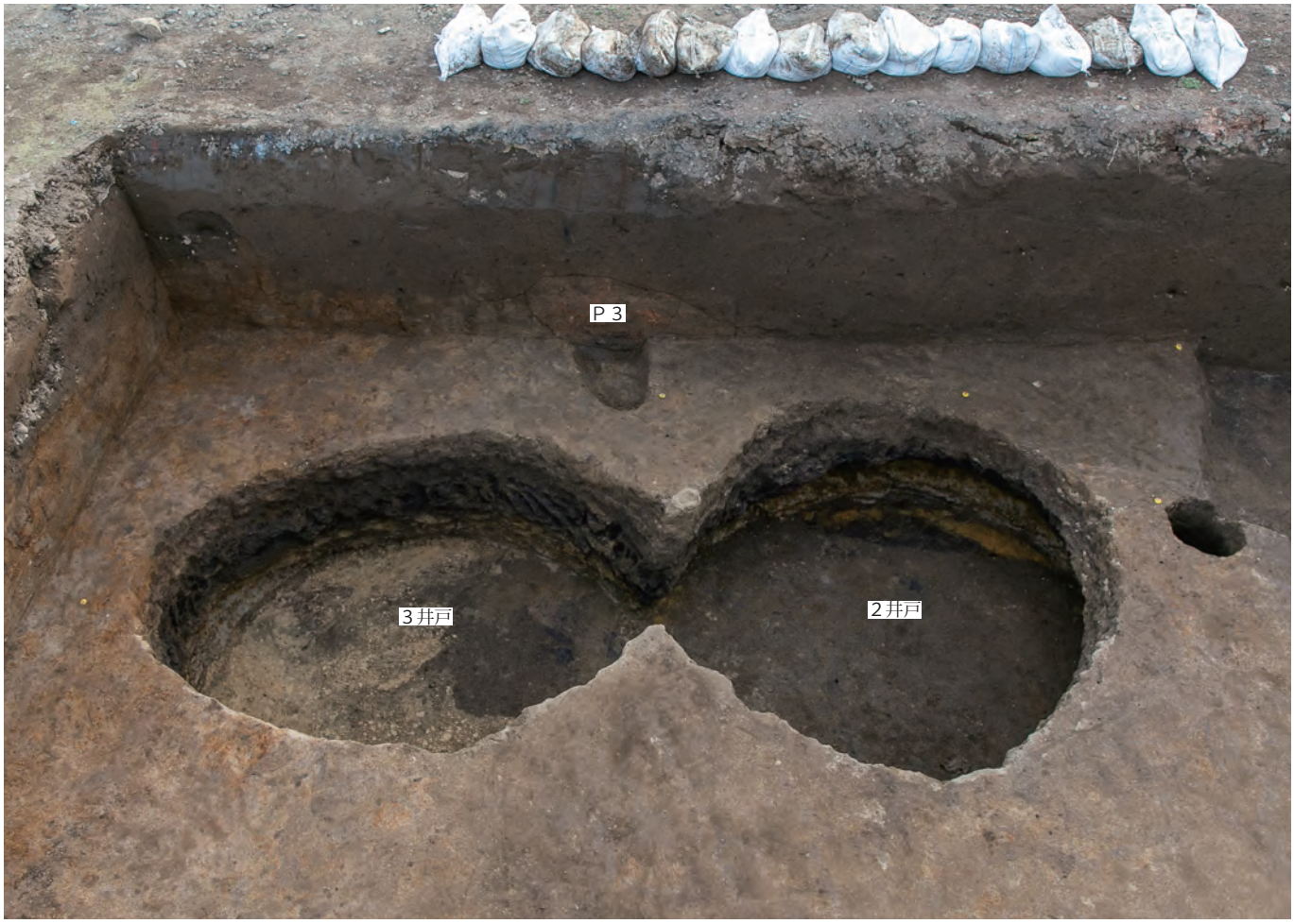
2　9区2号竪穴状遺構全景(南東から)

3　9区3号竪穴状遺構全景(西から)

4　9区4号竪穴状遺構全景(西から)

5　4区5号竪穴状遺構全景(東から)

1　２区１号・２号・３号井戸全景(南から)



2　２区２号・３号井戸全景(北から)

1　２区１号井戸全景(東から)

2　２区１号井戸土層断面A-A′（東から）

3　２区２号・３号井戸全景(南から)

4　２区２号井戸全景(南から)

5　２区３号井戸遺物出土状態(北から)

6　２区３号井戸全景(北から)

7　１区４号井戸礫出土状態(南東から)

8　１区４号井戸全景(北東から)

1　6区5号・6号井戸全景(西から)

2　6区5号井戸土層断面A-A′（南西から）

3　6区5号井戸全景(南西から)

4　6区6号井戸土層断面B-B′（西から）

5　6区6号井戸遺物出土状態(南西から)

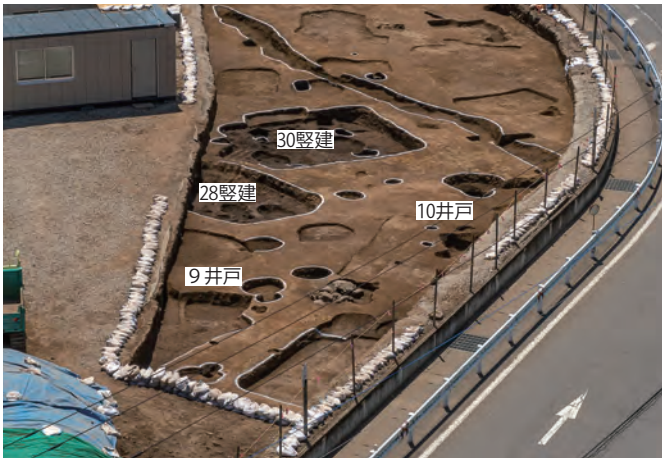
1　1区－E　7号井戸全景(南から)

2　1区－E　7号井戸全景(南から)

3　1区－E　7号井戸土層断面A-A′（南から）

4　9区8号井戸全景(南から)

5　9区8号井戸全景(南西から)



6　4区9号・10号井戸全景(北から)

7　4区9号井戸全景(南から)

8　4区9号井戸土層断面A-A′（南から）

1　４区10号井戸全景(北から)

2　４区10号井戸土層断面A-A′（南から）

3　４区11号井戸全景(西から)

4　４区12号井戸全景(東から)

5　４区11号・12号井戸、１号・５号・６号溝全景(南から)

1　4区1号・6号溝全景(北から)

2　5区1号溝全景(北から)

3　5区1号溝土層断面B-B′(南から)

4　5区1号溝全景(南から)

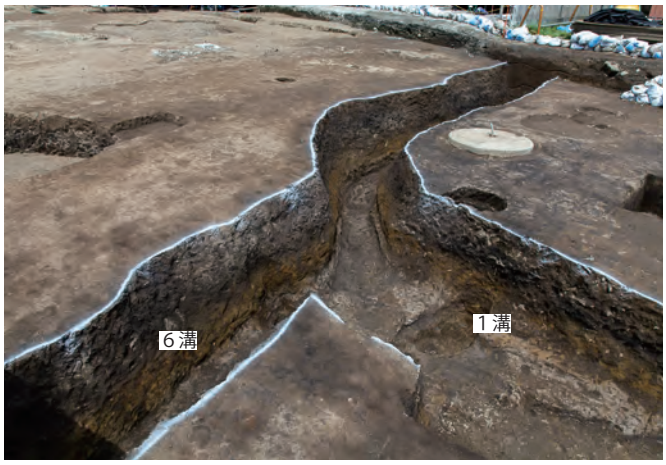
1　１区－B　２号溝全景（西から）

2　１区－C　３号溝全景（南西から）

3　４区４号溝全景（北から）

4　４区５号溝土層断面A-A′（北から）

5　４区５号溝全景（南から）



6　４区６号溝全景（南から）

7　４区６号溝土層断面G-G′（東から）

1　10区７号・９号・10号溝全景（北から）

2　10区７号溝全景（北から）

3　10区９号溝土層断面A-A′（西から）

4　10区10号溝全景（西から）

5　10区10号溝土層断面A-A′（西から）

1　11区８号溝全景（北から）

2　11区11号溝全景（南から）

3　11区８号溝全景（東から）

4　11区８号溝土層断面A-A′（東から）

5　11区11号溝土層断面A-A′（北から）

6　11区11号溝土層断面A-A′（北から）

1　２区２号土坑全景(東から)

2　２区２号土坑土層断面A-A′（東から）

3　１区５号土坑全景(南から)

4　１区５号土坑土層断面A-A′（南から）

5　１区９号土坑全景(西から)

6　１区９号土坑土層断面A-A′（西から）

7　１区11号土坑全景(西から)

8　１区11号土坑全景(西から)

1　1区14号土坑全景(南から)

2　1区14号土坑土層断面A-A′(南から)

3　1区16号土坑全景(北から)

4　1区16号土坑土層断面A-A′(北から)

5　3区17号土坑全景(南から)

6　1区18号土坑全景(北から)

7　1区18号土坑遺物出土状態(北から)

8　9区19号土坑土層断面A-A′(南から)

1　９区20号土坑土層断面A-A′（東から）

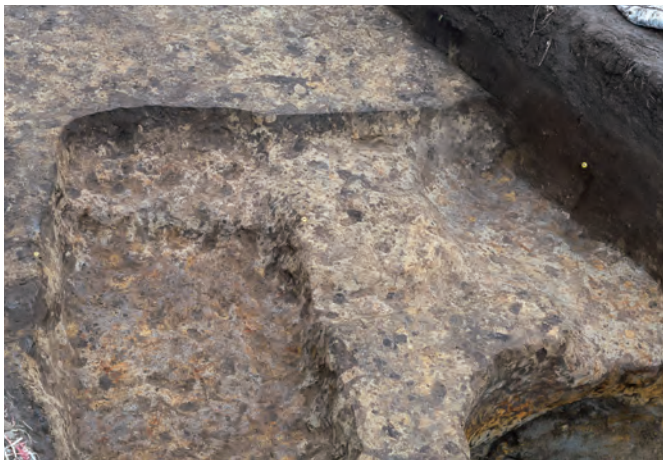
2　９区20号土坑遺物出土状態（北から）

3　９区21号土坑全景（北から）

4　９区21号土坑土層断面A-A′（北から）

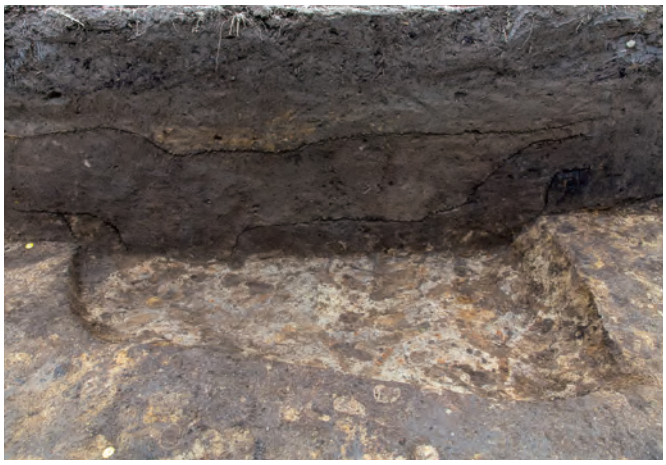
5　９区22号土坑全景（西から）

6　９区24号土坑土層断面A-A′（南東から）



7　９区24号土坑全景（南西から）

8　９区25号土坑全景（南西から）



1　９区26号土坑全景(東から)

2　９区27号土坑土層断面A-A′（南から）

3　１区－D　31号土坑全景(西から)

4　１区－D　31号土坑土層断面A-A′（東から）

5　１区－E　32号土坑全景(西から)

6　４区33号土坑全景(北から)

7　４区33号土坑土層断面A-A′（北から）

8　４区33号土坑遺物出土状態(東から)

1　４区35号土坑全景(南から)

2　４区35号土坑土層断面A-A′（西から）

3　４区36号土坑全景(南から)

4　４区37号土坑全景(南から)

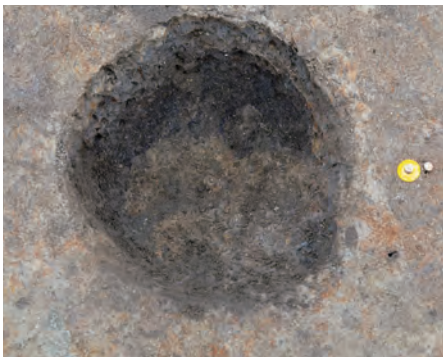
5　４区37号土坑土層断面A-A′（南から）

6　４区38号土坑全景(南から)

7　４区38号土坑土層断面A-A′（南から）

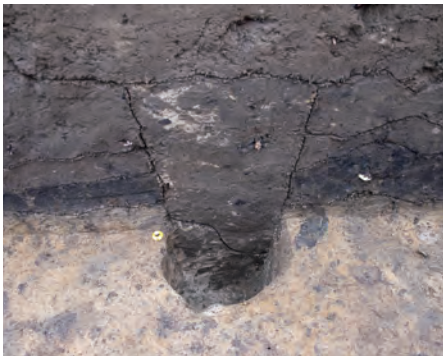
8　４区39号土坑全景(北から)

1　２区１号ピット土層断面A-A′（南東から）


2　２区２号ピット全景（東から）

3　２区２号ピット土層断面A-A′（東から）

4　２区３号ピット全景（北から）


5　７区５号ピット全景（西から）

6　７区６号ピット全景（西から）

7　７区７号・８号ピット全景（東から）

8　７区８号ピット全景（東から）

9　６区10号ピット全景（東から）

10　６区11号ピット全景（東から）

11　６区11号ピット土層断面A-A′（東から）

12　６区12号ピット全景（西から）

13　６区12号ピット土層断面A-A′（南から）

14　１区13号ピット全景（南から）

15　１区13号ピット土層断面A-A′（南から）

1　1区14号ピット全景(南から)

2　1区14号ピット土層断面A-A′(南から)

3　1区15号ピット全景(南から)

4　1区15号ピット土層断面A-A′(南から)

5　1区16号ピット全景(南から)

6　1区16号ピット土層断面A-A′(南から)

7　1区17号ピット全景(南から)

8　1区17号ピット土層断面A-A′(南から)

9　1区18号ピット全景(南から)

10　1区18号ピット土層断面A-A′(南から)

11　9区19号ピット土層断面A-A′(西から)

12　9区20号ピット全景(西から)

13　9区20号ピット土層断面A-A′(南から)

14　9区21号ピット土層断面A-A′(西から)

15　1区22号ピット全景(南から)

1　1区ーA 22号ピット土層断面A-A′（東から）

2　1区ーA　23号ピット全景（南から）

3　1区ーA　23号ピット土層断面A-A′（南から）

4　9区24号ピット全景（南から）

5　4区25号ピット全景（南から）

6　4区26号ピット全景（南から）

7　4区26号ピット土層断面A-A′（南から）

8　4区27号ピット全景（南から）

9　4区27号ピット土層断面A-A′（南から）

10　4区28号ピット全景（南から）

11　4区28号ピット土層断面A-A′（南から）

12　4区29号ピット全景（南から）

13　4区29号ピット土層断面A-A′（南から）

14　4区30号ピット全景（南から）

15　4区30号ピット土層断面A-A′（南から）

1　4区31号ピット全景(南から)

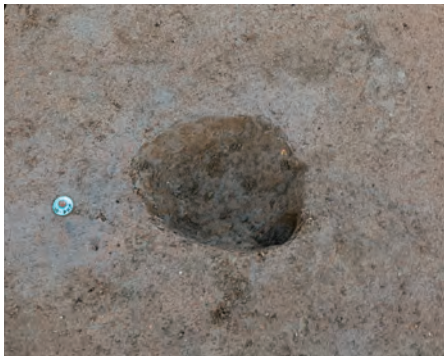
2　4区31号ピット土層断面A-A′(南から)

3　4区32号ピット全景(北から)

4　4区32号ピット土層断面A-A′(北から)

5　10区33号ピット全景(南から)

6　10区33号ピット土層断面A-A′(南から)


7　10区34号ピット全景(南から)

8　10区34号ピット土層断面A-A′(南から)

9　10区35号・36号ピット全景(南から)

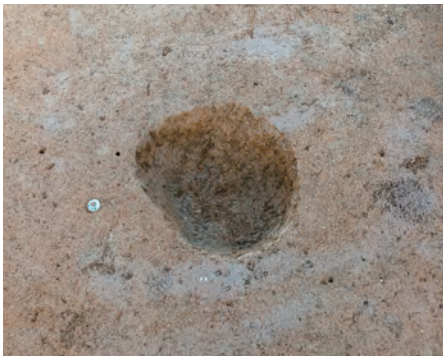
10　10区35号・36号ピット土層断面A-A′(南から)

11　10区37号ピット全景(南から)

12　10区37号ピット土層断面A-A′(南から)

13　10区38号ピット全景(南から)

14　10区38号ピット土層断面A-A′(南から)


15　10区39号ピット全景(南から)

1　10区39号ピット土層断面A-A′（南から）

2　10区40号ピット全景（南から）

3　10区40号ピット土層断面A-A′（南から）

4　11区41号ピット全景（西から）

5　11区41号ピット土層断面A-A′（西から）

6　11区42号ピット全景（西から）

7　11区42号ピット土層断面A-A′（西から）

8　11区44号ピット全景（北から）

9　11区45号ピット全景（東から）

10　11区45号ピット全景（東から）

11　11区46号ピット全景（東から）

12　11区47号ピット土層断面A-A′（西から）

13　11区48号ピット土層断面A-A′（東から）

14　11区49号ピット土層断面A-A′（西から）

15　11区50号ピット全景（南から）

PL.54

3 号竪穴建物

2

5

6

4 号竪穴建物

1

5 号竪穴建物

1

2

4

6

7

7 号竪穴建物

2

3

10号竪穴建物

2

3

4

11号竪穴建物

1

3

6

7

8

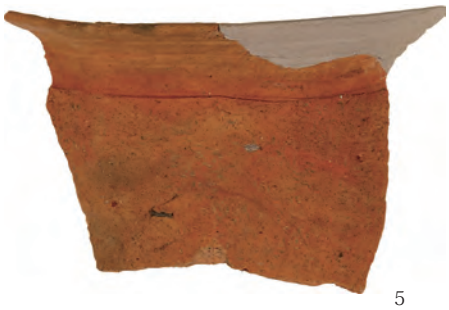
PL.56

14号竪穴建物

1

2

3


5

6

7

8

15号竪穴建物

1

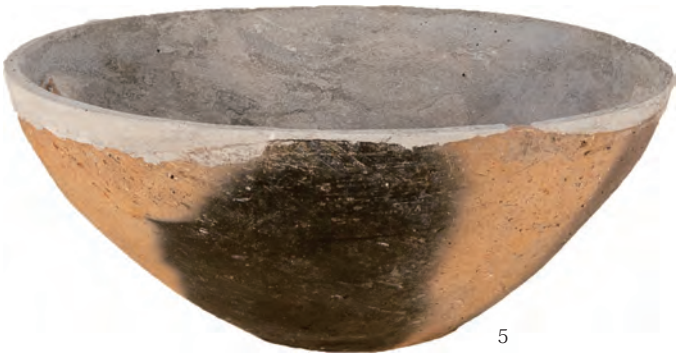
2

3

16号竪穴建物

1

3


5

4

6

17号竪穴建物

2

3

18号竪穴建物

1

2

3

4

9

10

11

12

13

15

17

PL.58

18

19

21号竪穴建物

2

3

8

13

1

14

21

22

23

22号竪穴建物

3

5

10

11

23号竪穴建物

1

2

3

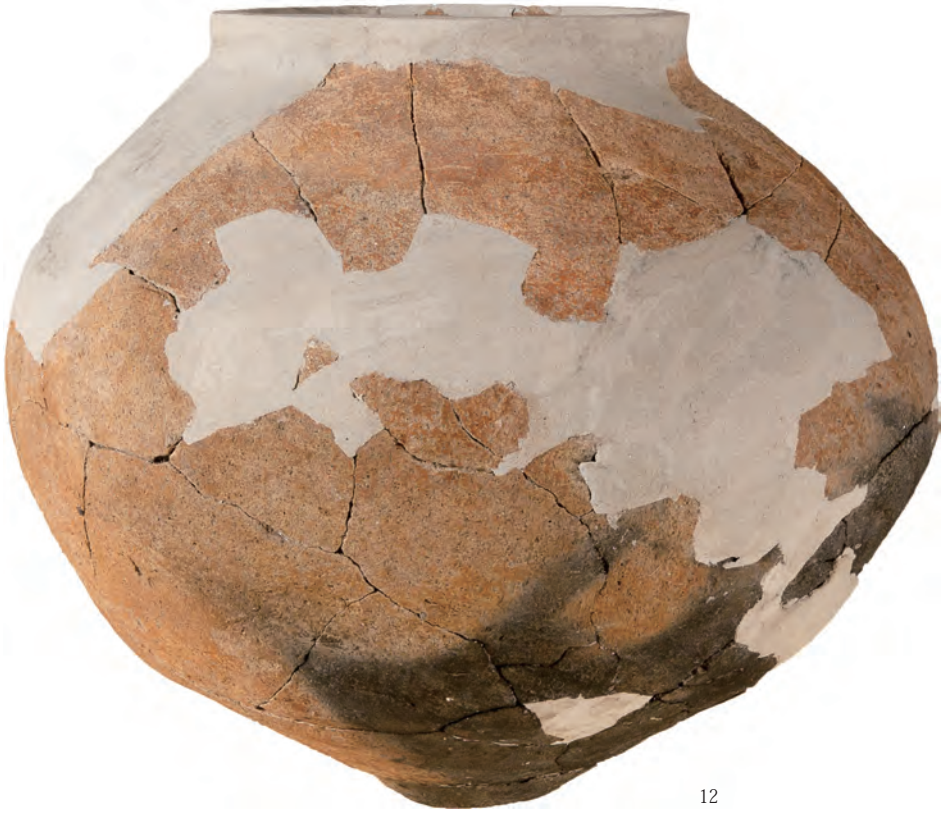
4

5

6

11

14


12

13

15

16

20

21

22

23

24

25

26

27

30

27号竪穴建物

1

3

28号竪穴建物

3

4

5

6

30号竪穴建物

1

2

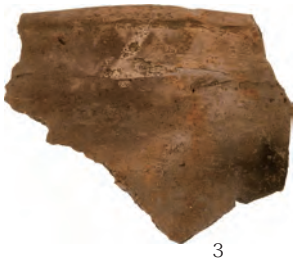
3

5

13

14

2号竪穴状遺構


3

4

5

6

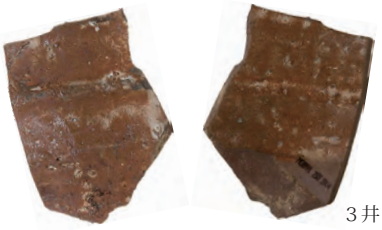
7

8

2号井戸

2井1

3号井戸


3井1

4号井戸

1

2

5

6

PL.64

6号井戸

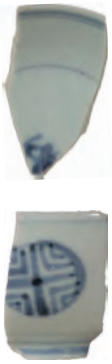
6井1

7号井戸

7井1

12号井戸

1



2

3

6

1号溝

1

2

6号溝

1

2

3

4

８号土坑

８土１

20号土坑

20土２

20土１

20土３

33号土坑

33土１

33土２

33土３

33土４

33土５

遺構外

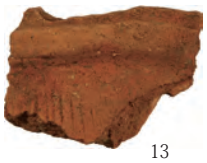
2

3

12

9

11


13

14

15

16

18

19

20

21

報　告　書　抄　録

書名ふりがな	まえばししぜろはちきゅういちいせき
書　　名	前橋市0891遺跡
副　書　名	(一)三夜沢国定停車場線社会資本総合整備(防災・安全)（交安・重点)事業に伴う 埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　　次	
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	708
編著者名	石川真理子・中沢　悟
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20220314
作成法人ＩＤ	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住　　所	群馬県渋川市北橘町下箱田784-2
遺跡名ふりがな	まえばししぜろはちきゅういちいせき
遺　跡　名	前橋市0891遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんまえばししかすかわまちふかつ
遺跡所在地	群馬県前橋市粕川町深津
市町村コード	10201
遺跡番号	0891
北緯(世界測地系)	36.3998
東経(世界測地系)	139.2076
調査期間	'20180301-20180331　'20190701-20190831　'20200101-20200131
調査面積	2,712.14
調査原因	道路整備(歩道整備)
種　　別	集落/城館跡/水田
主な時代	古墳/平安/中・近世
遺跡概要	古墳・平安－竪穴建物29＋竪穴状遺構４－土器＋石器＋石製品 古墳・中近世－井戸12＋溝11＋土坑30＋ピット50－土器＋陶磁器＋金属器＋石製品
特記事項	５世紀末から６世紀初頭にかけての土器がまとまって出土した竪穴建物で構成される集落
要　　約	前橋市粕川町大字深津に所在する。粕川と桂川に挟まれた場所にあり、扇状地と同扇状地により残丘された独立丘陵等が入り混じる複雑な地形である。本遺跡からは、５世紀末から10世紀にかけての竪穴建物や中世の井戸や江戸時代の遺構が発見された。５世紀末から６世紀初頭にかけての土器がまとまって出土し、その当時の人々が暮らした様子の一端が明らかになった。

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書　第708集

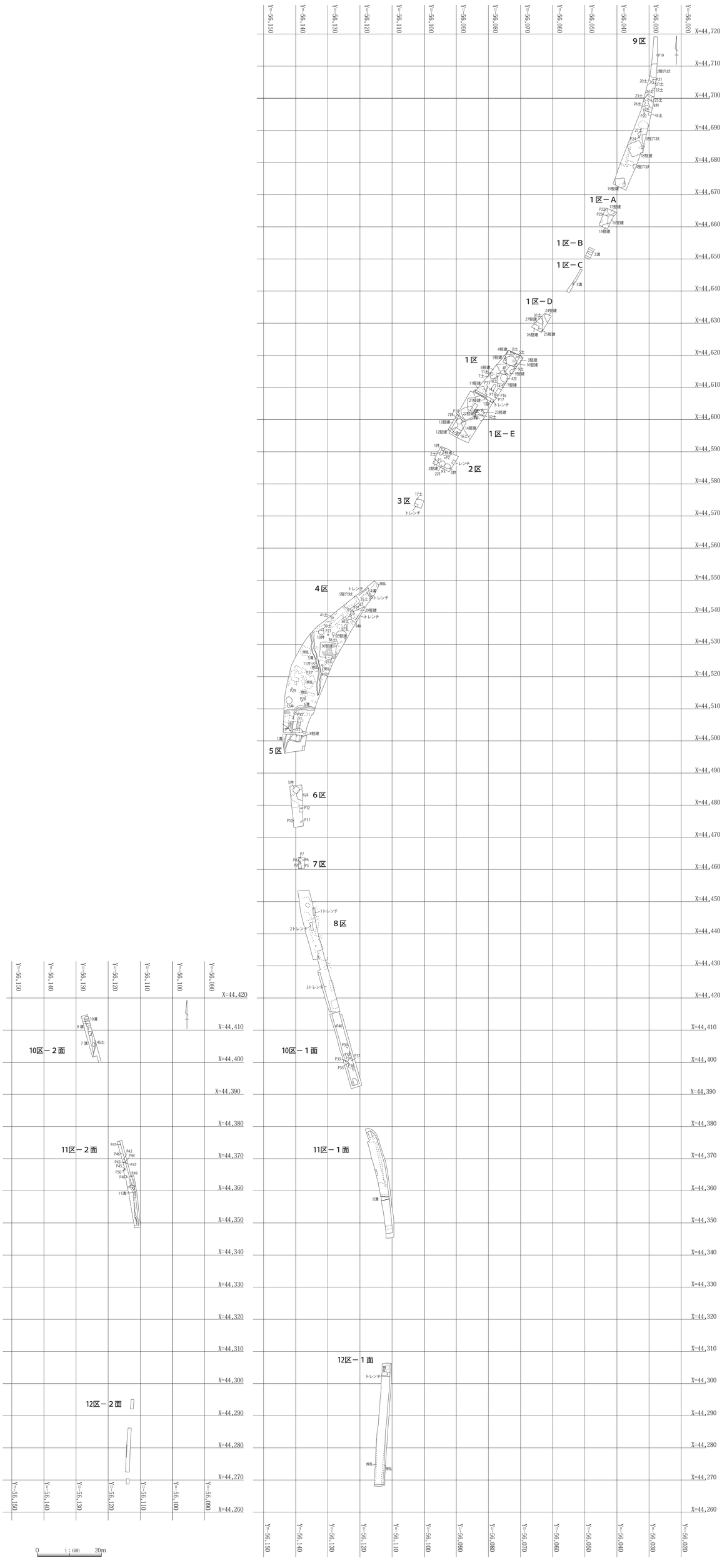
前橋市0891遺跡

(一)三夜沢国定停車場線社会資本総合整備(防災・安全)（交安・重点)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

令和４(2022)年３月11日　印刷
令和４(2022)年３月14日　発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555　群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2
電話(0279)52-2511(代表)
ホームページアドレス　http://www.gunmaibun.org/

印刷／ジャーナル印刷株式会社

付図　前橋市0891遺跡　全体図（1：600）